

題ヲ研究スルニ付テハ、世界ノ産米狀況ヲ勢ヒ茲ニ前提トシテ述ベナケレバナラヌノデアリマ
 ス、明治二十八年ヨリ四十二年ニ至ル五箇年ノ平均ヲ申シテマシマスガ、先ヅ筆頭ノ英領印度ガ二億
 九百萬石、支那ガ一億五千萬石、日本ガ五千萬石、爪哇「スマトラ」ガ二千萬石、暹羅ガ二千萬石、
 朝鮮ガ九百萬石、比律賓ガ百十萬石、亞細亞露領ガ百十萬石、阿弗利加ガ三百三十萬石、歐羅巴通
 計三百五十萬石、北米ガ二百萬石、南米ガ百十萬石、合計四億九千二百二十九萬石、最モ此中ニハ
 海峽殖民地「フイジ」島ノ米ニ至ルマデノ産米ヲ合シテ此數字ニナルノデアリマス、是レニ依
 レバ日本米ハ世界ノ産米ニ對シテ九分五厘乃至一割ヲ産出スルノデアリマス、所ガ四十二年ニ
 ハ既ニ四億九千二百二十九萬石ト云フ數字ガ長足ノ進歩ヲシテ、世界ニ於テ五億五千三百五十
 五萬石ニ達シテ居ル、以テ其増進ノ驚クベキ狀況ヲ知ルコトガ出來マス、是ガ故ニ日本以外ニ於
 テ五億萬石産出スルノデアリマスルガ、故ニ若シ此關稅ヲ撤廢致シマシタトキニハ恐ルベキ勢
 ヲ以テ日本ニ入ルト云フコトハ推測シ得ラル、ノデアリマス、次ニ米ノ直段ノ中心點ヲ論ジテ
 此關稅撤廢ノ反對ノ理由ニ供シタイト思ヒマス、先般來關稅撤廢問題ヲ提出ニナリマシタ所ノ
 諸君ニ、凡ソ米ノ直段ハドノ位然ラバ減ジタラ宜イカ、君達ハ細民ヲ救済スルト云フガ細民ヲ救
 濟スルナラバ米價ヲドノ位ノ點ニマデ下ゲタラ細民ノ救済ガ出來ルカト云フ質問ヲシタ所ガ、
 其答辯ハ終ニ無カッタ、唯無意味ニ米價ヲ安クシテ細民ヲ救ヒサヘスレバソレ宜イ、斯ウ云フ
 御議論デアリマシタガ、是ハ思ハザルノ甚ダシキモノト思ヒマス、故ニ茲ニ米ノ直段ノ中心點
 ヲ割出シテ、サウシテ吾々ガ外米ノ輸入ニ反對ノ理由ヲ申上ゲマス、今米一石アタリノ入費ヲ調
 ベテ見マス、最モ是ハ全國平均段別收穫米一段ニ付テ二石モ三石モ出來ル所ガアリマスガ、一
 石七斗二升三合ノ數字カラ割出シタノデアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス、米一石ニ付テ國
 稅ガ九十六錢、府縣稅ガ五十三錢、町村稅ガ七十八錢合計二圓二十七錢、ソレニ肥料ガ三圓五十
 四錢、人夫賃ガ五圓八十九錢五厘、雜費ノ中ニハ修繕費モアリ農會費モアリ協議費モアリ種々含
 ンデ居リマス、ソレカラ種子マデ一圓六十三錢五厘、ソレカラ此合計ガ十一圓七錢、土地資本利
 子ニハ當然ノコトデアリマシテ、之ヲ六歩ト見マシテ六圓八十錢此三合計ガ二十圓十四錢ニナ

リマス而シテ此中カラ段當テノ藁代屑米穀等ノ三圓十錢、一段ニ付テ收入ガアリマスカラ、之
 ヲ折半シテ一圓五十五錢ノ收入ニナリマス、之ヲ差引クト米ノ直段ガ十八圓五十九錢ト云フモ
 ノニナリマス、故ニ米ノ直段ノ中心點ハ十八圓五十錢デアリマス、此中心點ヨリ上レバ農家ガソ
 レダケ收入ガアル、此中心點ヨリ下レバ農家ガ堪ヘナイ憂色ガアル、故ニ若シ此關稅ヲ撤廢シタ
 ナラバ二百萬石ヤ三百萬石ハ入ッテモ意トスルニ足ラヌト言ハレマスガ直ニ是ハ障ルノデアリ
 マス、全國ハ六歩ヲ占メテ居ル農家ハ直ニ打擊ヲ受ケルト云フ大キナ問題ニナル、故ニ米ノ直段ノ
 中心點ヲ能ク御記憶遊バサレタナラバ、關稅撤廢ヲスルト云フ議論ハ出テ來ル筈ガナイノデア
 リマス、畢竟スルニ此中心值段ヲ御存ジナイカラデアルト思ヒマス、更ニ農村保護上ヨリ此關稅
 撤廢ニ反對スル理由ヲ簡單ニ申シマスルガ、我國ノ一年ノ生産額ハ屢、三十億圓トカ云フ話ヲ聽
 キマシタガ、的確ニ申シマスナラバ二十五億圓ホドガ日本ノ生産額デアリマス、此中十八億圓ハ
 農産物デアリマス、以テ農業ハ國家經濟ノ基礎ヲ成シテ居ルコトガ是デ御分リニナリマス、私
 ハ存ジマスル、而シテ尙輸入ノ上ニ於キマシテ、此輸出入ノ重要首位ヲ占メルモノハ、皆農産
 物デアリマス、即チ輸出ニ於キマシテモ生絲ノ一億四千六百萬圓カラ茶、砂糖、米、麥、稗、果實、
 野菜、是ハ尤モ三年平均デアリマスガ二億以上ニ達シタトキモ生絲ガアリマス、ケレドモ是ハ三
 年平均デアリマスカラ左様御承知ヲ願ヒマス、輸入ニ於キマシテモ綿、米、砂糖、羊毛、大豆、小
 麥、小麥ノ粉、皆斯ノ如ク輸出輸入ノ首位ヲ占メル重要産物ハ農産物ナラザルハナシ、ソコデ尙輸
 出入ノ額ヲ申シマスルト、明治四十三年カラ大正元年マデノ三年見マシテモ輸出ノ總計ガ二億
 二百七十三萬六千六百一圓、是ハ農産物デアリマス、其次ニ輸入ノ方ハ二億八千三百四十九萬五
 十一圓、是亦農産物デアリマス、是ニ生計問題ヨリ此關稅ヲ撤廢シナカッタナラバ、米價ノ騰貴シ
 タトキニハ細民ガ悲鳴ヲ揚ゲテ餓死スルガ如キコトヲ提案者ハ述ベラレルノデアリマス、ルガ、
 米價騰貴ノトキニハ從來ノ經驗ニ依レバ寧ロ細民ハ賃金ノ向上ノタメニ中層ノ人ヨリモ奢リタ
 ル生活ヲ爲スノ有様デアリマス、故ニ相當ニ値ノ良イ時分ニハ他ノ穀物モ好況ナルヲ以テ、茲ニ
 田畑ノ開墾ト云フコトガ餘程進ンデ參ルノデアリマス、而シテ米價下落ノトキニハドウ云フコ

トニナルカ、米價下落ノトキニハ遂ニ購買力ヲ減ジテ都會ノ商況ハ衰頽ニ赴クノデアリマス、而シテ尙提案者ノ唱フル所ハ、外米ハ都會ノ薄給者ノ腰辨諸君ノ生計ヲ救フノデアルト云フ話デアリマスルガ、決シテ左様ナコトバカリデハアリマセヌ、現ニ外米ガ這入ッテ往キマスル方面ハ秋田縣、山形縣、新潟縣ノ一部、凶作ノ年ニハ青森ヤ仙臺ノ方ニモ這入ッテ參リマスルカラシテ、決シテ都會ノ薄給者ヲ救ヒ得ルト唱ヘテ居ラレマスケレドモ事實ハソレニ相違スルノデアリマス、而シテ又此現行法ノ米ノ關稅法即チ百斤ニ一圓一石ニ二圓五十錢、此課稅ハ最モ安全辦デアル、國ノ穀物ヲ保護スル上ニ於テ安全辦デアル、非常ニ都合好ク出來テ居ル、尙其上ニ勅令ヲ以テ凶作ノ年若クハ國家非常ノトキニハ六十錢マデハ低減シ得ルノデアルカラシテ、何ヲ苦ンデ此關稅撤廢ヲ唱ヘルカ譯ガ分ラヌ、而シテ又農産物ト云フモノニ付テ、我輩ノ話ガ分ラヌト云フコトガアッタラ薩張リゼロダ、ドノ點ヲ叩イテモ、我國ノ農業ハ人口ノ上カラ言ッテモ戸數ノ上カラ言ッテモ總テノ點カラ研究シテ見テモ六歩ノ勢力ヲ占メテ居ルノデアリマスルシ、殊ニ最モ諸君ノ留意ヲ願ヒタイコトハ我國現在ノ實力ハ農村ニアルノデスカ都會ニアルノデスカ、我國ノ農民ハ世界ノソレニ比シ體力ハ強健デ精神ハ剛毅柔順デ、能ク命令ニ服從スル點ガアリマス、是ガ即チ我日本ノ國ノ現在ノ實力デアアルノデアリマス、故ニ或點マデハ農村ヲ保護セザレバ終ニ現在ノ實力ガ衰退スルノデアルト云フコトハ、此事ニ徴シテ明カデアルト私ハ思ヒマス、マダアル、此關稅ヲ撤廢致シマシタナラバ、租稅ノ負擔力ヲ毀損スルト云フコトニナリマス、即チ地租ノ七千五百萬圓ノ半面ニハ府縣稅ノ七千五百萬圓ガアル、故ニ一億五千萬圓ノ負擔力ヲ直ニ毀損シテ來ルトコロノ道理ニナッテ參ルコトガ分カルデアラウト思ヒマス、殊ニ此關稅ヲ撤廢スルトセザルトハ如何ナル邊ニ大ナル影響ガアルヤ否ヤト云フコトハ、自分ガ仄ニ聞クトコロニ依レバ、昨年以來日本ノ米價ノ下落シテ居ルノハ何ノタメデアルカ、何ノタメニ下落ヲシタノデアルカ、仄ニ聞クトコロニ依ルト是ハ昨年朝鮮ノ關稅ヲ撤廢シタル結果、臺灣朝鮮等ニ外米ガ這入ッテ是ガ混ゼラレテ、朝鮮米トナッテ我國ニ這入ッタ結果デアルト云フ一ツスラモ研究シ得テ居ルノデアリマス、而シテ此米ノ額ハ約三百三十萬石程デアリマスルガ、是ガ一年中ニ徐々ニ這

入ッテ來ルナラバ左程ニモ多大ノ影響ヲ及ボサナカッタカ知リマセヌガ、兎ニ角殆ド三箇月ホドニ三百三十萬石這入ッタルタメニ、斯ノ如ク米價ガ昨今下落シテ天下ノ農民——農村ニハ憂色ヲ以テ充タサレテ居ルノデゴザイマス、ソレ故ニ此關稅撤廢ト云フコトハ先刻提案者ハ反對ヲスル者ハ人氣ヲ取ルトカ何トカ言ハレタケレドモ、ソレハ提案者ノ方ノコトデ、畢竟關稅ヲ撤廢シテ細民ヲ助ケテヤル、オ前達ヲ救濟シテヤル、吾々國民黨ハ細民ヲ助ケル主唱者ニナッテ居ルノダト云フ看板バカリ大キイ、美麗ナ看板バカリ揚ゲテ、而シテ細民ヲ磨イデネキニ引寄セテ絞殺スモ同様ダ、故ニ此關稅撤廢ニハ絶對的反對ヲスルノデアアル、即チ若シ之ヲ撤廢スレバ國家經濟ノ基礎ヲ破壞スルノデアアル、國防ノ要素タル軍隊ノ實力ヲ危殆ナラシムルノデアリマス、故ニ提案者ノ考ハ皮相ノ考ノミ、淺薄ナル思慮ノミ、今日以後ニ於テ是ガ關稅撤廢ヲ唱フル人ハ亡國論ヲ唱フルノデアアル

討論終局シ院議本案ノ第二讀會ヲ開カサルニ決シタリ

一三 治安警察法中改正法律案

治安警察法中左ノ通改正ス

第二條第四項中「選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ」ヲ「公衆ヲ」ニ改ム

第四條中「屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ」ヲ「第二條ノ集會ニ非スシテ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ」ニ改ム

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

未成年者、公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

同條第三項ヲ削ル

二年十二月二十六日關直彦君外三名提出、三年一月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者(村松恒一郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本員ハ茲ニ治安警察法中改正法律案ニ就テ提出ノ理由ヲ述ベタイト思ヒマスガ、此治安警察法ノ改正案ト云フモノハ、最近ニ於キマシテ二十七議會、二十八議會、三十議會ト、毎年續イテ吾々同志カラ提出シテ居ルモノデアリマシテ、能ク諸君ノ御承知ノコトデアリマス、別ニ委シク申述ベル必要ハナイノデアリマス、唯一應順序ト致シマシテ、此案ノ趣意ダケヲ一應申シテ置カヌトナラヌノデゴザイマス、此改正ノ趣意ハ、法律ヲ以テ組織シタル議會ノ選舉ニ就テ、其選舉ノ期日前五十日間ノ間ハ、現行法ニ於テハ選舉人及被選舉人ノ集會ニ限ツテ無届デ集會ヲ許スト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、之ヲ範圍ヲ廣メテ一般ノ公衆ヲモ會同セシメテ、ヤハリ之ヲ無届デ許スト云フコトニ致シタイ、ソレカラ第二ニ從來ノ屋外ニ於ケル集會ト云フモノハ、十二時間前ニ届ケルト云フコトニナツテ居リマスノヲ、ヤハリ普通ノ集會ト同ジク三時間前ニ届ケルト云フコトニ致シタイ、第三ニハ現行法ニ於キマシテ、未成年者及女子ノ集會ヲ禁ジテアルノデアリマスガ、之ヲヤハリ普通ノ者ト同ジク、政談ノ集會ニ許シタイト云フ、此三箇條ガ此改正ノ主眼デアアルノデアリマス、其理由ニ至リマシテハ既ニ屢々前々回ヨリ提出者ガ述ベテ居リマスカラ、私ハ此處ニ別ニ申シマセヌ、唯一言附加ヘテ置キタイコトハ、此治安警察法ノ歴史デアリマスガ、此歴史ヲ述ベテ置クト云フコトハ、本案ノ通過ノ上ニ最モ必要ナルコトデアルト思ヒマスカラ、此點ヲ少シク述ベタイト思フノデアリマス、ト云フモノハ既ニ前年來三回モ引續イテ提出ヲ致シタノデアリマスガ、最初ニハ二十七議會ノ時ニハ、會期切迫ノ爲ニ議了ニ至ラズ、二十八議會ノ時ニハ不幸ニシテ否決ヲセラレマシタ、三十議會ノ時ニ於キマシテハ、修正ノ上デ

本案ヲ通過シタノデアリマスガ、其修正タルヤ甚ダ吾々ハ不満足デアアル、ト云フノハ第一ノ議員選舉ニ關スル集會ヲ、吾々ハ三時間ニスルト云フノヲ六時間ニ改メラレタ、是ハ甚シキ異議ハナイノデアリマスガ、最モ吾々ノ遺憾ニ存ジマスノハ、女子及未成年者ハ集會ニ會同セシメナイ、即チセシメタイト云フ吾々ノ提議ヲ否決セラレタト云フコトガ、餘程吾々ノ遺憾トスルトコデアリマシテ、之ニ付キマシテ是非吾々ノ改正案ヲ全部通過シタイト云フノガ吾々ノ希望デアリマスカラシテ、ソレニ就テ極ク簡單ニ既往ノ歴史ヲ述ベテ置キタイト思フノデアリマス、諸君御承知ノ如ク、此治安警察法ハ明治十三年ニ發布セラレマシタ、集會條例ガ始マリデアリマシテ、ソレガ明治二十三年七月ニ集會及政社法ト改マリマシテ、更ニ明治三十三年ニ現行ノ治安警察法ト相成ツタト云フ、隨分長イ歴史ヲ持テ居ルノデアリマシテ、而モ集會條例ノ初メテ發布セラレマシタ明治十三年ノ時ハ如何デアッタト申シマスレバ、所謂國會開設請願運動ノ爲ニ、天下ノ國論恰モ鼎ノ沸クガ如キ有様デアリマシテ、其場合ニ當時ノ閥族政治家ガ此民論ヲ壓迫センガ爲ニ、彼ノ集會條例ト云フモノヲ發布シタト云フコトハ、諸君ノ御承知ノ通り、其集會條例ノ嚴酷ナルコトハ、演說會ヲ開クニハ三日前ニ届ケナケレバナラヌ、演說者ハ住所姓名職業年齢ハ勿論、當日述ベベキトコロノ演題並ニ其述ベベキ事項ヲ一々列舉シテ届ケナケレバナラヌ、若シ其届出ノ事項ニ外レタコトヲ述ベタナラバ、直ニ中止スルトカ、直ニ解散スルトカ云フヤウナ、嚴酷ナル箇條モアリマシテ、此集會條例ノ爲ニ民間ノ政治家ガ如何ニ困難ヲ受ケタカ、如何ニ是ガ爲ニ迫害セラレタカト云フコトハ、今尚ホ諸君ノ御記憶ノ通りデアラウト思フ、然ルニ明治二十三年ニ至リマシテ、愈々議會ノ開ケルト云フ場合ニ至ッタモノデアアルカラ、多少當時ノ政府モ鑑ミル所ガアッタト見エマシテ、其名稱モ集會及政社法ト改メ、同時ニ集會條例ヨリハ幾分緩和シタルモノガ出來タノデアリマシタガ、併シナガラ此集會及政社法タルヤ、最モ必要ナル屋外ノ集會モ許サズ、又其中ニハ女子及未成年者、或ハ學校ノ教員生徒ト云フヤウナ者ハ、ヤハリ集會條例ノ時ノ如ク之ヲ禁ジテ居リマス、而モ此法律ニ於ケル制裁ト云フモノハ、隨分嚴格ナル體刑マデモ存シテ居ッタト云フ譯デアリマシテ、唯集會條例ガ餘リ嚴酷デアッタ爲ニ、稍、少シク表面ヲ

裝ウテ、サウシテ此集會及政社法ト云フモノヲ出シタノデアアルガ、民論壓迫ノ點ニ至ッテハ少シモ違ッダコトガナイノデアリマス、此ニ於テ第一議會當時伊藤大八君ガ此改正案ヲ提出セラレタ、此改正案ハ餘程進歩シタルモノデアリマシテ、所謂屋外ノ集會モ許スシ、ソレカラ政談集會ノ發起人ニハ女子モ之ニ加ハルコトヲ許ス、又政談集會ニ會合スル即チ其席へ傍聴ニ行クト云フコトニ就テ、女子モ未成年者モ無論之ヲ許ス、ソレカラ尙ホ進ンデハ此政社ノ社員トシテモ、女子ハ之ニ加ハルコトヲ許スト云フ位ニ、進歩シタ案ヲ伊藤君ガ提出致サレマシタ、其當時ハ委員會ノ修正ニ於テハ多少後戻リヲシタ事柄モアリマスガ、併シ伊藤君ノ案ハ餘程進歩シテ居ッタノデアリマス、併シナガラ第一議會ノ時ハ終ニ衆議院ヲ通過スルニ至ラズシテ終リ、第一、第二、第三議會亦通過セズシテ、或ハ貴族院デ否決サレタト云フ譯デ終ッタノデアリマス、第四議會ニ到リヤハリ伊藤君ガ提出ヲセラレマシテ、其際ニハ出來得ル限リ讓歩シテ、政府ニモ出來得ル限リ讓歩セシメテ、成ベク是ガ成立ヲ期スルコト云フ方針デ、十分ナル審査ヲシテ漸ク此集會政社法ノ改正案ト云フモノガ成立シテ、之ガ明治二十六年ニ實施サレテ、明治三十三年マデ及ンデ居ッタノデアリマス、兎ニ角嚴酷ナル集會法及政社法ハ、幾分進歩シタ形ニナッタト云フコトハ、數年間引續キタル伊藤君ノ努力ヲ吾々ハ大ニ多トスルモノデアリマス、所デ明治三十三年即チ十四議會ノ時ニ於テ、政府ハ自ら進ンデ今ノ治安警察法ヲ提出致シタノデアリマス、此治安警察法ヲ提出シタ時ノ政府ノ説明ニ依レバ、從前ノ集會政社法ハ非常ニ手續ガ繁雜デアアル、規定ガ窮屈デアアル、然ルニ社會ノ進歩ト共ニ、斯ノ如キ手續ノ煩瑣ナル、又性質ノ甚ダ窮屈ナル既往ノ集會政社法ヲ廢シテ、成ルベク時勢ノ進歩ニ件フトコロノ此治安警察法ヲ提出シタモノデアルト云フ説明ヲシテ居ルノデアアル、所デ其治安警察法ノ中ニ於テハ、此政府案ニ於テ尙ホ且女子ハ政談集會ニ出席スルコトヲ許シテアッタノデアリマス、然ルニ前ノ伊藤君ノ改正案モ、亦治安警察法モ、貴族院ニ於テ修正ヲ加ヘラレテ、女子ハ政談集會ニ加ハルコトガ出來ナイ、未丁年者モ是ニ出席スルコトガ出來スト云フコトニナッテ、今日ノ如キ法律ガ其儘行ハレテ居ル譯デアアル、是ハ吾々ノ最モ遺憾トスルトコロデアリマス、ソレデ今日マデ政府委員ノ反對ノ理由ヲ聞クト云

フト、未丁年者及女子ノ政談集會ニ出席セシメテ傍聴ヲ許スト云フコトハ、今日ノ程度ニ於テ未ダ其處マデニ至ッテ居ラヌ、婦人ノ如キ神經ノ過敏ナル者、若クハ未丁年者ノ頭腦ノ定ラヌ者ニ、此活潑ナル政治上ノ事ヲ聽カセルト云フコトハ、害ガアッテモ益ハナイト云フコトヲ屢々繰返シテ居ルノデアリマスガ、而モ是ガ第一議會ノ時ニ政府委員ノ反對シタ理由デ、今日マデ其儘チットモ變ッテ居ラヌノデアリマス、シテ見マスルト第一議會カラ今日マデ、既ニ二十五年經ッテ居ルノデアリマスガ、此二十五年間社會ハ少シモ進歩シナカッタモノト政府デハ見テ居ルカモ知ラヌガ、決シテサウデハナイト思フ、況ヤ政友會ノ諸君ハ既ニ二十八議會ニ於テ之ヲ否決サレタノデアリマスガ、既往ニ於テ政友會ノ系統ニ屬シテ居ル自由黨ノ人々ハ、ヤハリ吾々ト同ジ意見ヲ數回引續イテ議會ニ主張サレタ歴史モゴザイマスカラ、今日ニ至ッテ政友會ノ諸君ガ反對ヲセラル、ト云フコトハ、是レハ社會ノ退歩ト云フヨリハ或ハ政友會ノ退歩ト思フノデアリマス、又政府ニ於テモ明治三十三年以前ニ於テハ、社會ノ狀態ガ云々ト云フ理由トシテ、是ニ反對スルコトガ出來タカモ知レナイガ、現ニ三十三年ニ提出サレタ治安警察法ノ中ニ於テ、政府案ニ立派ニ女子ノ會同ヲ許シテアルノデアリマス、此以後ニ於テハ政府ガ反對スル理由ハ斷ジテナイト思ヒマス、既ニ女子ニシテ此政談集會ニ出席スルコトガ差支ナイト云フコトデアレバ、未丁年者ト雖モ少シモソレニ變ッダコトハナイノデアリマス、ソレ等ノ理由ハ既往幾回カ吾々ノ同志ガ繰返シテ居リマスカラ、是以上ハ私ハ申シマセヌガ、唯一言附加ヘテ置キタイノハ女子ヲ政談集會ニ出席セシメテ差支ナイト云フコトニ、政友會ノ諸君ハ反對ノ出來ナイ事實ガアル、ソレハ何カト云フト二十四議會ニ於テ治安警察法改正ノ請願ガ、請願委員會ニ出マシテ、其當時政友會カラ出デラレタ竹越君ガ委員長デアアル、而シテ此請願ハ尤モデアルト云フコトデ之ヲ採擇ヲ致シテ、更ニ請願委員會ニ於テ法律ヲ作ッテ、即チ治安警察法ノ改正ノ必要ナルコトヲ、請願委員長カラ本會ニ提出ヲ致シテ、是ガ滿場一致ヲ以テ通過シテ居ル歴史ガアルノデアリマスカラ、今日ニ至ッテ此案ニ御反對ヲナサルト云フコトハ、抑、前後矛盾デハアルマイカト思フノデアリマス、又今日ノ時代ニ於テ此ノ如キコトニ反對ラスル、此ノ如キコトヲ否決スルト云フコトハ、餘リニ時

代ヲ知ラナイモノデアラウト私ハ思フノデアアル、勿論政友會ノ諸君ガ今日ノ立場トシテハ、或ハ是ニ御反對ナサル、諸君ガアルカモ知レマセヌガ、併シナガラス様ナルコトハ、今ノ政府ノ方針ニ影響スル程ノコトデモナシ、政略ノ問題デモナイ、然ラバ以前ニ賛成シタモノデアアルカラ、今日續イテ賛成スルノハ當然ノコト、思ヒマスカラ、ドウカ是ハ既ニ數回此議場ニ出テ居ルコトデアリマスカラ、今回ハ全部御賛成アラシムコトヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

治安警察法中左ノ通改正ス

第二條第四項中「選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ」ヲ「前五十日間ヲ、前三十日間ニ改ム」
第四條中「屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ」ヲ「第二條ノ集會ニ非スシテ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ」ニ改ム

ム

前項届出ノ時間ハ地方ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ命令ヲ以テ十二時間迄ノ範圍ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得
第四項中「教員」ノ下ニ「帝國大學及專門學校令ニ依ル學校ノ教員ヲ除ク」ヲ加フ
第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

未成年者、公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

同條第三項ヲ削ル

翌十四日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長岩崎總十郎君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

治安警察法中ノ改正法律案、同案ノ委員會ノ經過並ニ其結果ヲ御報告致シマス、同法ノ第二條ノ第四項ニ「法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲メニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スルモノニ限リ」云々「投票ノ日ヨリ前五十日間ハ本條第二項ノ届出ヲ要セス」斯ウ云フ條項ガゴザイマス、然ルニ改正法律案ノ提出者ノ意見ハ、獨リ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スルモノニ限リ届出ヲ要セスト云フトコロヲ、之ヲ擴張メテ一般公衆ニマデ及ボシタイト云フ意見デアリマス、夫カラ又同法ノ第四條ニハ屋外ニ於ケル所ノ集會並ニ運動等ニ付テハ、十二時間以前ニ所轄警察署ニ届出デヨト云フノガ現行法デゴザイマス、夫ヲ改正案ノ提出者ハ之ヲ三時間ニ改メタイト云フ意見デアリマシタ、尙又同法ノ第五條ニ女子及未丁年者ハ政談演說會ノ發起人タルコト、並ニ其傍聽ヲ禁ジテゴザイマスガ、夫ヲ取除イテ自由ニ傍聽ヲセシムル、又未丁年者ヲ除イテハ發起人タルコトヲ得ルト云フコトニ改正致シタイト云フノデアリマス、然ルニ是等ノ改正法律案ニ付テ、政府委員ノ意見ヲ求メ、並ニ委員ノ應答ヲ重ネ、攻究ノ結果左ノ如ク改正スル所ノ動議ガアリマシタ、ソレハ第二條ノ四項中ニ選舉權ヲ行フヘキ者、被選舉權ヲ有スル者ニ限ルト云フコトヲ擴張シテ、一般公衆ニ其自由ヲ與ヘルト云フコトハ全會一致ヲ以テ決シタノデアリマス、併ナガラ前五十日間ト云フコトハ長キニ失スルガ故ニ、前三十日ト改メタイト、選舉ノ準備等ノ場合ニ於テハ、選舉當日ノ五十日間前ト云フコトハ長キニ失スルガタメニ、三十日ト改メタイト云フコトノ動議ガアリマシタ、是ハ此通り改メテ提出者ノ意見通りニ決シタノデアリマス、ソレカラ次ハ第四條ノ「十二時間」ヲ「三時間」ニ改メタイト云フ點ニ付テ、尙又修正ノ動議ガアリマシタ、其修正ハ現行法ノ十二時間ト云フノヲ半減シテ六時間ニ改メタイト云フ修正デアリマス、尙又六時間ニ改メルコトハ相當デアルケレドモ、之ヲ例セバ東京若クハ大阪ノ如キ大都會ニ於テ、公衆ガ二萬モ三萬モ集會スルト云フヤウナ場合ニ於テハ、六時間前ノ届出ニ於テハ取締ガ十分デナイト云フ點ニ疑義モアリマシタガ、故ニ、政府委員等ニ能ク質問ヲ致

シマシタ所ガ、ヤハリ修正者ト同意見ナルガ故ニ、修正者ハ此點ニ付テ斯様ナル一項ヲ提出サレタノデアリマス、ソレハ前項ノ届出ノ時間ハ地方ノ狀況ニ依リ必要ナルトキハ、命令ヲ以テ十二時間マデノ範圍内ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得ト云フコトノ條項ニ致シタノデアリマス、併ナガラ此條項ヲ濫用スル場合ニ於テハ、縱令十二時間前ト云フモノヲ六時間ニ短縮シテモ、事實ニ於テ改正ノ實ガナイト云フ所カラ、政府委員ニ伺ッテ十分ナル質問ヲ致シテ其範圍ヲ質シタノデアリマス、所ガ政府委員ハ全ク十二時間ヲ六時間ニスルト云フコトヲ改メタ以上ハ厲行スル積リデアル、併ナガラ萬一ヲ慮ッテ斯ノ如キ條項ヲ挿入セラル、コトデアレバ、政府ハ其趣意ニ基イテ濫用等ハ一切ナイコトヲ保證スルト云フ意味ノ答辯ガアツタノデアリマス、ソコデ委員ノ多數ハ此條項ヲ必要ナリトシテ修正動議ノ如ク可決致シマシタ、ソレカラ次ニ第五條ノ法律案デアリマス、即チ未丁年者並ニ女子ニ政治演説ヲ聞カセルト云フコトノ簡條デアリマスガ、是ハ多數ニ於テ今日ノ場合此改正ヲ要セスト、此改正ハ却テ風紀ニ害ガアルト云フ趣意ヲ以テ是ハ否決ニナリマシタ、承ル所ニヨルト、此點ハ改正案ノ提出者ニ於テ十分ニ御議論ヲナサルト云フコトデアリマスカラ、其理由ノ當否ハ委員長ニ於テ委員會ノ經過ヲ御報告スル必要ガナイト思ヒマス、要スルニ之ヲ否決スル所ノ委員ノ考ハ、將來ニ於テハ斯様ニ擴張スル場合モアラウガ、現在ノ日本ノ政界ニ於テ、女子ニ政談演説等ヲ傍聽セシムルコトハ害アツテ益ナイモノデアルト云フ考ヨリ、多數ヲ以テ之ヲ否決シタノデアリマス、此段御報告ヲ致シマス……成程委員長ハチヨット一箇條落シマシタ、是ハ改正案提議者ニ係ハラヌモノデアリマシテ、委員ノ一人ヨリ動議ガアッタノデアリマス、夫ハ第五條ノ第四項中ノ教員ト云フ其下ニ「帝國大學及專門學校令ニ依ル學校ノ教員ヲ除ク」ト云フ一項ヲ加ヘタノデアリマス、其理由ハ現行法ニ於テハ是等教員ハ所謂教育ニ從事スル所ノモノデ、普通學ノ教員ノミナラズ、帝國大學若クハ專門學校令ニ依ル所ノ學校ノ教員モ、此中ニ入ッテ居ルノデアリマスガ、帝國大學若クハ專門學校令ニ依ル所ノ學校ノ教員ノ如キハ、教育ト云フヨリハ寧ろ學術ト云フモノヲ研究スル所ノ專門學校ノ教員ニマデ、政談演説ヲ聞カセヌト云フノハ、是ハ甚ダ不都合デアアル、故ニ唯今申シタル教員ダケハ

除クト云フコトノ修正動議ガアリマシテ、是ハ可決ニナリマシタ、此段御報告ヲ致シマス
引續キ第二讀會ヲ開キ村松恆一郎君ハ其ノ提出ニ係ル修正案ノ趣旨ヲ辯明シ神藤才一君ハ之ニ反對ノ演説ヲ爲セリ

(修正案)

治安警察法中改正法律案委員長報告中左ノ通修正ス

第四條第二項中「地方ノ狀況ニ依リ」ヲ「東京市及大阪市ニ限り」ニ改ム

第五條原案復活

村松恆一郎君ノ演説

簡單ニ修正意見ヲ述ベテ置キマス、唯今委員長カラ御報告ニナリマシタノハ、其簡條ニ依リマシテハ本員等モ賛成ヲ致ス點モアルノデアリマシテ、此第二條ニ於キマシテ「選舉前五十日間」ト云フノヲ「二十日間」ニセラレタコトハ餘リ満足デハアリマセヌガ、兎ニ角吾々ノ意見ガ容レラレテ一般公衆ヲ會スル時デモ、選舉前三十日間ハ無届デ演説會ノ開會ガ出來ルト云フコトニ相成ルノハ、確ニ進歩デアリマスカラシテ賛成ヲ致シテ置キマス、夫カラ此第四條中ノ屋外ノ集會ニ於テ、十二時間前ニ届出デルト云フ現行法ヲ吾々ハ普通ノ集會ト一屋內ノ集會ト同ク三時間前ニ届ケルト云フノデアリマシタガ、之ヲ六時間ニ改メラレタノデアリマスルガ、是モ吾々ノ意見トハ少シク相違ハアリマスルケレドモ、大體ニ於テ餘程吾々ノ意見ニ近クナッタノデアリマスルカラ、其精神ニ於テハ必ズシモ異議ヲ唱ヘルノデアリマセヌガ、此第四條ノ第二項トシテ

加ヘラレタ所ノ「前項届出ノ時間ハ地方ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ命令ヲ以テ十二時マテノ範圍ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得」ト云フ、此但書ヤウノ一項ヲ附加ヘラレタ、是モ已ムヲ得ナイカモ知レナイノデアリマスルガ、單ニ之ヲ地方ノ狀況ニ依ルト云フコトニシテ置ケバ、何レノ地方ニ於テモ命令ヲ以テ隨意ニ此時間ノ範圍ヲ擴ゲテ十二時間迄ニスルト云フヤウナコトガアリマスノデ、殆ド此法文ト云フモノハ無効ニ屬スルコトニナルノデアリマスルカラ、政府委員ノ既ニ言明セラレタル如ク、此六時間ト云フコトデ差支ノアル時ニハ、東京大阪ニ限ルト云フコトトハ、政府委員ハ言明セラレタノデアリマスカラ、吾々ハヤハリ之ヲ此法文ノ中ニ明カニシテ置キマシテ、即チ「地方ノ狀況ニ依リ」ト云フノヲ「東京市及大阪市ニ限ル」ト斯ウ云フ文字ヲ此處ニ入レタイノデアリマス、或ハ法文上デ體ヲ爲ストカ、爲サヌトカ云フ意見モ委員會デアリマシタケレドモ、併シ法律ハ成タケ意義ヲ明確ニシテ置クコトガ必要ナノデアルカラ、私ハ茲ニ此修正意見ヲ提出致シマシテ、即チ東京大阪ニ限ルト云フコトヲ茲ニ明確ニ致シテ置キタイ、ソレカラ第五條ノ方ニ於キマシテ唯今委員長ノ御報告ノ如ク、委員會デハ吾々ノ提案ヲ否決セラレタノデアリマスルガ、私共ハヤハリ最初ノ提案ノ如ク之ヲ維持スルト云フコトデ、茲ニ修正意見ヲ提出致シタイト思ヒマス、即チ其要ハ婦人ヲシテ政談集會ニ會同セシメルト云フコトヲ許シタイト云フノガ本員等ノ趣意デアアルノデアリマシテ、委員會ニ於キマシテハ、イロ／＼反對ノ意見ガアリマシテ、婦人ヲ政談集會ニ會同セシメルト云フコトニナレバ、更ニ新ラシキ婦人ナリモノヲ生ズルヤウナ虞ガアルト云フヤウナ御議論モアッタノデアリマス、其他色々ノ説モアリマシタケレドモ、吾々モ此新ラシキ婦人——所謂新シキ婦人ナルモノハ餘リ感服致サナイノデアリマス、又吾々ハ此女權擴張ト云フ程ナ者モ持ッテ居ラヌノデアリマス、況ヤ婦人ニ參政權ヲ與ヘルト云フコトモ餘リ主張スノデハ、ナイノデ、唯茲ニ此婦人ヲ政治上ノ集會ニ會合セシメルト云フコトヲ主張スルノハ、少ナクモ婦人ヲシテ人間同等ノ扱ヒヲシロト云フコトニ止マルノデアアル、既ニ婦人ト雖モ國民デアル以上ハ、成年ニ達スレバ男子ト同等ノ理解力ヲ有チ、又男子ト同等ニ社會上ニ地位權利ヲ有スルモノデアルト云フコトハ、法律モ認メテ居ルトコロデ

アルノデアリマス、然ルニ獨リ婦人ニ限り最モ國民ノ利害ニ關スル所ノ政治上ノ事項ヲ審議スル其集會ニ會同スルコトガ出來ナイト云フコトハ、人權ノ上カラ之ヲ許スコトガ出來ナイト私ハ思フノデアリマス、又事實ノ上カラ申シマシテモ、第一期以來政友會ノ前身タル自由黨ノ諸君ハ、常ニ此婦人ヲ政談集會ニ會同セシメルト云フコトニ付テハ御主張ニナッテ來タノデアリマシテ、既ニ前方提出ノ理由ヲ述ベマスル時分ニモ、其事ハ申シテ置キマシタガ、現在第二十四議會ニ於キマシテハ、請願委員會ニ請願ノ出タ場合ニ於テ、請願委員會ハ法律案トシテ之ヲ此議場ニ提出致サレテ、婦人ヲ政談集會ニ會同セシメルト云フコトハ、殆ド大多數ヲ以テ此議場ヲ通過シテ居ルノデアリマス、又明治三十三年ニハ政府ガ治安警察法即チ現行法ヲ提出シマシタル時分ニモ、時勢ノ進運ニ鑑ミテ此改正案ヲ提出スルト云フ理由ノ下ニ、此婦人ニヤハリ政談集會ニ會同セシムルト云フコトガ確カニ政府案ニアッタノデアリマスカラ、是等ノ經過カラ申シマシテモ、今日此婦人ニ政談集會ヨリ除外スルト云フコトハ、道理デアアルマイト思フノデアリマス、況ヤ今日世界列國何レモ立憲國ト名ノ付イタ處ニ於キマシテ、婦人ノ此政治上ノ集會ニ合同スルコトヲ禁ジテ居ル處ハ、何處ニモナイノデアリマス、唯千八百五十年ニ普魯西デ出來マシタル集會政社法ニ於テハ、政治上ニ婦人ノ合同ヲ禁ジテ居ッタノデアリマスガ、此官僚政治ノ本家本元タル獨逸ニ於テサヘモ、最近千九百八年ニ於テ此集會法ヲ改正ヲ致シテ、今日ハ婦人ノ會同ヲ許シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク道理ノ上カラ申シマシテモ、事實ノ上カラ申シマシテモ、亦此衆議院ニ於ケル既往ノ經過カラ申シマシテモ、恐ラク是ニ對シテ反對ノ理由、反對ノ口實ハ少シモナイト私ハ思フノデアリマス、唯或ル一種ノ感情ニ囚ハレテ、反對ヲ述ベラレルノデアリマスガ、其反對意見タルヤ極メテ薄弱ナルモノデ、唯或ル弊害ガ生ズルトカ、或ハ却テ婦人ノ墮落ヲ來ストカ云フヤウナ、誠ニ根據ノナキ誠ニ婦人ニ對シテ侮辱ヲ加ヘルトコロノ言葉ヲ以テ、是ニ反對ヲセラレルノデアアルガ、而モ其根據ト云フモノハ何モ無イノデアアル、デ吾々ハ最初提出致シマシテ案ヲ維持シテ、サウシテ之ヲ委員長ノ報告ニ對スル修正動議トシテ茲ニ提出ヲ致シタ次第デアリマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

諸君、私ハ此議會ガ切迫致シマシタルニモ拘ラズ、此事ニ付キマシテ反對ヲセテバナラヌト云フコトガ私ノ意見デゴザイマス、柄ニモナク併シ成ベク單簡十五分限リト斯ウ云フヤウニシマスカラ御時計ヲドウカ御覽下サイマセ、併シヤジラレルトチト長クナルカモ知レマセヌカラ、ドウカ例ノ一流ダケヲ併シ唯今村松君ハ最モ私ガ敬重スル所ノ方デゴザイマス、然ルトコロガ、唯今人權ノ事カラ女子ヲ奴隷視スル如キニ至ル、即チ是ニ反對スル者ハ女子ヲ奴隷ノヤウニスルノハ甚ダ不届デアルト云フヤウナ——簡單カ詳イカ知リマセヌガ、先ヅ其邊カラシテ私ハサウデナク本員ハ最モ日本ノ女子ヲ尊敬シテ、向後尙倍々尊敬セテバナラヌト云フトコロノコトヲ私ハ申述ベルコトデアアル、横道ヘ入ラヌヤウ成ルベク單簡ニ……諸君、村松君及其他此案ニデス、御賛成ノ方即チ第五條ノ女子政談演説會ニ會同及其發起人トナルコト、未成年者、是モ亦會同シ傍聽スルヲ得、此事ニ付テ私ガ反對スルノデアアル、其他ハ委員會ニ於テ決議ニナツコトニ言分ナク兩手ヲ擧ゲテ賛成致スノデアリマス、村松君及其他之ヲ御賛成爲サル方ハ、政治ハ各人男子ニ離ルベカラザルトコロノ權利義務デアアル、即チ權利義務デアアル、又義務公務デアアルカラシテ、未成年者ニハ此政治思想智識ヲ與ヘ、之ヲ修養シテ成年ニナツタトキニハ、社會ノタメニ大ニ利益スル、又青年ノタメニハ其利益スルトコロデアアル、又女子ニシテモ同斷ノ政治智識ヲ附與スルハ始終委員會ニ於テ申サレタ如ク、縣會議員衆議院議員ノ選舉ノ廓清上ニ於テ、是亦多大ニ利益ヲ與ヘルノデアルト云フコトヲ提出者ハ申サレテ居タノデアリマス、此故ニ普通學校ニ於テハ政治科學ヲ置イテ之ヲ其生徒ニ教ヘテ居ル、普通學校デサヘモ此ノ如シ、何ゾ政談公會場ニ是等ノモノヲ參會會同傍聽セシメルトテ社會ニ決シテ害ガアラウ筈ハナイ、否害ナキノミナラズ多大ニ益ヲ社會ニ與ヘルノデアルト云フ論旨デゴザイマシタ、本員ハ決シテ然ラズ、諸君抑政治演説ハ主トシテ現在ノ時事ヲ論ズルヲ以テ其目的トナリマス、然ルニ普通學校ニ教ヘルトコロノ科學ハ、普通一般ノモノニシテ決シテ時事ヲ論ジ現在ヲ評スルモノニアラズ、

即チ千差萬別タル政略的ノモノニアラズ、之ヲ農事ニ譬ヘテ見マスレバ、普通學校ニテ教ヘル所ノモノハ、種蒔植付ノ時代即チ修養時代デアアル、然ルニ政談集會場ニ於テノ政談ハ實リマシタルモノヲ嗜味嗜ミ分ケル時代、即チ千差萬別ノ議論ヲ識別斷スル極メテ紛雜ナル議論場デアアル、此ノ如キ千差萬別ナル政策的議論ヲ未ダ其身體其智識、其行爲、其能力ノ完全セザル未成年者ニ會同傍聽爲サシムルハ、其生理上ヨリモ害アルトモ決シテ益ハナイノデアアル傍聽ハ——併ナガラ未成年者ハ——女子ダケデスカ、ソレナラ其事ハソレデ宜シイ然ラバ是ヨリシテ極ク簡單ニ女子ノコトニ付テ私ハ論ジマス、諸君、女子ニ唯今仰セラレマス通り、政談智識ヲ附與セントスルハ、政談會ニ會同又之ヲ發起人タラシムルコト、之ヲ傍聽爲サシムルコト、此件ニ付テノ理由ハ短簡ニ述ベマスルガ、我國維新以來泰西ノ思潮ハ滔々トシテ我教育界ニ闖入シテ居ルノデアアル、新舊思想ノ衝突激甚ニシテ殊ニ女子ノ教育及女子ノ操守ニ關スル問題ノ如キハ、到ル所其聲ハ聞カザルコトハナイノデアリマス、其結果ハ一トシテ定案アルノデアナイ、而シテ今ヤ新文明ト舊思想トハ各、其弊害ヲ淘汰シテ、其善美ヲ融和セシメントノ傾向デアリマスゾ、殊ニ我國古來ノ家庭慣習トモ云フベキ女子ノ教育及其家族制度ハ、世界文明諸國ノモノニ比シテ優ルトモ決シテ劣ルベカラザルトコロノモノデアアル宜シウゴザイマスカ是ヨリ御憎シミデアアルカモ知レマセヌガ、凡ソ婦人ノ婦人タル所以ハ女性トシテ天賦ノ徳ヲ具ヘ最モ遺憾ナク其光明ヲ四圍ニ發揮スルモノデアアル、是故ニ女子ハ雷ニ專心一意婦人ニ必要ナル淑徳ヲ修ムルヲ忘ルベカラザルモノデアアルト私ハ言フノデアアル、諸君女性天賦ノ徳トハ、婦人ノ此世ニ於テ其天賦ノ天職ヲ完ウスルガタメニ、通有セネバナラザル優シイ情性ニ伴フ總テノ善美ナル資質ヲ指スモノデアアルノデアリマス、即チ其慈愛心ノ卓絶セルコト、溫和順良ニシテ同情ニ富メルコト、勸忍強クシテ謙讓恭勤ナル等ノ如キハ、女性天然ノ麗質中ニモ殊ニ其光彩ヲ四方ニ放ツモノデアアル、此ノ如キ美德ヲ具フレバコンソラ御覽ナサイ外ニアリテハ社會ノ花トモ謳ハレ内ニアリテハ家族ノ王トモ敬ハレ、人類ノ幸福慶社ヲ増進スルモノニシテ、若シ夫レ此ノ如キ美質ノ、女子ノ情ノ中カラ除カレタランニハ、婦人ノ未來ノ面目ヲ失ヒ、雷ニ世ヲ益スルコトナキノミナラズ、

婦人自ラガ不幸ノ間ニ哀レ悲シキ一生ヲ終ルコト、ナルニ至ルノデアリマス諸君殊ニ殊ニ諸君其過敏過情ニシテ動トモスレバ其常識ヲ失ヒ——動トモスルト其常識ヲ失ヒ、事ノ偏頗ニ流レ、其虛榮ニ走り易クシテ其止マルトコロヲ知ラザルハ、是レ即チ女子ノ性情デアリマセウヤ——之ヲ以テ古人ハ言ハズヤ——古人モ言ハズヤ女子ト小人ハ養ヒ難シト又俗言ニ女賢ウシテ牛賣リ損フトノコトデアアル、然レトモ村松君及ビ論者ハ言ハシ、然ラバ何故ニ歐洲文明諸國ハ勿論、我國ノ最高政治院トモ言フベキ、即チ最高政治院タル貴衆兩院ニ女子ノ傍聴ヲ何故ニ許シ居ルカ何故ニ院外ノ政談集會ニ之ヲ許可セザルカ、其理由ノ矛盾モ甚ダシキモノニアラズヤトノ御言葉デアリマセウケレドモ、ソレハ是レ其所以ヲ知ラザル者ノ言デアルト私ハ思フノデアアル抑、女子其傍聴ノ由來ヲ單簡ニ御話申ス、諸君、私ガ久シク居リマシタ所ノ佛蘭西國、即チ佛蘭國ノ此女子ノ傍聴ヲ始メタコト、云フモノハ、政府委員ノ方モ御承知アルカナイカ知レマセウガ、是ハ即チ佛蘭國大革命ノトキニ始マツタデアル、是等ノコトハ諸君ガ御承知デアリマセウガ、佛國ハ列國ノ大軍ニ迫ラレ、刀折レ矢盡キテ城下ノ盟ヲ殆ト蒙ラントセシトキニ方ッテ、此國ノ女子ハ軍ノ後方勤務ニ從事シテ、殆ト彈丸雨注ノ戰線ニ立働キ壯年男子ニモ優ル活動ヲ爲シテ、遂ニ今日ノ佛蘭西アルニ至ラシメタノデアアル、當時同國女子ノ力與リテ多キニアツタノデアアル、是ニ於テ彼ノ御承知ノ通り「ベルサイユ」ノ「ジウホナム」ノ國民大會ヨリシテ——是ヨリシテ國民議會ハ開カレタノデアリマス、ソレデ當時列國ヲ引受ケタル男子ト共ニ、國家ノ爲ニ力ヲ盡シタルハ女子ナリ、其功トシテ女子ニ其ノ父、其ノ子、其ノ夫、其ノ兄弟等ガ凜々タル皆サンノ如キ風彩デ國事ヲ議スルノヲ、唯御世辭的ニ御馳走的ニ之ヲ傍聴ナサシメタルハ是即チ女子ガ議會傍聴ノ嚆矢即チ始メデアリマス、是ガ即チ列國ニ餘波シテ今日ノ如クニ至ツタノデアアル、然ルニ如何デゴザイマセウ、先程申シマス通り、古人モ所謂女子ト小人ハ養ヒ難シトノ語ニ匹敵スルモノカシテ、現今村松君ナドガ人權擁護トカ、是ガ歐羅巴ノ流行スル女權擴張トカ、男女同様にトカ、或ハ參政權トカ云フガ如キ途方モネ——女子ニモ——即チ女子自然の其性質ニモ殊ニアルベカラザルコトヲ狂望即チ狂ヒ願フニ至ツタノデアアル、然レドモ諸君歐洲文明諸國ニ於テハ心

アル教育アル女子ノ前ニテ、喧嘩口論戰爭政治ノ話スルサヘ無禮ナリト慎ンデ居ルノデアリマス、然レドモ諸君英米兩國ノ女子界ニ於テハ男女同權ハ愚カ、女尊男卑ノ外形上ノ傾キガアリマスケレドモ、歐洲大陸ニ於テハ唯今申シマシタ通り心アル教育アル女子ハ、若シ女子ニシテ政治ニ加ハリ、又之ニ奔走スル者ガアルガ如キニ至ッテハ、即チ彼ノ阿婆摺レオ轉婆的ノ行動ヲ爲スコトヲ聞イテハ、往々眉ヲ蹙メテ耳ヲ掩フニ至ルノデアリマス諸君御承知ノ通り彼ノ文界ノ女傑、又彼ノ「マダームスタエール」ノ如キ不世出ノ女丈夫ト雖モ、奈翁一世ニ女子ノ天職ヲ説カレテ亦面シテ其本性ニ立歸リシトノコトデアアル、況ヤ諸君世界無比ニ見ル日本女子固有ノ美風、即チ慈愛心深クシテ溫和順良ニシテ同情ニ當ミ、堪忍強ウシテ謙遜恭儉ノ如キ天然ノ良質ヲ破壞シテ、女權擴張ノ本家本元タル歐洲ノ女子界ニテサヘ、眉ヲ蹙メ耳ヲ掩フガ如キ阿婆摺レオ轉婆的ノ行為行動ニ之ヲ陷ラシメントスルガ如キハ、實ニ村松君等ノ罪ノ深イモノヂヤト私ハ考ヘマス、要スルニ遂ニ此ノ如キ阿婆摺レオ轉婆的ノ行動ニ陷ラシメントスルガ如キ、遂ニハ保元平治ノ常磐御前其者ナラズシテ大正時代ノ常磐御前ガ續々政談傍聴スルニ至ルヤモ測ラレヌノデアリマス、即チ赤子ヲ抱イテ兩手ニ子供ヲ連レテ而シテヒヤ／＼ノウ／＼トカ、手ヲ引バタカレタラバドウデゴザイマセウ、若シ夫レ此ノ如クンバ、男ハ外、女ハ内即チ男女内外、天地ノ大法分業ノ原則ヲ破壞スルモノデアルト私ハ思フノデアリマス、ソレ故ニ此ノ如ク時日ノ切迫ニモ拘ラズ、私ノ申述ベタコトハ滿場ノ諸君ガ十分ニ神藤的ニ御賛成下サレマシテ、日本固有ノ美質アルトコロノ女子諸君ニ、何處マデモ日本ノ立派ナルトコロヲ輝カシテ、世界ニ誇ルヤウニドウカ御賛成ヲ願ヒタイ

他ニ討論ナク表決ニ及テ院議村松君ノ修正案ヲ否決シ次テ委員會ノ報告ヲ採用スルニ決シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

一四 登録税法中改正法律案

登録税法中左ノ通改正ス

第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課税標準價格ヲ不相當ト認ムル場合ニハ其ノ相當ト認ムル課税標準價格ヲ登記申請者ニ通告シ若登記申請者之ニ異議ヲ申立ツルトキハ課税物件所在地ノ市町村長(市制第六條ノ區ニ關シテハ區長)ヲシテ一名乃至三名ノ鑑定人ヲ選定セシメ其ノ評價ヲ以テ課税標準價格ト爲ス
鑑定人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

登記所又ハ登記申請者ニ於テ右評價ニ異議アルトキハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得」
登記申請者ニ於テ其ノ申告税額ト登記所ノ認定税額トノ差ヲ現金又ハ相當印紙ヲ以テ假納シタルトキハ登記所ハ直ニ登記手續ヲ爲スヘシ

前項ノ假納アリタル場合ニ於テ登記所ノ認定税額ト終局ノ決定税額ト合致スルトキハ登記所ハ假納物ヲ以テ登録税ニ充當ス若其ノ間ニ餘剩アリタルトキハ直ニ登記申請者ニ還付シ不足アリタルトキハ其ノ不足額ヲ通告スヘシ

登記申請者ハ不足額ヲ七日以内ニ納ムヘシ

登記申請者ノ申告税額ニシテ終局ノ決定税額ヨリ寡キトキハ異議申立ニ關スル費用ハ登記申

請者ノ負擔トシ其ノ他ノ場合ハ國庫ノ負擔トス

二年十二月二十六日關直彦君外二名提出、三年一月二十四日第一讀會ヲ開キ提出者(高木益太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ昨年提案致シマシテ……多少字句ニ修正ヲ加ヘラレタ上、滿場一致ヲ以テ通過シタ案デアリマス、依テ提案ノ理由ハ書面ニ讓ッテ之ヲ述べマセヌ、唯此衆議院ノ末席ヨリ貴族院諸公ニ向ッテ御願スルノデアリマス、民衆ノ利害ヲ代表スル衆議院ガ、滿場一致ヲ以テ通過シタル案ヲ貴族院ニ於テハ審査中途ニ之ヲ議決スルコトガ出來ナカッタト云フコトハ、甚ダ遺憾千萬デアリマス、登記ノ爲ニ民間ノ者ガ迷惑ヲスルコトハ少ナカラヌノデアリマスカラ、本年ハ貴族院ニ於テモ深く此登記ニ於ケル弊害ニ就テ御注意ヲ願ッテ、本案ノ成立スルコトニ御盡力アラムコトヲ願ヒタイノデアリマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ同月二十六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

一五 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第八條第一號中「年齡滿二十五年以上ノ者」ヲ「年齡滿二十年以上ノ者」ニ改ム

同條第三號中「選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租十圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅十圓以上若ハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓ヲ納メ仍引續キ納ムル者」ヲ「選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上直接國稅五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者」ニ改ム
同條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 府縣立師範學校中學校若ハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校又ハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ヲ卒業セル者

第十條中「年齡滿三十年以上ノ者」ヲ「年齡滿二十五年以上ノ者」ニ改ム

第十八條第四項中「及納稅地」ヲ「納稅地及學歷」ニ改ム

第十九條ノ二 選舉人第八條第四項ニ該當スルトキハ選舉人名簿調製ノ期日滿一箇年前ニ其ノ證據ヲ具ヘテ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期日迄ニ届出ヲ爲ササルトキハ選舉權ヲ有セス

二年十二月二十六日關直彦君外七名提出、三年一月二十四日第一讀會ヲ開キ提出者(相島勘次郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ此所ニ說明ヲ致シマスル選舉法中改正法律案ハ、選舉權ノ擴張ヲ主トスルモノデアリマシテ、昨年提出ノモノト大同小異デアリマス、併ナガラ昨年ハ吾々國民黨自身ノ研究カラシテ、國民ニ選舉權ヲ廣ク與フル必要ヲ認メテ提出シタノデアリマシタガ、本年ハ國民多數ノ要求ヲ代表シテ提出シタノデアリマス、即チ選舉權ヲ要望スル聲ト云フモノハ、新聞ニ雜誌ニ所謂野ニ充チテ居ルノデアリマス、中ニモ中等階級、所謂僅ノ相違デ選舉權ヲ得ルコトノ出來ナイ、階級ハ、非常ニ此選舉權ヲ要望シテ居ルノデアリマス、決シテ吾々國會議員ガ言フノデハナイ、國民ガ今日ハ此擴張ヲ要望シテ居ルノデアリマス、而シテ本案ノ眼目ハ何デアルカト云フト、是ハ議案ニモ示シテアリマス通り、現行法ノ選舉資格ノ二十五歲トアルノヲ二十歲トシ、被選資格三十歲ヲ二十五歲ニ引下ゲル、所謂年齡ヲ若クスルト云フコトガ一ノ理由デアリマス、又直接國稅十圓トアルノヲ五圓ニ改メ、ソレカラ府郡立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校云々、所謂智識階級ニ選舉權ヲ與ヘルト云フコトガ第三ノ理由トナツテ居リマス、ソコデ主眼トスルトコロハ右ノ三點デアリマスガ、何故ニ年齡ヲ引下ゲルノデアルカト云フトコロノ疑問ニ對シマシテハ、吾々ガ各國ノ例ヲ見マスノニ、成程憲政ヲ初メテ布イタ場合ニ於テハ、二十五歲デアルトカ、或ハ三十歲デアルトカ云フヤウナ中老ノ年輩カラシテ選舉權ヲ授ケタヤウニ承知シテ居リマス、ケレドモ憲政ニ慣ル、ニ從ツテ、憲法政治ニ練熟スルニ從ツテ、追々年齡ヲ引下ゲマシテ、丁年以上トスルト云フコトハ各國ノ經驗シタルトコロデゴザイマシテ、今日ハ諸君モ御存ジノ通り、英國ト云ヒ或ハ佛蘭西ト云ヒ、伊太利亞米利加等ニ於テハ二十一歲カラシテ選舉權ヲ得ラレルシ、瑞西或ハ匈牙利ト云フヤウナ所デハ、現ニ二十歲カラシテ選舉權ヲ與ヘテ居リマス、私ハ大日本帝國ノ臣民ト云フモノハ、決シテ歐羅巴各國ノ人ニハヤレルコトデアッテモ、日本ノ國民ニハヤレナイト云フコトハ認メルコトハ出來マセヌ、況ヤ丁年ノ者ハ所謂民法上ニ於テモ、刑法上ニ於テモ、總テノ責任ニ任ズル年デアリマスカラ、私共ハ其二十歲ヨリシテ選舉權ヲ與ヘルト云フ主義ヲ取ルノデアリマス、ソレカラ十圓ヲ五圓ニスレバドウカト云フト、直接國稅十圓納メル者モ、五圓納メル者モ、所謂中等民衆ノ階級ト

シテ少シモ相違ハナイノデアリマス、五圓納メル人デモ十圓納メル人デモ、階級カラ言ヘバ同ジ暮シデス、ソレ故ニ私共ハ其ノ不公平ヲ除クガ爲ニ之ヲ引下ゲテ五圓トシタノデアリマス、ソレカラ智識階級ト云フ所謂中學校以上ノ學校ヲ卒業シタル者ニ、選舉權ヲ授ケルト云フ例ガ各國ニアリマスカト言ヘバ、ソレハ無イカモ知レマセヌ、乍併伊太利ヤ何カニ於テハ、小學校ノ二年以上ノ學科ヲ卒業シタル者ニハ云々ト云フ法律ガアッタノデアリマス、乍併伊太利邊デハソレヲモ撤廢シテ本當ノ普通選舉ニナツテ居リマスケレドモ、吾々ハ漸進主義ヲ主張スル者デアリマスカラシテ、此處ニ中學校云々ノ條項ヲ加ヘテ置クノデアリマス、之ヲ要スルニ時勢ニ鑑ミ民論ニ從ヒ、國民多數ノ要求ヲ代表致シマシテ、適當ノ改正ヲ爲スノデアリマスカラシテ、宜シク諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス、尙昨年ノ案ニハ六年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ宣告ヲ受ケ、其確定シタルトキヨリ其執行ヲ終リ、又ハ其執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄ノ者、及其執行ノ終リタルトキヨリ五年ヲ經過セザル者ニハ選舉權ヲ授ケナイト云フ條項ガアッタノデゴザイマスケレドモ、是ハ政友會ノ横田君ヨリシテ、左様ナル規定ヲ設クルト云フコトハ、選舉權ノ擴張デハナクシテ、寧ロ選舉權ヲ縮少スルモノデハナイカト云フ親切ナル御注意ガアリマシタカラシテ、本年ハ之ヲ取去ツタヤウナ譯デアッテ、所謂吾々ハ決シテ是ハ黨派ノ問題デハナイ、本統ニ公平ニ誠意ヲ以テ研究スベキモノデアルト云フコトヲ信ズルガ故ニ、政友會ノ横田君ノ議論ヲ採用シマシテ、サウシテ本年ハ之ヲ取去ツタノデゴザイマス昨年ノ議會ニ於テ横田君ノ申サレタルコトヲ採用ト云フ言葉ガ惡ルケレバ……私ハ選舉法ノ問題ハ黨派ノ問題デモ何デモナイ、吾々ハ何處マデモ本統ニ研究シテ、ドウシテモ改正ヲシナケレバナラヌ問題デアルト思ヒマスカラ嗚ハ避ケルノデアリマス、然ルニ私共ノ出シマシタ修正案ニ對シテ、非常ナル進歩主義ヲ有ッテ居ル人達ハ、何故ニ普通選舉ノ議論ヲ持出サヌカ、今日ハ普通選舉ノ議論ヲ持出シテ少シモ差支ナイデハナイカ、世ノ中ハソレマデ進歩シテ居ルデハナイカト云フ反對論ヲシテ居ル人ガゴザイマス、ソレデアリマスカラ吾々ハ、倍此普通選舉ト云フモノハ主張ハドンナモノデアルカト云フコトヲ研究シテ見マスト、其大體ヲ極ク摘ンデ云ッタナラバ、社會制度ト云フモノハ平等

デナケレバナラヌ、臣民ガ國家上ノ政務ニ參與スルノ權ト云フモノハ、是ハ金持ガ獨占スベキモノデナイト云フノ理由デゴザイマセウ、又第二ノ理由ハ、國家ノ臣民ト云フモノハ一樣ニ法律命令ニ服シテ、兵役ヲ負擔スル義務ヲ有シテ居ルノデアアル、然ルニ租税ノ額ノ多イ少ナイ、若クハ無イトカ有ルトカニ依ッテ、權利ノ資格ニ優劣ヲ附スルト云フコトハ、不道理デアルト云フコトガ、一ノ理由デアアル、又第三ノ理由ハ、金持ガ必シモ賢者デハナイ、伶俐デハナイ、貧乏人必シモ愚ナラズ、金持ニモ賤劣ナル者ガアレバ貧乏人ニモ高潔ナルモノガアルノデアアル、然ルニ財產ノ多イ少イヲ標準トシテ、見識ノ有無トカ或ハ人格ノ高下ヲ極メルト云フコトハ不條理デアルト云フコトガ、是ガ極ク押詰メタトコロノ普通選舉論ノ趣旨デアリマス、而シテ制限法ノ議論ヲ極ク押詰メテ申シマスト、選舉ト云フコトハ國家ノ機關ヲ組織スルト云フ手段デアアル、其故ニ如何ナル程度マデ人民ヲシテ選舉ニ參與セシムルカト云フコトハ、如何ニ國家ノ機關ヲ組織スルト云フコトガ、最モ適當デアルカト云フコトヲ標準トシナケレバナラヌト云フコトデアアル、第二ノ理由ハ、代議政體ノ目的ハ社會ノ状態ヲ議會ニ返射セシムルノデアアル、然ルニ普通選舉ハ單ニ數ノ多キヲ問フテ、實質ノ如何ヲ顧ミザルモノデアアルカラシテ、若シ是ニ從フトキハ貧乏人トカ或ハ賤劣ナル者ガ多數ヲ占メテ、金持ト云フヤウナモノ、或ハ階級ノ上ノ者ガソレニ壓倒サレルデハナイカト云フ、其他ニモイロ／＼アリマセウガ、私共ハ此ニ對シテ議論ハ如何ニモ氷炭相容レザルガ如クニ見エマスケレドモ、煎ジ詰メマスト、社會ノ教育ガ進ミ、國家ノ教育制度ト云フモノガ完全ニナレバ、此議論ノ歸著點ハ一デアアル、吾々ハサウ云フ議論——空論ノ末ニハ拘泥致シマセヌデ、今日提出シタヤウナ漸進主義ヲ採テ進ムツモリデ此案ヲ提出シタノデアリマス、昨年私共ガ此選舉法ノ修正案ヲ所謂擴張案ヲ提出シタル時分ニ、選舉法ノ改正ニ就テ、選舉權ノ擴張ニ就テ、最モ熱心ナルトコロノ東洋經濟雜誌ハ吾々ヲ冷笑シテ、斯様ニ申シテ居リマス、國民黨ト云フモノハ何デアアルカ、直接國稅十圓ノモノヲ五圓トシ、年齢ヲ二十歳ト下ゲタトコロデ、恐クハ有權者ノ數ト云フモノハ今日ノ二倍以上ニハ達スマイ、二倍以上ニ達シテ何レダケノ數ニナルカ、現在日本ニ於テノ有權者ハ百五十萬餘デアアルカラシテ、二倍ニナツタトコロガ

三百萬デアラウ、サウスレバ是ハ佛蘭西、獨逸、亞米利加ノ例ニ從テ計算ヲスルト云フト、日本ニ於テモ人口四人半ニ付テ一人ノ選舉有權者ガナケレバナラヌノニ、倍ニナツテモ十五人半ニ對シテ僅ニ一人ノ有權者ガアルコトニシカナラヌノデハナイカト云フテ、非常ニ笑ツタノデアリマスケレドモ、私共ハ左様ナル進歩シタル主義ハ、ナカノ、多數黨ノ御方ノ贊成ヲ得ルコトガムヅカシイト考ヘタノデアルカラシテ、笑ハレテ居ツテモヤハリ此案ヲ支持シタノデアリマス、ソレカラ又一方ニ於テハ、何ガ故ニ此兵役ノ義務ニ服シタル人ニ選舉權ヲ與ヘナイカト云フ非難ガアリマス、是ニ就テモ吾々ハ相當ニ研究ヲ致シマシタ、併ナガラ其結果トシテ兵役ノ義務ヲ終ヘタカラシテ、其報酬トシテ選舉權ヲ與ヘルト云フ、選舉ハ報酬デハナイカラシテ、此理由ニ基イテ選舉權ヲ授ケルト云フコトハドウモ理窟ニ合ハナイ、ソレカラ又或學者ノ如キハ兵役ニ服シタル者ハ精神的訓練ヲ受ケタモノデアルカラ、其精神的訓練ヲ理由トシテ、選舉權ヲ與ヘタナラバ宜カラウト云フ談論モアリマスケレドモ、併ナガラ兵役ニ就テ精神上ノ訓練ヲ受ケタト云フコト、政治教育ヲ受ケタト云フコト、ハ別デアリマスカラシテ、先ヅ今日ハ斯様ナルコトハ避ケテ置ク方ガ宜カラウト信ジテ、是モ附加ヘマセヌノデゴザイマシタ、ソレカラ或人ハ何故ニ其年齢ヲ同ジニシナイカ、選舉權モ被選資格モ二十歳デ宜イデハナイカ、所謂丁年ナレバソレデ宜イデハナイカ、人ニ依ツテサウ云フコトヲ論ズル者ガアリマスケレドモ、二十歳デ議員ニナルコトハ一向差支ナイデハナイカ、此位ニ日本ハ進歩シテ居ルト云フ議論ガアツテ、是ハ私共大ニ贊成デアリマスケレドモ、併シナガラ舊來ノ例ニ依ツテ其所ニ區別ヲ立テルコトガ甚ダ穩當デアツテ、此案ノ通過ヲ欲スルタメニ此俗論ニ從ツテ、ヤハリ二十五歳ト二十歳トノ二ツニ區別ヲシタノデゴザイマス、以上ハ急進派所謂進歩派ノ非難デアリマスケレドモ、又此守舊頑迷——頑迷ト云フテハ惡ルイカモ知レマセヌガ、主トシテ世ノ進歩ヲ知ラヌトコロノ論者カラ、斯ウ云フ反對ノ議論ガゴザイマス、其一ハ斯ウデアル、選舉權ヲ擴張スルト云フナラバ、教育ノ根本カラ改正ヲシナケレバナラヌ、今日ノ教育制度ノ下ニ於テ、選舉權ヲ擴張スルト云フ如キハ危險デアルト云フヤウナ説ヲ唱フル學者ガアルノデアリマス、併シナガラ私ハ考ヘル、若シモサウ云フ根

據カラ選舉權ヲ擴張スルト云フナラバ、今日選舉權ヲ與ヘテ居ルコトガ間違デアアル、一般ニ選舉權ヲ取去ラナケレバナラヌト云フ論結ニナルデアリマセウ、而シテ教育ガ惡ルイ、教育ガ惡ルイト能ク人ガ申シマスケレドモ、私共ガ小學校ノ讀本ヲ吟味致シテ見マス、現ニ尋常小學校六年生ノ讀本、修身、歴史ト云フモノハ、日本憲法ノコト、第一議會ニ於ケル天皇陛下ノ御言葉即チ詔勅、夫カラ教育勅語ノ解釋、其他選舉ノコトナド詳シク熱心ニ書イテアツテ、今日ノ小學校ノ教師ノ頭ヲ改善シテ官僚政治ノ空氣ヲ取去ツテ、此教科書ヲ完全ニ教ヘナサイ、又完全ニ教フベキモノデアルト云フ確信ヲ今日ノ小學教員ニ與ヘルナラバ、決シテ此教育ノ根本改革モ何モ要ラナイ、充分ニ政治教育ハ出來ルノデアリマスカラ、私共ハ其非難ニ對シテハ、是ハ世ノ中ヲ知ラザル論者デアルト云フノデアリマス、又或人ハ二十歳ヤ二十五歳ノ青二才ガ議會ニ出テドウスルカ、其事ハ政友會ノ福井三郎君ヨリ前議會ニ於テ大變ニ此青年ノコトニ付テ御心配ノ議論ガゴザイマシテ、夫ハ速記録ニモ殘ツテ居リマス、併シナガラ私共ハ、サウ云フ議論ニ對シテドウモ此人間ト云フモノハ、自分ガ五十二ナルト、五十デナケレバ人間ガ出來上ガラナイヤウニ考ヘテ居ル、サウシテ六十歳ニナルト、六十歳デナケレバ本統ノ人間デナイヤウニ思ツテ、二十歳トカ三十歳トカ云フモノヲ誠ニ若者ノ如ク離ツ子ノ如ク考ヘテ居ル、ケレドモ二十歳ニナル男子ト云フモノハ決シテ斯カルモノデアリマセヌ、如何ナル責任ニモ任ジ得ラレルノデアリマス、夫カラ又役人デアルトカ、或ハ代議士トカ、何デモ其地位ガ上ルト免角自分ノ地位カラ考ヘテ、サウシテ今日ノ國民ハドウデアアルカト云フテ居ルケレドモ、所謂吾々ハ今日ノ國民ノ代表者デアリマス、自分ガ何カ治者タル考ヲ有ツテ、國民ヲ何カ被治者ノヤウニ考ヘルコトハ、是ハ官僚政治ヲ長クヤツテ、若クハ專制政治ヲ長クヤツタ、頭ノ改善ガマダ出來ナイノデアリマシテ、左様ナル議論ハ取ルニ足ラヌト私ハ思ヒマス、私ハ今日政治改善ノ意味カラシテ言ヘバ、今日ノ青年者ニ向ツテ非常ナル信頼ヲ拂ツテ居ルノデアリマス、又或人ハ是ハ憲法附屬ノ法デアアルカラシテ、容易ニ改善スベキモノデナイト云フ議論モアリマス、併シナガラ憲法附屬ノ法デアツテモ憲法ノ如ク彈力ガアツテ、サウシテ憲法ノ如ク運用ノ妙ノアル法律デアレバ、夫ハ無論改正スベキモノデハナイ、

色々運カスベキモノデアリマセケレドモ、選舉法ノ如キハ實際ニ當嵌マレバ宜シイノデアルカラ、實際ニ當嵌ラナイ所ガアレバ毎年改正シテモ少シモ差支ナイノデアリマス、左様ナル法律論ニ囚ハレ、法律的守舊論ニ囚ハレテ改正ヲ否ムガ如キハ、國民ニ忠實ナル論者ト云ハレナイカト考ヘテ居リマス、又或人ハ取締法ヲ早クシタナラバ、宜イヂヤナイカ、先ヅ以テ選舉法ハ取締法ガ一番大事デアルト申シマスケレドモ、私共ハ取締法ヨリモ先ヅ以テ選舉權ヲ擴張シテ、國民多數ニ選舉權ヲ與ヘルノガ第一デアッテ、下層中等ノ下マデモ選舉權ヲ與ヘテ、ソレデ愈、弊害ガ生ジタナラバ其時始メテ取締法ヲ制定スルト云フコトガ順序デアル、ソレハ選舉權ノ擴張ヲセズシテ、取締ヲ先ヅ嚴ニスルト云フコトハ、是ハ何レカト云ヘバ國民ヲ侮辱スルモノデハナカラウケレドモ、國民ヲ重ンズル趣意デナイト思ヒマスカラシテ、私共ハ取締法ト云フモノハ棄テ置キマシテ、此擴張案ヲ提出シタノデアリマス、要スルニ色々説イテ參リマスレバ、際限モナイコトデアリマスガ、私共ハ今日ノ時勢ノ要求トシテモ亦大正三年ノ國民ノ要求トシテモ、今日マデノ選舉權デハドウモ満足シナイ、ドウシテモ今提出シタル區域ダケニハ擴張メテ貫ハナケレバナラヌト云フ考カラシテ、此案ヲ提出シタノデアリマス、ドウゾ私ノ此演説ヲスル中ニハ、或ハ熱心ノ餘リチヨット攻撃的ニ言ッタヤウナコトガアツタカモ知レマセヌ、併ナガラ先キモ私が申ス通り、此問題ハ黨派ノ問題デモ何デモナイト思ヒマスカラ、公平ナル見地ヲ以ッテ、本統ニ少シヅ、デモ選舉權ヲ擴張シテ往クト云フコトノ御取計ヒヲ滿場ノ諸君ニ於テ爲サレンコトヲ、切ニ希望スルノデアリマス

質疑應答ノ後議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月二十六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

一六 紛争仲裁法案

紛争仲裁法

第一章 仲裁役職務

第一條 民事上ノ紛争ヲ調和スル爲各市町村ニ仲裁役ヲ置ク但シ市町村ノ小ナルモノハ他ノ市町村ト合シテ一人ノ仲裁役ヲ置キ大ナルモノハ數箇ノ仲裁區劃ニ分ツコトヲ得

市制第六條ノ市ノ區ニ關シテハ區毎ニ之ヲ置ク

仲裁役ノ職務執行ノ場所ハ市町村又ハ區ノ役場ニ之ヲ置ク但シ事件ノ性質カ役場ニ於テ其ノ職務ノ執行ヲ許ササルトキ又ハ關係人疾病其ノ他正當ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 仲裁役ハ名譽職トス

左ニ記載スル者ハ仲裁役タルコトヲ得ス

- 一 滿四十歳ニ達セサル者
- 二 執務スヘキ仲裁區域内ニ住居セサル者
- 三 市町村ニ於テ公民權ヲ有セス又ハ公民權停止中ノ者
- 四 懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

官吏並市町村區ノ吏員カ仲裁役ト爲ル場合ハ所屬官公署ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 仲裁役ハ市町村會又ハ市制第六條ノ市ノ區ニ關シテハ區會ニ於テ之ヲ選舉ス其ノ任期ハ三年トス但シ後任者ノ就職迄ハ從來ノ仲裁役其ノ職ヲ行フモノトス

第四條 仲裁役ニ選舉セラレタル者ハ司法大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 仲裁役就職シタルトキハ其ノ住所地ノ地方裁判所長ノ面前ニ於テ其ノ職務ノ執行前誠實熱心ニ仲裁役タル義務ヲ履行スル旨ノ誓ヲ宣フヘシ

第六條 仲裁役ニ對スル監督權ハ左ノ者ニ屬ス

一 仲裁役ノ總員ニ付テハ司法大臣

二 控訴院管内居住ノ仲裁役ニ付テハ控訴院長

三 地方裁判所管内ノ仲裁役ニ付テハ地方裁判所長

仲裁役カ職務執行上失當ノ行爲アリタルトキハ監督官之ヲ責問スルノ權ヲ有ス

仲裁役ノ職務ノ執行又ハ其ノ遲滯ニ對スル抗告ハ管轄地方裁判所ニ之ヲ申立ツヘキモノトス
抗告ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第七條 仲裁役ハ左ノ事由アルトキニ限り就職ヲ拒絕シ又ハ任期滿了前辭職ヲ爲スコトヲ得

一 年齢六十年以上ノ者

二 四年以上名譽職タリシトキ

三 疾病ニ罹リ其ノ任務ニ堪ヘサルトキ

四 職業ノ爲長時間又ハ屢住所ヲ離レサルヲ得サル者

五 官吏公吏ノ爲其ノ任務ヲ執ルコトヲ得サル者

六 其ノ他正當ノ事由アル者

就職拒絕ノ當否ハ仲裁役ノ選舉權ヲ有スル市町村會又ハ區會ニ於テ之ヲ決定シ辭職ノ當否ハ地方裁判所長終局ノ裁決ヲ爲ス

第八條 仲裁役ノ在職ヲ許スヘカラサル事由ノ發生シタルトキ其ノ他重大ノ事由アルトキハ其ノ職ヲ免セラルヘキモノトス

免職ノ決定ハ仲裁役ノ住所ヲ管轄スル控訴院第一民事部ニ於テ本人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ爲ス

若本人呼出ニ應セサルトキハ闕席ノ儘直ニ決定スルコトヲ得

第九條 第七條第一項各號ノ一ニ該當セスシテ仲裁役其ノ就職ヲ拒絕シ又ハ規定ノ在職期間中職務ヲ拒ムトキハ一年以上四年以下其ノ市町村ノ公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間内其ノ者ノ負擔スヘキ市町村税ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得
此ノ宣告ハ仲裁役ノ住所ヲ管轄スル地方裁判所ノ第一刑事部ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ヲ行

第十條 仲裁役ニ一名ノ代理者ヲ附屬セシム代理者ニハ第二條乃至第九條ノ規定ヲ準用ス
仲裁役並其ノ代理者共ニ執務ニ妨ケアルトキハ地方裁判所長ハ直近ノ仲裁役又ハ其ノ代理者
ヲシテ一時其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十一條 市町村ト市町村トノ間ニ於ケル紛争又ハ調和ニ困難ナル紛争ニ付テハ當該仲裁役ノ
申立ニ依リ監督官ハ府縣知事、郡長、市町村長、區長、警察署長、産業其ノ他ノ團體ノ首長、學校
長、教員、神官、僧侶其ノ他信用德望アル者ニ仲裁役ノ職務ノ輔佐ヲ囑託スルコトヲ得

第二章 民事上ノ紛争ニ關スル仲裁手續

第十二條 仲裁手續ハ財産權、親族、相續ニ關スル紛争ニシテ法律上調和ヲ爲スヲ得ヘキ事柄ニ
付之ヲ行フ

仲裁役ハ當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ求メアルトキ又ハ裁判上仲裁ニ附スル決定アルトキハ仲
裁ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

仲裁役ハ當事者ニ對シ事件ノ解決ヲ強ユルコトヲ得ス

第十三條 事件ノ管轄ハ申立人ノ相手方ノ住所ノ仲裁役ニ屬ス

當事者ハ明示又ハ默示ノ合意ヲ以テスルトキハ當然管轄權ナキ他ノ仲裁役ニ事件ヲ管轄セシ

第十四條 仲裁役ノ除斥ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十五條 仲裁役ハ左ノ場合ニ於テハ職務ノ執行ヲ拒絶スル權利ヲ有ス
一 當事者カ其ノ主張事實ヲ證明シ得サルトキ
二 當事者ノ行爲能力又ハ處分能力ニ付又ハ法定代理ノ權限ニ付疑ノ虞アルトキ

第十六條 仲裁役ハ左ノ場合ニ於テハ職務ノ執行ヲ拒絶スルコトヲ得
一 單ニ當事者ノ合意ニ依リ管轄ヲ生シタルトキ
二 紛争事件カ甚困難ニシテ調和ノ見込ナシト思料シタルトキ

第十七條 當事者ハ委任代理人ヲ用フルコトヲ得サルモノトス但シ市町村其ノ他法人ハ其ノ職
員ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

第十八條 當事者ハ辯護士又ハ親族ヲ輔佐人ト爲スコトヲ得
第十九條 仲裁手續ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ仲裁役ニ之ヲ爲スヘシ
若書面ニ依ラス口頭ヲ以テ之ヲ爲ストキハ調書ニ筆記セシムルコトヲ得
申立ニハ當事者ノ氏名、年齢、身分、職業、住所並紛争事件ノ表示及申立人ノ署名捺印ヲ要ス

第二十條 仲裁事件ノ申立アリタルトキハ仲裁役ハ即時申立人ニ對シ仲裁ノ期日並場所ヲ指示

シ請書ヲ徴スヘシ但シ申立人正當ノ事由ナクシテ指定期日ニ出頭セサルトキハ處罰セラルヘシ

又被申立人ニ對シテハ仲裁ノ期日並場所及正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ處罰ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタル呼出狀ヲ執達吏又ハ書留郵便配達人ヲ以テ送達スルコトヲ要ス

第二十一條 當事者ノ一方カ指定ノ期日ニ仲裁役ノ面前ニ出頭スルコトヲ欲セサルカ又ハ出頭スルコト能ハサルトキハ遅クモ期日ノ前日迄ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ仲裁役ニ届出ツルコトヲ要ス此ノ届出ナカリシトキハ仲裁役ハ期日ニ出頭セサル當事者ニ五十錢以上二十圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

過怠金ヲ課スル旨ノ通告ニ對シテハ地方裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第二十二條 仲裁役ノ面前ニ於ケル當事者ノ陳述ハ口頭ヲ以テ爲スヘシ

仲裁役ノ審問ハ之ヲ公開セス

第一次ニ於テ終結セス又ハ仲裁役ニ於テ必要アリト認メタルトキハ更ニ續行ノ期日ヲ定メ即時ニ當事者雙方ニ指示スルコトヲ要ス

此ノ期日ニ出頭セサル當事者ハ第二十一條ニ依リ過怠金ヲ課セラルヘシ

第二十三條 仲裁役ハ任意ニ出頭シタル證人並鑑定人ヲ當事者ノ同意ヲ得テ審問スルコトヲ得

第二十四條 事件調和シタルトキハ調書ニ依リ之ヲ明確ニスルコトヲ要ス

其ノ調書ハ日本語ヲ以テ之ヲ作成スヘキモノトス

調書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

- 一 仲裁ノ場所日時
- 二 出頭シタル當事者、法定代理人、輔佐人ノ氏名並其ノ權限ヲ證明シタル文書ノ表示
- 三 紛争ノ目的物又ハ事柄
- 四 仲裁成立ノ顛末

若仲裁成立セサルトキハ其ノ要領ヲ記載スヘシ

第二十五條 調書ハ之ヲ當事者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシムルコトヲ要ス

調書ニハ此ノ手續ヲ終リタルコト並當事者ノ承認ヲ經タルコトヲ附記スルコトヲ要ス

第二十六條 調書ノ末尾ニハ當事者、法定代理人、輔佐人並仲裁役署名捺印スルコトヲ要ス若署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十七條 調書ニハ時ノ順次ヲ以テ之ニ事件番號ヲ附スルコトヲ要ス

調書ハ一週間内ニ仲裁役ノ住所ヲ管轄スル地方裁判所ニ交付スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者又ハ其ノ承繼人ハ其ノ調書ノ謄本又ハ正本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 正本ハ調書ノ謄本ニ正本ナル旨ヲ附記シタルモノトス
正本ノ附記ニハ正本作成ノ場所並年月日時ヲ記載シ正本ノ交付ヲ受クル當事者ヲ表示シ仲裁
役之ニ署名シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第三十條 正本ハ調書ノ原本ヲ保管スル仲裁役之ヲ交付ス

仲裁役ハ正本交付前交付ノ日時及受領者ノ何人ナルカヲ調書ノ原本ニ附記スルコトヲ要ス
調書カ地方裁判所ノ保管ニ屬スルトキハ其ノ裁判所ノ書記ニ於テ正本又ハ謄本ヲ交付スルモ
ノトス

第三十一條 仲裁役ノ面前ニ於テ成立シタル仲裁事件ハ裁判上ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニハ公正證書ニ基ク強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十二條 裁判所ハ訴訟進行中ノ事件ト雖職權ヲ以テ本法ニ依リ仲裁ニ附スルノ決定ヲ爲ス
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ訴訟ノ進行ヲ中止ス

第三章 告訴ヲ待テ訴追スヘキ刑事事件ニ關スル手續

第三十三條 告訴ヲ待テ訴追スヘキ刑事事件ニ在リテハ仲裁役ハ仲裁ヲ試ムル權利ヲ有ス

第三十四條 前條ノ仲裁手續ハ第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章 費用

第三十五條 仲裁申立書並仲裁調書ニ付テハ印紙ノ貼用ヲ要セス但シ當然印紙貼用ノ義務アル
法律行為カ仲裁ノ一部タリシトキハ當事者ハ印紙貼用ノ義務ヲ有ス

第三十六條 當事者ハ仲裁事件ノ成立ト同時ニ印紙税法ノ規定ニ從ヒ其ノ調書ノ原本ニ印紙ヲ
貼用スルコトヲ要ス

第三十七條 仲裁申立書ノ作成仲裁調書ノ正本、謄本及證明書作成ノ爲ノ筆記手数料ハ一枚金
二十錢トス其ノ一枚ニ滿タサルモノハ之ヲ一枚ト看做ス

第三十八條 手数料並實費ハ其ノ事件ヲ惹起シタル當事者ノ負擔トス

仲裁カ成立シタルトキ又ハ當事者雙方ニ於テ仲裁ヲ求メタル場合ニ於テハ手續ノ完結迄ニ生
シタル手数料ハ各當事者平等ニ之ヲ負擔スヘキモノトス

必要ナル場合ニ於テハ仲裁役ノ決定ニ基キ手数料並實費ヲ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ當事者
ヨリ取立ツルコトヲ得

第三十九條 仲裁役ノ職務ヲ行フニ要スル經費ハ市町村又ハ區之ヲ負擔ス

數箇ノ町村又ハ區聯合シテ仲裁役ヲ置クトキハ其ノ經費ハ關係町村又ハ區ニ於テ各人口數ニ
應シ之ヲ分擔ス

第四十條 手数料過怠金等ハ經費ヲ負擔スル市町村又ハ區ノ收入トス

第四十一條 本法ノ施行細則並手数料ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一七 罰金、拘留及科料ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對スル
刑ノ執行猶豫ニ關スル法律案

第一條 左ニ記載シタル者罰金ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間其ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ前條ニ依ル刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スコトヲ得

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第三條 左ニ記載シタル者拘留又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ

一年以上二年以下ノ期間其ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ刑ニ處セラレタルコトアルモ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ二年以内刑ニ處セラレタルコトナキ者

第四條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スコトヲ得

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第五條 刑法第二十七條ノ規定ハ本法ニ依リ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル者ニ之ヲ適用ス

一八 過料ニ處セラレタル者ニ對スル裁判ノ執行猶豫ニ關スル法律案

第一條 左ニ記載シタル者過料ニ處セラレタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ六月以上三年以下ノ期間其ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ過料ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ過料ニ處セラレタルコトアルモ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ二年以内ニ更ニ過料ニ處セラレタルコトナキ者

第二條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル執行猶豫ノ言渡ヲ取消スコトヲ得

- 一 猶豫ノ期間内更ニ過料ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ爲シタル他ノ行爲ニ付過料ニ處セラレタルトキ
- 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前過料ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第三條 裁判ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ニ基キ又ハ職權ヲ以テ過料ノ裁判ト同時ニ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第四條 裁判ノ執行猶豫ノ言渡ハ抗告ノ申立ニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ但シ原裁判ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

抗告裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五條 裁判ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ過料ノ裁判ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ過料ノ裁判ヲ受ケタル者又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決

定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ裁判及抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

(一六)三年一月十二日(一七)(一八)同月十三日高木益太郎君提出、同月三十一日三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君ガ御賛成ヲ給ハル以上ハ、長ク述べル必要ハナイノデアリマス、詰リ茲ニ紛争仲裁案ヲ出シマシタノハ示談ノ出來ル民事ノ事柄ハ總テ仲裁手續ニ依ッテ圓滿ノ解決方法ヲ講ズル刑事デモ喧嘩名譽毀損姦通其他告訴ヲ待ッテ論スベキ事件ハ、一切仲裁ニ依ッテ之ヲ解決スル方法ヲ設ケル、其方法ハ町村ノ長老ヲ以テ之ヲナシ、其長老ノ手ニ終ヘナイ場合ノ重大ノ紛争事件ニ付テハ、府縣知事、郡長、市町村長、區長、警察署長、商業會議所會頭、産業其他ノ團體ノ首長、學校長、教員、神官、僧侶、其他其町村ニ於テ信用德望アル者ヲシテ仲裁役ノ職務ノ手傳ヲ爲サシムルノデアリマス、今日ノ時節ハ先ニ國民ノ規律ヲ正シウスベキ職務ヲ有ッテ居ル裁判官ガ、既ニ「ストライキ」ヲヤツテ居ル、又近クハ國民ニ最高等ノ智識ヲ授クベキ所ノ帝國大學ノ教授ガ「ストライキ」ヲヤツテ居ル、一般國民ノ間ニ於テ利害ノ衝突ノ結果、其町村ニ於テ信用德望アルモノヲシテ仲裁人トシ、之ヲ以テ其關係ノ圓滿ヲ圖ルト云フコトハ、時務ノ必要上最モ焦眉ノ急ヲ感ズルノデアリマスカラ、此案ヲ提出シタノデアリマスガ、詳細ナルコトハ提案ノ理由ニ長ク書イテゴザイマス、世界各國ノ中一國タリトモ仲裁制度ノナイ國ハナイ、我國モ明治二十三年マデハアリマシタガ、其後廢止セラレマシタ、ドウカ舊幕時代ノ制度ヲ參酌シテ、成ルベク裁判ヲサセナイデ圓滿ニ事ヲ運ビタイト云フ精神デアリマスカラ、此文章ノ上ニ於テハイロ、御議論ガアリマセウガ、私ノ提案ノ精神ヲ御參酌下スツテ、十分御賛成アラントラ願ヒタイノデアリマス、

ソレカラ第二第三ノ案ハ罰金拘留料ノ言渡ヲ受ケタル者ニ刑ノ執行猶豫ヲ與ヘタイト云フノガ、第二ノ案デアリマス、第二ハ非訟事件ノ場合ニ多ク生ズル過料ニ處セラレタル者ニ對スル、裁判ノ執行猶豫ニ關スル案デアリマス、是ハ昔學者ノ書物ヲ見マスルト云フト、刑ノ執行猶豫ト云フモノハ羅馬法ノ時代ニ於テ、警察犯カラ段々發達ヲシテ來タモノデアリマス、所ガ今日我國ノ新刑法ハ此本ヲ忘レテシマツテ、罰金拘留料ナドニ付テハ、執行猶豫ヲ與ヘナイデ、却テ比較的重イ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ執行猶豫ヲ與ヘテ居ル狀態デアリマス、所ガ申上ゲルマデモナク人ガ往來ヲ歩クノニ左ヲ歩クベキモノヲ右ヲ歩イタカラト言ツテ、直グ是ガ惡人デアルト云フコトハ言ヘナイノデアリマスカラ、世ノ中ニ於テ事件ガ最モ多イ、サウシテ最モ刑ノ輕イモノニ執行猶豫ヲ與ヘナイデ、比較的刑ノ重ク、事件ノ少ナイモノニ執行猶豫ヲ與ヘルト云フコトハ、ドウシテモアルベキモノデハナイノデアリマス、是ハ管ニ此自由刑バカリデナク、輕イ罰金拘留料ニ處セラレタ者デモ、所犯情狀ノ憫諒スベキ者デ十分ニ謝罪ノ意志ヲ表シテ再犯ノ憂ナキ者ニ向ツテハ當該官吏ガ見込ヲ以テ執行猶豫ヲ與ヘル制度ヲ設ケルト云フコトハ最モ必要ト考ヘマス現ニ吾々ノ實驗ニ據ルト、檢事ノ方デハ罰金刑ヲ課シテ貫ヒタイト云フ要求ガアリマスルト、全クノ無資力者デ納メルト、出來ナイ者ハ勞役場留置ト云フコトニナリマス、丁度拘留ト同ジヤウナ處分ニナリマスカラ、ドウカ辯護人ニ罰金ハ勘辨シテ懲役ノ方ニヤツテ貫ツテ、執行猶豫ニシテ貫ヒタイト云フ請求ヲナス奇觀ヲ呈スルコトハ、裁判所ノ現狀ニ於テ日々生ジテ居ルトコロノ事實デアリマス、ドウシテモ權衡上罰金拘留料ニ執行猶豫ヲ與ヘルコトハ必要ト信ジテ此案ヲ提出シタ次第デアリマス、ソレカラ過料ノ方ニ付キマシテハ、是ハ刑法處分デスラモ既ニ執行猶豫ノ處分ガアツタ以上ハ、小供ノ出產届ヲ一日遅レル、ソレモ忙シイタメニ區役所ニ届出ガ遅レタトカ、或ハ會社ノ登記ニチヨイトシタ手落ガアツタカラト云ツテ、其届出又ハ登記ヲナスベキ義務者ヲ必ズ此過料ニ處スルコトハ、如何ニモ氣ノ毒ト考ヘマスカラ、屢々ヤル者ニ對シテハ仕方ガアリマセスケレドモ、裁判官ノ見込ヲ以テソレ等ノ人ニ向ツテハ決定ヲ猶豫スル、斯ウニ云フ制度ヲ設ケルト云フコトモ必要デアラウト考ヘマス、今日ハ日本ノ刑法ハ斯ウニ云フ

ヤウナ工合ニ不完全デアリマスガ、英吉利ノ「ポリスコート」ノ如キ裁判スラ、猶豫ヲスル制度ガ出來テ居ル、殊ニ小供ノ犯罪杯ニ付テハ刑ヲ言渡サナイデ、イツマデモ裁判ヲ猶豫スル位ニナツテ居リマスカラ、ドウゾ本案ニ付テモ十分御審議ノ上、條文ノ惡イ所ハ修正ヲ給ハツテ此提案ノ精神ガ貫徹スルヤウニ御盡力アランコトヲ願ヒタイノデアリマス

次テ孰レモ議長指名ノ委員(但シ一七、一八ノ兩案ハ同一委員)ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二日孰レモ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シ(一七)、(一八)ノ兩案ハ孰レモ之ヲ否決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ翌七日及十日ノ兩日延會又ハ委員長ノ請求ニ依リ會議ヲ延期シ終ニ院議ニ上ラス又(一六)案ハ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

一九 郡制廢止法律案

郡制ハ之ヲ廢止ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
法律ノ規定中郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ特ニ規定ヲ要スルモノ其ノ他郡制ノ廢止ニ伴ヒ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從來郡及郡組合ニ屬スル財産、營造物、事業及權利義務ノ處分ハ關係アル府縣參事會ノ意見ヲ徵

三年二月二十一日菊池武徳君提出、同月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明ヲリ郡制廢止法律案ヲ茲ニ提出致シマシタノハ、二ツノ意義ヲ含ンデ居リマス、其一ツハ自治制度ノ中ニ今日尙郡制ヲ存置スルノ必要ハナイ、之ヲ府縣及町村ニ分ツテ何等ノ差支ナイ今日デアリマスカラ、之ヲ廢止シタイ、之ヲ廢止スルト云フト自カラ此自治制度ノ改善トナリ、延テハ行政整理ノ一端トモナルノデアリマスカラシテ、殆ド今日ニ於テハ議論ノナイコトデアリマス、議論ノナイコトハ直ニ實行スルヤウニ片付ケテ往キタイト云フノ理由デアリマス、モウ一ツハ少シク此憲政ノ上ニ關係ヲ持チマスルノデ、御承知ノ通り此郡制廢止案ト云フモノハ、明治四十年二月ノ議會ニ於キマシテ、西園寺内閣ノ原内務大臣ヨリシテ、政府案トシテ提出セラレタルトコロノモノデアリマス、其時ニハ提出者ハ殆ド進退ヲ賭スルノ勢ヲ以テ是ガ通過ヲ圖ッタノデアリマシタガ、幸ニ衆議院ハ通過致シマシタケレドモ、貴族院ニ於テ是ガ否決セラレタノデアリマス、其否決セラレタル案ヲ私ガ今日此處ヘ提出シタ、政府ノ提出スルノヲ待タズシテ差越ヘテ本員ガ茲ニ提出シタノデアリマス、是ハ既ニ衆議院ヲ一旦經過シタモノデアリマスカラシテ、政府案ニ非ズシテ寧ロ私ハ之ヲ衆議院案ナリト信ジテ、踏襲シテ之ヲ出シタノデアリマス、何故ニ政府ガ衆議院ヲ曾テ明治四十年ニ通過シタニ拘ラズ、貴族院ノ否決ニ一度逢フタカラト云ツテ爾來屢、之ヲ提出スルノ機會ガアッタニ拘ラズ、今日マデ指ヲ屈スレバ既ニ八年ヲ經過シテ居ル、其八年ノ間ニ曾テ之ヲ再ビ提出スルト云フコトヲ思ヒ立タナカ、タノハドウ云フ譯デアるか、今日カラ見マスルト云フト殆ド忘レラレタ如ク、高閣ニ東ネラレテ居ルヤウナ形デアリマス、抑、私共ノ常ニ感ジテ居リマスルコトハ、一旦主張シタルコトハ、特別ノ理由ガナケレバ、飽ク迄モ是ガ貫徹ニ努メナケレバナラヌト云フコトヲ考ヘテ居ル、是ハ即チ政黨政治家ノ主張ノ上ニ立ツト云

フコトニ付テハ、最モ大切ナルコトデアリマス、政黨政治家ノ本職ハ則チ此點ニ在ル、主張ヲ重ンズルト云フコトニ在ルノデアリマス、又官僚政治家ノ方ニナルト云フト、總テ事情ニ因ハレ情實ニ制セラレテ、何事モ總テ彼モ一時是モ一時ト云フヤウニ、俗ニ謂フ御都合主義ヲ以テスルト云フガ、是ガ官僚政治家ノ特色デアリマス、ソレデ固ヨリ此政友會——立憲政友會ハ自カラ模範的政黨タルコトヲ期シテ居ルノデアリマス、又吾々モ此範模的政黨タランコトヲ期シテ居ルノデアリマスカラ、必ズヤ其主張ヲ重ンズルニ相違ナイト云フコトヲ吾々ハ信ジテ居リマス、又之ヲ曾テ提出セラレタルトコロノ原内務大臣モ、立派ナ政黨政治家デアッテ決シテ今日ニ至ッテ官僚政治家ニ成リ變ッタモノト吾々ハ信ジナイノデアリマス、然ルニ是ガ一度ビ貴族院ノ否決ニ逢フヤ、殆ド忘レラレタル如ク、八年ノ間今日マデ空シク經過シタノハドウシタ理由デアるか、此間豫算委員ニ於テドナタカ此事ニ付テ質問シタトキノ其ノ答辯ヲ見マスルト云フト、ソレハ兩院ヲ通過シナケレバナラヌノデアルカラシテ、其邊ノコトモ考ヘナケレバナラヌト云フヤウナ答辯デアッタヤウニ傳聞シテ居リマス、多分是ヨリ外ニ理由ハナカラウト思フノデアリマス、郡制度廢止ノ必要ハ既ニ認メテ居ルケレドモ、何分ニモ貴族院ヲ通過スルニ困難デアル、貴族院ガ通過シナカッタナラバ、假令衆議院ヲ通過シテモ是ハ無駄骨折リデ、徒勞ニ屬スルト云フコトノ爲メニ、貴族院ノ否決ヲ憚ッテ出サナカッタモノト私ハ思フノデアリマス、是ガ私ガ本案ヲ殊更ニ差越ヘテ提出シタトコロノ理由デアルノデアアル、貴族院ヲ憚ッテ衆議院ガ自ラ輕ンズルヤウナ形ニナルト云フコトハ、最モ吾々ノ厭フ所デアリマス、現ニ御承知ノ通り英國ノ如キハ、一年既ニ同一ノ議案ガ三度ビ下院ヲ通過スル場合ニハ、上院ニ於テ必ズ之ニ服従シナケレバナラヌト云フコトヲ法律ヲ以テ制定セラレテ居ルノデアアル、即チ下院ノ權威ト云フモノハ、國民ノ聲ナルモノハ、此ノ如ク尊重セラレテ三度ビ通過スレバ法律的ニ上院ガ之ニ贊成シナケレバナラヌト云フコトヲ強イラレテ居ルノデアアル、故ニ此憲政ノ進行國民ノ聲ト云フモノハ、大ナル威嚴ヲ持ッテ居ルノデアリマス、今貴族院デ否決サレハシナイカト云フコトヲ憚ッテ、常ニ遠慮勝ニ此提出ヲ憚ッテ居ルト云フヤウナコトデアルナラバ、吾々ハ何ノ時ニカ此衆議院ノ權威ト云フモノ

ヲ發揚スルコトハ斷ジテ出來ナイ、薄志弱行デアル、自ラ悔ッテ他ヨリモ亦悔ラレルノデアリマ
スカラシテ、ドウシテモ是ハヤラナケレバナラス、貴族院ニ對シテ吾々ハ寧ロ反省ヲ求ムルト云
フコトノ態度ニ於テ、之ヲ可決シタイト云フノガ吾々ノ目的デアアル、獨リ此案ノミナラズ、實ハ
吾々ハ立憲政友會ニ向ッテ惡聲ヲ放ツノ意味デモ何デアリマセヌケレドモ、此主張ト云フコト
ヲ餘リ淡泊ニ拘泥シナイ、即チ執著心ノ淡泊過ギルト云フコトハ吾々ノ最モ遺憾トスルトコロ
デアリマス、現ニ昨年ノ政變ノ際ノ如キモ、吾々ハ此點ヲ……最モ立憲政友會ノ爲ニ惜ンデ居ル
ノデアリマスカラ此明白ナル問題ヲ以テ、政友會ガ如何ニ其自己ノ主張ヲ尊重スルカト云フコ
トノ態度ヲ拜見シタイノデアリマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選
ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ三月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長菅原傳君ハ委員會ノ經過及結果ヲ報告シ次テ討論ニ移リ山
田珠一君、荒川五郎君ハ本案ニ反對、中村啓次郎君、松城兵作君ハ贊成ノ演說ヲ爲セリ

菅原傳君ノ報告

郡制廢止法律案委員會ノ經過ト結果ヲ御報告致シマス、郡制廢止法律案ハ諸君ノ御承知ノ通り
會テ數年前本議場ニ於テ十分ニ論議セラレ、院議ハ可決ト相成ッテ居リマス、今回付託セラレ
タル吾々特別委員會ニ於キマシテモ、多數ヲ以テ可決致シマシタ、申スマデモナク本案ハ郡役所
ノ廢止或ハ郡長ノ廢止ト云フ案デナイノデアリマス、單ニ郡制ヲ廢止スルト云フノ案デアリマ
ス、其主ナル理由ハ事務ヲ簡便ニスルト經費ヲ節約スルト此二點デアリマス、現在ノ地方制度
ハ府縣制郡制市町村制ノ三階級ニナッテ居リマスルガ、其ノ中間ニアル所ノ郡制ヲ廢スルコトハ

事務ヲ簡便ニスル所以デアアル、元來郡ナルモノハ其沿革上ヨリ見マシテモ、自治制ノ要素ニ乏シ
ク從ッテ此制度ヲ設ケラレマシタ以來、效果ノ見ルベキモノモ多カラザル譯デアリマス、故ニ此
郡ニ於テ今日マデ經營シタトコロノ事業ヲ、或ハ町村ニ移シ或ハ之ヲ縣ニ於テ施設スルニ於テ
差支ガナイノデアアル、却テ其宜シキヲ得ルノデアルト云フノハ、事務ヲ簡便ニスルト云フガ理
由ノ要旨デアリマス、又經營ノ點カラ申シマシテモ自ラ郡制ヲ廢シマスレバ、郡會ナリ郡參事會
ノ廢セラル、次第デアリマスルカラ、相當經費ヲ節約スルトガ出來ルノデアアル、又郡制アルガ
故ニ人情ノ常トシテ、或ハ營造物ヲ起スナリ又ハ新設又ハ新事業ヲ企ツルト云フガ如キ、從ッテ
經費ノ増加ヲ來スト云フコトモ自然陥ルトコロノ人情ノ弱點トモ云フベキ弊デアアルノデアリマ
ス、經費ヲ増加スルト云フコトハ、是等ノ如キモノハ郡制ヲ廢シマスレバ自然ニ此弊ヲ矯正シテ經
費ヲ節約スルコトヲ得ルト云フノデアリマス、而シテ此郡制ヲ廢シタ後ノ後始末ハドウデアラ
ウカト云フコトニ付テ、多少心配ノ點モアルノデアリマスルガ、此廢止施行ノ期日等ニ付テハ勅
令ヲ以テ定メルノデアリマスルガ、郡ノ此財產ナリ營造物或ハ權利義務等ニ付キマシテハ、其關
係アルトコロノ府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ、內務大臣ニ於テ處分致シマシタナラバ、別ニ困難モ
無カラウト云フ、是等ガ此原案贊成ノ大ナル趣意デアリマス、之ニ反對スルトコロノ意見ハ、縱
令郡制ヲ廢シタトコロガ之ニ代ルニ幾多ノ組合ヲ起サンケレバナラス、多數ノ組合ヲ設クル以
上ハヤハリ事務ノ簡捷ト云フ譯ニハイカヌノデアアル、却ッテ複雜ニナリハセヌカ、從ッテ經費ノ點
ニ於テモ節約スルト云フコトハ、實際上如何アラシカ、郡役所マデモ廢スルト云フコトニナラバ
免モ角、實際上事務ノ點カラ見テモ、此郡制ヲ廢スルト云フコトハ反對デアルト云フ意味デアリ
マス、法律案ニ對シ政府ハ同意ヲ表シタ次第デアリマス、以上御報告致シマス

山田珠一君ノ演說

私ハ委員長ノ報告、即チ郡制廢止案ニ反對致シマシテ郡制ヲ廢スルノ必要ハナイト云フ意見ヲ
持ツ者デゴザイマス此郡制ヲ廢止スルト云フコトハ地方制度ノ一部ヲ改廢シテ地方自治權ノ一

部ヲ取去ルノデゴザイマス、其關係スルトコロハ頗ル重大ナルモノデアリマス、併ナガラ今日ニ於テ制度ノ改廢ヲ論ズレバ單リ此郡制ノミニ止マラズシテ、尙他ニ幾多ノ攻究スベキ問題ガアルコトヲ見ルデゴザイマス、例ヘバ郡制ニ密接ノ關係アルトコロノ郡役所ノ廢止、若クハ府縣廢合ノ問題、其他制度ノ改廢ニ付テ攻究スベキ問題ハ數ヘ來ッテ見マスレバ、殆ド枚舉ニ違アラヌモノガアルト考ヘルノデアリマス、デ是等ノ各種ノ問題ヲ擧ゲテ一ツノ大ナル場ノ中ニ入レテ、之ヲ改鑄スル——之ヲ鑄造シ變ヘルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、此郡制廢止ノ問題モ或ハ攻究スベキ價值ガアルカモ知レヌト考ヘル、併ナガラ制度ノ根本ニ向ッテ改廢ヲ議スルコトハナクシテ、單ニ此郡制ノミニ付テ改廢ヲ議スルト云フコトハ畢竟スルニ姑息ノ事タルコトヲ免レヌノデゴザイマス、最モ此郡制ヲ廢止スルガタメニ、唯今委員長ヨリ報告サレタ如ク經費節減ノ目的ヲ達スルコトガ出來マスルナラバ、或ハ攻究スルノ價值ガアルカモ知レヌノデゴザイマス、併ナガラ吾々ノ見ルトコロデハ此經費節減ノ點ヨリ觀察スルニ、郡制廢止ナルモノハ殆ド一顧ノ價值ナキモノト信ズルノデアリマス、若シ郡制ヲ廢止シ併セテ郡役所ヲ廢スルト云フコトニナリマスレバ、經費ヲ節減スルコト頗ル多額ニ上ルデアラウト考ヘル、併ナガラ今日ニ於テ郡役所ヲ廢止スルト云フコトハ、恐ラク出來難イコトデアラウト考ヘルノデゴザイマス、又此唯今議セラル、トコロノ郡制廢止案ナルモノニハ、郡役所廢止ナルモノハ含マレテ居ラヌト云フコトハ委員長ヨリモ報告サレタトコロデアアルノデゴザイマス、又政府ニ於テ郡制ノ廢止ニハ同意スルケレドモ郡役所ノ廢止ニハ同意セヌト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアリマス、ツマリ爰ニ議セラレテ居ルトコロノ此郡制廢止案ナルモノニハ、郡役所廢止ト云フモノハ聯關シテ居ラヌト云フトコロカラ見マスレバ、郡制ヲ廢止スルコトニ於テ多額ノ經費ヲ節減スルコトハ出來ヌノデゴザイマス、政府委員ハ此問題ニ付テ吾々委員ノ質問ニ答ヘテ曰ク、郡制ヲ廢止スルノ結果トシテ會議費若クハ事務費ノ上ニ於テ五十五萬圓位ノ節減ニナルカモ知レヌ、併シ郡制ヲ廢止シテ現ニ郡ノ經營事業ヲ縣若クハ町村組合ニ移スナラバ、是ガタメニ會議ヲ要シ、若クハ事務

費ヲ要スルト云フコトガアルカラシテ、此五十五萬圓ナルモノモ總テ節減スルト云フコトハ出來ヌデアラウト云フコトヲ答辯シテ居ルノデアリマス、尙後ノ委員會ニ至テ政府委員ハ會議費事務費ノ外ニ於テ、郡制ヲ廢止スルナラバ郡ニ與ヘテアルトコロノ補助費或ハ財産費豫備費、其他ノモノヲ併セテ多少ノ節減ニナルデアラウ、云フコトヲ辯ゼラレテ居リマスケレドモ、煎ジ詰メテ見レバツマリ此郡制廢止ノタメニ節減スルトコロノモノハ僅々ノ額ニ過ギヌノデゴザイマス、若シ是ガタメニ町村組合デモ澤山起スル云フヤウナコトニナッタナラバ、或ハ現在郡制ノタメニ使ッテ居ルトコロノ金ハ、殆ド皆町村組合ノ費用ニ使ハナケレバナラヌト云フヤウナコトニモナルカモ知レヌ、此點ヨリ考ヘマスレバ、郡制廢止ノタメニ經費節減ナルモノハ殆ド期シ得ラヌト云フ結果ニナルダラウト吾々ハ信ズルノデアリマス、デ更ニ郡制廢止ノ論據トスルトコロハ唯今委員長ヨリ報告サレタ如ク、是ガタメニ事務ノ簡便ヲ見ルデアラウト云フコトヲ言ハレタノデゴザイマス、更ニ廢止論者ハ其内容ノミ説明サレテ曰ク、郡制ナルモノハ元ト郡ニ於テ自治ノ要素ガナイ、從ッテ此郡制施行以來事業ノ見ルベキモノナク其發達ノ著シイモノガナイ、詰リ郡制ナルモノハ不要ナモノデアルト云フコトヲ言ハレテ居ッタノデゴザイマス政府ヨリ委員會ニ對シテ二十二議會ニ政府案トシテ提出サレタ時分ニ、其廢止ノ理由ヲ説明サレマシタ概要ナルモノヲ、莖蕪板トシテ吾々委員ニ廻サレタノデゴザイマスルガ、其廢止案ノ概要中ニモヤハリ同様ノ趣旨ヲ現ハシテ居ルノデゴザイマス、即チ郡制施行以來ニ郡事業ハ見ルベキモノガ少ナイ、其發達ハ著シクナイ、斯ウ云フコトヲ言ハレテ居ルノデゴザイマスガ、果シテ此郡制施行以來郡ノ事業ハ見ルベキモノナキヤ否ヤ、郡制ハ果シテ發達ノ著シキモノガナキヤ否ヤ、是ハ攻究スベキ問題デアラウト思フノデゴザイマス、詰ル所ガ此郡制ノ發達ノ著シキモノガ無キヤ否ヤ事業ノ見ルベキ無キヤ否ヤ之ヲ論ズルニハ單ニ之ヲ机上ノ空論ニ於テ決スルコトハ出來ヌノデアリマス、直ニ郡現在ニ於テ使用シテ居ル所ノ經費、又郡ノ現在ニ於テ經營シテ居ル所ノ事業其モノノ盛衰如何ヲ見テ、是ハ決スベキ問題デアラウト考ヘルノデアリマス、然ル所ガ政府ヨリ委員會ニ示サレタ所ノ郡費ノ統計表、郡ノ經營シテ居ル所ノ事業ノ一覽表ナルモノニ付

テ見ルニ吾々ハ此郡制施行以來頗ル郡ノ自治ノ發達ノ見ルベキモノアリ、郡ノ事業ノ歳ヲ逐ウテ進歩シツ、アルコトヲ見ルコトガ出來タノデゴザイマス、即チ委員長モ先刻述べマシタ通りニ此郡制ノ問題ハ二十二議會ニ於テ盛シニ審議討論サレタノデゴザイマス、此際ニ於テ政府ハ郡制ノ施行以來事業ノ見ルベキモノナキヤ云ヒ、發達ノ著シカラヌコトヲ頻ニ主張サレタノデアリマスガ、之ニ對シテ郡制ノ廢スベカラザルコトヲ主張シタル論者ハ、事實ニ付テ郡費ノ歳ヲ逐フテ増加シタコト、郡ノ事業ノ段々ト進歩シテ居ル、即チ學校ナリ勸業ナリ其他ノ事業ガ著シク歳ヲ逐フテ進デ居ルト云フコトヲ現ニ二十二議會、即チ四十年ノ頃ニ於テ既ニ主張シテ居タノデゴザイマス、爾來七年、此間ニ於テ郡費ハ如何ナル有様ヲ以テ増加シタ、事業ハ如何ニナッテ居ルカ之ヲ此處ニ擧ゲマスレバ恐ラク此問題ニ付テ深ク注意ヲ拂ハヌ所ノ諸君ハ、其進歩ノ著大ナルコトニ驚カレルデアラウ、即チ明治四十年ニ於テ郡費ノ總額ハ六百四萬八千ト云フ額デアッタノガ、今日ハ一千十六萬圓ニ増加シテ居ルデアリマス、更ニ此教育土木勸業等ニ付テ其増加ノ模様ヲ茲ニ擧ゲレバ、土木ニ於テ明治三十八年度ニ五十二萬圓、三十九年度ニ九十六萬圓デアタモノガ、大正二年度ニ至リマシテ二百三十萬圓、即チ三十九年度ニ比較スレバ幾ド三倍ニ増加シテ居ルノデゴザイマス更ニ教育費ニ付テ之ヲ見ルニ、明治三十八年度ニハ四十九萬圓、三十九年度ニハ六十六萬圓デアッタノガ、大正二年度ニ至ッテ二百九十萬圓、明治三十九年度ニ比較スレバ幾ド四倍以上ノ増加ニナッテ居ルデアアル、勸業又然リ三十八年度ニハ五十萬圓デアアル、三十九年度ニハ六十九萬圓デアッタノガ、大正二年度ニ至ッテ百二十七萬圓即チ幾ド四倍ニナッテ居ルデアアル、斯様ニ郡費ガ此七年間ニ於テ三倍若クハ四倍ノ増加ヲ見ルニ至ッテ居ルデアアル、此無味乾燥ナル數字ニ付テ之ヲ見マシテモ、如何ニ郡ノ事業ガ年ヲ逐フテ進歩シ、又此郡制ナルモノガ郡ノ自治制ナルモノガ如何ニ發達シテ行キツ、アルカト云フコトハ證明サル、コトガ出來ヤウト思フノデアアル、此事實アルニ拘ラズ郡ノ事業ノ見ルベキモノガナイ、郡制ノ發達ハ著シカラヌト云フコトハ吾々ハ是レハ全ク事實ヲ誣ユルノデアルト信ズルノデアリマス、斯ク郡ノ事業ハ年ヲ逐フテ著シク進歩シテ居ル、政府ハ郡制ハ施行以來見ルベキ事業ガナイ著シク發達

シテ居ラヌト云フ、又此郡制廢止論者ハ郡制ハ無用ノモノデアルト云フコトヲ唱ヘツ、アル間ニ、郡ノ事業ナルモノハ斯ク年ヲ逐フテ進んで來タ、郡制ハ斯ノ如ク段々ト自治ノ實蹟ヲ擧ゲ來ッテ居ルノデゴザイマスガ、是ハ決シテ偶然ニアラスシテ全ク斯ク發達スベキ理由ノアッテ然ルモノデアルト信ズルノデゴザイマス、茲ニ地方ノ事業ハ年ヲ逐フテ進歩スルノデゴザイマス、又社會ノ進運ハ年々各種ノ事業ノ經營ヲ促シテ居ルノデゴザイマス、此場合ニ於テ地方ノ事業中縣ニ於テ——府縣ニ於テ或ハ之ヲ經營スベキモノガアリ、又町村ニ於テ之ヲ經營スベキモノ少ナカラヌノデゴザイマスガ、併ナガラ事業ノ性質又ハ其事業ノ關係デ、廣キ狹キノ關係ヨリ致シテ之ヲ府縣ニモ屬スルコトガ出來ズ、又町村ニ於テ之ヲ經營スルコトモ出來ヌト云フ事業ガ續々現レ來ルノデゴザイマス、此時ニ於テ即チ縣ト町村ノ間ニ介立シテ居ルトコロノ此郡自治體ナルモノガアッテ、而シテ能ク此中間ノ即チ縣ニ屬セズ町村ニ於テモ堪ヘ得ナイトコロノ仕事ヲ經營シテ往クト云フ、斯ウ云フ風ニ微妙ナ働アルガタメニ、郡制ハ斯ク年ヲ逐フテ發達スル所以デアルノデゴザイマス、尤モ郡ノ事業中ニ於テモ初メハ頻リニ經營サレテモ遠カラズシテ段々ト失敗ニ歸シ、廢止ニ歸シタコトモ少ナカラヌノデゴザイマスガ、例ヘバ教育ノ事業ノ中ニ致シマシテモ中學校ノ如キ、是等ハ之ヲ郡自治體ニ於テ經營スルノハ餘リニ大キニ過ギルト云フ仕事デアルノデゴザイマス、是ハ全ク縣ニ於テ經營スベキコトデアッテ、之ヲ郡ニ於テ經營スルト云フコトハ元來郡ノ力ニ於テ堪ユベキトコロノ性質デナイノデゴザイマス、是ガタメニ此政府ヨリ廻サレタトコロノ表ニ付テ之ヲ見マシテモ中學校ノ如キハ最初ハ明治四十年ノ頃ハ七箇ノ學校ガアッタノガ、大正二年度ニ至ッテハ、三校ニ減ジテ居ルノデゴザイマス、又農事試驗場ニシマシテモ、明治三十九年度ニハ六十六ノ農事試驗場ガアッタノガ、大正二年度ニ至ッテハ二十一二減ジタ、此農事試驗場ノ如キニシテモ、性質トシテ又事業ノ規模トシテ郡ノ力ニ於テ頗ル堪ヘヌノデアアル、之ヲ縣ニ於テ經營スルト云フコトガ至當ノ仕事デアアル、是ガタメニ農事試驗場ノ如キハ一時ハ各地ニ於テ郡自治體デ争ウテ經營シテ居ッタケレドモ、段々ニ廢止ニ歸シテ居ル、斯ク郡ノ自治體ノ事業ニ適セザルモノハ漸次廢止ニ歸シテ居ルケレドモ、他ノ高等女學校ノ

如キ、若クハ乙種農學校ト云フヤウナ縣ニ於テ經營スルニハ餘リニ小サイ、併ナガラ町村ニ於テ之ヲ經營スルニハ力足ラヌト云フヤウナル、ツマリ郡自治體ニ最モ適當ナル仕事ハ、年ヲ逐フテ發達シテ居ルト云フコトハ、現ニ此政府ヨリ週サレタコロノ此表ニ於テ之ヲ見ルコトガ出來ルノデゴザイマス、斯ク郡制ノ年ヲ逐フテ發達シ、事業ヲ著シク進ンデ來テ居ルト云フコトハ、此實際ノ事實ニ徴シテ之ヲ知ルコトガ出來ルノデアリマス、之ヲ事業ノ見ルベキモノガ無イ、郡制ガ發達シナイト云フコトハ、全ク事實ヲ誣ユル議論デアルト吾々ハ信ズルノデアアル、若シ之ヲ以前ノ議會、即チ明治四十年頃ニ於テ主張サレタナラバ、或ハ人ヲシテ耳ヲ傾ケシメタカモ知レヌケレドモ、爾來七年ノ治績ニ於テ之ヲ見レバ、此論據ナルモノハ全ク事實ニ於テ顛覆サレタモノデアルト吾々ハ信ズルノデアアル尙廢止論者ハ委員會ニ於テ此郡制アルガタメニ郡費ノ分捕ガ行ハレ、是ガタメニ不要ナル事業ガ濫リニ創立サル、虞ガアル、故ニ此點カラシテ郡制ハ廢止スベシト云フ方モアッタノデゴザイマス、勿論或ル地方ニ於テハ、斯様ナル事モ絶對ニ無イデハナカラウト考ヘルノデゴザイマス、或ル地方ニハ、斯ル弊害ヲ郡自治體ノ上ニ見ルコトガアッタラウト思フ、併ナガラ總テノ自治體ニ於テ斯ル弊ヲ見ルト云フコトハ吾々ハ信ズルコトガ出來ヌノデアアル、事業ノ分捕、經費ノ分捕ト云フコトハ獨リ郡制ニ於テ之ヲ見ルノミナラズ、縣會ノ上ニ於テ之ヲ見ルノデアアル、各地ニ於テ此縣會デ事業ヲ分捕ヲシ、互ニ地方々々デ競争ヲシテ仕事ヲ起スト云フヤウナコトハ、往々地方ノ府縣會ニ於テ見ル弊害デアアルノデゴザイマス、ケレドモ是ガタメニ何人ト雖モ府縣會ヲ廢止スベシト云フコトヲ唱ヘル者ハ無イノデゴザイマス、ソレハ即チ事業ノ濫興、經費ノ分捕ト云フ弊ハ多少アルニシテモ、ヨリ以上ノ此府縣制ノ實行ガ地方自治ニ於テ最モ必要デアアルノデゴザイマス、是ト同様ニ郡制ニ於テ經費ノ分捕ト云フコトガ或ル地方ニ於テハ絶對ニ無イト云フコトヲ保證スルコトハ出來ナイ、ケレドモ併ナガラソレ以上ニ於テ此郡制ナルモノガ利益ノアル以上ハ、之ヲ廢スルト云フコトハ全ク根據ナキ議論デアルト吾々ハ信ズルノデゴザイマス、之ヲ廢止スルニ於テ其善後ノ處分——其善後ノ處分ニ付テモ吾々ハ頗ル困難デアルト云フコトヲ信ズルノデアアル、廢止論者ハ此郡制ヲ廢止スレバ郡ノ事業

ノ一部ハ之ヲ府縣ニ移シ、一部ハ之ヲ町村ニ移シ、一部ハ町村組合ノ經營ニ任ズレバ其廢止ノ善後處分ニ於テ決シテ不都合ヲ見ヌト云フコトヲ言ハレルノデアアル、ケレドモ今日府縣ノ經濟ノ事情ヨリスレバ、一部ニ於テ郡自治體ノ經營シテ居ル仕事ヲ引受ケテ、之ヲ經營シヤウト云フコトハ頗ル困難デアルト云フコトヲ吾々ハ信ズルノデアアル、又之ヲ町村ニ委任シテ町村ノ經營ニシヤウトシタナラバ、是亦町村ノ力ニ於テ決シテ堪ユルコトデナイト云フコトヲ吾々ハ信ズルノデアアル、已ムヲ得ズンバ之ヲ町村組合ニ委スルト云フコトニナラナケレバナルマイガ、是モ亦町村組合ニ委シマシタコロガ、五六箇ノ町村ニシテ一町ノ經營ノ仕事ヲ引受ケルト云フコトハ力ノ及ブトコロデハナイノデアリマス、若シ多數ノ町村ヲ聯合シテ組合ヲ拵ヘルト云フコトニナッタナラバ、郡制ヲ存置シテ郡自治體ニ於テ之ヲ經營スルト少シモ變タコトガナイコトニナル、加之町村組合ナルモノヲ組織シテ、聯合會デ之ヲ經營シテ行クト云フコトニナラバ、一ノ事業ニ一ノ組合ヲ拵ヘナケレバナラヌ、教育ノ事業ニハ教育ノ組合ヲ作り、土木ノ事ニハ土木ノ組合ヲ作ッテ、ツマリ澤山ノ組合ヲ作ッテ行カナケレバナラヌ、故ニ益々此地方ノ自治ノ仕事ガ複雑ニナリ、事務ガ一層面倒ニナルト云フコトニナルデアッテ、決シテ是ガタメニ委員長ノ言ハレルガ如ク、事務ガ簡便ニナルト云フコトヲ見ルコトガ出來ナイト云フコトヲ吾々ハ信ズルノデアアル、此點カラシテモ此郡制廢止ナルモノ、結果ト云フモノハ、決シテ廢止論者ノ豫期スルガ如キ效果ヲ奏スルコトハ、出來ヌト云フコトヲ吾々ハ信ジテ疑ナイ所デゴザイマス、又此郡制廢止ナルモノハ、單ニ此郡ノ區域ヲ廢スルト云フノデナクシテ、自治ヲ廢スルノデアアル、法律ニ於テ與ヘラレタルトコロノ此自治權ヲ一部減却シヤウト云フ議論ニナルノデアアル、今府縣ニハ府縣知事ナル者ガアッテ、之ニ府縣會ガ對峙シテ居ル町村ニ於テハ町村長ノ外ニ町村會ナルモノガアッテ之ニ對峙シテ居ル獨リ此郡制ニ於テ郡會郡參事會ヲ廢メテ、而シテ郡長ノミニ行政ノ仕事ヲサセルト云フコトハ、他ノ自治體ニ對スル所ノ權衡ヲ失フバカリガナクシテ、實際ニ於テ地方ノ自治制ノ上ニ損スルコトガ頗ル多イコトヲ吾々ハ信ズルノデアアル、若シ郡制ヲ廢スルト云フコトニナッタナラバ、地方官ハ必ズ之ヲ喜ブニ相違ナイ、郡ノ仕事ヲスル上ニ於

テ郡會並ニ郡參事會ヲ廢セラレルコトニナッタラバ、郡長ハ頗ル仕事ガシヨクナリ、地方官モ頗ルラクニナツテ來ルコトハアラウト思フ、併ナガラ是レガタメニ所謂自治ナルモノ、即チ此民治ノ政治ナルモノハ全ク滅却サル、ト云フ結果ニナラナケレバナラヌノデアアル、此點カラ考ヘマシテモ、此郡制廢止ト云フモノハ決シテ輕易ナル問題デハナクシテ、頗ル自治權ノ上ニ於テ重大ナ關係ヲ持ツモノデアアルト吾々ハ信ズルノデアアル、何レノ點カラ觀察シテモ此郡制ヲ廢止スルト云フコトハ、決シテ當ヲ得タルモノデナク、之ヲ經費ノ點カラ考ヘテモ、又事務ノ簡便ニナルト云フ點カラ考ヘテモ、何レノ點ヨリ觀察シテモ、決シテ廢止論者ノ言フガ如キ結果ヲ見ルコトハ出來ナイノデアアルト吾々ハ信ズルノデアアル、此點ニ於テ吾々ハ此郡制廢止案ニ反對ヲ表スルモノデアリマス

中村啓次郎君ノ演說

此法律案ハ二十二議會ニ於キマシテハ全院一致ヲ以テ通過シタル案デアリマス二十三議會ニ於キマシテハ當時ノ大同俱樂部ガ前年ノ院議ニ反復シテ反對ヲ試ミタノデアアル、併ナガラ二十三議會ニ於キマシテモヤハリ内容ニ於テハ——形ニ於テハ大同俱樂部及ビ當時ノ進歩黨ノ一部ノ人ノ反對ガアリマシタガ、其内容ニ於テハヤハリ全院一致ヲ以テ通過致シタト同ジ事ニナツテ居ルノデアアル、何トナレバ二十三ノ議會ニ於キマシテ反對致シタルモノハ、大同俱樂部ヨリハ荒川五郎君ガ代表者トナツテ演說ヲ致シテ居ルノデアアル、進歩黨ヨリハ當時ノ進歩黨——進歩黨ヨリハ大津淳一郎君ガ出テ代表演說ヲ致シテ居ルノデアアル、荒川君ノ當時ノ代表演說ノ趣意ハ、尙研究ノ餘地アリ延期ノ意味ヲ以テ否決致シタイト云フニ過ギナイノデアアル、故ニ其内容ニ於テハ更ニ郡制廢止ニ反對致シタノデアアル、又大津淳一郎君ハ日本ノヤウナ狭イ國ニ於テハ四ツノ地方自治ノ階級ハ餘リ多過ギルノデアアル、最モ簡明ニ致スト云フ上ニ於テ郡制ハ如何ニシテモ廢止シナケレバナラヌ併ナガラ郡役所ヲ廢止スルノダト思フテ居ッタ、所ガ郡役所ヲ廢止シナイト云フコトハ貴族院ニ於テ當局ガ言明シタルノ故ヲ以テ、吾々ハ贊成シ能ハナイ

ト云フ斯様ナ苦シイコトヲ主張シタノデアアル、故ニ其内容ニ於テハ二十二議會ニ於テモ全院一致ヲ以テ貴族院ニ進ミ、二十三議會ニ於テモ亦全院一致ヲ以テ通過シタル議案デアアル、何ガ故ニ院議ヲ重ンズベキ議員ガ此二十二議會ニ於ケル主張ニ反對シタカト云フト、當時贊成演說ヲ致シマシタ花井君及尾崎君ノ言明セラレマシタ通り、不幸ニシテ此立派ナル郡制廢止ノ案ナルモノガ政略ノ犠牲ニ供セラレタト云フ嫌ガアルノデアリマス、此政略ノ犠牲ニ供セラレタト云フ嫌アルノ故ヲ以テ、聰明ナル大同俱樂部ノ諸君ハ反對シ、聰明ナル進歩黨ノ諸君モ亦反對致シタノデアアル、今日ハ更ニ此案ニ政略ノ加味ガ無イノデアリマス、提出致シタル人ハ當時ヨリ熱心ニ主張セラレタ所ノ菊池武徳君、或ハ花井君或ハ尾崎君ニ於テ提出セラレタノデアリマシテ、何等ノ政治上ノ政略上ノ黨略上ノ意味ハ此案ニハ附イテナイノデアアル、シテ見レバ二十二議會ニ提出セラレタルト同一ノ状態ニ在ルガ故ニ、實ハ全院一致ヲ以テ三度通過スルコトナリト私共ハ信ジテ居ッタノデアアル、然ルニ唯今不幸ニシテ平素極メテ寡黙ヲ以テ持セラレテ、吾々ハ其人格ニ向ッテ極メテ敬意ヲ表シテ居ル山田珠一君ニ依リマシテ娓娓々數萬言ノ御話ヲ承ッタノデアリマス、是ハ御尤ノ話デアリマシテ、當時大同俱樂部ノ荒川五郎君ハ研究ノ意味ヲ以テ延期ノ意味ヲ以テ否決セラレタイト云フコトハ主張致シタノデアリマスカラ、此六年間研究ニ研究ヲ積マレマシタル所ヲ御報告ニナツタノデアリマスカラ、其御長イコトハ勿論吾々之ヲ忍ンデ沈黙シテ拜承致シテ居ッタ次第デアリマス、併ナガラ其内容ハ誠ニ當時荒川君ガ述ベラレマシタル所ト大同小異デアリマシテ、彼ノ位デアッタレバ何モ六年ノ間御研究ナサラナクテモ、其當時明ニ反對シ得ラレタコトナリト信ジテ實ハ御氣ノ毒ニ思フノデアリマス、問題ハ斯様ナ枝葉ナ問題デナイ、此問題ハ一體此郡ト云フ自治ノ團體ハ郡制アツテ始メテ生ズルノデアアツテ、日本帝國ニ於テハ歴史上地理上郡ナルモノハ在在スルケレドモ、郡ナル自治ト云フモノハ更ニ存在シテ居ナイノデアアル、總テ要求スベキ所ノ情勢ト云フモノガ存在シテ茲ニ法律ガ生ズベキ筈デアアル、然ルニ何等ノ要求ナク郡制ト云フヤウナ自治ノ法律ガナケレバ地方自治ト云フモノガ茲ニ起ラナイト云フヤウナ運命ニ遭遇シナイデ、唯翻譯制度ヲ以テ郡制ナルモノガ茲ニ生ジタノデアアル、此根本問

題、即チ此郡制ト云フモノヲ施カナケレバ地方ノ自治ノ監督ガ出來ナイカ、或ハ地方自治ノ助長ヲ計ルコトガ出來ナイカ、此根本問題ヲ研究スレバ何デモナイノデアアル、郡制アルノ故ヲ以テ却テ地方町村ノ自治ノ發達ヲ阻礙致シテ居ル、又郡制アルノ故ヲ以テ却テ地方町村ノ行政ノ監督ヲ不十分ニ致シテ居ル、古ノ如ク根本ニ於テ此郡制アラザレバ地方自治ガ立ッテ行カナイカドウカト云ヘバ、却テ郡制アルノ故ヲ以テ茲ニ地方ノ自治ト云フモノガ迷惑ヲ致シテ居ル、唯今山田珠一君ノ縷々數萬言ヲ重ネラレタ此郡制ノ生ミシ所ノ畸形兒、即チ郡制ガアッテ始メテ茲ニ唯今山田珠一君ガ此郡制ヲ必要ナリトスルヤウナ事業ガ起ッテ來タノデアアッテ、郡制ガ無カッタナラバ斯様ナ複雑ナル事業ガ起ッテ來ナイノデアアル、郡制微ツセバ斯ノ如キ複雑ナル自治ノ機關ト云フモノハ生ジナイノデ、町村之ヲ行ヒ得ベク府縣之ヲ行ヒ得ベキデアアル、即チ山田君ノ謂フ所ノ複雑ナル事業ガ茲ニアルト云フノハ全ク郡制ノ罪デアアル、郡制ヲ撤廢シタナラバ此事業ヲ何ウスルカト云フヤウナコト、ソレ自身ガ即チ此郡制ノ一日モ速ニ廢止セザルベカラザル所以デアアル、何トナレバ郡制ヲ廢スル事一日之ヲ緩フスレバスルホド山田君ノ憂ヲ増スノデアアル、郡制ナル畸形兒ガ益、生長シテ之ヲ除斥スルニ益、困難ヲ感ズルニ至ルノデアアル、以上述べ來タルトコロニ依リマシテ、此郡制ト云フモノハ元ト日本ノ歷史上地理上ニ於テ郡ト云フモノ、存在ハアルガ、郡ナル自治ト云フモノハ未ダ曾テ無イノデアアル、郡ナル自治ノ實體アラザルニ拘ラズ、郡ナル自治ノ制度ヲ設ケタト云フモノハ全ク翻譯政治デアアッテ、畸形兒デアッタノデアアル、郡自身ガ生ンダ子デナクシテ全ク是ハ郡制ナルモノガ連子ヲ連レテ來タトコロノ法律デアアルノデアアル、故ニ此郡制ヲ廢止スレバ自ら其畸形兒ノ連子ハ去ッテ、却ッテ真正ナル自治ノ發達ヲ庶幾スルコトガ出來ルノデアアリマス、是ガ即チ委員長ノ報告ヲ贊成スル所以ノ要旨デアアリマス

荒川五郎君ノ演説

同志ノ山田君ヨリ詳細ニ論議セラレマシタカラ、私ノ登壇スル必要ハナイト思ッテ居ッタノデアアリマス、然ルニ今中村君ニ依ッテ呼出サレテ已ムナク茲ニ登壇シナケレバナラヌコトニナッタノ

デアリマスカラ、簡單ニ唯今ノ中村君ノ御説ニ付テ意見ノ違フトコロヲ申上ゲマス、中村君ハ前ニ研究ヲ要スルト云フタカラ六年研究シタノデアアラウ、其研究ノ結果ガ聽キタイト云フ、勿論研究シテ居ル、所ガ私共ハ却テ政府又政友會ガ研究セラレテ成程郡制ハ廢シテハ行カナイト云フコトヲ自覺セラレタモノト信ジテ居ッタ、何故デアアルカ、郡制ガアッテハ無用ナ費用ガ多ク要ル、郡制ガアッテハ事務ガ煩雜面倒デアアル、種々ナル事ノ上ニ害ガアルカラ之ヲ廢シタイト云フコトヲ六年前ノ當時ノ原内務大臣ヨリ當時ノ政友諸君ヨリ熱心論議セラレタノデアアル、果シテ國家ノ損ニナリ人民ノ迷惑ニナルモノナラバ、何故ニ今日マデ御提案ニナラヌノデアアルカ、私共ハ爾來今日マデ幾年ノ間年々ノ議會ニ政府ヨリ政友會ノ政府ヨリ、又政友會ノ諸君ヨリ此郡制廢止案ガ出ナイノヲ見テ、一ツハ奇怪ニ感ズルト同時ニ一ハ成程郡制ハドウモ止メラレヌモノダト云フコトヲ自覺セラレタモノト思ッテ居ッタトコロへ突如トシテ今年菊池武徳君ヨリ此問題ガ現ハレテ來タ、所ガ若シ政府並ニ政友會ガ郡制廢止ノ必要ヲ依然トシテ維持セラル、ナラバ、政友會ヨリ又政府ヨリ直ニ此案ガ出ルダラウト思フタ、何故カト云フノニ多クノ問題デ他ノ黨派カラ一ノ議案ガ出ルト同ジ種類ノ問題ヲ直グ政友會ハ御出シニナル、政友會而已デハナイ、政府モサウセラル、既ニ先ニ私立學校ノ用地免租ノ法律案ガ出タラ、殆ド同様ナ議案ヲ政府ガ御出シナサル、是ハ一例デ此類ハ澤山アル、サウ云フヤウニ政府ナリ政友會ナリ之ヲ出サウト思ッたらバ何時デモ自分ガ遅レテモ構ハヌ、後トカラデモ出シテ置イテ、サウシテ自分ノ方ヲ先ニ議スルヤウニシテ人ノ案ヲ止メラル、ヤウナコトハ澤山例ガアルノデアアル、デアアルカラ菊池武徳君ガ出サレタ以上ハ政友會ガ今日ニ至ッテ尙此論ヲ維持セラル、ナラバ必ズ出ルダラウト思ヒノ外、一向出ナイ、出ナイノハ未ダ郡制ハ今廢セラレヌト云フコトヲ自覺セラレタノデアアルト思ウ、併シ先ニ既ニ議論シタモノ、問題ガ今又出タ以上ハ已ヲ得ズ是ハ贊成シナケレバナラヌ、端目ニ陥リ、政友會ガ已ムヲ得ズ今日御贊成ニナルト云フコトハ御氣ノ毒ニ思フノデ、郡制ヲ今廢スル能ハザルハ數多ナル事實ニ依ッテ明カナルコトデアアル、此事ハ山田君ガ詳シク述べラレマシタカラ各點ニ於ケル理由ハ略シマスケレドモ、中村君ノ今言ハレタ町村行ヒ得ベク、府縣行ヒ得

ラル、カラソレ郡ガ要ラナイトハ、是ハ獨斷的ノ斷定デアッテ、決シテ理由ヲ爲サズ又事實ニ當ラナイ、唯自分免許ノ議論ト云ハナケレバナラヌ、諸君、前ニ山田君モ言ハレタ通りニ、郡制ヲ廢シタトドウシテ費用ガ減サレルカ、費用ガ減サレヌカ減サレヌカト云フコトハ重要ナル一論據デ、廢止論者ハ郡制ヲ廢シテ費用ヲ減ズルト云フノデアアルガ、果シテ無駄ノ費用ガ減ルヤ否ヤト云フコトハ、是ハ最モ明カニシナケレバナラヌ點デアアル、然ルニ其理由ハ一ツモ舉ッテ居ラヌ、委員會デモ政府ハ會議費ガ五十何萬圓減ル、其他補助費杯ガ減サレルト云フ、ソレハ仕事ヲ止メレバ、其レダケハ減ジラレマセウ學校ヲヤッテ居ル其學校ヲ止メレバ其費用ハ減ジラレマセウ、補助シテ居ル補助ヲ止メレバ、其費用ハ減ゼラレル、ケレドモ今日苟モ地方ニ斯ウ云ウ事業ガ必要デアアル、補助ガ必要デアアル、教育ガ必要デアアルトスレバ、其費用ヲ減ズルコトハ出來ナイ、シテ見レバ減サレルモノハ何デアアルカト云フト、唯會議費ダケデアアル、然ルニ其會議費ナルモノハ實際減ゼラレルカ否ヤ、原案者モ政府モ郡ノ自治ヲ止メタラバ或ル事業ハ之ヲ縣ニ移シ又或ルモノハ之ヲ町村ニ移スト云フ、是レ全ク机上ノ空論デアアル、出來ナイコトデアアル、今日郡デ仕事ヲシテ居ッタモノガ縣ニシタラ宜カラウト云フテモ、之ヲ引受クルコトガ出來ナイ、サウ机上通りニ實際行ハレルモノデハナイ、縣ニモサウ學校ヲ引受ケテ始末出來ルモノデモナシ、又町村ガナカノ之ヲ負フテ行クコトモ出來ナイ、シテ見レバ、多クノ事業ハ、此町村ノ聯合ヲ以テヤラナケレバナラヌ、町村ノ聯合ヲ以テスレバ、必ズ聯合會議員ヲ要スル、管理者ヲ要スル、シテ見レバ直ニ其事業ニ伴フ聯合會議費ト云フモノガ要ル、聯合會ノ管理者ノ費用ガ要ルノデアアル、決シテ此會議費ヲ減ズルト云フコトハ出來ナイ、況ヤ郡制ト云フ一ノ制度ノ下ニ一律ニ行フテ居レバ是ガ郡會々議費一ツデ行キマスケレドモ、若モ地方人民ノ思ヒ、ニ各種ノ事業ヲ思ヒ、ニ聯合サセルト云フコトニナッタナラバ、管ニ土木或ハ教育或ハ勸業ト概別スルノミナラズ、其教育ノ中ニ於テモ或ハ實業學校ヲ建テル、其學校ノ組合ヲヤル、高等女學校ヲ建テル高等女學校ノ組合ヲ要スル、同ジ教育ノ中デモ組合ガ幾ツモ出來ル、同ジ土木ノ中デモ組合ガ幾ツモ出來ル、シテ見レバ此組合費聯合費ト云モノハ澤山ニ要ッテ來ルノデアアル、ナカノ此區會議員郡會ノ會議

ト云フ一ノモノデヤルヤウナコトデハナイノデアアル、却テ澤山ノ組合、澤山ノ組合費ヲ要シ、非常ナル煩雜非常ノ手數費用ヲ増加シテ來ルト云フコトハ明カナル事實デアアル、ノウウノト言フノハ能ク實際ヲ御承知ガナイノデス、既ニ論ヨリ證據今日ハイロノ組合ガ發達シテ來テ、ドウモ郡制ガアリ市町村制ガアッテモ、マダ別ニ組合即チ小郡制ヲ要スルヤウナ世ノ中ニナッテ居リマシテ、先年ノ市町村制改正ニハ此町村ノ組合ト云フモノヲ更ニ認メテ、サウシテ郡制ガアッテモ、其下ニ小サイ小郡制ヲ認メルヤウナ形ニナッテ居ル、ソレカラ殊ニ今回政府カラ出タ府縣制ノ改正案ニハ、府縣ノ聯合ヲ認メテ居ル、縣ダケデハイカズシテ、其上ニ一ツノ大府縣ヲ形ツクナケレバナラヌト云フヤウニナッテ居ル、イロノ地方々々ノ狀況ニ依ッテ種々澤山ノ階段ノ自治ノ必要ガ生ジテ來ツ、アルノデアアリマス、今郡制ガアッテ郡ノ事業ヲシナガラ、尙其下ニ町村ノ聯合ノ必要ガアル位デアリマス、是等ハ地方々々ノ狀況ニ依ッテ大小各、其宜シキニ應ズル譯合デ、決シテ町村ト府縣ガ有ッタナラバソレデ宜シイト云フ譯ニハ實際ガ許サナイ明カナ證據デアリマス、例ヘバ道路ノ如キニシテモ、此郡制ガアルカラ郡道ナドガ漸次發達シテ、サウシテ交通ノ便利ヲ得ルノデアリマスケレドモ、是ガ無クナッテ——若シモ希望ノ町村ニ全ク委シテ聯合スルトセヌヲ自由ニシタナラバ、ナカノ道路ト云フモノハ出來ナイ、山奥ノ地方ハ自分ノ處ノ材木ヤ米麥ヲ出サウトシテモ出ス者ハ道路ノ必要ガアルガ、出シテ行ク所ニ當ル町村ハ自分ニ直接ニ必要ヲ感ジナイカラ組合ヲシナイヤウニナル、サウ云フヤウナコトガ澤山出テ來ルノデアアル、是ガ郡制ガアルカラサウ云フ事ガ一律ノ下ニ行ハレテ、道路モ必要ニ應ジテ出來、其他ノ事業モ發達シテ人民ノ幸福ヲ増スヤウニナッテ居ル、是等ハ今日マデ郡制ガ大地方ノ發達ニ效ヲ成シタル事實デアアル、況ヤ今日ノ總テノ制度ガ例ヘバ教育ノ問題ニシテモ、農學校デ言ッテモ甲種ノ農學校ハ縣事業タルニ恰度適當スル縣ノ仕事デアアル、乙種ノ農學校ハ縣ニシテハ小サイ、町村ニシテハ手ニ憚カル、丁度是ガ郡ニスルニ適當デアアルカラ、郡デ此乙種ノ農學校ヲヤル、其下ノ町村ニ於テハ實業補習學校ヲヤル、斯ウ云フ風ニナッテ其安排ハ旨ク出來テ教育ノ都合モ宜シク行ハレテ居ル、女學校デモサウデアアル、高等女學校ハ之ヲ府縣ニ於テ行ヒ、

實科ノ女學校、即チ簡易女學校ハ之ヲ郡ニ於テ行リ、高等小學校ハ之ヲ町村ニ於テスル、凡ソ是等ノ仕事モ恰度縣、郡、市町村トソレ々、按排宜シキヲ得テ今日ハ漸次發達シテ行キツ、アルノデアル、郡制施行以來時ニ日露ノ大戰役ナドガアツテ、事業ニ打撃ヲ受ケタケレドモ其以來著々ト進ンデ來タ、ソレガ爲ニ地方人民モ一般ニ便利ヲ得テ、是等ノ利益ヲ被ッテ居ルノデアル、是等ハ單ニ其一例ニ付テ申シタノデ、サウ云フヤウニ郡ノ事業ト云フモノハ、實施ニ於テ澤山有ルノデアル、之ヲ事業ガ無イト云フノハ、是ハ甚ダ事實ヲ誣ウル論デアツテ、若シ有過ギテ困ルト云フナラバ、今恆松君ガ言ツタ如ク有リ過ギテ困ルト云フナラバ、一層郡制ヲ存スル必要ガアルカラ、郡制ヲ廢メタナラバ尙困ルデアリマセウ、殊ニ先年來郡制廢止ト云フコトガチラ、出マシタノハ、郡役所廢止ノ前提トシテ是ハ現レタ問題デアル、若シ地方ニ大鉞ヲ加ヘテ郡役所ヲ廢シ、郡長ヲ罷メテ簡易ニヤルコトガ出來ル法ガアレバ、是レ郡制廢止モ一ノ研究スベキ價ノアル問題トナルノデアリマス、郡役所ヲ廢シ郡長ヲ罷メルト云フ議論ノ前提ヨリ起キテ居ル議論ガ、是ガ即チチラホラ出テ來タ問題デアル、然ルニ此前提ノ問題ハ措イテ郡役所ハ必要ガアル、郡長ハ廢サナイ、斯ウシテ置イテサウシテ此郡制ダケ廢シヤウト云フコトハ、此前提ガ既ニ失クナツテ唯空名議論ヲ玆ニ留メルト云フノハ、徒ラニ此枝葉ニ固執スル議論ト言ハナケレバナラヌ、諸君ハ國家ノ爲ニ人民ノ爲ニ大ナル費用ヲ要シテ損ダアルト六年前ニ絶叫シナガラ、爾來人民ノ損ハ何處ヲ吹ク風カ、事務ノ繁雜人民ガ困ルト云フノハ、何ノコトカト何時言ウタヤウニ一向ニ御忘レニナツタ如ク今日マデモ默シテ居ッテ、サウシテ他ノ人カラ問題ガ出レバ已ムヲ得ズ之ニ贊成シナケレバナラナイ、諸君ノ御心中ニ對シテハ困ラレタラウト思フ、若シ此議政ノ府ガ誠心ニ此國家人民ノコトヲ思ヒ、地方人民ノコトヲ考ヘタナラバ、若シ之ガ費用ノ節減ニナツテ、サウシテ他ニハ害ヲ及ボサナイ事務ノ簡捷ニナツテ利益ヲ得ルト云フコトナラバ、諸君ハ萬難ヲ排シテ是マデニ疾クニ御ヤリニナラナケレバナラヌ問題デアルサウデス、僅カニ酒ヲ賣ラスマイト云フ問題デスラ、年々歳々シツコク出シテヤッテ居ラレル——若シ根本君ガ熱心ニ酒害ヲ認ムルナラバ、此年々出サレルノハ感心ダト思フガ、此郡制ハ地方ノ一階級ヲ除カウト云フ日本全國ニ關

スル上ニ費用ノ上ニ於テモ大問題デアル、夫ヲ若シ害アリ損ニナルト云フコトヲ明カニ認メラレル以上ハ、諸君ハ之ヲ決シテ等閑視セラルベキモノデハナイ、若シ夫ハ損デハアルガ出サナイト云ウタナラバ、諸君ノ平常口ニセラル、國民民福ナルモノハ、無意味ニナツテシマフノデアル、要スルニ斯ウシテ諸君ハ内實ニハ此郡制ハ已ムヲ得ナイト覺ラレタト云フコトハ、口ニハ言ハナイケレドモ、事實ガ明カニ證スルノデアル、諸君ハ起立ノ時分ニハ委員長ノ報告ニ立タレドアラウケレドモ、此事實此有様ハ明カニ天下ニ郡制ハ決シテ諸君ガ口デ云フ通りデハナイト云フコトヲ證明スルニ餘アルト信ズルノデアル、枝葉ニ渡ル議論ハ玆ニ論ズルヲ要セズシテ、此大體ノ趣意ニ於テ郡制ハ尙決シテ廢スベカラズ、委員長ノ報告ニ反對スル所以デゴザイマス

松城兵作君ノ演說

郡制廢止ニ付キマシテ、段々御議論ガアリマシタカラ、私ハ頗ル簡單ニ五分間バカリ御靜聽ヲ煩ハシマス、此問題ハ政友會ガ何ゼ出サヌカ、若クハ中正會ガ出シタカラシテ苦シ紛レニ餘儀ナク贊成シタデアラウトカ云フヤウナ、ソナナ不眞面目ナ御互ニ言葉尻ヲ捉ヘルトカ、其仕方ニ於テ非難攻撃シテ快哉ヲ叫ブベキ問題デナイ、唯今荒川君ノ申サレタ如ク實ニ此郡制廢止ト云フコトハ、地方自治ニ關係スル重大問題デアリマスカラ、諸君ト共ニ冷カシハ止メニシテ眞面目ニ一ツ研究シテ見タイト思フ、此問題ハ私ハ要點ヲ簡單ニ申上ゲル冗長ニ申上ゲレバ一時間モ二時間モ申上ゲラレルガ、併シ要點ダケナラバ極ク簡單ニ十分間ダケデ濟ムダラウト思フ、要スルニ郡制ト云フモノハ地方自治ノ一部デアリマス、以上ハ凡ソ自治體即チ圓滿ナル自治體完全ナル自治體ノ發展ヲ計ルニハ、利害關係ノ伴フ所ノ自治體ト云フモノガ、實ニ模範的ノ自治體デア

ル、其自治區ニ於ケル利害關係ガ成ベク同ジデアルト云フコトガ、完キ自治體デアルト考ヘナケレバナラヌ、市町村トシテモ府縣トシテモ自治體ノ本旨ト云フモノハ、成ベク同ジ區劃ニ居ル所ノ自治體ノ人民ガ利害關係ヲ成ベク等シクスルト云フコトハ、是ハ最モ自治體ノ本旨デア

ルニ郡制ト云フモノハ、先刻中村君ガ申サレマシタ如ク、所謂法律ノ上カラ制定サレテ、サウシ

テ已ムヲ得ズ郡制ト云フ自治體ガ生レテ來タ、沿革モ歴史モナイ何等ノ之ニ對スル素因ガナイノデアアル、此モノハ法律ノ制定カラ無理ニ施イタコトデアアルカラ、其自治體ニ於ケル利害關係ト云フモノガ、非常ニ異ッテ居ルト云フコトハ、是ハ明カナル事實デアアル、此郡制ト云フモノガ實施サレテ以來、段々ト郡費ガ多クナッテ來ルノデ、最近七箇年間ノ統計ヲ見マシテモ、六百三十餘萬圓カラ今日ハ一千十六萬圓ト云フ程ニ郡費ガ段々殖エテ來タ、是ハ即チ郡制ノ此自治制度ノ發達デアルト云フコトヲ言ハレタガ、費用ノ増加スルノガ必ラズシモ郡制ノ自治體ノ發達トハ言ヘナイ、此費用ノ増加スルト云フコトハ私ハ最モ憂フベキ事柄ト思フ、此郡ト云フモノハ自治體トハ申シナガラ、郡制施行當時カラ真ノ自治體ヲ成シテ居ラヌト云フコトハ、反對諸君モ御承知ノコト、思フ、凡ソ自治體トアル以上ハ府縣トシテモ町村トシテモ、其自治ニ對スル相當ノ費用ニ對シテハ課稅ヲシナケレバナラヌ、所謂稅ヲ課シテ其自治體ノ費用ヲ作ラナケレバナラヌ、所ガ郡ニハ課稅ノ權利ガナイ、郡制カラ言ッテ郡ハ稅ヲ課スルト云フコトハ出來ナイノデアアル、故ニ町村ニ分賦シテ地租トカ若クハ戶數ヲ標準トシテ町村費デ以テ徵シテ居ル、故ニ其實體ニ於テハ所謂聯合町村組合デアアル、郡長ガ唯之ヲ管理シテ居ルニ止ッテ名ハ立派ナル郡自治體ト云フ郡制デアアルガ、其實際ハ町村聯合組合會議デアアル、此町村聯合組合ナルモノガ甚ダ其管理ト云フモノガ宜クナイ、單ニ郡長ト云フモノガ之ニ發案スルト云フコトニナッテ居ルカラ、郡制ノ三十二條ト云フモノハ多ク非常ニ廣義ニ解釋サレル、即チ先刻山田君ノ言ハレタ通り所謂制郡費ノ分捕ガ起ッテ來ル、ナゼ起ルカト云フト利害關係ノ異ッテ居ル町村ヲ無理ニ郡制ノ下ニ引付ケメモノデアルカラ、或ル一地方ニ一ツノ事業ガ起ル、甲ノ町村ノ附近デアアルカラシテ乙ノ町村ノ附近ニハ何等利害關係ヲ持タナイ、故ニ己ノ地方ニ道路ヲ拵ヘテ吳レ、己ノ地方ニ學校ヲ置イテ吳レト云フ工合ニ、所謂各地方々々ニ跨ッテ郡費ヲ分捕ル、郡長ニ對シテ郡制三十二條ニ依ッテ種々ナ建議ヲナシ、或ハ申出ヲスル、郡長ハ餘議ナク發案ヲスルノデ所謂不急ノ事業ヲ起ス、道路ノ如キハ或一部ニ於ケル町村區劃ノ聯結、町村カラ郡役所ノ所在地ニ向ッテ道路ヲ付ケルト云フコトハ、是ハ町村里道ノ開發カラ言ヘバ必要ナコトデアリマスガ、併ナガラ此ノ郡費補助道路ハ段々弊

害ヲ讓シテ今日デハ町村里道トシテ何等ノ公益上用ヲナサヌ、餘リ必要デナイ所ノ道路マデモ郡ハ之ヲ補助シテ拵ヘナケレバナラヌト云フ弊害ガ随分多イ、此郡制ヲ施行シテ以來、一千十六萬圓ノ費用ヲ使ッテ居リマスガ、百萬圓ニ近イ所ノ費用ヲ使ッテ居ル府縣ハ全國ノ中デ福岡縣デアアル、此福岡縣ガ最モ郡制ヲ施行シテ以來發達シタル縣デアアル、其次ニ至リマスト静岡縣等ガ郡制施行以來随分發達シタル所ノ縣デアアル、先刻山田君ノ言ハレタ中學校ガ全國ノ中デ三ツアルト云フ、其中ノ二ツハ静岡縣デアアルト云フ工合デ、隨分郡制ヲ施行シテ以來發達シテ居ル、此發達シテ居ル府縣ノ状態カラ見マシテモ、之ヲ一ツ整理スル時代ガ來テ居ル……費用ガ多クナルト云ヒマスケレドモ、其費用ガ多クナルノハ所謂不急ノ事業ノ爲ニ土木事業ノ爲ニ費スノガ多イ、今日一千萬圓以上掛ッテ居ルト云フケレドモ、實際ニ町村ニ分賦スベキ郡費ハ幾ラデアアルカト云フト八百萬圓デアアル、其他ノ二百萬圓以上ハ多クハ府縣國庫ノ補助費デアアル、郡制ヲ施行シテ以來郡ノ數ハ寧口殖エテ居ル、現在ニ於テハ全國ニ五百三十七ノ郡ノ數ガアリマスガ、之ヲ整理シテ今ノ郡制ヲ廢止シタ結果、組合數ガ多數出來ルカト言ヘバサウデナイ、全國ニ於テ二百七十乃至八十造レバ立派ニ組合デ後トノ始末ガ出來ル、殊ニ中等教育ニ於ケル施設經營ハ寧口縣ノ事業ニ任セルガ宜イノデアアル、其他ノ區々タル事業ハ地方ニ移スベキモノハ移シ、整理スベキモノハ整理シ、又町村聯合組合ニ移スト云フコトニナレバ、立派ニ何等ノ煩ナク整理ガ付クノデアアル、殊ニ郡制廢止ト云フコトハ郡役所廢止ノ前提デアアル、郡役所ヲ廢止スルト云フコトナラバ郡制ノ廢止ト云フコトハ是亦一顧ノ價値ナイノデハナイ、ケレドモ單ニ郡ノ自治制バカリ廢スト云フコトハ甚ダ宜クナイト云フノガ反對ノ御議論デアアル、併ナガラ私ハ現在ノ狀況ニ於テ絕對的ニ郡役所ノ廢止ニハ賛成ガ出來ナイモノデアアル、抑、諸君、現在ノ郡役所ノ制度ニ對シテ少クトモ郡ノ廢合ト云フコトニ對シテハ決シテ異存ハナカラウ、府縣ノ廢合ガ既ニ輿論トナッタ以上ハ、行政區畫ヲ廣メテ郡ノ廢合ト云フコトハ目下ノ地方行政整理ニ於テ必要デアラウト思フ、此前提トシテハ少クトモ郡ノ自治體タル所ノ郡制ヲ其前提トシテ廢サズンバ到底郡ノ廢合ト云フコトハ、即チ地方行政整理ト云フコトハ一大支障ヲ醸スコトニナル、ソレ故ニ郡制ト云フモノ

ハ所謂無益ノ長物トハ言ハヌガ、兎ニ角地方制度ノ發展ヲ一面ニ阻碍シ、不急ノ事業ヲ濫興セシムルトコロノ郡制ト云フ自治體ニ對シテ、サウシテ此郡廢合、所謂行政區畫ヲ擴張スル、サウシテ全國ノ五百二十七ノ郡ヲ三百ニスルトカ、二百ニスルトカニ云フ地方ノ行政整理ノ上カラ言フモ、此前提トシテ郡制廢止ハ最モ必要ナル事柄ト私ハ信ズル、故ニ諸君ハ之ヲ何派ガ出シタトカ、前ノ行キ掛リトカ云フコトデナイ、同志會諸君モ能ク此地方行政ノ整理ト云フコトニ付テハ再考セラレテ、郡制廢止ト云フコトニ就テハ二十二議會二十三議會ノ歴史モアルコトデアリマスカラ、院議ヲ重ンジ民論ノアルトコロヲ參酌シテ、茲ニ滿場一致ヲ以テ本案ニ贊成アラントヲ希望致シマス

討論終局シ表決ニ及テ院議第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シ院議原案ヲ採用スルニ決シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ三月二十三日本案ヲ否決シタリ

二〇 私立學校用地免租ニ關スル法律案

第一條 私立ノ小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校其ノ他大藏大臣及文部大臣ニ於テ特ニ指定シタル私立學校ノ用地ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此限ニ在ラス

第二條 前條ニ依リ免租ヲ受クヘキ用地左ノ如シ

- 一 校舍、寄宿舎、圖書館其ノ他必要ナル附屬建物ノ敷地

第二 運動場、實習用地其ノ他教授上必要ナル土地

第三條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前條ノ土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得

ス其ノ施行細則ハ大藏大臣及文部大臣ノ奏ニ依リ之ヲ制定ス

第二十附則

本法ハ大正四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

三年一月二十一日久保通猷君提出、同月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者ハ趣旨辯明ヲ省略スル旨ヲ述フ

次テ關直彦君外五名提出地租條例中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ審査ノ末本案ヲ否決シ二月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長齋藤珪次君ハ委員會ノ經過及結果ヲ報告シ、同月二十四日再ヒ續會ヲ開キ同種政府提出案(私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案)議決ノ結果本案ハ消滅シタリ(本章第四款第一項第七號參看)

二一 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第八條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 帝國大學、私立大學、文部省直轄ノ各種專門學校又ハ各種實業學校、中學校、師範學校其ノ他文部大臣ヨリ徵兵猶豫ノ特典ヲ付與セラレタル各學校ノ卒業生ニシテ選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者

第十八條第四項中「及納稅地」ヲ、「納稅地及學歷」ニ改ム

第四章 議員候補者、選舉運動者及選舉事務所

第二十七條ノ二 議員候補者トナリ又ハ議員候補者トナルコトヲ承諾シタル者ハ選舉運動開始ノ前若ハ選舉運動開始ト同時ニ所轄警察署ニ之ヲ届出テ及三日間其ノ地方ノ新聞紙ニ廣告スヘシ

所轄警察署ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ選舉長ニ之ヲ報告スヘシ

第二十七條ノ三 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ處刑ヲ受ケタル日ヨリ四箇年間其ノ犯罪所爲ヲ爲シタル地方ニ於テ候補者トナルコトヲ得ス

前項ニ記載シタル者若當選スルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第二十七號ノ四 議員候補者ハ選舉運動開始ニ先チ選舉事務所ヲ設置スヘシ但シ事務所ハ選舉

ノ期日公布ノ後ニ非サレハ之ヲ開始スルコトヲ得ス

第二十七條ノ五 議員候補者ハ主タル選舉事務所ノ外選舉區ノ狀況ニ依リ別ニ事務所ヲ設クルコトヲ得但シ其ノ數ハ十箇ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十七條ノ六 主タル選舉事務所ニハ選舉運動事務ヲ統括シ議員候補者ニ代テ選舉ニ關スル一切ノ事務ヲ處理スル一名ノ代理者ヲ置クヘシ但シ議員候補者自ラ選舉事務所ヲ統括スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條ノ七 議員候補者又ハ選舉事務代理者ハ選舉運動開始ニ先チ各選舉事務所ノ位置及之ニ所屬スル選舉運動者ノ員數並其ノ氏名ヲ所轄警察署ニ届出テ及三日間其ノ地方ノ新聞紙ニ廣告スヘシ

第二十七條ノ八 各選舉事務所ニ於テ使用スル選舉運動者ノ數ハ事務員ヲ加ヘ五名ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十七條ノ九 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者及公權ヲ有セサル者ハ選舉運動者タルコトヲ得ス

第二十七條ノ十 選舉運動者ヲ解任シ又ハ新ニ之ヲ選任シタルトキハ議員候補者又ハ選舉事務所代理者ハ直ニ所轄警察署ニ届出テ其ノ都度地方ノ新聞紙ニ廣告スヘシ

「第四章」ヲ「第五章」ニ、「第五章」ヲ「第六章」ニ、「第六章」ヲ「第七章」ニ、「第七章」ヲ「第八章」ニ、「第八章」ヲ「第九章」ニ、「第九章」ヲ「第十章」ニ、「第十章」ヲ「第十一章」ニ、「第十一章」ヲ「第十二章」ニ改ム

第八十六條 第二十七條ノ二、第二十七條ノ四ノ規定ニ違反シ又ハ第二十七條ノ五ノ制限ヲ超過シタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第八十六條ノ二 第二十七條ノ七、第二十七條ノ十ノ規定ニ違反シ又ハ第二十七條ノ八ノ制限ヲ超過シ若ハ情ヲ知テ第二十七條ノ九ニ記載シタル者ヲ使用シタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第八十六條ノ三 議員候補者ニ非スシテ選舉事務所ヲ設置シ及選舉運動者ヲ使用シテ運動ヲ開始シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處シ五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第八十六條ノ四 選舉運動者ニ非スシテ選舉運動ヲ爲シ若ハ第二十七條ノ九ニ依リ選舉運動者タル資格ナキ者選舉運動者トシテ運動ニ從事シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處シ又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ當選ヲ妨クル目的ヲ以テ其運動者ト稱シ本法ニ記載シタル犯罪所爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處シ千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ依リ當選ヲ妨ケラレタル者ハ加害者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

「第八十六條」ヲ「第八十六條ノ五」ニ改メ同條中「十圓以上五十圓以下」ヲ「五百圓以下」ニ改ム

第八十七條 選舉ノ投票ヲ得ル爲又ハ投票ヲ忌避セシムル爲選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ二年以下ノ懲役ニ處シ又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ若ハ二年以下ノ懲役ニ處シ千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人、選舉運動者又ハ其ノ他ノ人ニ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ又ハ申込ヲ承諾シ若ハ供與ヲ受ケムコトヲ申込ミタル者

二 酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケ若ハ饗應接待ヲ受ケムコトヲ申込ミタル者又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ又ハ其ノ供給ヲ受ケ若ハ其ノ供給ヲ受ケムコトヲ申込ミタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辦シ及其ノ代辦ヲ受ケ若ハ其ノ代辦ヲ受ケムコトヲ申込ミタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケ若ハ約束ヲ受ケムコトヲ申込ミタル者

三 選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附金其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シ及其ノ誘導ニ應シタル者

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費消シタルモノハ其ノ價ヲ追徴ス
第八十七條ノ二 選舉ニ關シ地人ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益ヲ與ヘ其ノ他前條ニ記載シタル供與、周旋、誘導ヲ爲シ又ハ其ノ供與ヲ爲スコトヲ申込ミタル者ニシテ其ノ犯罪發覺前ニ狀ヲ具シテ檢事局又ハ警察署ニ申告シタルトキハ特ニ其罪ヲ免ス

第八十八條中「二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役ニ處シ千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第八十九條中「二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役ニ處シ千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十條第一項中「一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役ニ處シ又ハ千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十一條第一項中「四月以上四年以下ノ輕禁錮」ヲ「四年以下ノ懲役」ニ改ム

同條第二項中「輕禁錮」ヲ「十年以下ノ懲役」ニ、「一月以上五年以下ノ輕禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役」ニ改ム

第九十二條第一項中「六月以上三年以下ノ輕禁錮」ヲ「三年以下ノ懲役」ニ、「十五日以上三月以下ノ輕禁錮」ヲ「一年以下ノ懲役」ニ改ム

第九十三條第一項中「二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十五條中「十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「三月以下ノ懲役ニ處シ又ハ千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十六條 第八十九條乃至第九十五條ノ所爲ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス人ヲ教唆シタル者ハ其ノ情狀ニ依リ十年以下ノ懲役ニ處シ又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條中「六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金」ヲ「一年以下ノ懲役ニ處シ千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十七條ノ二 公ノ場所又ハ公衆ノ面前ニ於テセスト雖信書、言語其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處シ五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ之ヲ流布セシメタル者亦同シ

前條及本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第九十八條中「一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役ニ處シ千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第九十九條中「五圓以上五十圓以下」ヲ「五百圓以下」ニ改ム

第三百三條中「六箇月」ヲ「一年」ニ改ム

「第十二章」ヲ「第十三章」ニ、「第十三章」ヲ「第十四章」ニ改ム

三年一月二十四日森田小六郎君提出、二月五日第一讀會ヲ開キ（一月三十一日會議ニ付シタルモ提出者ノ趣旨辯明ナキ爲延期セリ）提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

現行選舉法ノ改正案ニ付キマシテハ、曩ニ第二十八議會ニ於テ、政府ヨリ現行ノ選舉區ヲ改メテ小選舉區トスルト云フ案ガ出テ居リマスルシ、夫カラ本議會ニ於テハ、國民黨案ト致シマシテ選舉權擴張ニ關スル議案ガ出テ居リマス、何レモ現行衆議院議員選舉法ニ満足セザル結果デゴザイマスガ、私モ現行ノ選舉法ニ満足致シマセヌ結果、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、本案ノ改正ノ要點ハ二ツデアリマシテ、第一ハ選舉權ノ擴張、第二ハ選舉ノ取締デアリマス、此選舉權ノ擴張ニ付キマシテハ、國民黨案ト致シマシテ第一ニ年齡ヲ改メテ居リマスガ、私ノ案ハ年齡ニモ納稅ニ新ニ智識階級ニ向ッテ選舉權ヲ擴張テ行クト云フ案ガ出テ居リマスガ、私ノ案ハ年齡ニモ納稅ニモ手ヲ著ケマセヌ、特ニ納稅資格ニ付テハ行クハ改メテ行カナケレバナラヌト思ヒマスル、ケレドモ未ダ現在ニ於テハ手ヲ著ケル必要ガナイト私ハ認ムルノデアリマス、斯ク申シマスルト如何ニモ守舊的思想ニ囚ハレタヤウデアリマスケレドモ、現ニ明治三十三年ニ唯今ノ如ク選舉法ヲ改メマシテ納稅資格ヲ下ゲタ結果、非常ニ選舉界ガ腐敗シテ居ル、急劇ニ無智ナル者ノ間ニ選舉權ヲ擴張メマシタ結果、現在ノ如ク選舉界ガ腐敗シテ居ルノデアリマス、要スルニ此納稅資格ヲ改メル時機ニ達シテ居ラナイ、少クトモ大ニ研究ノ餘地ガアルト考ヘマスカラ、私ハ納稅資格ニ

ハ手ヲ觸レナカッタノデアリマス、併ナガラ智識階級ニ向ッテハ之ヲ擴張メテ行クノ必要ガアルト認メマシタ故ニ、現行法ノ第八條ノ第三號ノ次ニ一號ヲ加ヘタノデアリマス、尤モ第四號ニ付テハ大ニ議論ノ餘地ガアリマス、議論ノ餘地ハアリマスケレドモ、若シ智識階級ニ向ッテ選舉權ヲ擴張テ行クトスレバ、現在ノ教育制度ニ取ルヨリ外仕方ガナイ、固ヨリ現在ノ教育制度ニ付テハ不満足ノ點ハ多々アリマスケレドモ、之ヲ基礎トスルヨリ外ニ途ハナイト考ヘマスカラ、第四號ノ如キ案ヲ提出シタノデアリマス、此智識ノ標準ニ付テハ先日政友會ノ横田君ヨリ、相島君ニ向ッテノ質問ノ中ニモ、現ニ學校ニ於テ教育ヲ受ケテ居ラナイ者デモ、政治法律ニ關スル智識ノアル者ガアルト云フ御質問デゴザイマシタガ、ソレハ相當ニアリマセウケレドモ、如何セン具體的ニ標準ヲ滿スコトガ出來マセヌ、故ニサウ云フ者ハ除外シタノデアリマス、第二ノ選舉界ノ取締、是ガ本案ノ改正ノ要點デアリマスガ、我國ノ選舉界ノ腐敗ニ付テハ、此處デ多言ヲ用ウル必要ハゴザイマセヌ、此弊害ガアルガ爲ニ少シデモ國家ノ爲ニ盡シテ見タイト云フ者デモ、遂ニ議員トナルコトヲ斷念スル、之ガ爲ニ國家ハ大ナル損失ヲ受ケルノデアリマス、此弊害ガ年々増加シテ參リマスルノデ、爲ニ彼ノ官僚政治家ガ日本ノ近來ノ政治ヲ批評シマシテ、アレハ直譯デアアル、又ハ輸入デアアルト申シテ居マスルガ、歸スル所其根本ニ於テ選舉人ガ皆腐敗シテ居ルカラデアリマス、特ニ現行選舉法ノ罰則ノ規定ハ極メテ寛ニ失シテ居リマシテ、法律トシテハ非常ニ威重ノ乏シイモノデアリマス、是ガ間接ニ選舉界ノ腐敗ヲ助長シテ參リマス、此法律ハ凡ソ何千何百トアル日本ノ現行法ノ中ニ於テ、最モ無視サレ蹂躪サレテ居ル所ノモノデアリマス、特ニ此法律ハ選舉運動者及ビ選舉人ヲ恰モ善良ナル民、紳士トシテ規定シテ居ルトコロノモノデアリマシテ、少シモ立憲的ノ國民トシテ認メテ居ナイノデアリマス、大ニ立法政策ヲ過ッテ居ル、恰モ舊刑法時代ニ於テ、博徒ヲ極メテ寛大ニ取扱ヒマシタ結果、博徒浮浪ノ徒ガ天下ニ横行シテ居タノト同一デアリマス、故ニドウシテモ嚴重ナル法律ヲ制定シテ、選舉界ノ廓清ヲ圖ラナケレバナラヌ、現ニ一昨年ノ選舉ニ於キマシテモ、内務省警保局ノ統計ニ依レバ六千何百件ト云フ違反ガアル、是ハ檢舉サレタ者ノ數デアリマスケレドモ、實際ノ違反者ヲ調べテ見マシタナラ

バ、其十倍ヤ十五倍ノ小數デハナイノデアリマス、現ニ三重縣ノ伊賀ノ國デスラ五千カテノ違反者ガアッタノデアリマス、併シ警察並ニ檢事局ニ於テ之ヲ檢舉スルノハ其煩ニ堪ヘヌト云フノデ、其檢舉ヲ見合セタト云フ事實ガアルノデアリマス、斯ノ如キ多數ノ違反ヲ出シタノハ、詰リ現行法ノ罪デアリマス、特ニ有權者ハ一般ニ選舉違犯ノ犯罪ヲ重大ニ認メテ居ナイ、決シテ之ヲ破廉恥罪ト認メテ居ナイ、政治犯トシテ特殊ノ罪惡ノ如ク認メテ居リマスカラ、アノヤウニ數多ノ違反ガ出ルノデアリマス、此有權者ノ思想ヲ一變セシムル爲ニハ、選舉ノ違犯ハ極メテ重大ナル犯罪デアルゾト云フ觀念ヲ彼等ノ頭ニ打込ム必要ガアルノデアリマス、其手段トシテハドウシテモ現行法ヲ改正致シマシテ、嚴重ナル罰則ノ規定ヲ掲ゲル外ハナイノデアリマス、特ニ現行法ノ第一缺點ト致シマシテハ金錢其他ノ物件——賄賂ヲ提供シ若クハ提供セントスル者ニ對シテハ、罰則ニ規定ガアリマスケレドモ、賄賂ヲ請求シテ來タ者、サウ云フ者ニ付テハ更ニ之ヲ罰スルノ規定ガナイノデアリマス、是ハ恐クハ現行法ノ一大缺點ト認メマスガ故ニ、現行法ノ罰則ノ中ニ特ニ賄賂ノ請求ヲスル者ニ對シテモ、之ヲ罰スルト云フ案ニシタノデアリマス、ソレカラ改正ノ最モ趣旨ト致シマスルトコロノモノハ、選舉運動者ノミナラズ、議員候補者ニ對シテモ總テ其運動ノ手續ニ付テ制限ヲ加ヘル、是ハ精シキコトハ此案ニ掲ゲテアリマスカラ委員會ニ於テ説明致シマス、此方法ハ大ニ選舉界ノ惡弊ヲ改メルニ付テ非常ニ便利ナモノト信ジマシタガ故ニ、五ツ六ツノ案ヲ附加ヘタノデアリマス、若シ之ガ實行サレマシタナラバ、金力候補者ノ如キ、或ハ成金者流ノ如キ、金力ニ依ッテ議員タル地位ヲ僥倖シテ得ルト云フヤウナ弊害ガ大ニ改マルダラウト思ヒマス、若シサウ云フ弊害ガ改マリマシタナラバ、選舉運動者若クハ選舉人ノ間ニ流行シテ居ルトコロノ、アノ惡弊ヲ絶ツコトハ決シテ困難デナイト思フノデアリマス、ソレカラ此中ニ違犯候補者デ、或地方ニ於テ選舉違犯ヲ行ツタトコロノ候補者デ、サウシテ處刑サレタモノハ四年間其他方ニ於テ議員候補者トシテ競争スルコトノ出來ナイ案ガアリマスガ是ハドウシテモ選舉界ノ風教ヲ保ツタメニ、サウシテサウ云フ前科者ノ如キ者ガ再ビ同一地盤カラ爭フコトガ出來ナイヤウニスル必要ガ十分アルト認メマシタカラ、特ニ此規定ヲ設ケタノデア

リマス、尙此改正案ハ非常ニ分量ガ多ウゴザイマスカラシテ、其詳細ノコトハ固ヨリ委員會ニ於テ述べマス、恐クハ諸君ハ現行選舉法ニ付テ最モ満足シテ居ラレナイト云フコトヲ認メマスガ故ニ、ドウカ願クハ此案ニ御賛成アランコトヲ切ニ希望致シマス

次テ本案ハ關直彦君外七名提出衆議院議員選舉法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

二二 國債整理基金特別會計法中改正法律案

國債整理基金特別會計法中左ノ通改正ス
第二條第二項ヲ削ル

三年一月二十四日石橋爲之助君外一名提出、同月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者(石橋爲之助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ノ趣旨ハ現行法ノ國債整理基金特別會計法中ノ第二條第二項ニ「毎年度一般會計ヨリ此特別會計ニ繰入ルヘキ資金ノ中明治三十七八年戰役ニ關スル經費支辨ノ爲メニ發行シタル國債ト並ニ其借換ヘノ爲メニ發行シタル國債ニ關スル分ハ年額一億一千萬圓ヲ下ルコトヲ得ス」ト云フ規定ガアリマスノヲ、之ヲ削除スルノ案デアリマス、其理由ハ第一ニ一億一千萬圓ト云フ最少限度ヲ置クノ必要ガナイト云フコトガ第一デアリマシテ、第二ハ日露戰役ニ關係スル所ノ國債

ト、他ノ國債トノ區別ヲ立テ、前者ニ優先權ヲ與ヘルノ必要ナシト云フ此二ツノ理由デアリマス、サウシテ何故ニ限度ヲ撤去スルカト申シマスルナラバ、斯様ナ限度ヲ置キマスルコトハ、國庫ノ状態ヲ顧ミズシテ、毎年必ズ是ダケ以上ノ國債ヲ償還シナケレバナラヌト云フヤウナ極メテ窮窟ナル規定デアリマスル故ニ、從ッテ一方ニ償還ヲシテモ、亦他方ニ借用ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ事情ガ起ッテ來テ、詰リ借金ヲ此上殖サシムルヤウナ誘惑ヲ生ズル虞ガアルノデアリマス、其證據ト致シマシテ、本法ガ出來マシタノガ明治三十九年デアリマスガ、爾來今日ニ至ルマデ年々三千萬圓償還ヲシ、其後第二次ノ桂内閣以來五千萬圓ノ償還ヲシテ居リマスカラシテ、勘定スレバ、今日ニ於テ約國債ノ高ガ三億萬餘圓ハ減ラナケレバナラヌ勘定デアリマスルニ、實際ノトコロハ却ッテ殖エテ居ル勘定デアリマス、現ニ諸君ノ御手許ニアリマストコロノ豫算參考書ヲ見マスルト云フト、其金額ガ明カニ示サレテアル次第デアリマス、サウ云フ状態デアリマスカラシテ、斯ウ云フ制限ヲ置キマシテモ、却テ負債ガ殖エルト云フコトデアアルナラバ、寧ロ斯ウ云フ制限ハ撤去シテ、而シテ一方デ借リテ一方デ還ヘスト云フヤウナ、斯ウ云フ其不利益ナルコトヲナサズシテ斯ウ云フコトヲシマスレバ、自然ニ利子ノ鞘ダケデモ損ヲスル譯デアリマスカラ、サウ云フコトヲセズシテ負債ヲシナイ考カラ償還ヲ——無理ナ償還ヲシナイト云フ方法ニ改メタイト云フノデアリマス、然ラバ此償還ハ最早不必要デアアルカト云フナラバ、決シテサウデハナイノデアリマス、此國債ノ償還ト云フコトハ、此ノ如ク經常歲入カラ一定ノ金額ヲドウシテモ引割イテ國庫ノ状態如何ニ拘ラズ引割イテ、サウシテ償還ニ充ツルト云フヤウナコトニシナクとも、國債ノ償還ハ國庫ノ剩餘金ヲ以テ其一年ニ餘ッタトコロノモノデ、或ハ多キ年モアリ、少ナイ年モアリ、其餘ッタモノヲ以テ償還スルト云フコトガ、至當ノ是ハ筋道デアラウト考ヘルノデアリマス、現ニ今日モ多額ノ剩餘金ガアル際デアリマスカラ、斯ウ云フヤウナカラ償還スルコトガ宜シイコトデアリ、又將來ニ於テモ此償還財源ト云フモノガ、全ク無クナル譯デハナクシテ、尙ホ將來ニモ年々吾々ノ豫想シ得ラル、トコロノ剩餘金ガアルノデアリマス、即チ歲出ノ不要額モ生ズル譯デアアルシ、又自然增收ト云フモノモアル、政府ハ兎角收入ヲ少ナ

ク見積ツテ支出ヲ多ク見積テ居リマスカラ、其間ノ差額ハ決シテ少ナカラヌノデアリマス、私ガ計算シマスルトコロデモ約五六千萬圓ハサウ云フ方面カラ出テ來ル望ガアルノデアリマスカラ、サウ云フ金ノ餘ッタ場合ニ國債ヲ償還致シマシテ、サウシテ此ノ如キ限度ヲ定メテ、是非共經常歲入カラ割イテ還シテ居リマスル部分ハ、モ少シ有利ノ方ニ之ヲ利用スルコトガ、國家財政ノ根本カラ最モ是ハ當ヲ得タルモノト信ズルノデアリマス、此意見ハ仄ニ開ク所ニ依レバ、政府部内ニ於テモ有識者ノ間ニハ、夙ニ其當ヲ得テ居ルコトヲ信ジテ居ル人ガアルト云フコトデアリマス、併シ今日マデ之ヲ實行スルニ至ラナカッタ譯ハ、此五千萬圓ト云フヤウナ金ヲ軍事費ノ方ニ奪ヒ取ラル、コトヲ恐レテ、未ダ之ヲ改正スルニ至ラナイト云フヤウナ事情ヲ聞イテ居ルコトモアリマス、ソレ故ニ私ハ此改正ヲ致シマシテ、出デ來ルトコロノ此五千萬圓ノ財源ハ是ハ陸海軍ノ方ニ之ヲ差向ケルニアラズシテ、是ハ今國民ノ最モ要求シテ居リマストコロノ減稅若クハ廢稅ノ資源ニ供シタイト云フノガ精神デアリマス、冀クバ諸君ノ御賛成アラントコトヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラリキ

二二三 犯罪捜査ニ關スル法律案

第一條 檢事、警察官、憲兵、稅務官其ノ他犯罪捜査ノ職權ヲ有スル公務員事件ニ付被嫌疑入又

ハ關係人ノ取調ヲ爲ストキハ市町村ノ公民權ヲ有スル鄰佑一名以上ノ立會アルコトヲ要ス但

シ取調ヲ受クル者ノ請求ニ依リ辯護士ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ市町村公民一名以上ノ立會アルコトヲ要ス

第二條 犯罪捜査ノ職權ヲ有スル公務員ハ事件ニ付被嫌疑人又ハ關係人ニ對シ取調ヲ爲スニ當リ恐喝又ハ詐言ヲ用ウルコトヲ得ス

第三條 檢事ハ起訴後ニ於テ事件ニ付被告人又ハ關係人ノ取調ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 犯罪捜査ノ職權ヲ有スル公務員又ハ立會人ハ相當ノ理由ナクシテ捜査ノ内容ヲ洩泄スルコトヲ得ス

第五條 捜査上作成シタル文書ハ裁判上ノ證據ト爲スコトヲ得ス

第六條 犯罪捜査ノ職權ヲ有スル公務員ニ對シ本法並刑法第二編第二十章、第二十一章、第二十

五章ノ犯罪ニ關シ告訴告發アルトキハ犯罪地ノ地方裁判所ニ於テ起訴スヘキヤ否ヲ決定ス

前項ニ依リ起訴ノ決定アリタルトキハ豫審判事ハ當然公訴ヲ受理シタルモノトス

第七條 前條第一項ノ決定ヲ爲シタル判事ハ其ノ事件ノ豫審及公判ニ干與スルコトヲ得ス

第八條 第二條ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九條 第三條ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮若ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

三年一月二十六日高木益太郎君外三名提出、同月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者(高木益太郎君)

ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ中正會ノ諸君ト共ニ提案ヲ致シタノデアリマスガ、人權保護ノ上ニ於テ、犯罪捜査ニ關スル法律案ヲ提案スル必要ガアルモノト考ヘマス、近頃犯罪ノ捜査ニ從事スル役人ノ信用ハ全ク地ニ墮チテ、世間、人權蹂躪ノ聲ハ非常ニ甚ダシイノデアリマス、先ヅ有名ナル事件デ言ヘバ、東京ニ於テハ前警保局長古賀廉造氏ノ嫌疑事件、名古屋ニ於テハ元愛知縣知事深野氏ノ嫌疑事件、是ハ目下未決ノ問題デアリマスカラ、暫ク遠慮シナケレバナラヌ點デアリマスルガ、吾々ノ親友デアアル宮古啓三郎氏ノ宇都宮地方裁判所ニ於ケルトコロノ檢舉事件ノ如キハ、實ニ不當極々人權蹂躪ノ甚ダシキモノデアッテデス、當該ノ檢事ハ關係人ノ百姓ヲ喚出シテ之ニ拷問ヲ加ヘテ、之ニ恐嚇詐言ヲ加ヘテ、嘘バカリノ聽取書ヲ作成ヲシテ、サウシテ同氏ニ向ッテハ有ラユル迫害ヲ加ヘテ、其結果ハドウデアアルカト云フト、公判廷ニ於テハ同氏ノ爲ニ大勢ノ辯護人ガアッタノデアリマスガ、一言モ辯護ヲ爲スノ必要ナク、公判判事ハ唯檢事ノ論告ヲ聞イタダケデ以テ直グト無罪ノ判決ヲスルト云フヤウナ、實ニドウモ何トモ言ヒヤウノナイ亂暴至極ナコトガアッタノデアリマス、其結果當該檢事正ハ懲戒處分ヲ受ケ、且宇都宮カラ或ル場所ニ轉所ニナタノデアリマス、ケレドモ是ハ堂々タル所ノ紳士、勢力ノアル所ノ人物ニ對シテスラモ斯ノ如キコトヲスルノデアアルカラ、中流以下ノ細民ニ對シテ、捜査官吏ガ如何ナル壓迫迫害ヲ加ヘルカト云フコトハ、私ガ一々之ヲ指摘セヌデモ各位ガ十分ニ御承知ノ次第デアラウト信ズルノデアリマス、是ハ實ニ帝國憲法ヲ見ルト云フト「日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ」斯フ云フ明文ガアルニ拘ラズ、其實際ヲ見ルト、憲法ノ明文ト云フモノハ行ハレズシテ、行政官タルトコロノ警察官デアルトカ、檢事タルモノガ、司法官ヨリ令狀ヲ受ケナイニモ拘ラズ、人民ニ對シテヨット來イトカ何トカ云フ名義ノ下ニ、三日四日不法ノ監禁ヲスルトカ、拷問ヲスルトカ、恐嚇詐言ヲスルトカ云フコトガ盛ニ行ハレテ居ルノデアリマス、是ハ實ニ司法權ノ危機デアッテ、此國民ノ利害休戚ニ關スル人權擁護上至要ナル所ノ問題デアアルノデアリマス、法律ハ彼等ニ要求スル所ハ專ラ人民ノ自由ヲ重ンジ、人民ノ意思ヲ曲ゲシメザルニアルノデア

リマスルノニ、彼等ハ法律ニ於テ暴行暴虐ノ場合ハ罰スル規定ガアルケレドモ、恐嚇詐言ノ場合ニ於テ罰スル規定ガナイカラ、法律ニ明文ガ無ケレバ宜イト云フヤウナ工合デ以テ、被告人ニ恐嚇詐言ヲスルノハ勿論、證人ニ向ッテ——自分ノ職務ノ執行ヲ補助スル所ノ證人ニ向ッテマデモ、恐嚇詐言ヲスルニ至ッテハ殆ド言語道斷ノ沙汰デアアルデアリマス、而シテ其恐嚇詐言ヲ以テ、被告人ノ自白ヲ徵スルト云フヤウナ武器ト爲スト云フ事柄ハ、屢、諸君ガ御實見遊バサレタル事實デアリマスカラ、斯ノ如キ不完全ナル法律ト云フモノハ改正ヲシテ、ドウシテモ檢事、警察官、憲兵、稅務官、其他犯罪搜查ノ職權ヲ有スル役人ガ、事件ニ付テ被嫌疑者又ハ證人等ノ取調ヲ爲ストキニハ、市町村ノ公民權ヲ有スル鄰佑一名以上ノ立會アルコトヲ要スト云フ條文ヲ設ケテ、サウシテ今日ノ搜查機關ノ信用ヲ保全シタイノデアリマス、若シ又其取調ヲ受クル人ガ、自分デ費用ヲ出スト云フコトデアラバ、鄰佑一名ニ代ヘルニ辯護士ヲ以テスルコトガ出來ルト云フ風ニシテ、人民モ安心シテ取調ヲ受ケ、取調ヲ爲ス者モ亦自分ノ信用ヲ保全スル方法ヲ設ケタイノデアリマス、是ハ何モ今日事新シク拵ヘル譯デハナクシテ、徳川幕府時代ノ犯罪ノ搜查ノ手續ハ、奉行所ノ吏員ガ先ヅ自身番ニ臨ンデ被嫌疑者ヲ取調ベルニ方ッテハ、名主又ハ大屋五人組ノ立會ヲ要スル次第デアリマス、是ハ一面ニ於テハ事實ノ真相ヲ確實ニスル利益ヲ得ルノハ勿論デアリマスガ、又取調ヲ受クル者ノ人權尊重ノ理由ト云フモノモ、之ニ加ッテ居ルコトダラウト存ジマス、幕府時代ノ制度斯ノ如クデアアルニ、今日ハドウデアアルカト云フト、刑事訴訟法ノ規定ヲ見ルト云フト、本職ノ豫審判事ト雖モ裁判所書記ノ立會ガ出來ナイトキニ於テハ、普通ノ人民二名以上立會ハナケレバ取調ガ出來ナイト云フ規定ニナッテ居ル、若シ取調ヲシテモ無効デアルト云フ規定ニナッテ居ル、本職ノ豫審判事ヲサウデアアルノニ、本職デナイ所ノ檢事、警察官、憲兵、稅務官杯ガ人民ノ取調ヲスルトキニ、立會人モ何モ無クテ勝手次第ニ出來ルト云フコトハ、刑事訴訟法トノ權衡ノ上カラ論ジテモ許スベキコトデハナイ、而シテ此隣佑ノ立會人ガゴザイマスコトニナリマスレバ、取調ヲ受ケル者ノ社會上ノ地位ガドウ云フ人物デアアルカ、竝ニ此事件ノ真相ハ何所ニ在ルカト云フコトヲ明確ナラシムル上ニ於テ、非常ナル利益ガアル、又

壓迫ヲ加ヘタリ恐嚇詐言ヲシテ横暴ナルコトヲシタノデナイト云フコトヲバ、世人ガ認ムルコトニナルカラシテ、搜查官ノ信用ヲ維持スル上カラ云ッテモ必要デアラウト考ヘマス、今日ハ彼等役人ニ對スル一般民衆ノ心理ト云フモノハ、之ヲ生命財產ノ保護者トシテハ視ナイ、唯恐ルベキ危險機關デアルト云フヤウナ工合デ之ヲ遠ザケテ、決シテ信頼セヌト云フヤウナ現狀デアアル、斯ノ如ク搜查官ニ對シテ不信用ナル有様デアッテハ、到底司法權ノ尊嚴ト云フモノヲ保ツコトハ出來ナイノデアリマスカラ、此法律ヲ設ケテ隣佑ノ立會ヲ待ッテ取調ヲスルト云フコトハ、最も必要デアルト考ヘルノデアリマス、又此鄰佑ノ立會ヲ爲サシムルトキニハ、博奕ノ如キ、淫賣ノ如キ、平素鄰リノ家ニ居ッテ其事實ヲ知ッテ居ルモノハ、屢、警察ナドノ立會人ニナルト云フコトハ迷惑デアアルカラ、官憲ノ手ヲ藉ラズシテ豫防ノ利益ヲ得テ、其人間ニ向ッテ十分注意ヲ加ヘテ、成ルベク犯罪ノナイヤウニ防遏スル所ノ方法ヲ講ズル利益モアル次第デアリマス、其外此財產ニ關スル犯罪毆打又ハ名譽ニ關スル犯罪ニ付テハ、鄰佑ノ奔走ニ依ッテ被害者ニ對シテ賠償ヲスルトカ謝罪ヲスルトカ或ハ内濟等ノ風ガ盛ンニ行ハレテ告訴ノ取下ヲスル者ガ多ク、隨ッテ刑事事件減少ノ效ハ著シイコト、信ズルノデアリマス、ソレカラ是等ノ役人ガ嫌疑者、證人等ヲ取調ベル場合ニハ、恐喝又ハ詐言ヲ用非タトキニハ、之ニ對シテ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス、斯ウ云フ法律ヲ設ケナイト云フト人民ハ偽證ヲシタトキハ罰スル、然ルニ役人ガ人民ニ向ッテ壓迫ヲ加ヘ恐喝詐言ヲ加ヘタトキニハ罰スル明文ガナイ、コンナ不權衡ナ事ハ無イノデアリマス、ソコデ或ハ實際ニ於テドウモ關係人ニ對シテ、役人ガ恐嚇詐言ヲ用エル場合ハ之ヲ罰スル法律ヲ拵ヘルト云フト、警察事務ノ實行ガ出來ルカ出來ヌカト云フコトヲ、最も尊敬スベキ最高等ノ頭事局ノ役人ニ一個人トシテ聽イテ見タノデアリマス、所ガ今日ハ恐嚇詐言ヲ爲ス役人ハ餘程頭ノ惡イ役人デアルトカ、或ハ頭ノヨイ人間デアッテモ、其朝細君ト喧嘩デモシテ來タト云フノデ、ムカツ腹ヲ立ッテ居ルトキニ人民ヲ調ベル所カラ、自然恐嚇詐言ヲスルノデアッテ、眞ニ評判ノ好イ檢事ノ如キハ十分二人ノ言フベキコトヲ聽イテ、ソレカラ取調ヲシサヘスレバ宜イノデアアル、濫リニ恐嚇詐言ヲ用非ルト云フコトハ、事件ノ真相ヲ搜ル上ニ於テ少シモ必要ノナイ

事デアアルノデアリマスカラシテ、今日人權擁護ノ上ニ於テ、官僚ガ人民ニ向ッテ恐喝詐言ヲスル場合ニ於テハ無罪デアアル、人民ノ方デ偽證ヲスレバ罰スルト云フコトハ、權衡上當ヲ得ヌ次第デアリマスカラ、斯ノ如キ行爲ヲシタ人間ニ對シテハ、二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スルト云フ法條ヲ設クルト云フコトハ、最モ必要デアアルト信ズルノデアリマス、尙ホ次ノ案ハ檢事ガ起訴ヲスル場合ニ於テハ、十分ニ證據ヲ取調ベテ起訴スベキモノデアアルカラ、一旦起訴シタル後ニ於テ豫審判事ナリ公判判事ナリニ、事件ヲ委シク後トテ尙ホ被告人又ハ證人ヲ調ベルト云フコトハ、非常ナ弊害ガ生ズルノデアリマス、全ク當事者對等ト云フ原則ヲ無視シテ、然モ審理中ノ事件ニ付テ、裁判官ノナスベキ事柄ヲ自分ガ爲スノデアリマスカラ、裁判官ノ職權ヲ侵害スル譯ニナルノデアリマスカラシテ、此案ニ於テ檢事ハ證據十分トシテ起訴ヲ爲シタル後ニ於テ、被告人又ハ關係人ノ直接ノ取調ヲ爲スコトヲ禁ズルト云フコトヲ設ケルノガ必要デアアルト信ジマス、ソレカラモウツノ案ハ、犯罪搜查ニ關スル役人ガ、其犯罪事件ノ未ダ確定シナイ中ニ於テ、其檢舉事件ヲ手柄顔ニ得々トシテ公然發表スル弊風ガ盛ンデアリマス、斯ノ如キ事ハ官紀振肅ノ上カラ論ジマシテモ、被嫌疑者ノ位置名譽ノ保護ノ上カラ論ジマシテモ、甚ダ不當極タ事デアリマス、殊ニ他ノ法律ノ關係カラ申シマス、刑法ノ第三百四條ニ醫者、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人ハ其職務上知得シタル人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ之ヲ罰スルト云フ如キ規定ガアル、民間ニ於テ醫者、藥劑師其他ノ職業ヲ執ッテ居ル者ハ、人ノ祕密ヲ漏シタル場合ニ於テハ之ヲ罰スル、然ルニ檢事ナリ警察官ナリハ手柄顔ニ其檢舉事件ヲ、マダ有罪デアアルカ、無罪デアアルカ、譯ノ分ラヌ場合ニ之ヲ公然發表スルト云フコトハ怪シカラヌ次第デアリマスカラ、是等ノ搜查吏員ガ搜查ノ事實ヲ正當ノ理由ナクシテ漏シタル場合ニハ、六箇月以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス、斯ウ云フ法律ヲ設ケルト云フコトハ今日ノ場合ニ於テ最モ必要デアアルト信ジマス、ソレカラ尙ホ此搜查上作成シタル文書ハ、固ヨリ公然裁判上ノ證據トスベキモノデナイノデアアル、唯是ハ當該官ノ參考ニスル書類ニ過ギナイノデアリマスカラ、搜查上作成シタル書類ハ裁判上ノ證據ト爲スベキモノデハナイ、裁判ハ直接口頭審理主義デ、宣誓ヲナシタル證

人ノ陳述ニ依テ裁判スベキモノデアッテ、搜查官吏ガ勝手次第ニ作ッタ一片ノ文書ニ依テ人ノ罪ヲ斷ズルト云フコトハ、人權尊重ノ上カラ許スベキコトデハナイノデアリマスカラ、是ハ證據法理ノ上カラ申シマシテモ禁ズル必要ガアルノデ、之ヲ禁ズルト云フ條文ヲ設ケル必要ガアル、又最後ニ一言セネバナラヌコトハ、斯フ云フ工合ニ罰則ヲ設ケマシテモ、同ジ地位ニ居リ、同ジ機關ニ居ル檢事ガ、其告訴ニ付テ或ハ告發ニ付テ、之ヲ採用スル採用シナイト云フコトヲ決定スルヤウナコトガゴザイマス、ト云フト、ドウシテモ自分ノ同類若クハ部下ノ行爲ヲ庇フト云フヤウナ虞ガアルノデアリマス、現ニ宮古啓三郎君ノ事件ニ關シテ檢事ガ拷問ヲ爲シタルト云フノデ、宇都宮地方裁判所檢事局ニ告訴ヲシタノデアリマス、堂々タル所ノ政友會ノ名士ニ對シテウナ工合デ、遂ニ其告訴ヲ不起訴ニ決定シタノデアリマス、堂々タル所ノ政友會ノ名士ニ對シテスラモ、斯ノ如キモノデアリマス、故ニ一般人民ニ向ッテハ彼等ハ何ラスルカ知レヌノデアアル、故ニ此場合ニ於テハ何所ニ持ッテ行クカト云フト、是ハ司法權ノ獨立ヲ認ムベキトコロノ地方裁判所ノ刑事部ガ、其告訴ガ理由ガアルヤ否ヤ決定シテ、檢事ニ之ニ關係スルコトヲ避ケシムルト云フコトハ最モ必要ダラウト考ヘマス、現ニ獨逸ニ於テハサウ云フヤウナ役人ニ對スル問題ハ、檢事ガ爲サズシテ地方裁判所ノ刑事部ガ決定シテ居リマスカラ、其制度ヲ參酌シテ檢事ノ關係ヲ離レシムルト云フコトハ最モ必要デ、即チ之ヲシテ偏頗ノ處置ナカラシメ、司法權ノ威信ヲ保ツ上カラ、斯クシナケレバナラヌト信ズルノデアリマス、其他ノ提案理由如何ニ付テハ、何レ委員會ニ於テ詳細説明致ス次第デアリマス、十分審議ノ上人權保護ノ道ノ相立チマスルヤウ、御盡力アラントラ望ムノデアリマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

二四 蠶絲業法中改正法律案

蠶絲業法中左ノ通改正ス

第二十六條中「府縣ノ負擔トス」ヲ「國庫ノ負擔トス」ニ改メ但書ヲ削ル

第二十七條 削除

三年一月二十六日武藤金吉君外三名提出、同月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者(武藤金吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

簡單ニ本案提出ノ理由ヲ説明致シマス、蠶絲業法中ノ第二十六條ノ「府縣ノ負擔トス」トアリマスノヲ、「國庫ノ負擔トス」ト改メタイト思ヒマス、又第二十七條ハ全部削除致シタイト思ヒマス、デ其譯ハ此蠶種ノ検査ノ手数料ハ我國ニ於テ輸出貿易ノ最モ主ナル生絲、即チ蠶ヲ作りマス種ノ検査ヲ地方費ヲ以テ支辨ヲシ、手数料ヲ徴收スルト云フコトハ不當デアアルカラデアリマス、御承知ノ通り昨年ノ輸出貿易ハ、生絲及羽二重其他絹織物屑絲ヲ合セマスルト、二億五千萬圓ノ巨額ニ達シテ、我國ノ輸出貿易ノ四割ヲ占メテ居ルコトニナッテ居リマス、而シテ我國ノ産業政策ノ中、蠶絲業法ノ中デ此原種ヲ検査スルノニ地方費ヲ以テ支辨ヲサセ、又蠶種ヲ作ル者カラ手数料ヲ徴收シテ、梓製ヲ三錢、平付ヲ二錢取ルト云フガ如キコトハ、誠ニ不當ノ甚シキモノデアルト思フ、我國ニ於テハ現ニ畜牛結核病ニ對シテ國費ヲ以テ検査シテ居ル、又各種ノ傳染病ニ付テモ亦然リ、又各種ノ肥料ノ検査ニ對シテモ同様デアアル、又其他檢査ノ如キ、度量衡ノ檢査ノ如キハ、何レモ國費ヲ以テ支辨シテ居ルデアリマス、然ルニ政府ハ蠶業獎勵ヲ口ニシテ居リナガラ、此事ヲ斷行シ得ナイト云フコトハ甚ダ吾々ノ満足スルコトガ出來ナイ次第デアリマス、

此蠶絲業法ヲ制定スル當時ノ精神ニ於キマシテモ、府縣ノ負擔トスト云フコトハ、此法律ノ精神デナイノデアリマス、其當時戰後ニ於キマシテ財政經濟ノ狀態ガ容サヌカラ、此府縣ノ負擔トスルト云フコトニナッテ居ルノデアリマシテ、此法ノ制定ノ當時ノ精神ニ於テハ、ヤハリ國庫ガ支辨スルト云フノデアリマスカラ、何卒本案ハ年々出ル案デアリマスケレドモガ、我國ノ蠶業ノタメ蠶絲業法ノ改正ヲ吾々ハ望ムコトガ切ナルモノデアリマス、宜シク御賛成アッテ御審議ヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ三月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

蠶絲業法中左ノ通改正ス

第二十六條中「府縣ノ負擔トス」ヲ「國庫ノ負擔トス」ニ改メ但書ヲ削ル

第二十七條 削除

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

同月五日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長武藤金吉君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

蠶絲業法中改正法律案ノ委員會ノ成績ヲ報君致シマス、本案ニ付テハ七回ニ互リマシテ審議ヲ致シマシタ結果、政府ハ二十六條ノ改正ニ付テハ同意ヲ致サレマセヌ、二十七條ノ削除ニ付テ

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案

ハ同意ヲ致サレマシテ、大藏大臣、農商務大臣ハ手數料ヲ廢スルニ付テ、唯今マデ府縣ガ出シテ居リマシタ五十五萬圓ハ、大正四年度ヨリ國庫ノ負擔ニスルト云フコトヲ聲明致サレマシタ、故ニ委員會ハ出マシタ案ヲ修正致シマシテ二十六條ハ現行ノ儘ニ同意ヲ致シマシテ、附則ヲ大正四年四月一日カラ施行スルト云フコトデ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告ヲ致シマス

質疑應答ノ後引續キ第二讀會ヲ開キ委員會ノ報告全部ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定シタリ即日貴族院ニ送付、同院ハ同月二十三日本案ヲ否決シタリ

二五 地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第十二條第一項第二號中「第三期昭和三年三月一日ヨリ」ヲ「第三期昭和四年四月一日ヨリ」ニ改ム
同「三月三十一日限」ヲ「四月三十日限」ニ改ム

附則

本法ハ大正二年分地租ヨリ之ヲ適用ス

二六 酒造税法中改正法律案

酒造税法中左ノ通改正ス

第六條中「第四期翌年三月十六日ヨリ同三十一日限」ヲ「第四期翌年四月十六日ヨリ同三十日限」ニ改ム

附則

本法ハ大正元年十月一日ヨリ同二年九月三十日ニ至ル酒造年度分造石稅ヨリ之ヲ適用ス

兩案ハ三年一月二十六日武富時敏君外一名提出、同月三十一日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ町田忠治君ハ提出者ニ代リテ左ノ如ク兩案ノ趣旨ヲ辯明セリ

地租條例中改正及酒造税法中改正ヲ提出シマスル理由ノ大要ヲ說明致シマス、此二法案ハ一面國庫剩餘金ノ處分案トモ申スベキモノデアリマシテ、吾々ノ此提出ノ主意ガ、幸ニ皆サンノ御贊成ヲ得マスルト、從ッテ政府提出ノ豫算案ニ修正ヲ加ヘル次第デアリマス、此地租條例ノ改正、酒造税法中改正ノ理由ノ大要ハ、第一ハ國庫收稅ノ改善ヲシタイト云フコトガ、一ノ理由ト、モウ一ツハ納稅者ノ便利ヲ圖リタイ、此二ノ主意デアリマス、而シテ此納稅者ノ便利ヲ圖ルト云フ、此便利ハ幾ド減稅ニモ劣ラザル程ノ大ナル利益ガアルモノト私共ハ信ジテ居ル、ドウゾ此國庫收稅ノ金繰ニ關スル問題デゴザイマシテ、多小ウルサイ問題デアリマスガ、暫時御清聴ヲ願ヒタイ、申ス迄モナク田租ノ一、二、三ト三箇月ニ互ッテノ納稅ハ、農業者トシテ米其他農產物ノ販賣ヲ致シマスル上ニ、非常ナル不便ガアルコトハ皆様御承知ノコトデアリマスカラ、此三月ノ納稅期ヲ改メテ四月ニシタイト云フノガ、一ツハ酒造稅ノ納期デゴザイマシテ、是ハ皆様御承知ノ通り、年々當業者カラノ請願モゴザイマスノデ、其事情ハ尤モト存ジマス、御承知ノ通り一、二、三月ト云フ此三箇月ハ酒造家ノ最も多忙ナル時期デアアルノミナラズ、御承知ノ

通リ國庫ノ上ノ検査ノ時期ニ當リマシテ、金融市場カラ見マシテモ、此三箇月ハ最モ金融繁閑ノ
 繁忙ヲ來シマシテ、民間ノ金融ノ頗ル緊縮ヲ致ス時デゴザイマスカラ、之ヲ四月ニ改メルト
 云フ趣意デゴザイマス、是ハ納稅者ノ便宜ノ方カラ申シマスノデアリマスガ、元來此希望ヲ達シ
 マスニハ、尠カラヌ國庫ノ剩餘金ガ無ケレバ此改正ガ出來ヌノデゴザイマス、幸ニ當年ノ豫算ニ
 現ハレマシタノハ、前々年度ノ豫算ニ於キマシテ、當局者ガ比較的ニ歲計ヲ低ク見積ツテアッ
 ガタメニ、自然増加ガ現ハレテ來タ、ソレカラ國運ノ發達ニ伴ツテモ自然増加ガ現ハレテ來タ、又
 行政整理ニ依テ茲ニ剩餘金ガ現ハレタト云フ、巨額ノ剩餘金ノ現ハレマシタノハ、右申ス三ツ
 ノ理由カラ生ジテ居リマス、此際ニ此剩餘金ヲ以チマシテ三月ニ納稅スベキ酒稅及造石稅ニ充
 テマシテ、而シテ三月ニ於キマシテ這入リマスベキモノヲバ、四月ニ延シテ、翌年度ノ收入ニ致
 スナラバ、之ガタメニ國庫ノ出合ガ頗ル圓滑ニナリマシテ、隨ツテ大藏證券ノ發行、此大藏證券
 ノコトハ御承知ノ通り、若シ之ヲ民間カラ募リマスルト金融ノ切迫ヲ來シ、若シ民間之ニ應ゼザ
 ル場合ニハ、日本銀行ガ通貨ヲ増發シテ物價、外國貿易、總テノ點ニ惡影響ヲ及ボスト云フ通貨
 膨脹ヲ來シマスル、此弊ヲ從來大藏證券ノ濫發ニ依ツテ生ジテ居リマス、之ヲ矯正シテ大キクシ
 マシテハ國庫改善ノ趣意、之ヲ個人トシマシテハ、納稅者ノ便宜ヲ圖ル、殆ド減稅ニ劣ラザル利
 益ヲ與ヘヤウト云フ、此趣意カラ出來テ居ルノデゴザイマス、黨派ノ問題トモナルベキ問題デモ
 アリマセズ、國民多年ノ希望デアリマスカラ、ドウゾ滿堂諸君ノ御贊成ヲ得テ通過シタイ

次テ議長指名同一委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ二月二日委員長及理事ノ
 互選ヲ行ヒ審査ノ末兩案共ニ之ヲ否決シ三月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月七日兩案ハ曩ニ同一委員ニ併セ付託セラレタル高木正年君外三名提出酒造稅法中改正法律案
 及關直彦君外二名提出地租條例中改正法律案ト共ニ之ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長三

土忠造君ハ委員會ノ經過及結果ヲ報告ス町田忠治君ハ四案ニ關シ意見ヲ述ヘ次テ議事延期ノ動議
 ヲ提出シタルモ院議之ヲ否決シ次テ討論ニ移リ井上角五郎君、武部其文君ハ四案ニ反對、高木正年
 君ハ贊成ノ演說ヲ爲セリ

三土忠造君ノ報告

唯今議長ノ御宣告ニ從ヒマシテ、四案ヲ一括シテ御報告致シマス、此四案トモツマリ納期繰下ヲ
 目的トスル案デアリマス、而シテ酒造稅ニ於キマシテ、同志會ノ御提出ニナリマシタモノト、國
 民黨ノ御提出ニナリマシタモノト、各一箇月繰下ノ違ヒガアルノデアリマス、地租條例ノ改正
 案モ同様デアリマス、即チ同志會ノ方ハ一箇月繰下ゲルノデアリマス、ソレカラ國民黨ノ方ハ
 何レモ二箇月繰下ゲルト云フノデアリマス、其理由ト致シマスルトコロハ、主トシテ國庫ノ收支
 關係ヲ改善スル、即チ納期ノ繰下ヲシテ以テ大藏證券ノ發行額ヲ減少シヤウト云フノガ目的デ
 アリマス、尙是ト共ニ納稅者ノ苦痛ヲ緩和スルト云フコトガ目的ニナツテ居リマス、委員會ニ於
 キマシテハイロクノ審議研究ヲ致シ、且ツ政府ノ意見ヲ確メテ見マシタガ、第一ノ此納稅繰下ニ
 依テ大藏證券ノ發行額ヲ少クスルト云フコトハ、政府ニ於テハサウ必要ヲ認メナイ、即チ政府ニ
 於キマシテハ既ニ相當ノ計畫ヲ立テ、大藏證券ノ發行額ヲ五千萬圓以下ニ止メルコトガ十分ニ
 出來ルカラシテ、今更納期繰下ノ必要ハ其點カラハ認メナイ、唯納稅者ノ苦痛ヲ緩和スルト云フ
 方カラ申シマスルト、政府ニ於テハ強テ反對デナイ、唯剩餘金ノ處分モ既ニ決定致シテ居リマス
 ル今日ニ於キマシテ、雙方合セマシテ凡ソ三千四百萬圓程ノ財源ヲ要シマスル納期繰下ヲ、本
 年ハ實行スルコトハ出來ナイト云フノガ政府ノ意見デアリマス、委員會ニ於キマシテモ多數ノ
 意見ガ同様デアリマス、即チ四案トモ其主義ニ於テハ認メマスルケレドモ、唯財源ガナイ爲メニ
 本年ハ出來ナイ、追テ剩餘金ノ出マシタ時分ニ成ベク早く之ヲ實行スルト云フ趣意ニ於キマシ
 テ、本年限りハ否決致ス方ガ宜カラウト云フコトガ委員會ノ多數デゴザイマシテ、多數ヲ以テ否

決致シマシタ、此段御報告致シマス

町田忠治君ノ演説

私ハ極ク簡單ニ唯今委員長ノ報告ニ對シマシテ反對ノ意見ヲ申上ゲマス、御承知ノ通り本案ハ吾々同志ガ提出致シマシタ案ト、國民黨諸君カラ御提出ニナリマシタ案ヲ一括シタノデアリマシテ、大體ノ趣意ハ一緒デゴザイマス、而シテ之ヲ提出致シマスル時ニハ、不肖私ガ大體ノ趣意ヲ此席デ理由ヲ申述ベマシタカラシテ更メテ申上ゲル程ノコトハ更ニナイト思フ、且ツ先般産業獎勵基金ノ討論ニ於キマシテ、私共ハヤハリ此納期繰下ノ理由ヲ以テ産業獎勵基金ト云フ基金制度ヲ設クルコトニ反對致シタノデゴザイマス、故ニ此所ニ詳細理由ヲ説明スル必要ハゴザイマセヌガ、單簡ニ一言諸君ノ御參考ニ供シテ置キタイノハ、此問題ハ年來衆議院ノ内外ニ於キマシテ熱心ニ希望サレ、國民モ等シク之ヲ希望シタ案デゴザイマス、唯不幸ニシテ國庫剩餘金ガ無カリシ故ヲ以テ、今日マデ其實行スルコトノ機會ヲ得ナカッタノデアリマスガ、幸ニモ此處ニ五六千萬圓ノ國庫剩餘金ヲ得マシタ今日ニ於テハ、一面之ニ依ッテ國庫ノ改善ヲ計リ、大藏證券ノ濫發ヲ防ギ、民間金融ノ壓迫ヲ防ギ、而シテ納稅者ニハ殆ド減稅同様ノ便利ヲ與ヘヤウト云フ趣意カラ出テ居ル、唯今委員長ノ報告ニ依リマスルト、此案ガ無クモ大藏證券ノ發行ヲ五千萬圓ニ止ムト斯様ニ政府當局者モ言ハレ、委員長ノ屬セラレル政友會諸君モ御同様ノ意見デアルト云フ御話デゴザイマス、是ハ私モ委員會ニ於キマシテ諸君ト意見ヲ交換シマシタガ、政府ノ今日ノ財政計畫ニ依リマシテ、一方ニ産業獎勵基金若クハ艦艇水雷基金ト云フ一ツノ基金制度ヲ以チマシテ、唯今一般國庫金ヲ以テ在外ニ持ッテ居ル正貨ノ働キヲナサシムル場合ニ於テ、初メテ大藏證券ガ五千萬圓ニ減ズルト云フ財政計畫デゴザイマス、故ニ吾々ハ此案ハ唯今委員長報告ノ通り、剩餘金ガアレバ成ベク之ヲヤリタイガ、本年ハ既ニ剩餘金ガ他ノ用途ニ使ヒ盡シテアルガ故ヲ以テ、他日剩餘金ノ出ルマデ此案ヲ延バシタイト云フ御意見ハ一應御尤ニ考ヘマス、ソレト同時ニ吾々モ亦一ツノ希望ガアル、其希望ハ吾々ハ此剩餘金ヲ納期繰下ニ用ヤウト

致シマシタガ、既ニ其剩餘金ガ産業獎勵基金ノ方ニ振換ッタ今日ニ於テハ、責任アル吾々ノ意見トシテハ剩餘金ノナイ今日ノ場合ニ於テ納期繰下ノ爲ニ三千万圓用非ルト云フノハ、稍空論ニ屬シマスカラ、吾々ハ斯様ナ議論ハ致シマセヌ、唯産業獎勵基金ナルモノハ世ノ中ニハ或ハ之ヲ可トスル者アリ、或ハ否トスル者アリ、マダ議論ハ一定シテ居ラヌノミナラス、私ハ他ノ一院ノ——貴族院ノ決議ヲ今日カラ豫想スルノハ、吾々ノ言動トシテハ慎ムベキ筈デアリマスガ、此産業獎勵基金制度ナルモノハ果シテ貴族院ニ於テ通過スルカ否ヤハマダ判然致シマセヌ、若シ貴族院ニ於テ不幸ニシテ是ガ可決セラレヌ場合ニハ、此所ニ四千六百萬圓ト云フ剩餘金ガ生ジマシテ其剩餘金ハ即チ國民多年ノ希望タルコロノ納期繰下ニ用非ルトコガ出來マスカラ、私ハ諸君ガ虛心坦懷ニ此案ノ討論ハ貴族院ニ於ケル産業獎勵基金問題ノ確定スルマデ、延期サル、動議ヲ此處ニ提出致シマシテ、諸君ノ贊成ヲ求メマス

井上角五郎君ノ演説

諸君、酒造稅法中改正法律案、國民黨カラ又同志會カラ其納期繰下ニ付キマシテ出テ居ルトコロノ兩案ニ對シマシテ、茲ニ反對ノ趣意ヲ述ベル積リデゴザイマス、國民黨ハ吾々ト財政ノ整理ニ付キマシテ根柢カラ其意見ヲ異ニスルモノデアアル、大削減、サウシテ大減稅、是ガ國民黨ノ意見デアッテ、私ハ茲ニ國民黨一流ノ理想ト致シマシテ深ク其理想ニ對シテ論及スルモノデナク、要スルニ國民黨ノ爲ニ他年一日其理想ガ實現セラレル日ノアルコトヲ希望シテ置クニ過ギマセヌ、同志會ニ至リマシテハ吾々ト財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル上ニ於キマシテ、即チ一致シタル點ガアルノデアアル、此同志會カラ出ル所ノ納期繰下ノ問題ニ付キマシテハ、諸君ノ靜聽ヲ煩シテ少シク詳細ニ申上ゲザルヲ得ナイ、況ヤ唯今町田君ガ此處ニ登壇セラレテ如何ナル議論ヲサレタカ、此案ハ出シテハ見タガ最早今日デハ立遅レデアルカラ維持シヤウカ、ドウモ過日來ノ議事ヲ重テ結果ニ依ッテハ維持ハムヅカシイ、ケレドモ他ノ一院ニ於テドノヤウニナルカモ知レヌ時ノ豫備ニ取ッテ置カウカ、斯様ナル無定見ナル院議其モノヲ考ヘザルトコロノ議論ガ出ルト云フ場

合ニ於テハ、私ハ少シク詳細ニ茲ニ申述ベテ見タイト思フノデアリマス、諸君行政整理ノ結果剩餘金ガ出來タ、其剩餘ノ金額ヲ以テ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルト云フコトニシヤウト云フノハ、即チ大正三年度ノ歳計案ノ方針デアッタ、或ハ國庫豫備金ヲ増加シ或ハ治水費ノ繰入ヲ増加シ、又預金部カラノ繰入ヲ廢止スル、是等ノコトハ暫ラク論外ニ措キマシテ、即チ專賣局收入計算ノ打切り九百七十萬圓、ソレニ特別會計資金ノ返償六千四百萬圓、之ヲ合計シマスト七千四百三十萬圓ヲ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルト云フコトニ用ルノガ三年度ノ歳計案ノ方針デアッタ、吾々ハ全體ニ於テ是ニ賛成ヲ表シマシタ、但特別會計資金ノ返償六千四百萬圓ハ之ヲ千七百八十萬圓ニ止メテ、残り四千六百萬圓ハ之ヲ産業獎勵ノ基金ニ充ツルト云フノガ、政府ノ原案ニ對シテ我友會ノ意見ガ異ナルトコロデアッタ、但方針ハ違ハナイ、トコロガ同志會ハ是ニ對シテ如何ナル考ヲ有ッタカト云ヘバ、專賣局收入計算ノ打切りハ同意スル、特別會計資金ノ返償ハ千七百八十萬圓ニ止メルト云フコトガ、政友會ト同一意見ヲ持チ、サウシテ産業獎勵基金四千六百萬圓ニ反對シテ地租ノ納期、酒稅ノ納期、是等納期ヲ繰下ゲルガタメニ二千四百萬圓ヲ用弗ルト云フノガ、是ガ同志會ノ議論デアアル吾々ノ議論ト一致スル點ガアルト云フノハ即チ是デアッテ、サウシテ、又是ガ吾々ノ議論ト甚ダシク一致シテ居ナイノデアアル、元來同志會ノ諸君ハ流石ニ財政ノコトニ通ズル人モ多ク、是マデ毎回議會ニ於テ國庫ノ金融ヲ改善シナケレバナラヌ、大藏證券ノ發行ヲ制限シナケレバナラヌト云フコトヲ、實ニ御熱心ニ、私ハ之ヲ御熱心ト云フヨリモ縱シ黨派ハ異ナルトモ、之ニ對シテ賞賛ノ辭ヲ用ユルニ吝ナラヌノデアリマス、サウシテ豫算委員會ニ於テ或ハ實業獎勵基金ノ委員會ニ於テ、町田君其他ヨリ度々其必要ヲ論ゼラレ、本日モ稍度々ノ議論ヲ繰返サレテ論ゼラレタトコロノコトガ私ノ耳ニ入ッタノデアアル、其議論ニハ確ニ價値ノアルモノデアアル、私共謹聽シタノデアアル、政友會ノヤルモ、政友會ノヤルガ如クト云フノハ取りモ直サズ政府ノ原案ノ趣意ノ如ク、財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルモ、同志會ノ諸君ノ考ノ如クヤルモ、其結果ハ即チ國庫ノ金融ヲ改善スル、大藏證券ノ發行ヲ制限スルト云フコトハ確ニ同一デアアル、能ク其目的ヲ達スルコトガ出來ル、何方ニシテモ出來ルト云フコトニ私ハ考ヘルノデアアル、此點

ニ於テ一致シマス、ケレドモ更ニ一步進ンデ國家非常ノ場合ノ準備ノタメニ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニシテ置クト云フ、此國家非常ノ場合ノ準備ト云フコトハ我黨ノ意見ニ於テ始メテ之ヲ云フコトヲ得ベク、同志會ノ意見ニ是ガ全クナイノデアアル、諸君、國家非常ノ場合ニ備フルニ相當ノ準備ガ無クテハナラヌト云フコトハ、過日本院ニ於テ有森新吉君ガ國民黨ヲ代表シテ、獨逸其他ノ例ヲ擧ゲテ詳シク之ヲ述べラレタ、其時ノ有森君ノ態度ハ他人心アリ我之ヲ忖度スト云ハヌバカリノ態度ヲ以テ御説明ニナッタノデアアルカラ、私ハ國家非常ノ場合ノ準備ノ必要ヲ論ズルコトヲ止メテ、有森君ノ其時ノ御演說ヲ拜借シテ、準備ノ必要ガ如何ニ必要ナルカハ諸君ニ御了解ヲ願ヒタイノデアアル、諸君惜ムラクハ此一點ニ於テ同志會ハ注意ヲ御拂ヒニナラヌノデアアルカ、但又納期繰下ト云フ言葉ガ何トナク町田君ノ言ハル、ガ如ク院ノ内外ニ聞ヘガ宜イカラ其方ニナサツタノカト云フコトハ、實ニ私ノ判斷ニ苦シムトコロデアアル、茲ニ私ハ序ナガラニ諸君ニ一言スルコトヲ御許ヲ願ヒタイコトガアル、ソレハ何デアアル、過日町田君ハ産業獎勵基金ニ對シテ反對ノ趣意ヲ演說セラル、時ニ、斯様ニ四千六百萬圓ヲ積ンデ、ソレヲ在外正貨ニ所持スルト云フコトニナッタトコロガ、トテモ國庫ノ收入ハ殖ヘナイゾ、即チ一年二百萬圓内外ノ金ヲ産業獎勵資金ニ用ウルナラバ、ソレダケ國庫一般會計ノ收入ガ減ズルノデアアルト云フ演說ヲサレタ、其筆記ハ茲ニ斯様ニ書イテアル「決算報告ヲ見マシタナラバ、此國庫金ヲ運用シテ在外正貨ヲ維持スルガタメニ年々生ジテ居ルトコロノ利息ハ二百五十萬乃至三百萬圓ニ上ツテ居ルト思フ此利息ハ現ニ一般ノ豫算ノ上ニ收入トシテ入ッテ居ル利子デアリマス決シテ新ニ生ズベキ利子ハナインデアリマス」ト書イテアリマス、其通りデス、少シモ違ハヌ、併シ新ニ四千六百萬圓ヲ積ンダナラバ、積ンダ金ノ利子ハ其外ニアルト云フコトハ何トシテモ御否認ナサル譯ニハ往カナイ此様ナ譯デアリマシテ、産業獎勵基金ハ確カニ相當ノ利子ヲ生ジテ能ク産業獎勵ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルノデアアル、サウシマシテ國家萬一ノ場合ノ非常ニ備ヘルコトガ出來ルノデアアル、且ツ左様ニスレバ大藏證券ノ制限モ出來ルノデアアル、國庫ノ金融ハ酒稅、地租ノ納期ヲ繰下ゲタヨリモヨリ多ク金融ハ安全ニナルノデアアル、私ハ町田君ノ如キ財政ニ通ジタル御方ニモ尙且

ツ免カレ難キハ所謂智者ノ一得智者ノ一失、實ニ同君ノタメニ之ヲ惜マザルヲ得ナイノデアアル
 兎モ角モ豫算會議ニ於キマシテ——産業獎勵基金ノ特別會議ニ於キマシテ、最早同志會ノ提案
 ナル財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ案ハ潰レテサウシテ吾々ノ主張スルモノガ成立シテ居ルノデア
 ル、本日此兩案ヲ否決スルト云フノハ全ク豫定ノ行動ニ過ギナイノデアアルト云フコトハ、御了解
 ニナルベキコトデヤラウト思フ、加之酒造業者其者ノ利害ノ上カラ考ヘテ大ニ研究シナケレバ
 ナラヌトコロノ點ガアルノデアアル、酒稅ナルモノハ初メ定メタ時ハ餘リ高クナカッタ、段々トナ
 カノ速力ヲ以テ今ヤ一石二十圓ト云フガ如キ重キ稅ニナツテ居ルノデアアル、從テ其間當業
 者ヨリ、及其他ヨリイロノ注文ガ是ニ對シテ出タ、第一ガ即チ滓引ケト云フノデアアル、第二
 ガ納期ノ改正デアアル、第三ガ即チ貯藏減リ、此三ツニ付テノ長イ間ノ議論ガアリマシテ、營業者
 ハ要求シテ居ルノデアアル、吾々政友會ニ於キマシテハ、此點ニ付テ年々研究ニ研究ヲ重キテ居
 ル、殊ニ本期議會ノ如キハ相當ニ各種ノ減稅ヲ行ッタノデアアルカラ、又此點ニ付テハ研究ヲ致シ
 テ居ルノデアアル、第一ノ滓引ト稱スルノハ、滓引減量ハ丁度酒稅ガ段々ト高クナツテ一石十七圓
 ニナリマシタ時ニ、百分ノ一ダケ滓引減量ヲスルト云フコトニ極ツテ居リマス、是ハ既ニ過ギ去
 タ問題デアアル、第二ノ納期線下ト云フ問題ハドノヤウニナツテ居ルカト言ヒマスルト、元來明治
 十七年ニハ四月、九月ニ酒稅ヲ拂ツテ居ッタ、ソレガ十三年ニ改正セラレ、二十年ニ改正セラレ、二
 十三年ニ改正セラレ、二十九年ニ改正セラレタノハ七月九月一月三月ト斯ウナツテ居ル、三月ニ
 酒稅ヲ取ルト云フコトガ始マッタノハ二十九年デアリマス、此三月ニ酒稅ヲ取ルト云フコトガ始
 マッタ時ノ衆議院ニ於テノ議論ハ當時此——其席ニ在ラシヤッタ御方ガアルナラバ願クバ回
 顧セラレタノ、即チ私ガ承知シテ居ルトコロデ言ヘバ、凡ソ酒ト云フモノハソレハイロノ造
 リ方モアル、一口ニハ言ヘナイケレドモ先ヅ十中八九——十中八九マデハ十月新米ノ——新ラ
 シキ米ノ出始めカラ造リ上ゲテ、十一月十二月一月二月三月ト云フ是ダケニ造リ上ゲテ、サウシ
 アルカラ、酒屋ガ酒ヲ賣ツテ既ニ買人ノ手ニ酒ヲ渡シテシマフノハ、大概二月遅クモ三月ニハ終

ルノデアアルカラ、二月迄延ベテ與レバ酒屋ハ非常ニ仕合セデアルト云フノガ、二十九年ニ納期ノ
 終ヒラ三月ニシタ原因デアリマス、其後ニナツテ尙三十二年ニモ改正シマシテ、此時ノ改正ハ七
 月、十月、二月、三月ト改正ニナツテ居リマス、此年度ノモノハ最初ハ四月、九月ニ取ツテ居
 ノガ今日ハ最終ヲ三月ニスルノガ、トノ改正ノ結果酒稅ノ現狀デアアル、若シ此三月ヲ更ニ線下
 ゲルト云フコトハ、最早租稅ヲ取立テ其性質ノ上カラ線下ゲルト云フ言葉ハ言ヘナイノデ、其
 年度ノモノヲ——四月、九月ニ取ツテ居ッタモノヲ年度ノ最終ノ三月迄取ルコトニシタノデア
 カラ、之ヲ線下ゲルト云ヘバ取モ直サズ酒造稅ノ一期分ヲ免稅スルト云フコトニナルノデア
 是ニ反シマシテ貯藏減量ナルモノハドノヤウナ有様デアアルカ、即チ第三ニ論ズベキモノハドノ
 ヤウナモノデアアルカト云ヘバ、是ハ大概諸君モ御承知デアリマセウガ、酒造業者ニモ巧拙ガア
 テ上手ナ者モアリ下手ナ者モアリ、又酒ノ性質ニモ善惡ガアツテ一定スルコトハ出來マセケレ
 ドモ、先ツ均ラシ火入減リ、其他貯藏シテ居ルガ爲メニ段々ト酒ノ分量ノ減リマスノハ百分ノ
 三、是ガ先ヅ通例、多キハ百分ノ五減ルノデアアル、酒屋ガ酒ヲ造ツテ之ヲ賣出サウトスル時ニ一石
 二十圓ノ稅ヲ掛ケラレル、例ヘバ米ヲ一石仕入マシテ酒ガ一石五斗出來ル、左様ナ見込デ一石ノ
 米ヲ仕入レタニ對シテ、酒ガ一石五斗出來ルカラト云フノデ三十圓ノ稅ヲ掛ケラレル、貯藏減リ
 ノタメニ是ガ一石五斗ニナル、或ハ其前後ニナツテ來テ全ク稅ヲ掛ケラレタ其酒其モノハナイ、
 ソレヲ相變ラズ取ラレテ居ルノハ甚ダ困ルカラ之ヲ改正シテ貫ヒタイト云フコトハ長年ノ懸案
 デアリマスガ、私ハ此方ハ餘程道理ガアル、ソレノミナラズ納期ノ改正、貯藏減量ノタメニ稅ヲ
 割引キスルト云フコトノ利害ヲ一ツ考ヘテ御覽ナサイ、納期ヲ改正スルノハ成程先キニモ言フ
 ガ如ク、酒ノ仕入ハ十月、十一月、十二月、一月、二月、三月ト云フ月デアアルカラ、其一、二、三月ノ
 中ニ稅ヲ取ラレルト云フコトハ、仕入ノ金ト兩方ニナツテ來ルカラ苦シイト云フコトハ有ラレ
 ル、ナニ出スモノハ何デモ延ベルガ宜イ、延ベルコトノ利益ハ認メラレル、ケレドモ之ヲ金ノ上
 デ計算シマスレバ酒稅ノ納期ヲ述ベルノガ二千二百萬圓——二千二百萬圓ノ假リ二月一割ノ利
 子、言換ヘレバ年一割二分ノ高利ヲ拂フトシタトコロデ、一箇月延ベルト云フコトガ二十二萬圓

ニ過ギナイ、全國ノ酒屋一萬四千ノ受ケル所ノ金錢上ノ利益カラ云ヘバ二十二萬圓ニ過ギナイ、之ニ反シテ貯藏減量ニ對シテノ割引ハ百分ノ一割引スルトスレバ是ガ九十萬圓、百分ノ二割引スルトスレバ是ガ百八十萬圓、若シ全國デ貯藏減量ハ均シ百分ノ三位ニ當ツテ居ルト云フ、ソレヲ全部割引ヲスルトスレバ二百七十萬圓、唯一年一度限リ二千二百萬圓ノ金ヲ一箇月延ベラレタ利益ト、斯様ニ有リモシナイト云フモノニ向ツテ酒ノ稅ヲ拂ツテ居ルト云フ、此稍稱シテ不當ト云フベキノヲ免レルノガ、百分ノ一減ゼラレルト九十萬圓デアルト云フト、其損其得ハ當業者ガ能ク之ヲ知ルコトデアリマス、斯様ニ論ジ來レバ、國庫ノ財政ヲ鞏固ニスルトスル問題ハ姑ク外ニ措キマシテ、酒稅ノ改正ト云フ問題ニ付テ研究スベキモノガ必ズシモ納期ノ繰下ニ限ラナイト云フコトハ、自ラ御了解ニナルコト、思フ、本年ハ大正三年度ノ歲計案ニ依ツテ、財政ノ基礎ハ兎モ角モ鞏固ニセラレマシタ、尙併セテ各種ノ減稅其他ノモノヲヤリマシタ、殊ニ地租ノ如キハ些少ナガラモ之ヲ減額シマシタカラ、地租納期ノ改正ニ付テ之ヲ否決スルノハ其納稅者ノ諦メモ付クデアラウ、酒稅其モノニ付テハ各種ノ減稅ヲ爲シタニモ拘ラズ、何等其恩典ヲ受クルコトハ出來ナイト云フコトハ、多少當業者ニ氣ノ毒ナコトデアアルケレドモ、是ハ國家ノ事必ズシモ其一部分ノ議論ノミヲ聞クベキデナク、一部分ノ有様ノミヲ考ヘベキデナク、廣ク全國ノ有様ヲ考ヘ、廣ク全體ノ當業者ノ状態ヲ調べテ、須ク最モ苦痛トスルモノヨリ先キニ之ヲ除カナケレバナラヌカラ、酒稅ニ對シテ何等此機會ニスルコトノナカッタノハ、私共ニ於テモ甚タ氣ノ毒ニモ思ヒ、遺憾ニモ感ズルノデアリマスケレドモ先キニモ言フガ如ク、我政友會ニ於テモ相當ニ研究シテ居ルノデアアル、大正四年度ノ歲計案ハ果シテ如何ナル形ニ於テ現レ來ルデアラウカ、政府ハ今ヤ行政整理ハ一段落ヲ告ゲタト云フケレドモ、豫算委員會ニ於テ度々尙ホ遣レルダケハ遣ルト云ツテ居ルノデアアルカラ、當業者モ此點ニ付テハ了解スル所アツテ然ルベキデアラウト思フ、兎モ角モ行政整理ヲ爲シタル第一ノ手段トシテ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトハ大切デアアル、財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルガ大切デアレバ、吾々ハ政府案ノ意思ヲ贊成シテ、我政友會ノ意見ヲ今ヤ行ハントシテ居ルノデアアル、是ダケノ事柄ハ町田君ノ所謂他ノ一院ニ

於テモ自ラ了解セラレルコトデアツテ、殊ニ他ノ一院ニ於テハ其人多ク、能ク財政各般ノ事ニ通ジタ人ガ多クテ、且ハ甚ダ冷靜ニ唯國一國ト云フ觀念ヲ持ツテ居ル人ガ多イノデアアルカラ、私共ノ言ヲ俟タズトモ勿論了解セラレテ居ルコトデアアルト思ヒマスカラ、御遠慮ナク一私共ハ遠慮セズシテ本案ヲ否決シテ然ルベキデアラウト思フ、是ダケノコトヲ申上ゲテ置キマス

高木正年君ノ演說

私ハ極ク簡單ニ井上君ノ御演說ニ對シテ御答ヲ致シテ提出案ノ維持ヲ致シテ置クノデアリマス井上君ガ長イ間ノ御演說ガアリマシタガ、要スルニ井上君ハ酒造稅ノ納期延期ニ反對ナサル苦痛ヲ御訴ヘニナツタノデアリマス、寧ロ此法案ニ反對スル理由ト言ハンヨリハ、反對スル苦痛ヲ縷々御陳辯ニナツタト私ハ承ハッタノデアリマス、私共ガ出シマシタ提案ハ、一昨年當議場ニ黃金井爲造君ヨリ紹介セラレタ政友會諸君ノ提出ノ案ト少シモ違ハヌノデアリマス、此地租ノ納期繰下ハ本年新ニ出タ問題デアリマス、此兩案ガ若シ提出ノ當時ニ於テ此演壇デ論辯ヲ試ミマシタナラバ、井上君ノ御演說ハ今日以上ニ御苦痛デアッタト思ハネバナラヌノデアリマス、唯今幸ニモ井上君等ノタメニ彼產業資金ナルモノ、四千六百萬圓ノ支途ガ確定シタタメニ、此演壇ニ立ツテ酒造稅ノ改正ニ反對ヲ爲サルト云フ理由ヲ發見ナスッタト斯様ニ考ヘネバナラヌ、サリナガラ、我國ノ財政状態ハ斯様ニマデ行詰ツテ居ラヌノデアアルマス、此問題ニ對シマシテ如何ナルコトヲ申スノガ正當デアアルカト云フト、謂ハバ今日ニ於テハ財源論デアアル、納稅ヲ繰下ゲルト云フコトハ政友會ノ諸君モ必ズ反對ハナサラヌノデアリマス、唯不思議ナノハ黃金井爲造君ガ提出セラレタ時モ尙政友會ノ諸君ハ財源ガ無イト云フコトヲ他ノ一方ニ御唱ヘニナツタトコロデアリマス、私共當時三稅撤廢ヲ唱ヘタ時ニ、之ニ反對シタ政友會諸君ノ御說モ其通りデアツテ、其當時ニアツテスラモ酒造稅ノ改正ノ即チ繰下ニ付テ、熱心御主張ニナツタンデス、唯之ヲ爲スト爲サザルトハ所謂手腕ノ如何ニ依ルノデアリマス、此問題ガ提出セラレタトコロノ一月若クハ二月ノ初メニ於テ論議サレタナラバ、剩餘金問題ハ未ダ決セズニアツタノデアリマス、豫算ハ

未だ確定セズニアツタンデアリマス、此時ニ於テ、政友會ノ諸君ノ態度ヲ見タカツタンデアルガ、政友會諸君ノタメニハ幸ヒニモ是等ノ問題ガ決シテ居ル、併シ之ヲ以テ納期ノ繰下ガ出來ナイト云フコトハ、憾ラクハ政友會諸君ノ財政上ニ於ケル御手腕如何疑ハナケレバナラヌデアリマス、現ニ大正二年ノ歳入ノ状態ハドウナツテ居リマス、海關稅ニアツテモ十二月末日ニ於テ既ニ豫算ニ定メタルトコロノ三千七百萬以上ニ超過シテ居ルトコロノ歳入ノアルト云フコトハ、既ニ豫算委員總會デ明カニナツテ居ルデアリマス、一月モ過ギ、二月モ過ギ、三月モ稍半バニ達セントスル今日ニアツテ、關稅ノ上ニ於テモ、一年度ニ於テモ二千萬以上ノ歳入ノ超過シアルト云フコトハ最モ明白々々ノ事實トナツテ居ルデアリマス、其他一般ノ歳入ニ付テモ、所謂官業ノ收入總テノ輕常歳入ノ上ニ於テ一千萬以上ノ増額ガアルト云フコトハ分ツテ居ル、又豫算ノ上ニ付テ不要額ノ多々アルト云フコトモ亦分ツテ居ル、元來此案ハ先刻町田君ノ言ハレタ如ク、財政ノ調節ノタメニ、國家ノ收支ヲ完クスルト云フ意味ニ於テ、第一ニ是等ノ要求ノタメニ此案ノ改正ヲ求ムルノデアアル、第二ハ當業者ヲシテ益、其業務ヲ發展セシムルト云フコトノ利便ヲ圖ルト云フコトガ、第二ノ理由ニナツテ居ルデアアル、國家ノ收支ノコトニ付テハ新タニ之ヲ言フ必要ハナイノデ、當業者ノ便益ト云フコトガ酒造稅ニ於テハ寧ロ稅源涵養デアアル、井上君ハイロ辯明セラレタケレドモ、所謂酒ノ滓糟ノコトノ如キハ、此案ニ反對スル御理由デハナイノデアリマス、若シ滓糟ヲ去ルト云フコトガ酒造稅改正ノ理由デアルト云フナラバ、二讀會ニ於テ之ヲ修正ナサレバ宜シイデアアル、此金額僅カニ二百萬圓、些細ノ金デアリマス、之ヲ修正ナサレバ宜イガ、此問題ヲ擔ギ出シテ何カ此案ノ缺點ノヤツニ仰セラレルノハ、所謂此案ニ反對スル理由ナキニ苦ンデ殊更ニ長キ演說ヲ試ミラレタト私ハ解釋シテ居ルデアリマス、御苦心ノ程實ニ御察シ申上ゲル、斯ル國家ノ財政上ノ調節ノ爲ニ必要ナルモノニ向ツテ反對ヲスルノデアアル、洵ニ御察シ申上ゲル、所謂財政ノ手腕財政ノ眼ノ著ケ所ニ依ツテハ此案ノ通過ハヤサシイノデアアル、地租ノ納期ノコトニ付テハ如何デアリマス、一體農家ガ米ヲ暮ニ穫入レテ之ヲ或適當ナ時期ニ至ツテ納稅ヲシ、且翌年度ノ肥料ノ買入レ其他ヲ便スル上ニ付テハ、之ヲ一時ニ金

ニスルト云フコトハ所謂米價ヲ引下ゲルトコロノ確カナル一原因トナルデアリマス、四十二年ニ米價ガ非常ニ下落シタ、下落シテ米ガ廉シ幾ラ賣ツテモ足りナイカラ、殘ラズ賣ラナケレバナラヌト云フタメニ、益、米價ガ下落シタデアリマス、此ニ於テ稅期ヲ成ルダケ延バシテ、サウシテ此間ニ於テ米ヲ賣ルト云フ季節ノ適當ナル時ヲ選バシメルコトハ、農家ノ經濟ヲ助ケル上ニ於テ頗ル是ハ好キ手段デアリマス、此點ニ於テ地租ノ納期ノ繰下ヲ爲スデアリマス、唯今申上ゲルガ如ク二年度ノ財政ノ状態ガ歳入既ニ超過アリト云フトキニ、若シ政府ガ之ヲ爲スノ心持ガアリマスナラバ、決シテ之ヲ爲スコトノ無理デナイコトハ分ツテ居ル、唯斯様ニ申上ゲマスルト、未ダ二年度ノ歳計ノ收支ハ三月ノ月一杯デハ分ラヌデアリマス、幾許カ此間ニ時間ガナケレバ、餘ルカ餘ラヌカガ決算ガ付カヌデアアルト言ハル、ナラバ、ソレナラバ其間三月一杯、四月ノ初メニ當ツテ彼ノ剩餘金ヨリ定メラレタトコロノ産業資金ヲ、一時二年度中ダケ流用スルコトハ少シモ差支ナイ、産業資金ノ如キモ三年度ニ於テ初メテ費途ノ極マルモノデアリマス、二年度ニ於テ之ヲ使用スルコトハ少シモ——唯ノ剩餘金トヤハリ少シモ性質ガ變ラヌデアリマス、此間ニソレヲスレバ直グ四月ニハ地租ガ這入ツテ來マス、私共ノ案デアリマスルト酒ハ五月、新政黨ノ案ハ酒ハ四月デアリマス、先刻委員長ノ言ハレタ通り、斯様ナコトデアリマスカラ此間ニ左マデムヅカシイ心配モムヅカシイ手數モ要ラナイデアリマス、更ニ政友會ノ諸君ニ申上ゲテ置キマスガ、斯様ニ申上ゲタナラバ二年度ノ歳入ハ左マデ多イト云フコトハ、今日マデ確定シナイカラ無理デアアルト云フ御說デアラナラバ此案ヲ二讀會ヲ開カシメテ、二讀會ニ於テ四十二年度分ヨリ——四十二年度ヨリ實行スルト云フコトヲ四十二年ヨリ實行ナサルト云フコトニ修正スレバ宜シイデアリマス、新政黨ノ諸君モサウ爲サレバ此案ハ宜シイデアリマス、ソレハ即チ二讀會ヲ開イタ上ニ此修正說ヲ御出シニナレバ、此問題ハ何ノ苦痛モナク何ノ故障モナク通過セラレベキ即チ修正案ト思フデアリマス、私共ノ考デハ二年度ヨリ之ヲ實行スルト云フコトハ、財政上ノ手腕ガアリ熱心ガアレバ出來ルト思ヒマスガ、若シヒドク其邊ヲ御心配ニナルナラバ、二讀會ヲ開カシメテ右様ナル修正ヲ御出シニナレバ、此延期案ハ易ス

ト一ツノ確カナル救濟法案トナリ、國家ノ救濟法案トモナルノデアリマス、斯様ニ申上ゲタ
ナラバ井上君ニ御答スルコトモ十分デアリ、且本案ノ維持説トシテモ遺漏ナシト考ヘマスカラ、
極メテ簡單ニ此事ヲ申上ゲマス

武部其文君ノ演説

私ハ委員長ノ報告ニ賛成ヲスル者デアリマス、詰リ地租納期ノ繰下、酒造稅納期ノ繰下ノ此四ツ
ノ案ハ、否決スルト云フ趣意ナノデゴザイマス、先刻來イロ／＼御議論ガゴザイマシタガ、先ヅ
私ハ委員會ニ於ケル此否決シタ事情ヲ簡單ニ申上ゲタイト思フノデアリマス、唯今申シマシタ
此四ツノ案ノ御提出ニナリマシタ理由ハ、先刻町田君ノ御述ベノ通り、第一ハ國庫ノ收支改善
ト云フコトヲ第一ノ目的トシテ居ラル、ノデアリマス、納稅者ノ苦痛ヲ減ズルトカ、若クハ便利
ト云フヤウナコトハ其附ケタリデ、即チ第二ノ理由ニナツテ居ルノデゴザイマス、サウ致シマシ
テモ此委員會ニ於テ町田君ガ専ラ政府委員ニ質問セラレ、又政府委員ノ答フルトコロニ依リ
マズレバ、唯今ニ於テハ、財政ノ既ニ出來、又此豫算ノ上ニ於キマシテモ專賣局益金ノ年度區分ハ
改正セラレ、又種々ノ基金ノ填補モセラル、ト云フコトデアルカラ、町田君ノ御心配ニナルヤウ
ナ大藏省ノ證券ヲ多額ニ發行ヲシテ、民間ノ金融ヲ壓迫スルト云フヤウナ心配ハ、唯今ニ於テ
ハナイ考デアルト云フノデアアル、最モ私共ニ於キマシテモ二年度ノ豫算ニ依ツテ見マズレバ、此
ノ政府委員ノ言フコトハ、相當デアルト存ジマスルノデアルカラ、此ノ第一ノ主意トセラレマス
ル即チ國庫ノ收支改善ト云フ點カラデゴザイマスナラバ、私共ハ此ノ案ハ不必要ト認メテモ
宜イ、現ニ大藏省證券ハ大藏省ノ豫定表ニ依ツテ見マズルニ、發行高ガ二月ニ於テ四千八百萬圓
ト云フコトニナツテ居ルノデアアル、サウ致シマズレバ即チ五千萬圓以內ダガ、尙政府委員ハヨリ
少ク發行シテ之ヲ辨ズルト云ツテ居ルノデアリマス、サウ致シマズレバヤハリ此納期ヲ繰下ゲ
ルト云フヤウナコトヲ致シマシテ、金融ヲ緩和スルト云フコトヲシナクトモ、即チ民間ノ金融ヲ
壓迫スルト云フヤウナ心配ハ、私共ハ今此處ニ於テスル必要ハナカラウト信ズル、併ナガラ第二

ノ理由ト致サレマスル所ノ納稅者ノ便利ト云フコト、是ハ私共モ大イニ同意ヲ表スル所デアリ
マス、之ニ就テハ地租ニ於テハ最モ納期ハ一月二月三月五月トナツテ居リマスケレドモ、是ハ此
ノ時節ハ隨分農家ガ米ヲ賣拂ツテ金ノアル時分デアリマスカラ、縱令毎月納稅ヲシタ所デ左程ノ
苦痛ハ感じナイ、殊ニ地租ニ於テハ七百萬人カラノ大勢ノ人デアルカラ、地租ノ全體ノ額ニ於テ
ハ多ウゴザイマスケレドモ、各家ニトツテハ左程デアナイ、併ナガラ此酒造稅ニ於テハサウデハ
ナイ、即チ先刻井上君モ申サレマシタ如クニ、二月カラ三月マデ續イテ居ル、サウシテ僅ニ十五
六萬人ト云フコトデアリマスカラ、多額ノ稅ヲ少數ノ人ガ月々負擔ヲスルト云フコトハ、餘程當
業者ニモ困難デアアル、從ツテ酒造家ガ是マデ納期ノ繰下ゲヲ訴ヘテ居リマスルノモ此ノ理由ガア
ルノデアアル、又唯今高木君ガ述ベラレマシタ如ク三年以前デゴザイマスルガ、吾々政友會カラモ
酒造稅ノ納期ニ就テハ既ニ發案ヲシテ、即チ此本院ニ於テ可決ニナツタ例モゴザイマス、斯ウ云
フ次第デアルガ故ニ、酒造稅ノ納期ヲ繰下ゲテ酒造家ノ苦痛ヲ減ジ又便利ヲ圖ルト云フコトハ、
ドウシテモ一度ハシナケレバナラヌ事柄デアラウト、委員會ニ於テモ認メタノデアリマス、併ナ
ガラソレガ——唯今高木君モ申サレマシタガ、ソレデアルナラバ大正元年カラト云フ附則ヲ二
年カラ延バシタラドウダラウカト云フコトデアリマスケレドモ、是ハ私共ノ考ニ於キマシテハ、
サウ云フ不確定ノ今政府ニ於テハ——今日ニ於テハ既ニソレ／＼ノ處分ガ出來テ、酒造稅ノ納
期ヲ繰下グルニ充ツル所ノ剩餘金ハナイ、故ニ反對スルノデアルト云フケレドモ、又政府ニ更ニ
尋ネテ見マズレバ、政府ハヤハリ酒造稅ノ納期ノ繰下ト云フコトニハ絶對ニ反對デハナイノデ
アル、即チヤハリ剩餘金デモアリ是ガ出來得ル時デアレバ、ヤルコトハ先ヅ酒造稅ヲ第一トシテ
ヤルト云フコトハ、政府ガ答辯ヲシテ居ル所デアリマスルガ故ニ、私共ハ此意味ニ於テ今日剩餘
金モ無イ所ニ只之ヲ可決ヲ致シマシタ所デ、ツマリ實行ガ不可能ニナルノデアリマスカラ、寧ロ
此實行ヲ早メルガタメニハ、唯今此案ハ否決シテ、來年度ノ議會ニ於テモ尙其時機ガゴザイマ
ズレバ、之ヲ納期ノ繰下ノ提案ヲシテ之ヲ實行スルコトガ得策デアラウト云フ點カラ、委員會ハ
此兩案ヲ否決シタノデアリマス、聊カ其理由ヲ申上ゲテ委員長ノ報告ヲ賛成致シテ置キマス

討論終局シ副議長ハ先ツ採決ノ順序ヲ告ケ院議四案共ニ第二讀會ヲ開カサルニ決シタリ

二七 酒造税法中改正法律案

酒造税法中左ノ通改正ス

第六條中「第四期翌年三月十六日ヨリ同三十一日限」ヲ「第四期翌年五月十六日ヨリ同三十一日限」ニ改ム

附則

本法ハ大正元年十月一日ヨリ同二年九月三十日ニ至ル酒造年度分造石税ヨリ之ヲ適用ス

三年一月三十一日高木正年君外三名提出、二月五日第一讀會ヲ開キ提出者(伊藤英一君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

是ハ酒造税ノ納期繰下ゲデゴザイマシテ、我國テ重要ナル歳入ノ財源ハ酒造デアリマシテ、而モ其酒造家ハ昨年一昨年ニ於キマシテハ二十五圓、二十七圓ノ米ヲ買ッテ造リマシタガ、昨年ハ不幸ニモ大變ニ古酒ガ殘テ居ルヤウナ状態デゴザイマス、然ル故ニ僅カ六十日間繰下ヲ致シマシテ、幾分カ苦痛ヲ救ウテヤリタイト考ヘマス、諸君御賛成ヲ願ヒマス

次テ武富時敏君外一名提出、地租條例中改正法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審

查ノ末本案ヲ否決シ三月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月七日前(二五)、(二六)及後(二八)案ト一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ討論ノ末本案ヲ否決シタリ(前號參看)

二八 地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第十二條第一項第二號中「第三期翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限」ヲ「第三期翌年四月一日ヨリ同四月三十日限」ニ改ム

附則

本法ハ大正二年分地租ヨリ適用ス

三年二月十二日關直彦君外二名提出、同月二十四日第一讀會ヲ開キ提出者(野添宗三君)ハ本案ハ武富君外一名提出地租條例中改正法律案ト内容同一ニシテ提案ノ理由ハ理由書ニ明ナル旨ヲ述フ

(參照)理由書

田租ノ第三納期ヲ繰下ケ國庫收支ノ期日ヲ改メ以テ財政ノ調節ヲ計リ併セテ納稅者ノ苦痛ヲ救濟スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

次テ武富時敏君外一名提出、地租條例中改正法律案外三件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ノ末本案ヲ否決シ三月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月七日前三案ト一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ討論ノ末本案ヲ否決シタリ(二六號參看)

二九 蠶絲業法中改正法律案

蠶絲業法中左ノ通改正ス

第二十七條ノ二 政府ハ第七條ノ規定ニ依ル特別蠶種ニ限リ其ノ検査ヲ行フ但シ検査ニ關スル必要ノ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ大正三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年一月二十七日小西和君外三名提出、同月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者(小西和君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今武藤君カラ蠶絲業法中ノ改正法律案ニ付キマシテ、普通蠶種デアルト特別蠶種デアルト拘ハラズ、全部國庫ニ於テ検査ヲスルコトニ改正ヲシタイト云フ御説明ガゴザイマシタ、私が提出ヲ致シマスルノハ之ト少シ趣ガ違テ居ルデアリマシテ、僅少ナル特別蠶種ニ限テ國庫ニ於テ検査ヲスルヤウニ致シタイト云フデアリマス、ソレデ蠶種検査乃至蠶絲業法改正ノ趣意ニ於

キマシテハ、私ニ於テモ武藤君ノ御考ト少シモ變ラナイデアリマス、其御説明ニ付テモ私が申シタイヨリ以上ノ事ヲ、既ニ武藤君ガ御述ベニナッタデアリマス、所ガ其主意ニ於テハ同ジデアリマスケレドモ、方法ニ於テ聊カ違ッテ居リマスル故ニ、茲ニ其理由ヲ極メテ簡單ニ申上ゲタイト思フデアリマス、申スマデモナク此法律ノ精神ハ、蠶種ノ病毒ヲ無ク致シテ、サウシテ蠶業ノ發達進歩ヲ計ルニアルデアリマス、ケレドモ此法律ノ爲ニ當業者ヲシテ苦痛ヲ訴ヘサセルトカ、或ハ負擔ヲサセルトカ云フヤウナコトハ、出來ルダケ避ケナケレバナラスノデゴザイマスガ、此意味カラ申マシタナラバ武藤君ノ方ノ御考ガ至極結構ナデアリマシテ、私共モ勿論贊成ヲ致シタイトデアリマスケレドモ、一方ニ於テハ國庫ノ方ノ關係、其他諸般ノ比較モ取ラナケレバナラヌデアリマス、詰リ出來ルダケ國庫ノ負擔ヲ輕ク致シテ、而モ之ニ劣ラヌ結果ヲ收ムルヤウニシタナラバ宜カラウト思ヒマスルノガ、本案ヲ提出シタ所以デゴザイマス、ソコデ近年ノ統計ニ依ッテ見マスルト、我が日本全國ニ於テ一箇年ニ製造致シマスルトコロノ普通ノ蠶種、其數ハ凡ソ四百萬枚デアリマス、ソレカラ特別蠶種ノ數ハ凡ソ千五百萬枚ニ上ッテ居ルデアリマス、ソレデ法律ノ上ニ於キマシテハ、蠶種製造人ニ限ッテ特別蠶種ヲ飼育シナケレバナラヌト云フコトヲ規定シテ居ルデアリマシテ、一般ノ養蠶家ハ普通蠶種ヲ用非ヤウト、又特別蠶種ヲ用非ヤウト、ソレハ隨意ノ譯ナノデゴザイマス、其結果ト致シマシテ千五百萬枚ト云フ此夥シキ特別蠶種其ノ大部分ト云フモノハ、製造人ガ自分ノ製造致シタ蠶種ヲ検査ノ證印ニ依ッテ信用ヲ高メテ、販賣ノ手段ニ供スルト云フタメニヤラレテ居ルデアリマス、特別蠶種ノ極メテ僅メテ數ノミガ實際蠶種トシテ用非ラル、狀態ニ居ルデアリマス、即チ千五百萬枚程ニ上リマスルトコロノ中デ、僅ニ四五萬枚位ノ特別蠶種ノミガ蠶種用トシテ用非ラル、ノデアリマシテ、其他ノ大部分ハ悉ク製絲用トシテ飼育セラル、次第デゴザイマス、ソレデアリマシテ蠶種用トシテ飼育致シマスルタメニ、法律上造ラセマストコロノ特別蠶種ハ當然政府ガ検査ヲセナケレバナラヌ性質ノモノデアアル、之ニ反シテ普通製デモ差支ナイ蠶種ソレスラモ、特別蠶種ヲ用非テ居リマスモノニ對シマシテハ、是ハ養蠶家ガ勝手ニ特別蠶種ヲ使フデアリマシテ、製絲家ガ勝手ニ

特別蠶種ヲ製造ヲ致シマスル次第デアリマスカラ、之ニ對シテハ手数料ヲ取りマシテモ別段差支ハナイコト、信ズルノデアリマス、是ガ即チ特別蠶種ダケヲ國費デ検査ヲ致スヤウニ致シタイト云フ譯デゴザイマス、諸蠶病豫防ノ效果ハ之ヲ疑フ人ガ少ナカラヌノデゴザイマス、私共ノ見ルトコロニ依リマシテハ、多少其效果ハアルヤウニ見エマス、又政府ノ人モ頻リニ其效果ヲ唱道ヲ致シマスルガ、其實際ニ於テハ大シタ效果ヲ奏シツ、アル譯デハゴザイマセヌ、又一部ノ當局者ニ於キマシテハ蠶種ノ検査ガ不十分デアアル、病毒ノ歩合ガハッキリ解ッテ居ラヌノデアアル、様ニ申ス者モアリマスルガ、實際ニ於キマシテモ無毒ノ検査ノ判ガアリマスル蠶種デアリナガラ、百分ノ二十位ノ病毒ノゴザイマスルモノガ少ナカラヌヤウナ状態デゴザイマス、斯様ナ譯デアリマシテ、検査ヲ經マシタ蠶種ガ、必ズシモ安心スル譯ニ往カナイト云フヤウナコトニナッテ居リマスノハ、是ハ經費ガ不足デアアル、サウシテ設備ガ不完全デアアル、検査ヲスル人ノ中ニハ宜シキヲ得ナイモノガアル、又検査ノ數ガ餘リ多イノデ手ガ廻リ兼ネルト云フコトモアル、是等ノ原因ガ綜合致シテ居ルノデアリマシテ、或處ノ如キニ至リマシテハ、小學校ノ生徒ヲ狩集メテ臨時ニ検査ノ助手ニ採用ヲ致シテ、或ハ顯微鏡ヲ使ッテ蠶種ヲ成ベク澤山検査ヲ致スコトノ競争ヲスルト云フヤウナコトガ行ハレマスノデ、極メテ微細ナ注意ヲ拂ハナケレバナラヌ事柄ニ對シマシテ、或ハ競争ヲスルトカ、或ハ小學校ノ生徒ヲ用非ルト云フ有様デゴザイマスカラシテ、十分其效果ガ擧ラナイノハ寧ロ理ノ當然デアルト思フノデゴザイマス、故ニ私ノ案ヲ採用セラレマシテ、蠶種用ニ限ッテ十分ノ設備ヲ整へ、立派ナ人ヲ用非テ、周到ノ方法ニ依ッテ検査ヲ致スト云フコトニシマスルト云フト、其源ガ清クナル譯デアリマス、既ニ其源ガ清クナッタラバ、其末ガマタ清クナルコトハ勿論デゴザイマシテ、之ニ依ッテ追々ニ病毒ヲ減少致サセ、終ニハ完全ナ蠶種バカリガ用エラル、ヤウニナッテ、其結果ハ種紙ヲ製造ヲ致シマスル高ガ、自分ノ信用ヲ繋ガンガ爲メニ此蠶病豫防法ノ検査ヲ利用スルナドト云フ必要モナクナッテ參ルコト、思フノデゴザイマス、ソレデ此事ハ事柄ガ國家的ノ事業デアアル、又其仕事ガ極メテ正確ニヤラナケレバナラヌ、性質ノモノデアリマスカラシテ、之ヲ唯今マデノヤウニ府縣ニ託シテ置キマスル

コトハ出來マセヌ、從ッテ是ハ政府デヤラナケレバナラヌ次第デゴザイマスガ、斯ウ致シマスルト云フト、日本全體ノ蠶種ハ極メテ僅カナ數ノ立派ナ特別蠶種ガ用非ラル、外ハ他ハ悉ク普通ノ蠶種ニ變ッテシマフコトガ從前ノヤウナ状態ニナルコト、思ヒマス、サウシテ検査ハ單ニ原種用ニ限ッテ之ヲ行フコトニ致シテ、普通ノ蠶種ニ對シマシテハ、之ヲ検査スル必要ヲ認メナイト云フコトニナルコトヲ疑ハナイノデアリマス、果シテ斯ウナルト致シマスレバ、經費ノ節減ハ期セズシテ出來マシテ、而モ立派ナ效果ヲ奏スルコトヲ疑ハナイノデアリマス、必ズシモ國庫カラ澤山ノ費用ヲ支出致スト云フコトガ、ソレガ效果ノ多イ譯デハゴザイマセヌ、費用ハ少ナク手數ガ少ナウテ、而シテ立派ナ效果ヲ生ズルヤウニ致シタイト云フノガ、本案ヲ提出シタ理由デゴザイマス、ソレデ尙終リニ一言ヲ申シタイノハ、日本ノ蠶種ハ病毒ニ對スル抵抗力ハ強イノデアリマス、之ニ反シテ外國ノ蠶種就中伊太利佛蘭西ノ蠶種ハ、病毒ニ對スル抵抗力ガ極メテ弱イノデアリマス、往年伊太利佛蘭西ノ蠶業ガ非常ニ衰退ヲ致シタト云フノハ、此病毒ノ抵抗力ノ弱イ蠶種ガ、盛ニ病毒ノ壓迫ヲ被ッタ結果デアッタノデゴザイマス、而モ我國ハ今後伊太利佛蘭西ノ蠶種ヲ輸入致シテ、サウシテ我國ノ蠶種ノ改良向上ヲ圖ラナケレバナラヌ必要ガアルコト、信ズルノデアリマス、ソレ故ニ此點カラ考ヘマシテモ、此蠶病ノ豫防ヲ嚴重ニ致シ、サウシテ、病毒ノ絶滅ヲ圖リマスコトハ、極メテ必要ナ事柄デアリマス、即チ病毒ノ絶滅ヲ圖リマス方法ト致シテ、蠶種ニ限ッテ極メテ嚴密ナル検査ヲシタイ、サウシテ其源ヲ清メタイト思ヒマスルノガ、本案ヲ提出スル所以デゴザイマス、ドウソ御賛成アラントコトヲ希望致シマス

次テ武藤金吉君外三名提出、蠶絲業法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

三〇 治水費資金特別會計法廢止法律案

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案

治水費資金特別會計法ハ大正三年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

三年一月二十七日武富時敏君外一君提出、同月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者(武富時敏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

極メテ簡單デアリマスカラ此席カラ申シマス、此治水費ノ資金ヲ特別ノ借入金ナドニ向ッテ、其財源ヲ依頼セズシテ一般會計ノ支辨ニ移シタイト云フノガ本案ノ趣旨デゴザイマス、是ハ恐ラク滿場諸君ノ御賛成アルコト、信ジテ居リマス、極メテ簡單デゴザイマスカラ、ドウゾソレノ手續ヲ踏マレテ速ニ實行ニナルコトヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ否決シ同月二十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長長晴登君ハ委員會ノ經過及結果ヲ報告シ次テ討論ニ移リ川合直次君ハ本案ニ賛成、齋藤珪次君ハ反對ノ演說ヲ爲セリ

長晴登君ノ報告

本案ニ付テハ三回委員會ヲ開キマシテ、第一回ニ於テハ委員長理事ノ互選ヲ行ヒ、第二回目ニ於テハ質問應答ヲ爲シマシテ、第三回ニ於テ討論ヲ爲シテ本案ハ否決スベキモノト決定ヲ致シマシタ、而シテ其第一ニ提案者ニ説明ヲ求メマシタトコロ、提案者ノ趣意デハ治水事業ノ確實ヲ期スルガためニ、此特別會計ヲ廢シテ一般會計ニ依テヤリタイ、其内容ニ至ッテハ如何ナル理由カ

ラシテサウ云フコトヲ要求スルノデアアルカト云フコトヲ承リマシタトコロ、特別會計トシテ借入金ノ如キトコロノ財源ニ依ルト云フコトハ、或ハ預金部ノ都合ナリ或ハ借入方ノ不調等ノタメニ、往々ニシテ治水事業ガ不確實ニナルカラシテ、一般會計カラシテ是等ノモノハ動かヌヤウニ出スヤウニスレバ宜シイノデアアルカラ之ヲ廢シタイ、殊ニ今年ノ如ク剩餘金ノアル場合ニ於テハ其時機デアアル、又本年ノ總豫算ニ於テ三百萬圓足ラズノモノハ借入金ヲ以テ支辨スルコトニナッテ居ルケレドモ、提案者ノ財政計畫ニ依レバ、是等ノ金ハ一般會計カラ出スコトガ出來ルカラシテ、本年ハ此特別會計ヲ廢シタイト云フ説明デアリマシテ、ツマリ要スルニ提案者ノ理由ハ借入金ノ如キ不確實ナル財源ニ依ルコトハイカヌカラシテ、一般會計ニ移スタメニ本案ヲ廢シタイト云フダケノ趣旨デゴザイマシタ、之ニ對スル賛成者ノ意見モ亦同ジコトデ、其他ニハ出テマセヌデシタ、之ニ對スル反對者ノ意見、即チ否決論者ノ意見ハ如何デアアルカト云ヘバ、反對者及賛成者モ共ニ治水事業ハ重要視シテ、其事業ノ變動ナキコトヲ期スルコトハ贊否共ニ同一デアアルガ、唯之ニ反對スル論者ハ治水資金ノ特別會計ト云フモノハ、一般會計ノ變動ニ關係セズシテ、治水ヲ特別會計トシ第一ニ一般會計ヨリシテ出來ルダケノ金ヲ繰入レ、尙ホ足ラヌ所ハ借入金ニモ依ルト云フ道ヲ開キ又治水費ニ剩餘金ガアルナラバ是ハ持越シテ行クト云フトコロノ廣イ特別會計デアアルカラシテ、廣イ意味ニ於テ之ヲ存続スルト云フコトハ、却テ治水事業ノ確實ヲ圖ルモノデアアル、且又此財政ノ確實ト不確實ト云フコトハ、事業ノ確實ト不確實ト云フコトハ比較シテ之ヲ見ナケレバナラヌノデアアル、即チ財政上ニ於テ一般會計カラシテ借入金等ニ依ラズシテ、此事業ヲ遂行スルト云フコトハ總テ同ジ希望ヲ持ッテ居ル次第デアルケレドモ、一般會計ガ之ヲ支辨スルコトノ出來ヌ時ニ於テモ、尙ホ其事業ノ確實ヲ保證スルガ爲ニ借入金ト云フ道ヲ開イテ置ク方ガ、事業ノ上ニハ却テ確實デアルト云フ方ノ說ヨリシテ、本案ヲ否決スルコトニ至リマシタ次第デゴザイマス、又之ニ對シテ政府ハ反對ノ意思ヲ表明致シマシタ、又否決ノ中ニハ本年度ノ豫算ハ既ニ本院ヲ通過シテ貴族院ニ廻ッテ居リマスガ、本年度デハナイ明年度ノ豫算ハ本院ヲ通過シテ既ニ貴族院ニ廻ッテ居リマスガ、其豫算ハヤハリ八十七萬圓ノ借入金ヲ

認メテ此特別會計ヲ認メタ上ニ、豫算ノ編成ガ出來テ居ルノデアアルカラシテ、到底本年ハ廢止スルコトガ出來スト云フコトノ近キ原因モ加ハツテ居ルノデアアリマス、尙又否決スル論者ノ方ヨリシテ政府ニ向ツテ注文シタコトハ、即チ是等ノ治水費ノ如キモノハ一般會計ニ於テ成ベク借入金ニ依ラヌコトニシテ貫ヒタイノミナラズ、政府ガ剩餘金等ノアル場合ニ於テハ、成ベク此治水費ノ資金特別會計ニ繰入レテ貫ヒタイト云フコトヲ注文シタトコロガ、政府ハ其意味ヲ承知シテ置クト云フコトヲ言ハレテアツタ次第デゴザイマス、大體斯ノ如キコトデゴザイマシテ、御質問ガアレバソレニ御答致シマス

川合直次君ノ演説

私ハ本案ヲ維持シ、而シテ委員長ノ報告ニ反對シマスルガタメニ、簡單ニ私ノ所見ヲ申述ベテ置キマス、勿論本案ヲ否決シタイト言ハル、方々モ維持シタイト申シマス私共モ、治水事業ノ竣成ノ一日モ早カラシムコトヲ冀フトコロノ心ト、治水費ノ支辨ノ方法ノ安固ナラムコトヲ望ムノ心ハ同一デアリマス、此同一ノ趣意デアリナガラ、何故ニ本案ヲ議スルニ當ツテ贊否兩派ニ分レタカト申シマスニ、唯今委員長ノ御報告ノ如ク、否決論者ノ御意見ハ特別會計ト云フ名ヲ存シテ、其名ノ下ニ治水費ニ要スルトコロノ財源ノ一部ヲ借入金ヲ以テ支辨シ得ラル、ヤウニシテ置ク方ガ便宜デアアルト云フ御意見デアリマスニ對シテ、私共ハ此治水費ノ如キ事業ニ對シマシテハ借入金ト云フヤウナ不確實ナ財源、即チ國庫ノ都合ニ依ツテ、往々計畫ヲ阻碍セラルルヤウナ不確實ナル財源ニ依ツテ支辨スルト云フコトハ、甚ダ不安デアアル、斯ウ云フ點ニ歸スルノデアリマス、而シテ政府當局モ其吾々ノ趣旨ニ於テハ略、同一デアアルト見エマシテ、大正三年度ノ豫算ニ於キマシテ借入金ニ仰グトコロノモノハ百八十五萬圓ニ切詰メテ居ラレマス、是ハ追テ吾々ノ意見ト同一ノヤウニ特別會計ヲ廢スルヤウナ希望デアアルト付度スルノデアリマス、其違ヒマスル點ハ百八十五萬圓ノ金額ヲ大正三年度ノ豫算中ニ借入金ニ依ラズシテ、之ヲ仰グコトガ出來ルカ否ヤノ問題ニ歸著スルノデアリマス、先程委員長ノ述ベラレマシタ如ク、此提案者ノ立

テラレマシタ財政計畫ニ於キマシテハ、二百萬圓足ラズノ金ノ如キハ十分ニ移シ得ラル、ト云フコトヲ豫算會議ニ於テモ既ニ述ベテ居ラル、次第デゴザイマス、此財政計畫ノ意見ノ相違デゴザイマスカラ、金額ヲ以テスレバ僅々二百萬圓足ラズデアアル、此二百萬圓足ラズヲ大正三年度ニ於テ借入金ニ依テ仰グコトガ出來ヌト云フコトハ、私共ハドウシテモ思フコトガ出來ヌノデアリマス、政府當局ハ其趣意ニ反對シナイト云フナラバ、何故ニ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メテ自ラ發案セラレナイカト云フコトヲ、私ハ怪ムノデアリマス、是ハ私共ノ特別會計廢止ヲ要求シマス重ナル原因デアリマスケレドモ、更ニ考慮シマスルニ現時特別會計ト云フモノ、存置セラレテ居ル數ガ甚ダ多イ、其タメニ一般財政ノ上ニ種々ナル煩雜ヲ招グト云フコトハ何人モ認メテ居ルコトデゴザイマス、勿論鐵道特別會計ノ如キハ若干ノ收利モアリマスカラ、其收利ヲ以テ他ノ支出ニ向ケルト云フカラ、此特別會計ヲ置存スルトハ已ムヲ得ヌコトデアリマセウケレドモ、治水事業ノ如キハ決シテサウデハナイ、デアリマスカラ豫算不可分ノ原則カラ申シマシテモ財政共通ノ便宜カラ申シマシテモ、今日ノ如キ財政上稍餘裕ノアルト認メラレル際ニ於テ、之ヲ廢シテ置ク方ガ都合ガ好カラウト斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、願クハ冷靜ノ判斷ヲ以テ、其名ニ迷ハズ其實ヲ取ラレンコトヲ望ムノデアリマス

齋藤珪次君ノ演説

本員ハ委員長ノ報告ニ贊成ヲ表スルモノデゴザイマス、本案ハ吾々ノ尊敬スル武富君等ノ御提案デアリマシテ、其案ノ精神ニ至ツテハ全ク吾々モ同感デアリマス、即チ財政ニシテ十分ノ餘裕アリ、又治水事業ニシテ此特別會計ヲ廢シテ宜キ程度ニ於テ進ムコトガ出來レバ無論吾々モ贊成ヲ致スモノデアリマス、併ナガラ遺憾ナルカナ今日ノ狀況ニ於テハ、財政ノ點ト及ビ治水事業ノ最モ速成ヲ要スルト云フ點ニ於テ、是ガ御希望ヲ満足セシムルコトニ同意ガシカネルノデアリマス、即チ今日特別會計ヲ設ケズ致シテ一般會計ニ移リマシタナラバ、之ヲ既往ニ鑑ミテドウ云フ結果ヲ來スデアラウカ、即チ明治四十四年度ヨリ大正元年、二年、此三年度ニ於テ是ハ實

行サレテ居リマスルガ、其間ニ於テ明治四十四年度及ビ大正元年度ハ完全ニ此順序ガ參ッタノデアル、併ナガラアトノ大正二年度ニ於テハ財政上ノ結果即チ行政整理ト云フコトノ此進行ノ順序ト致シテ、此費用ノ如キモ三割減ト云フコトニ平均減額ヲ喰ハセラレ、遂ニ治水事業費ノ繰延ヲ實地ニ見ルノ有様デアッタノデアリマス、又昨年ニ於テ大正二年度ノ豫算ヲ議スルニ於テ、本案ノタメニ御心配ニナッテ居ル武富君等ノ豫算ノ査定ニ於テハ、此治水費ヲ一千萬圓減額ヲサレテ居ッタノデアアル、即チ是ハ財政計畫上ドウシテモ同志會ノ諸君モ治水費千三百萬圓餘ヲ千萬圓ダケ減ジナケレバナラヌト云フ實況デアルト云フコトヲ證明シテ居ル次第デアリマス、左様ノ次第デ吾々ガ治水費ガ斯ノ如キ繰延ニ遭遇シ、又斯ノ如キ黨派ニ依テ減額サレントセシコトヲ實ニ悲シムノデアアル、即チ特別會計ノ廢止ヨリモ先以テ治水費ナルモノハ減ズベカラザルモノデアアル、神聖ニシテ之ヲ維持シナケレバナラヌト云フ御觀念ガ第一デアラウト私共ハ信ズルノデアリマス——ソレデ左様ノ次第デアリマスカラ私ハ精神ニ於テハ武富君等ノ御提案ニハ實ニ贊成デゴザイマスガ、今日ノ場合ニ於テハ遺憾ナガラ之ヲ實行スレバ却テ治水費ガ其十分ヲ得ルコトガ出來ナイ、即チ一般財政カラ引受ケタモノダケニ於テハ、此治水ヲ全ウスルコトガ出來ヌト信ズルノデアアル、即チ彼ノ臨時治水會ニ於テ定メマシタコロノ河川六十五箇ノ中、今著手シテ居ルモノガ何箇川デアアルカ、僅カニ二十一カ十二ノ數デアアル、即チ第一期川二十箇川ノ中、十二箇川ベカリ著手サレテ居ル、第二期川ノ四十五箇川ハ、是ヨリ十六年後ニアラザレバ之ニ著手スルコトガ出來ヌノデアアル、此時ニ於テ如何ナル方法ヲ以テモ借入金デアラウガ、借換金デアラウガ金サヘ融通ガツクナラバ此治水ト云フモノハ速成シナケレバナラヌト云フコトハ議論ノ無イコトデアアラウト思フ、故ニ吾々ハ別案トシテ治水ノ年度割增加資金繰入増加、之ニ從ッテ竣工期限短縮ノ建議案ヲ別案トシテ今日提出シテ居ル次第デゴザイマシテ、先ヅ今日ニ於テハ特別會計ヲ以テ此治水資金ヲ縱横ニ繰入レルコトヲ致シテ、而シテ此竣工期限ヲ短縮スルコトガ目下急務ト信ジマスルガ故ニ、残念ナガラ本案ノ否決ヲ望ム次第デゴザイマス

討論終局シ表決ニ及テ院議本案ヲ否決シタリ

三一 粗製樟腦、樟腦油專賣法施行地ニ關スル法律案

明治三十六年法律第五號粗製樟腦、樟腦油專賣法ハ臺灣總督府管内ニ限り之ヲ施行ス

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年一月二十九日の野半介君外一名提出、二月五日第一讀會ヲ開キ提出者(的野半介君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ガ粗製樟腦及樟腦油專賣法實施區域ニ關スル法律案ヲ提出致シマシタ其理由ヲ少々申述ベマス、樟腦ハ諸君ノ御承知ノ如ク從來ハ藥用又ハ蟲除ケノ原料ニ過ギナカッタ位デアッタノガ、此科學工藝ノ進歩ニ連レテ段々用途ガ擴大サレテ、「セルロイド」或ハ護謨ノ原料トシテ世ノ中ニエラク用ヰラレルコト、ナッテ居リマスガ、此原料地ハ先ヅ世界ヲ通ジテ臺灣及南日本ニ限ッテ居ッテ、支那ノ南方ニ、或ハ南洋諸島ニハアルノデアリマスルガ、少々ベカリデアッテ、今世界ノ需要ハ一千萬斤ヲ要スル今日ニ於テ、日本デ九百萬斤ト云フモノヲ產出スルヤウニナッテ居ル、此產出ノ結果、最初臺灣ヲ新領地トシタ時分ニ此品物ヲ以テ臺灣總督府ノ財源トシテ、遂ニ日本内地ノ樟腦ヲ擧ゲテ臺灣ノ犧牲ニ供スルヤウニナッタノハ、明治三十六年デアッタコトハ諸君御承知ノ通りデアアル、此時代ニ於テハ隨分衆議院貴族院共ニヤカマシカッタノデアアル、所ガ所謂臺灣中毒トカ云フ一種ノ毒ニ罹ッテカラ、此議案ハ通過シタモノデアッテ、ソレカラ後今日ニ至ッテハ

段々其當時ト違ッタカラシテ、非常ニ品物ガ殖ユルヤウニナツテカラ、サウシテ此官營事業トシテヤツテ居ルトコロノ仕事ガ甚ダ拙クヤツテ居ル、ニ體樟腦ト云フモノハ水商賣ノ品物デアツテ、投機ガ激シクシテ直段ノ高下ガ激シイ、重ニ歐羅巴亞米利加ヘ始終輸出セラレルモノデアツテカラ、全ク日本デ專賣トシテ居ルトコロノ煙草ヤ或ハ鹽ノ如キハ、全ク性質ガ違ヒマスカラシテ、官吏ノ手加減ニ依ツテ商賣ヲスル——嘘八百ノ掛引ヲ以テカラ世ノ中ヲヤツテ往ケル官吏ノ商賣デハナイ商賣デアアル、ドウシテモ是ハ民業ニ復シテカラ——全ク臺灣ハ總督府ニ委任立法ノ下ニ是ハ專賣デアルノガ當然デアアルガ、内地ニ於テハドウシテモ專賣ヲ離シテカラ民業ニ復スルコトガ當然ト思フ、是ニ付テハナカク様々ナ弊害ガアル、現ニ樟腦專賣ノ結果トシテ非常ナル富ヲ成シテ居ルモノガ、神戸ニ於テ鈴木商店ナドハ是ニ依テエライ富ヲ成シテ居ルガ、九州方面ノ樟腦業者ナドハ之ガタメニ非常ナル悲惨ナ狀況ニ陥ツテ居ルノミナラズ、更ニ林業者ナドト云フ者ハ全ク樟樹ヲ仕立テ爾觀念ガ薄クナツテシマツテ、檜ヤ榎ヲ仕立タイト云フ希望ニナツテシマツテ、日本ノ獨特ノ物産タル樟腦ニ向ツテハ力ヲ盡ス根性ガ薄クナツテカラ、官業ヲ殺イデ民業ニ移スガ當然ノ問題デアラウト思ヒマスカラ、私ハ是ニ付テハ八箇條添ヘテ説明シテ置キマシタカラ、宛ニ角委員會ノ席デ以テ御話シタイト思ヒマスカラ、ドウカ十分御贊同ノ下ニ委員會ニ運バレンコトヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ委員ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ否決シ同月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長中村啓次郎君ハ委員會ノ經過及結果ヲ報告シ次テ討論ニ移リ野半介君ハ本案維持、小林勝民君ハ反對ノ演説ヲ爲セリ

中村啓次郎君ノ報告

粗製樟腦樟腦油專賣法施行地ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、此案ハ内地ニ於ケル樟腦專賣法ノ廢止ヲ求ムルモノデアリマシテ、其主ナル理由ハ粗製樟腦專賣法アルガタメニ、現今ノ歐米市場ニ於テ市價百圓ノ維持ノ出來ルニモ拘ハラズ、八十二圓程度ニ抑留セラレテ居ルト云フコトハ、全ク内地ノ粗製樟腦專賣法アルガタメデアアル、故ニ專賣法ヲ廢止致シタイ、斯様ナル主張ガ此案提出ノ主ナル理由デアリマス、トコロデ委員會多數ノ意見ハ提案者ノ意見ト全ク其所見ヲ異ニ致シテ居リマス、若シモ此專賣法ガ微カセバ、明治三十六年ニ此專賣法ノ施行セラレザリシ以前ノ如ク、内地ノ樟腦ノ當業者ト云フモノハ非常ニ困難ニ陥ルデアラウ、此專賣法ガ施カレマシタルタメニ製品モ極メテ良クナツタノデアリマス、而シテ海外ノ取引ト云フモノモ非常ニ殖ヘタノデアアル、提案者ハ歐米市場ノ今日ノ樟腦ノ價額ハ百圓臺ヲ維持シ得ルト云フコトヲ申シマスルケレドモ、是ハ左様デナイノデアリマス、決シテ百圓臺ナドト云フモノヲ維持シ能ハナイノデアリマス、若シモ百圓臺ナドト云フヤウナ價格引上ゲ策ヲ採リマシタナラバ、之ニ對シマシテ南清方面ノ樟腦ガ澤山出テ來ルノデアリマス、南清方面ノ樟腦ハ八十圓臺ニ市價ヲ調節サレテ居リマスト云フコト、逆モ出テ來ナイノデアリマスルガ、是ガ八十圓臺ヲ通り越シマシテ百圓臺ト云フコトニナレバ、南清ノ各地カラ零細ナ樟腦ガ市場ニ出テ來リマシテ、内地ノ樟腦ハ直チニ壓迫ヲ被ムルト云フコトニナルノデアリマス、他ノ一面ハ人造樟腦ガ出テ參ルノデアリマス「ターペンタイン」原料ト致シマシタル人造樟腦ガ八十圓臺デハ此原料ガ高イ、故ニ八十圓臺位マデハ人造樟腦ガ出テ來ナイケレドモ、八十圓臺ヲ引上ゲテ百圓臺ニナルト云フト、歐米市場ニハ人造樟腦ガ出テ參リマシテ、我國ノ天然樟腦ト云フモノハ全ク市場カラ排斥サレナケレバナラナイ、悲境ニ立ツノデアアル、故ニ寧ロ今日此專賣法ノ存在シテ居ルコトガ樟腦當業者ノ利スルコト頗ル大デアツテ、此法案ガ廢止サレルト云フト寧ロ廢止サレンコトヲ希望致シテ居ル、提案者ノ希望ト云フモノハ却ツテ破壞サレルト云フ運命ニ遭遇スルノデアルト云フコトガ委員會多數ノ意見デアリマス、右様ノ次第デ本案ハ否決スベキモノナリト確定致シタノデアリマス、此段報告致シマス

私ハ今委員長ノ報告セラレタ内地ノ樟腦專賣法ヲ撤廢スルト云フ案ノ提案者デアリマス、元來樟腦ナルモノハ日本ノ特有物産デアツテ、南清地方ニ多少ノ樟腦ガ出來ルガ、世界ノ需要額ハ殆ド一千万斤ニ達シテ居ル、其内九分マデハ日本ノ特有物産ヲ以テ供給シテ居ル、所ガ臺灣ヲ占領シテ以來臺灣ニ樟腦ガ大分澤山アツテ、臺灣總督府ノ財源ノ一トシテ、之ヲ舊政府ノ專賣ノ例ニ依ツテ、臺灣總督府ハ專賣法ヲ三十二年ニ布イタノデアアル、其砌此臺灣ノ樟腦ハ市場ニ出シテ居ル、所ガドウシテモ内地ノ樟腦及南清方面ノ樟腦ガアツテ、十分ニ目的ヲ達スルコトガ出來ヌト云フノデ、ソレデ後藤民政長官ノ如キハ之ニ餘程力ヲ置メテ、臺灣ノ政策トシテ之ヲ用ヒルト云フコトニ努メラレタ譯デアリマス、三十五年ニハ三二五公司ト云フモノデ、福州地方ニ於テ支那ノ樟腦ヲ大分壓迫スルコトニ努メタ、是ハ當時ノ後藤ノ立場トシテ當然ノ仕事デアリマセウガ、是ト同時ニ内地ノ樟腦ヲモ官營ニスルト云フヤウナコトガ非常ナル臺灣總督府ノ主張デアツテ、終ニ三十五年ニ此樟腦專賣法ヲ内地ニ布クト云フコトニナツタ、所ガ不幸ニシテ此時ハ後藤ノ目的通りニ行カズシテ、貴族院デ握リ潰サレタ譯デアアル、ソレカラ三十六年ノ臨時議會デ臨時急要ノ外議スベカラザル短期ノ議會ニ於テ、非常ナル力ヲ置メテ議會ニ持出サレタ結果ガ、是ガ後藤ノ目的通り、即チ臺灣總督府ノ目的通り專賣法ニ推移ッタノデアアル、當時ノ專賣ノ樟腦ノ價格ト云フモノハ殆ド八十圓シタノガ、此專賣法ニ推移ッタ同時ニ公定價格ト云フ名前ヲ以テ五十圓以下ニ買上ゲルト云フ事實ヲ示スヤウニナツタ、是ガ爲メ當業者或ハ樟木ヲ持ツテ居ル者ハ非常ナル迷惑ヲスルヤウニナツタ、此樟腦ハ專ラ九州四國或ハ紀州方面ニ於テ出ルモノデアアル、北日本ニハ出來ナイモノデ南日本ニ産スルモノデアアル、所ガ此結果當業者ハ勿論樟木ヲ持ツテ居ル人ガ非常ナル迷惑ヲシテ、專賣法ノ「賣」ノ字ハ殆ド國家ノ權力ヲ以テ買取ツテヤルト云フ「買」ト云フコトニナル、國家ノ權力ヲ買取ツテ臺灣ノ爲メニ内地ノ當業者ヲ犠牲ニシテ、臺灣ノ奢侈放漫ナル財政ヲ援ケルト云フ一點張りテ掛ツテ來タ所ノ專賣法デアアル、賣ルト云フコトデナクシテ買フト云フコトデアアル、之ヲ今デハ内地デ專賣局ハ賣ルト云フ字ヲ書イテアルケレドモ、事實ハ

買フト云フコトニナツテ居ル、當業者ヲ壓迫シテ買取ラシテ、臺灣總督府ノ所謂奢侈放漫ナル財源トシテ置イテ置クト云フコトニナツテシマッタ、一切ノ樟腦政策ハ國家ノ權力デ内地當業者及樟木ヲ持ツテ居ル人ヲイヂメルト云フ政策デアアル、所ガ此間此委員會ガ開カレテ不幸デアアルカ幸デアアルカ、此委員ノ列坐ノ御方ヲ見ルト悉ク臺灣風空氣ニ打タレタ方ガ多カッタ、臺灣空氣ニ打タレタ方ガ多カッタ同時ニ、小林勝民君ガ此改正案ニ對シテ根本ニ於テハ同意ハスルケレドモ、唯内地一部ノ開放ト云フコトダケニハ同意スルコトハ出來ナイト云フ譯デ、唯一人ノ小林勝民君ノ根本ニ於テ御同意ノ外ハ、他ハ臺灣空氣ニ打タレタ方ガ大分多カッタカラ、内地當業者ノ苦心ト云フモノヲ御存ジナイ、又樟腦ト云フ智識ト云フモノニ缺ケテ居ル世ノ中デアッタカラ、ソレデ全ク此樟腦ト云フモノハ臺灣總督府ノ犠牲ニセラレテ居ルト、一面ニ神戸ノ鈴木商店ガ之ニ向ツテ非常ナル利益ヲ得テ居ル、臺灣總督府ト鈴木商店ニ犠牲ヲ拂ツテ居ル状態デアアルケレドモ、是ハ到底今年ノ議會ニ於テハ委員會ノ決定通りニナツテ諸君ノ御同意ハ如何カト思フ、ケレドモツマリ建議案若クハ法律案トシテ此次ノ議會ニ現ハスト云フコトニ就テハ、殆ド樟腦講座ヲ作ツタヤウナ状態デ、樟腦學ニハ諸君ガソレソレ考ヲ起サレタヤウデアリマスカラ、何レ地方問題トシテ餘程考ヲ置イテ、九州及四國或ハ東海道トカ云フ樟腦ノ出來ル地方ノ人ニハ御考ヲ仰ガナケレバナラヌ問題デアラウト思ヒマス、要スルニ此樟腦問題ト云フモノハ、一部ノ地方ノ問題デナクシテ、世界ニ對スルトコロノ日本特有物産ノ樟腦、此樟腦ガ管ニ神戸ノ鈴木商店臺灣總督府ノ爲ニ犠牲ニナツテ居ルト云フコトヲ諸君ノ頭ニ入レ、バ澤山デアアルカラ、吾々ハ何所マデモ相當ノ機會ニ於テ委員會ノ議論ヲ排斥シテ、諸君ノ御同意アルナラバ唯今ニモ此議案ヲ通過サセテ貰ヒタイノデアアルガ、兎ニ角委員會ニ於テ臺灣臭イ空氣ガ吹イタ故ニ、甚ダ私等ノ意見モ徹底シナカッタ、又同時ニ鈴木商店ト臺灣總督府ニ關係ヲ持ツテ居ル人ガ占メラレテ居ッタト云フコトヲ記憶セラレテ、相成ルベクハ御同意ヲ願ヒマス

小林勝民君ノ演說

諸君、私ハ遺憾ナガラ本案ニハ反對致シマシテ、委員會ニ於テモ其點ヲ言明致シテ置イタノデアリマスガ、併シ委員長ノ報告意見ニハ全部賛成スル譯ニハ行カナイ、委員長ノ報告ノ如ク官營萬能主義、專賣萬能主義ニハ自分ハ反對スル者デアリマス、唯本案ハ此同一國內ニ於テ一方ハ專賣法ヲ維持シテ置イテ、唯内地ダケ之ヲ廢サウト云フコトデアリマスカラシテ、是デハ提案者ノ主旨ガ貫徹シナイ、提案者ノ期セラル、所ガ到底結果ヲ得ラレヌト云フ見地カラ自分ハ之ニ反對スル者デアリマス、確カニ此本案ノ提案者ノ主張サル、如ク、官營ト云フコト專賣ト云フコトノ裏面ニハ弊害ハ多々アルノデアアル、勿論是ガ何モ誇ルベキ臺灣財政ノ獨立ト云フコトハサウ誇張スベキ譯デナカラウト思フ、此長イ間臺灣ガ此樟腦ノ樟林ガ荒廢ニ屬シツ、アルト云フコトハ、確カニ官營ノ責任デアアル、一面カラ見レバ又之ヲ民業ニ移スト云フコトニナツテ、相當ノ取締ラスレバ、國家ハ無論其課税ノ結果カラシテ現在ノ收益ヨリハ大ナル收益ガ茲ニ舉ガルニ相違ナイト云フコトハ、自分ノミナラズ多少其道ニ明ルイ者ハ皆認メテ居ル所デアリマス、唯今日ノ場合ハ不幸ニシテ臺灣ハ吾マガ多年反對スル如ク特別立法ノ下ニ在ル、此特別立法ノ下ニ在ラノデアリマスカラ、直チニ此專賣法全部ヲ廢スルト云フ譯ニイカヌコトニナツテ居リマス、カラシテ是ハ自分ハ已ムヲ得ズ本案ニ反對スルト云フコトヲ茲ニ言明シテ置キマス

討論終局シ表決ニ及テ院議本案ヲ否決シタリ

三二 實用新案法中改正法律案

實用新案法中左ノ通改正ス

第九條 實用新案權ノ存續期間ハ六年トス

前項ノ期間ハ六年間之ヲ延長スルコトヲ得

三年一月三十日伊東知也君外一名提出、二月五日第一讀會ヲ開キ提出者(土方千種君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ極メテ少數ノ人ニ對シマスル保護法案デゴザイマス、本案ニ付テハ理由書ニ最モ詳シク認メテ積リデゴザイマスカラ、極ク簡單ニ申上ケテ置クコトニ致シマス、元來此實用新案中專賣ノ文字ハ除キマシテゴザイマスルガ、特許法、是等ノ保護ヲ受ケル人ニ對シテハ極ク少數ナモノデアツテ、此少數ノ人ハ多クハ或場合ニハ資産ヲ蕩盡シテ、家族ガ流浪スルニ至ルマデ唯考案ヲ費スニ過ギナイノデ、爲ニ世間カラハ殆ド狂人カ、或ハ精神ノ狂ッテハ居ラヌカト云フコトニ常ニ迎ヘラレル位ノコトデ、世ノ中カラハ等閑ニ付セラレ易イ人間デアアル、殆ド忘レラレルヤウナ人間ガ多イノデゴザイマス、而シテ國家ノ法律ガ之ニ對シテ如何ナル方法ヲ以テ新案者ニ對スル、此實用新案ヲ有スル人ニ保護ヲ與ヘテ居ルカト云フコトハ、全ク保護ヲ與ヘラレナイデハナイ、法律ニ據リマスルト三年間ノ特權ヲ有シテ居ル、三年間一ノ專賣權ヲ有シテ居ルヤウニナツテ居ル、併ナガラデス此三年間ト云フモノハ自己ノ考案ヲ世ノ中ニ少シモ洩ラシタナラバ、直チニ他人カラ剽竊セラレル虞ガアルノデゴザイマスルカラ、目的ヲ達スル間發表ハシナイ、而シテ僅ニ目的ヲ達シ得タリトシテ世ノ中ニ發表シテ見ルト、ドウデゴザイマセウカ、今日ノ世ノ中デハ新案ナド云フコトハ輒ク世ノ中ガソレヲ迎ヘナイ、從ッテ資本家モ又之ヲ重要視シナイヤウナ傾キガアル、然ルニ漸ク三年間ノ僅カナ期間ニ於テ、之ヲ世間ニ宜ク信用ヲ得ヤウト云フマデニハ餘程ノ苦心慘憺ヲ要スル、僅ニ資本家ヲ得タリトシテモ遂ニハ好期間ヲ失シテシマフト云フヤウナ關係ニナル、而シテ他ノ專賣法ニ依リマスルト、專賣特許ニ要スル所謂特許權ナルモノニ對シテ、法律ハ二十五年ノ期間ヲ與ヘル——長期ノ場合ニ二十五年マデヲ延バスコトガ出來ル、又此意匠條例ニ依リマシテ僅ニ裝飾品等ノ——裝飾品ニ意匠ヲ加ヘタト云フダケデモ、

尙長期ノ十年ヲ得ルコトガ出來ル、然ルニ此新案特許ハ一ツノ考案、一ツノ發明デゴザイマス、專賣特許ト同ジヤウナ意味ヲ持ッテ居ル、或ル學者ガ言ッタラベ之ヲ第二ノ造物主ダト云フ位ニ賞揚シテ居ル、ソレガドウ云フコトニナルカト云フト、僅ニ延期シテ長期ニ依リマシテ六年ヨリ期間ヲ得ルコトガ出來ナイ、ソレデ本案ニ依リマシテ此新案發見者ニ對シマシテハ、特ニ期間ヲ延期スルト云フコトニ、法案ヲ改正スルコトヲ希望スル譯デアリマス、理由ニ於キマシテハ委シク理由書ニ認メテゴザイマスカラ、是ダケ辯ジテ置キマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ三月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

實用新案法中左ノ通改正ス

第九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長シ更ニ四年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ每件登錄料トシテ第一回ノ延長ニ在リテハ金三十圓第二回ノ延長ニ在リテハ金八十圓ヲ納付スヘシ

同月七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長清水市太郎君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

諸君、實用新案法中改正法律案ノ委員會ノ經過ヲ報告致シマス、本案ハ我國現行法ノ實用新案第九條ニ「實用新案權ノ存續期間ハ三年トス」トアリマシテ、又二項ニ「前項ノ期間ハ三年之ヲ延長スルコトヲ得」トアリマシテ、前後通ジテ六年間ニ過ギナイ、其六年間ハ短キニ失スルノ憾ミガアルカラ之ヲ存續期間ヲ六年トシ、二項ノ三年間延長ヲ更ニ六年間延長スルコトヲ得トシテ、前後通ジテ十二年間ノ期間ヲ與ヘルヤウニシタイト云フ改正案デアリマス、而シテ審議ヲ重ネマシタ結果、修正案ガ提出セラレマシテ其修正案ハ第九條二項ヲ左ノ如ク改ム「前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長シ更ニ四年間之ヲ延長スルコトヲ得」ト致シマシタ、即チ初メノ存續期間ハ三年ト致シテ置キマシテ、第二項ノ三年間延長スルト云フトロヲ三年ト更ニ四年即チ前後通ジテ十年間ト云フコトニ修正ヲ致シマシタ、又第十四條第二項ヲ左ノ如ク改メマス、即チ「實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ每件登錄料トシテ第一回ノ延長ニ在リテハ金三十圓ヲ、二回ノ延長ニ在リテハ金八十圓ヲ納付ストシ」スウ云フコトニ致シマシタ、此修正案ニ依リマスレバ即チ現行法ノ前後通ジテ六年間ハ短キニ失スルト云フ缺點ヲ補ヒ、十箇年間ニナリマス、又餘リ期間ガ長クナッテ實用新案權ト云フモノハ、大ニ有效ナルモノデアルト云フヤウナコトカラ、登錄出願ノ濫出ヲ虞レルト云フヤウナコトカラ、登錄料ヲ手加減致シマシテ、第二回目ノ延長ノ分ハ八十圓ノ登錄料ヲ取ルコトニ致シマシタノデアリマスカラ、此修正案ハ頗ル良イ修正案デゴザイマス、參考ト致シマシテハ我が國ノ現行ノ特許實用新案トモ獨逸ノ母法ニ則ッテ居ルノデアリマス、ソレデ獨逸ノ方デハ特許ニ於テハ十五年、特許延長ヲ更ニ十年間許ス、詰リ前後二十五年間存續ヲ許シテアリマス——イヤソレハ我が國デアリマス、獨逸ニ於テハ十五年、實用新案ノ延長ヲ許サナイノデ、ソレカラ新案ガ六年間デアリマス、獨逸デハ特許ノ十五年、實用新案ノ六年、我が國ニ於テハ十五年ノ特許二十年ノ延長ヲ許シテ、前後二十五年實用新案ガ六年デアリマスカラ、之ヲ比較致シマスルト、獨逸ノ方ハ餘程實用新案ハ長イコトニナッテ居リマス、故ニ母法ノ獨逸法ニ鑑ミマシテモ我國ノ實用新案ノ六年ハ短イ、而シテ更ニ修正案ガ獨逸ニ於テハ現今提出中ニナッテ居ル、修正案ト同ジタト云フコトデアリマス、故ニ現行法ガ既ニ獨逸ノ現行

法ヲ母法ト致シテ居リマスカラ、修正案ニ於キマシテモ獨逸ノ現今提出中ニナツテ居ル所ノ修正案ヲ參考ニ致シマシタノハ、強テ謂ハレノナイコトデアリマス。マイト思ヒマス、ソレデスノ如クニ致シマシテ修正案ニ依リマシテ、實用新案ノ存續期間ガ短キニ失スル憾ミヲ補ヒ、又一ツニハ餘リ濫出ニナルト云フ虞ヲ防グ爲ニ、特許料ニ於テ手加減ヲ致シマシテ、第二回目ノ延長ニ對シテハ八十圓ヲ納付セシムルト云フコトニナリマシタ、此修正案ガ宜シト云フコトデ、政府モ同意ヲ表サレ、滿場一致デ通過ヲ致シマシタ、本案ニ依リマシテ發明ノ獎勵保護ヲ致シ、又將ニ期間ノ盡キントスル所ノ實用新案權ノ期間ヲ繼續致シマシテ、實用新案權所有者ヲシテ安心シテ經營スルコトノ出來ルヤウニスルコトガ出來ルダラウト思ヒマス、此故ニ本案ハ穩健ナル良イ案ト考ヘマス、國民黨カラ提出ニナリマシタ案デアリマスガ、我黨ハ苟クモ穩健ナル良案デアレバ之ヲ採用スルコトニ決シテ吝ナラザルモノデアルト云フ大ニ雅量ヲ以チマシテ、滿場一致ヲ以テ可決致シタ次第デアリマスカラ、願クハ速ニ可決セラレンコトヲ望ミマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告全部ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定シタリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

三三 清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法廢止法律案

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三年一月三十一日守屋此助君提出、二月五日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、唯今日程ニ上ツテ居リマスル清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ト申シマスルモノハ、明治二十九年ニ發布セラレタ同年第八十號ノ法律ゴザイマス、此法律ヲ廢止シタイト云フノガ本案ノ趣意デゴザイマシテ、十年一昔シト申スコトガゴザイマスガ、是ハ二十年程經テ居マスカラ二昔シ以前ノ法律デアアル、サウシテ此法律ガ取締ラントスルトロコノモノハ何デアツカ、ソレカラ此法律ガ出タトキト東亞ノ形勢ハ如何ニ變化シテ居ルカ、斯ウ云フコトヲ簡單ニ申上ゲヤウト思ヒマスルガ、此法律ガ出マシタトキニハ、未ダ東亞ニ朝鮮國ト云フ獨立ノ國ガアツタ、清國ト云フ君主政體ノ國ガアツタ、サウシテ此二十九年ト云フトキハ日清戰爭デ遼東ヲ還附シタ恨ヲ國民ガ含ンデ居ッタトキ、二十九年四月十一日ノ發布ノ法律デアリマスカラ、ソコデ時ノ總理大臣伊藤サン、時ノ外務大臣陸奧サン、是ガ此法律ヲ主トシテ行ハウト思召シタノハ、朝鮮國デアアル、遼東還附ノ恨ヲ持ツテ居ル國民ノ中ニハ、其時分ニ政府ノ手ヲ藉ラナイデ、朝鮮ヲバ第二ト云フノデ、日本ノ領事ガ治外法權ヲ持ツテ居ルトコロノ朝鮮國ニ於テ、普通ノ犯罪事件ナレバ、人ヲ毆打スレバ毆打デ刑法デ罰スル、泥棒ヲスル詐欺取財ヲスル、一切刑事裁判權ヲ領事ガ持ッテ居ルカラ、取締法ハ要ラナイノデアアル、所ガ不穩ノコトヲスル者ニ退去ヲ命ズル——行政處分デ退去ヲ命ズル、是ハ時ノ宜シキヲ制シタ良キ法律デアッタデアリマセウ、二十九年ノ當時ハ——サウシテ其時ニハ初メ陸奧サンノ御發案デ朝鮮國ダケニ用非ル積リデアッタ、日本人ニ退去ヲ命ズル行政處分デアル、所ガ兎ニ角ヤラウト云フコトデアッタガ、朝鮮ダケノ退去ヲ命ジテモ、鴨綠江ヲ越ヘテ安東縣ヲ根據トシテ騒ガレテハ困ル、ソレデハ清國ニモ領事ニ左様ナ日本人ニ退去ヲ命ズル權利ヲ與ヘルト云フノデ、是ガ此法律ガ出來マシタ根本デ、然ルトコロガ朝鮮ノ形勢ハ、云フコトニナリマシテ、領事ガ居ラナクナッタカラ領事ガ此權ヲ行フコトモ——ナクナッタカラ、法律ノ片一方ノモノハモウ藻拔ノ殻、殘ッタ清國此モノニ向ツテ、今日ハ此法律ガドウ云フコトヲシテ居

ルカト云フト、是ガ非常ナ妙ナ適用ニナツテ居ル、初メ法律ヲ拵ヘタ趣意ハ左様デアッタトコロ
 ガ、此法律ニ其地方ノ安寧ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂セシトスル者ニハ、領事ハ一言ノ訊問ヲモシ
 ナイデ、昔ノ保安條例同様ナ事柄ヲバ行政處分デ暗殺的ニ出來ルト云フ法律ダカラ、領事先生ハ
 自分ガ持ッテ居ル手下ノ巡查ノ密告書ニ依ッテ、ドン、之ニ退去ヲ命ゼラル、保安條例ノ退去
 ハ皇城三里ノ外デアルケレドモ、支那デ退去ヲ命ゼラレ——營口デ退去ヲ吩咐ッタ人ハモウ北京
 ニモ、天津ニモ、上海ニモ、南京ニモ居ルコトハ出來ナイ、清國二百二十七方里皆追拂ハレルノ
 デアル、御遠慮ナク——斯ウ云フヤウナコトデ、支那ニ行キマシテ仕事ヲシヤウト云フ者ハ、到
 底領事閣下ノ御意ニ召サナイ者ハ一人ヤ二人三人ハアルノデアアル、領事サンノ御意ニ召サレヌ
 ナラバ宜イガ、巡查サンノ御意ニ召サナイ奴ハ追拂ハレル、斯ウ云フコトデアアルカラ、其仕事ヲ
 シヤウトスル者ハ御役人様ニ寄り附カヌ、觸ラヌ神ニ祟リナシ、斯ウナツテ居ル、ソコデ領事ハ人
 權ヲ保護シテ日本ノ商人ヲ發達サセベキ人デアアルノニ、三井ノ店カ三菱ノ店トカ郵船會社ノ人
 ハ領事館ニ行ッテ舞踏ナドヲスルガ、外ノ者ハ觸ルト危ブナイ、領事サンノ御意ニ召サナイノデ、
 危ブナイナラバ又耐ヘ宜イガ巡查サンモウ少シ進ンデ領事ノ與サンノ氣ニ入ラヌデモ、私共ノ
 友達ナドハ退去ヲサセラレタ、——事實ナンダカラ——諸君奈何ニセン、斯ウ云フコトデ支那ヘ
 ドウセ今出テ行ク者ト申シマスルノハ、サウドウモ公侯伯子男ノ立派ナヤウナ御方々バカリハ
 行キマセヌ、到底サウ云フ方々バカリ待ッテ居ッタナラバ、百年黄河ノ清キヲ俟ッデ、トテモ支那
 ニ向ッテ日本ガ伸ビルコトガ出來ナイ、サウ云フ譯デアリマスカラ、此領事ハ怪シカラス、帝國ノ
 臣民ガ居リマスレバ治外法權ノ國デアッテ裁判權ヲ持ッテゴザルカラ、日本ノ刑法デドウ罰スル
 コトモ出來ル、罰金ヲ取ルコトモ出來ル、是デ取締ッテ行ケバ宜イ、トコロガ諸君、餘程面白イ結
 果ヲ見ルコトガアル、此詐欺取財ヲシタ人ガアル、爰ニ普通ノ裁判的ノ——或ハ此議場デ言フノ
 ハ慎シマネバナラヌ行爲ガアッテ此刑法ニ處セラレタ、此刑法ニ處セラレタ——刑法ニ依ッテ此
 人ハ刑期ガ明ケテ監獄カラ出テ參レバ、上海デモ、天津デモ、南京デモ、跡デチャント業ヲ營ムコ
 トガ出來ル、然ルトコロガ是レデヤラレタ人ハ、モウ上海デイケヌト言ッタナラバ、南京デモ、天

津デモ、營口デモ、奉天デモ居ルコトガ出來ナイ、是レハ餘程重キ制裁ナンダ、餘程重キ制裁ナン
 ダ、刑法ノ罰デヤッタ人間ハ監獄カラ出レバ其支那ノ土地、ドコデモ其土地ニ居ルコトガ出來ル、
 例ヘバ北京デ罰セラレテモ北京監獄ヲ出ルト、營業ハ北京デモ、天津デモ、上海デモ、廣東デモ、
 ドコデモヤレル、然ルニ是レデヤラルレバ、ドコヘデモ行クコトガ出來ナイ、斯ウ云フ怪シカラ
 ヌ法律デアアル、マダ多少申上ゲルコトハゴザイマスガ、此他ノ理由ハ委員會ニ於テ詳細ニ説明致
 シマスカラ、此案ガ成立スル所ノ光榮ヲ與ヘラレンコトヲ御願ヒ致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌六日委員長及理事ノ互選
 ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ否決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出シタルモ院議ニ付スルニ至ラザリキ

三四 土地收用法中改正法律案

土地收用法中左ノ通改正ス

第二條第四號中「軌道、」ノ下ニ「索道、」ヲ、「下水、」ノ下ニ「市場、」ヲ加ヘ、「電氣機、」ヲ「電氣裝
 置、」ニ、「瓦斯燈、」ヲ「瓦斯裝置、」ニ改ム
 第五十五條ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ索道ノ爲空間ヲ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

三五 土地收用法中改正法律案

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案 八百八十三

土地收用法中左ノ通改正ス

第七條中「本法ノ規定ハ」ノ下ニ「公有水面埋立、漁業、」ヲ加フ

(三四)ハ三年二月二日岩本平藏君外二名、(三五)ハ同日漆昌巖君提出、同月五日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(岩本平藏君)、(漆昌巖君)ハ孰レモ其ノ趣旨ヲ辯明セリ

(三四)岩本平藏君ノ演說

諸君、本案ハ三十議會ニ於キマシテハ本院ニ於キマシテハ滿場一致ヲ以テ通過シマシタ所ノ案デアリマス、サウシテ貴族院ニ於キマシテ之ヲ議決スルノ餘日ナイ爲ニ、決議ニ至ラナカタノデアリマス、サウシテ此案ノ改正ノ條文ガ此處ニ書イテアル如ク、極ク簡單ナモノデアリマス、收用法中ノ「第二條第四號中」軌道、」ノ下ニ「索道、」ヲ加ヘ「下水、」ノ下ニ「市場、」ヲ加ヘ「電氣機、」ノ下ニ「電氣裝置」ヲ加ヘ「瓦斯燈」ノ下ニ「瓦斯裝置」ト改メルノデアリマス、サウシテ第五十五條ニ「但シ索道ノ爲空間ヲ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス」斯ウ云フ改正デアリマス、今ヤ運輸機關ト致シマシテ索道ガ各地方大ニ發達シテ居リマスガタメニ、建設ニ當リマシテ土地收用法中ニ認メラレテ居ラヌガタメ、甚ダ不便ヲ感ジテ居ルノデアリマス、夫デ之ヲ加ヘタイト云フコト、夫カラ市場——公設市場モ之ト同様デ甚ダ不便ヲ感ズルコトガ多イノデアリマス、夫カラ先キニ明治三十三年ニ定メラレタル所ノ收用法中ニ、電氣機或ハ瓦斯ト云フ様ナ工合ニ書イテアリマスガ、電氣ノ事業、瓦斯ノ事業モ追々發達致シマシタガタメ、此文字モ電氣裝置瓦斯裝置ト改メル必要ヲ感ジマシタカラ、此改正案ヲ提出シタ譯デアリマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

(三五)漆昌巖君ノ演說

收用法ノ第七條中ニ……「本法ノ規定ハ」ト云フ下ヘ以テ行ッテ「公有水面埋立、漁業、」斯ウ云フコトヲ此八字ヲ加ヘタイ、斯ウ申スノデアリマス、是ダケノ改正デアリマス、而シテ改正ノ理由ハ港灣運河及私設鐵道、其他斯ウ云フ權利ヲ有ッテ居ル者ガ起業スルニ當ッテ、或ハ鐵道計畫者ガ、事業ノ上ニ於テ收用シヤウト思フ場合ニ、準據スヘキ法律ガゴザイマセヌカラ、此改正ノ必要ヲ感ジタノデアリマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

次テ議長指名同一委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末(三四)案ニ修正ヲ加ヘ二月十六日同案ノ報告書ヲ議長ニ提出セリ但シ(三五)案ハ三月五日提出者ヨリノ請求ニ依リ撤回ヲ許可セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

土地收用法中左ノ通改正ス

第二條第四號中「軌道、」ノ下ニ「索道、」ヲ、「下水、」ノ下ニ「市場、」ヲ加ヘ、「電氣機、」ヲ「電氣裝置、」ニ、「瓦斯燈」ヲ「瓦斯裝置」ニ改ム

第五十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス
但シ索道ノ爲空間ヲ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

三月三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長漆昌巖君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

極ク簡單デゴザイマスカラ此處カラ願ヒマス、土地收用法中改正法律案ハ第二條第四號中「軌道」ノ下ニ「索道」ヲ「下水」ノ下ニ「市場」ヲ加ヘ「電氣機」ヲ「電氣裝置」ニ「瓦斯燈」ヲ「瓦斯裝置」ニ改ム、第五十五條ニ左ノ但書ヲ加フ「但シ索道ノ爲空間ヲ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス」斯ウ云フ原案デゴザイマス、是デ但書ヲ修正致シマシタ、ソレハ「空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス」斯ウ云フ修正ヲ加ヘマシテ、ソレカラ政府委員モ贊成デゴザイマシタ、此案ハ昨年本院ヲ通過致シマシテ貴族院ニ於テ議了ニ至ラズシテシマッタ案デアリマス、滿場一致ヲ以テ此通り可決ヲ致シマシテゴザイマスカラ、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ同月十八日可決奏上シ三月三十一日法律第十五號ヲ以テ公布セラル

三六 會計法中改正法律案

會計法中左ノ通改正ス

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

豫備金ヲ以テスルノ外豫算ノ不足ヲ補ヒ又ハ豫算外ニ生シタル費用ニ充ツルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年二月三日武富時敏君外一名提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者(武富時敏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

是ハ會計法ノ第七條ニ新タニ一項ヲ加ヘル改正案デアリマス、此改正ノ條文ハ「豫備金ヲ以テスルノ外豫算ノ不足ヲ補ヒ又ハ豫算外ニ生シタル費用ニ充ツルコトヲ得ス」斯ウ云フ一項ヲ第七條ニ加ヘル改正案デゴザイマスルガ、是ハ從來政府ガ剩餘金ノ責任支出ト稱シテ、政府限リニ豫算ニ支出ヲ認メナイ國庫金ヲ支出シテ居ル、其弊害ヲ防グニアルノデアアル、是ハ議會始テ以來議會ト政府トノ間ニ憲法上ノ爭議ヲ數々惹起シタ問題デゴザイマシテ、今日迄其解決ガ著カズニ居ルノデアリマス、併シ大正三年度ノ豫算ハ既ニ本院ノ決議ヲ經マシテ、豫備金ノ増加並ニ補充費途ノ増加ト云フコトモ既ニ決定シテ居リマラスカラ、此好機會ニ於テ所謂責任支出ト云フ弊害ヲ斷然茲ニ防止シタイト云フ趣意ニ外ナリマセヌ、從來ノ如ク豫備金モ至ッテ少額デアリ、又補充費目ト云フモノモ十分ニ豫算ニ見積ガナカッタ際ニハ、或ハ政府モ已ヲ得ズ責任支出ヲナサナケレバ、豫算ノ實行ガ出來ナイト云フ場合モ無キニシモアラズデゴザイマスケレドモ、今日既ニ豫備金モ五百萬圓増加セラレ、補充費途モ五百餘萬圓ノ増加ヲ見マシタトキニ於テハ、剩餘金ノ支出ト云フコトヲ斷然茲ニ禁止シテ、少シモ政府ノ收支ノ上ニ差支ヲ生ズル理由ガゴザイマセヌ、ソレデ吾々ハ此會計法ノ改正案ヲ提出シタ所以デゴザイマスガ、實ハ豫算委員會杯ニ於キマシテ、屢政府ニ質問ヲシテ、此豫備金ノ増加並ニ補充費途ノ増加ガ決定シタ以上ハ、從來ノ慣行ニナッテ居ル——政府ノ方デハ慣行ニナッテ居ル責任支出ト云フコトハ斷然廢メルノデアアルカト云フコトヲ質問致シマシタガ、大藏大臣ハ斷然之ヲ廢メルトハ答辯ヲ致シマセヌ、成ベクハ此責任支出ト云フコトハ議會ト政府トノ間ニ爭論ヲ惹起ス問題ニナッテ居ルカラ、是ハ出來得ル限リ避ケタイト云フ趣旨ニ依ッテ豫備金モ増加シ、補充費途モ増加シタノデアアルガ、左レバト云フテ一方ノ從來ノ慣行デアアル責任支出ト云フコトヲ否認ハシナイ——否認ハシナイト云フコトヲ答辯シテ居ル、ソレデハドウモ甚ダ道理ニ適ハナイ、豫備金ノ豫算ガ不足デアリ、補充費途ノ豫

算ガ不足デアッテ、責任支出ト云フコトノ萬已ムヲ得ヌ事情ガ生ズルノデアリマスガ、既ニ豫備金ガ増加サレ、補充費途ガ増加サレタ以上ハ、此責任支出ト云フ必要ハ決シテナイ、此上マダ此從來ノ慣行ヲ許シテ置クト云フコトニ致シマスレバ、夫コソ國費ノ濫出底止スルトコロヲ知ラズト云フコトニナルノデアリマスカラ、此好機會ニ於テ此責任支出ト云フコトハ斷然禁止シタイ、即チ憲法第七十條ノ場合ニ依ルノ外ハ、政府ハ議會ノ協贊ヲ經ズシテ國庫金ノ支出ヲ爲スコトヲ得ナイト云フコトニシタイト云フノデアリマス、是ハ黨派ニ依ッテ意見ヲ異ニスベキ問題デハゴザイマセヌ、既ニ一昨年デアアリマシタカ、西園寺内閣ノ時ニ責任支出ノ問題ガ起リマシテ、其當時ノ山本大藏大臣ハ政府ヲ代表シテ責任支出ノ穩當ナラザルコトヲ本議場ニ於テ特ニ言明セラレタコトモアルノデゴザイマスカラ、是ハ即チ議會初ッテ以來議會對政府ノ問題デ、此好機會デ此解決ガ付キマスレバ、初メテ此憲法上ノ爭議ト云フコトガ止ムノデゴザイマスカラ、何レ此改正案ハ委員付託ニデモナリマセウガ、ソレノ審査ノ上願クハ本院ノ全會一致ヲ以テ可決シテ、速ニ法律トナランコトヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ三月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

三七 會計検査院法中改正法律案

會計検査院法中左ノ通改正ス

第十三條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 政府ヨリ帝國議會ニ報告スル官有財産目錄及其ノ増減異動報告書

第十四條ノ二 會計検査院ノ検査官ハ帝國議會ノ要求ニ依リ同議會ニ臨ミ検査ノ成績ニ付意見ヲ陳述スルコトヲ得

三年二月五日高木益太郎君外一名提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ(同月十四日院議ニ付シタルモ提出者ヨリ延期ノ申出アリ之ヲ許可ス)提出者(高木益太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ會計検査院ノ權限ヲ擴張致シマシテ、會計検査院法ノ第十三條ノ會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シトゴザイマス項目ノ第五ト云フモノヲ加ヘマシテ「政府ヨリ帝國議會ニ報告スル官有財産目錄及其ノ増減異動報告書」之ヲ會計検査院ガ検査ヲシテ、検査ヲシタル後ニ議會ニ報告スル順序ニシタイト云フ考デ、此條項ヲ加ヘタイノデアリマス、從來會計検査院ノ検査ハ官有財産其モノ、計算ニ基クモノデアリマセヌ、デ官有財産ノ賣買讓渡、又ハ其利用ノ結果ガ歲出入ノ決算ニ現ハレタル場合、即チ數字ニ現ハレタル場合ニ限ッテ初メテ是ガ當否ヲ審査スル途ガアルダケデアリマス、ソレ故ニ官有財産ヲ無償デ處分ラスル、又無償デ之ヲ獲得スル場合、並ニ高價ナル官有財産ヲ低價ナル民有財産ト交換スル場合ハ、決算ノ上ニ全ク現ハレナイノデアリマス、此故ニ會計検査院ハ如何ナル物件ガ如何ニ處分セラレタリヤ、又其間如何ナル不當事項ノ存在スルヤト云フコトハ、之ヲ知ルノ道ガナイノデアリマス、從ッテ官有財産ノ現狀ヲ検査確定スルコトハ甚ダ困難デアリマスカラ、先ツ第一ニ唯今申上ゲマシタル條項ヲ設ケテ、會計監督上ノ拔ケ道ヲ塞グコトハ最モ必要ト信ジマス、又第二ニハ第十四條ノ二「會計検査院ノ検査官ハ帝國議會ノ要求ニ依リ同議會ニ臨ミ検査ノ成績ニ付意見ヲ陳述スルコトヲ得」ト云フ條文ヲ設ケタイノデアリマス、會計検査院ノ検査ノ成績ニ付攻撃ノ地位ニ居ルトコロノ會計検査院ノ意見ト、防禦ノ地位ニ居ル所ノ政府ノ意見ト各、見解ヲ異ニシマシタ場合ニハ、行政監

督ノ重大ナル任務ヲ持ッテ居ル議會ハ其果シテ原告側ノ言フコトガ正當ナルカ、或ハ被告側ノ言フコトガ正當ナルカト云フコトヲ判斷スルニ當リマシテ、被告側ノ防禦ヲスル政府ノ主張ニ就テハ、國務大臣又ハ政府委員ノ出席シタル口頭辯明ニ依テ一應了解スルコトガ出來マスケレドモ、攻撃側ノ原告ノ地位ニ立ッテ居ル會計検査院ノ決定ニ就テハ、唯一片ノ決算検査報告書ガアルダケデアリマス、夫ダケデハドウモ痒イ所ニ手ガ届カナイヤウナ感シガアルノデアリマスカラ、更ニ會計検査官ヲシテ議會ニ出席セシメテ、議員ハ親シク其意見ヲ聞キ得ル途ヲ聞クト云フコトハ、事相ヲ明白ニシ、最モ慎重ナル審査ヲ遂ゲ得ル次第デアルト信ズルノデアリマス、其最モ必要ナル事例ハ既ニ本年ノ決算委員會ニ、會計検査院ヨリ提出セラレタ所ノ明治四十四年度歳入歳出決算検査報告書ヲ見マスルト、政府ハ豫算ノ豊裕ナルニ乗ジテ不當ナル支拂ヲシテ居ルコトハ最モ澤山アルノデアリマシテ、殊ニ著シイ一例ヲ舉ゲルト、臨時陸軍建築部本部ノ支出ニ係ル五十一萬七千三百八十八圓八十二錢、即チ富士裾野等ノ土地ヲ買收シタル項目ニ於テ、前年ニ於テ既ニ四千四百六十一萬餘坪ヲ買收シテ、其買收ヲシタト云フ點ニ就テハ既ニ豫定ノ面積ニ比シテ五割六分ヲ超過セル用地ノ買上ヲ爲シタルニ拘ラズ、更ニ後年度ニ於テ千三百六十四萬七千餘坪ノ買上ヲ爲シタト云フコトヲ、會計検査院ハ何ト諸君ニ報告シテ居ルカト云フト

本件土地所用面積ノ如キハ計畫上ニ於テ豫見シ得ヘキ事項ナルヲ以テ實施ニ當リ事情ノ變化ニ伴ヒ豫定ニ比シ若干ノ増減ヲ來スハ已ヲ得ストスルモ此ノ如ク多大ノ變更ヲ來スヘキモノニアラス右ハ畢竟豫算ノ豊裕ナルニ乗シ當初豫算ニ定メタル地積ヲ擴大シ若クハ新ニ土地ノ買上ヲナシタルノ結果ト認メサルヲ得ス依テ本件ハ豫算ノ使用宜シキヲ得サルモノニシテ不當ナリトス

ト決定ヲ與ヘテ居リマス、是ハ諸君ガ審査ヲセラレテ居ル一ノ事例デアリマスケレドモ、此ノ如キ事例ハ山ノ如ク産スルノデアリマスカラ、此ニ於テ會計検査院ノ權限ヲ擴張シテ充分ニ政府ノ會計ノ上ニ於テ監督ヲナス途ヲ開クト云フコトハ必要デアルト信ジマスカラ、本案ハ滿場一

致ヲ以テ可決アランコトヲ希望致シマス

次テ武富時敏君外一名提出會計法中改正法律案ノ委員ニ併セ付託スルニ決シ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

三八 國稅徵收法中改正法律案

國稅徵收法中左ノ通改正ス

第五條第二項中「地租ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ千分ノ七其ノ他ノ國稅ニ對シテハ」ヲ削ル

附 則

本法ハ大正三年度分ヨリ之ヲ適用ス

三年二月五日渡邊修君外十名提出、同月十四日第一讀會ヲ開キ提出者(渡邊修君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本案ハ誠ニ簡單明瞭ナル法律案デゴザイマス、即チ現在ハ地租ノ徵收ノ費用ト致シマシテ、國庫ヨリ交付サル、モノガ千分ノ七デアリマス、之ヲ他ノ國稅タル所得稅營業稅ト同様ニ百分ノ四ニ増加シタイト云フ案デアリマス、是ハ是迄建議案トシ又ハ法律案ト致シマシテ屢、本院

ニ提出サレタ所ノモノデアリマスルガ故ニ、殊ニ精シク説明ヲスル必要ハ殆ドナイ位デアリマス、サリナガラ此問題ハ數年來ノ懸案——行キ懸リガアリマスガ故ニ、聊カ説明ヲ加ヘタイト思ヒマス、從來ハ此地租ニ對シマシテハ徵收ノ手数料ト云フモノガ一文モ交付サレナカッタノデアリマス、大藏省ノ考デハ此ノ地租ナルモノハ舊幕時代ヨリノ慣例ガアツテ、所謂百姓ガ御上ヘ黙ッテ上納スルモノデアアル——故ニ之ニサウ云フ慣例ガアル故ニ、之ニ對シテ徵收ノ費用ヲ交付スルノ必要ハナイ、又所得稅、營業稅、賣藥稅等ハ、維新後創設セラレタル所ノ稅法デアアルガ故ニ、此徵收ノ手数料ヲ特ニ交付スルノデアアル、斯ウ云フ議論デアリマシタケレドモ、私共ハ租稅ナルモノハ市町村ガ義務トシテ之ヲ徵收スルモノデアアル、之ニ向ッテハ一切ノ手数料等ハ交付スベキモノデアナイト云フコトデアラナラバ、是ハ一ノ議論トシテ聞クコトガ出來マスルケレドモ、苟モ徵收ノ手数料トシテ交付スル以上ハ、甲ノ國稅ニ厚ク乙ノ國稅ニ薄イト云フ道理ハナイ、又甲ノ國稅ニハ徵收上非常ニ手續ガカ、乙ノ國稅ニハ徵收ノ手續ガソレ程カ、ラナイカラト云フ、即チ手續ノ多少ニ依テ之ヲ區別スルト云フコトデアラナラバ、是モ或ハ一理アルカモ知レヌノデアリマス、サリナガラ御承知ノ通りノ事實ニ於キマシテハ、營業稅ヤ所得稅ヨリモ寧ロ地租ノ徵收ハ手續ガカ、ルノデアリマス故、此點カラ考ヘマシテモ之ヲ區別スルト云フ必要ヲ認メナイデアリマス、斯ウ云フ議論ヲ以テ爭ヒマシタ結果、終ニ政府モ讓歩シマシテ即チ二十七議會デアタト思ヒマス、明治四十四年カラシテ是マデ一文モ無カッタ地租ノ徵收ニ對シマシテ、千分ノ七ノ徵收ノ手数料ヲ交付サル、コトニナッタノデアリマス、其時分ニハ財政ノ都合ガアツテ取敢ヘズ千分ノ七ニシテ置カウ、將來財政ノ都合ノ付キ次第、他ノ國稅同様ニ其徵收ノ手数料増加シヤウト云フコトニナッタノデアリマス、本年ノ如キハ是等ノ財源ハ十分アルモノト吾々ハ認メマスガ故ニ、此案ヲ提出シタノデアリマス、御承知ノ通り營業稅所得稅等ハ都市ニ多ク、地租ハ村落ニ多クデアリマス、故ニ是マデハ都市ハ此營業稅所得稅等ノ國稅ヲ徵收シマス上ニ於キマシテ、多クノ利得ヲ——費用ヲ貰ッテ居タノデアリマス、所ガ村落ハ之ニ反シテ地租ガ多ク故ニ、一向手續ヲ貰ッテ居ナカッタト云フヤウナ不公平ガアルノデアリマス、之ヲ本案ノ如ク改正ヲ

致シマシタナラバ、都市ト其權衡宜シキヲ得ルコトデアルト思ヒマス、唯此案ハ直接ノ減稅デハアリマセヌ、即チ徵收ノ手数料デアリマス、故ニ直接ノ減稅デハアリマセヌケレドモ、此地租ノ徵收ノ手数料ヲ百分ノ四交付サレマスレバ、ソレダケ即チ町村役場ノ費用ガ助カルノデアリマスカラ、即チ間接ニ重イ農民ノ負擔ヲ輕クスルト云フコトニ當ルノデアリマス、ソレ故ニ農民休養ノ點カラ考ヘマシテモ、此改正案ハ最モ必要デアルト信ズルノデアリマス、之ヲ改正致シマスレバ此費用ガ約二百五十萬圓要ルノデアリマス、即チ七千五百萬圓ノ地租ニ對シマシテ既ニ千分ノ七ヲ交付サレテ居ル、其上ニ千分ノ三十三ヲ増スト云フデアリマスカラ、約二百五十萬圓ノ費用ガ要ルノデアリマス、全國約一萬二千ノ市町村ニ割當テマスルト云フト、一町村ニ二百圓餘ト相成ルノデアリマス、誠ニ少額ノ如クデアリマスケレドモ、併シ之ヲ交付致シマスレバ、今申上ゲマシタヤウナ事實デ、村落ガ都會ト共ニ同一ノ利益ヲ得ルト云フコトニ相成リマスガ故ニ、今日ノ場合ニ於テ之ヲ改正スルト云フコトハ、最モ必要デアルト考ヘマス、諸君ニ於キマシテハ必ズ御異論ハナイコト、信ジマスルガ、政府ニ於テモ此際速ニ同意サレマシテ、大正三年度ヨリ實行ノ運ビニ至ランコトヲ偏ニ切望スルノデアリマス

次テ議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ同月十六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ同月二十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

國稅徵收法中左ノ通改正ス

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢

ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

即日議事日程ヲ變更シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長根岸峯太郎君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

諸君、私ハ唯今日程ニ上リマシタ國稅徵收法中改正法律案ニ對スル委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、本案ノ趣旨ハ國稅徵收法第五條ノ二項ニ於テ、市町村ガ徵收スル國稅ニ對シテ交付金ヲナス上ニ於テ、地租ニ對シテハ其徵收金額ノ千分ノ七、其他ノ國稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ト云フコトニナッテ居リマシテ、同ジ國稅ヲ市町村ガ徵收スル上ニ於テ、多大ノ懸隔アルコトハ不公平ノ甚シキモノデアアルガ故ニ、此交付金額ヲ増額致シマシテ、地租ニ對シテモ他ノ國稅同様百分ノ四ヲ交付シテ、一ハ以テ不公平ヲ改メ、一ハ以ッテ市町村ノ收入ヲ増スト云フ、實ニ市町村ニ取ッテハ大ニ歡迎スベキトコロノ最良ノ案デゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ慎重審議ノ結果、第五條ノ二項ヲ「前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス」ト云フコトニ致シマシテ、施行期限ヲ「本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」ト云フコトニ修正シテ、滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、而シテ斯ク修正致シマシタ理由ハ、此提案者ニ於キマシテモ段々攻究致シマシタ結果、單ニ徵收金額ノミニ標準ヲ取ルト云フコトヨリモ、標準ヲ徵收金額ト納稅告知書トニ取ルコトガ一層公平デアアル、一層事實ニ近イ當ヲ得タモノデアアル、其ノ事實ニ見ルモ山間僻地若クハ貧村ノ如キニ至リマスレバ、一錢二錢ト云フ小サナ納稅告知書ヲ發セネバナラヌヤウナモノガ多々アルノデゴザイマス、斯ル村落ニ至リマスルト、單ニ徵收金額ノミニ依テ交付

金ヲ爲スト云フコトデアレバ、徵收費用ヲ償フコトガ出來マセヌノデアリマス、ソレ故ニ此徵收金額ニモ標準ヲ取リ、納稅告知書ニモ標準ヲ取ルナラバ、徵收費用ヲ償ヒ且ツ徵收金ヲ保管送付スルトコロノ責任料ヲモ含ム意味ニナッテ、實ニ完全ノ改正デアルト云フコトカラシテ、斯ウ云フ修正ヲシタノデアリマシテ、政府委員ニ於テモ此點ニ付テハ毫モ異議ハナイノデアリマス、唯政府委員ハ施行期限ヲ他ノ減稅案ハ總テ大正四年度ヨリ實施スルコトニナッテ居ルノニ、獨リ此案ノミ三年度ヨリ實施スルト云フコトニ付テハ、同意ガ出來難イト云フコトデアリマシタ、併ナガラ委員會ハ此案ハ他ノ減稅案トハ其趣ヲ異ニシテ居ルノデアアル、最モ忌ベク嫌フベキトコロノ不公平ト云フコトヲ改正セナケレバナラヌ急務ガアルノデアリマス、又之ヲ實施スル上ニ於テモ、時日ヲ要スルトカ手數ヲ要スルトカ調査ヲ要スルトカ云フヤウナ問題デハナイノデアリマスカラ、是ハ他ノ減稅案ト同年度デナケレバイカヌト云フヤウナ問題デハナイノデアアル、又財源ノ上ニ付テモ政府ガ誠意ヲ以テヤルト云フコトニナレバ、決シテ都合ノ附カヌコトハナイト云フ趣旨デ以ッテ、右ノ通り決定シタ次第デアリマス、ソレデ此結果ハ市町村交付金ノ増額ガ二百三十六萬七千九百三十八圓トナルノデアリマス、ドウカ本會ニ於キマシテモ委員會ノ通り滿場一致ヲ以テ可決確定アラントヲ希望致シマス、ソレカラ是ト同案ガ議員提出第四十八號ヲ以テ出テ居リマシテ付託セラレテアリマスガ、曩ニ決定ノ通りノ内容ノ文面デアリマス故ニ、是ハ審議ヲ要セザルコト、決シマシタ、此段御報告ヲ致シマス

質疑應答ノ後引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ

即日貴族院ニ送付、同院ハ三月二十日可決奏上シ同月三十一日法律第十二號ヲ以テ公布セラル

三九 未成年者飲酒取締ニ關スル法律案

營業上酒類ヲ供給スル者ハ未成年者ニ酒類ヲ飲用セシメ又ハ其ノ自用ニ供スルコトヲ知リテ販

賣若ハ給與スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

三年二月七日根本正君提出、同月十四日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク辯明セリ

諸君、未成年者飲酒取締ニ關スル法律案ノ理由ヲ申述ベタイト思ヒマス、此法文ハ「營業上酒類ヲ供給スル者ハ、未成年者ニ酒類ヲ飲用セシメ又ハ其ノ自用ニ供スルコトヲ知リテ販賣若クハ供給スルコトヲ得ス前項ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス」是ガ法律案デアリマス、本案ハ我帝國ノ後來父トナリ母トナッテ、大ニ我ガ國力ヲ發展スルコトニ付テ大關係ノアル問題デアリマス、第一ニ本案ニ付キマシテ諸君ニ御贊成ヲ得タイノハ、我國ノ青年ハ歐米各國ノ青年ニ對シテ如何ナル缺點アルカト云フコトデアリマス、青年ノ最モ重ンズベキモノハ第一ニ健康デアアル、第二ニハ智識デアリマス、第三ニハ是ヨリ關係スル所ノ經濟デアリマス、殊ニ此酒類ト云フモノハ昔ハ何ヲ以ッテ成ッテ居ッタト云フコトガ能ク分リマセヌデアリマシタ、然ルニ化學ノ開ケマシテ、如何ナルモノガ酒ト云フモノデアアルカト云フコトガ能ク研究サレテ、今日ハ決シテ本問題ハ教育ノ問題デアアルトカ、或ハ道德ノ問題デアアルトカ、或ハ又宗教ノ問題デアアルトカ云フヤウナ問題ニアラズシテ、即チ今日ハ政治問題ノ大ナルコトヲ此法ニ於テ現ハシテ居ルモノデアリマス、即チ此未成年者ガ酒ヲ飲ミマスルト云フト、成年程ニ未ダ身體ガ能ク組立ッテアリマセヌ故ニ、心臟神經又ハ筋肉ヲ刺撃致シマシテ、其青年ヲ衰弱セシムルト云フコトハ實ニ非常ノモノデアリマス、諸君ハ御承知デアアルカ如何カ分リマセヌケレドモ、私ノ知ッテ居ル青年ナドニ、近頃衰弱ト云フ病氣ガ非常ニアルノデアアル、是ハ何ノ爲メデアアルカト云フト、此酒害ヲ被ッタトコロノモノデアリマス、又第二ニ青年ト云フ者ノ血管ト云フモノハ、酒精ノ即チ「アルコホル」ノ作用ニ依リマシテ、其血所謂血管ノ變化ヲ來スモノデアリマス、故ニ卒中或ハ其他ノ腦血管破裂ナドヲ

起シマシテ、即チ病ガ生ジ易イト云フコトガ能ク分ッテ居ル、其他身體ヲ驚カシ、又肺臟ノ呼吸ト云フモノヲ害シ、炭酸量ヲ減ジ總テ健康ヲ害スルト云フコトハ、能ク分ッテ居ルコトデアリマス、或ハ腎臟ノ實質ト云フモノニ非常ニ脂肪性ヲ變ジテ、サウシテ老廢物ヲ排除スルコトガ出來ナイヤウニナル、或ハ肝臟ト云フモノヲ肥大ニシテ、其青年ノ生命ト云フモノヲ短カクスルト云フコトモ事實デアリマス、或ハ消化器ト云フモノヲ害シ、血管運動神經ニ關スルトコロノ總テノ血管ト云フモノヲ弱クスルト云フヤウナコトハ、是ハ私ガ申シタナラバ、何カドウモ此法案ニ就テコゾ付ケテモ言フヤウニ御聽取ニナルカモ知レマセヌガ決シテサウデナイ、是ハ貴族院議員醫學博士ノ大澤先生ガ、アノ貴族院ニ於テ證明サレマシタ所ノ實ニ名論ガアルノデアリマス、其他大學ノ博士片山先生ナドモ、此禁酒ニ付テ大ニ鼓吹サレテ居ルノデ、昔ノ醫者サンハイザ知ラズ、此文明ノ我ガ日本帝國ノ大學ニ居ル所ノ……今日ハ化學ガ開ケマシタ故ニ、非常ニ酒ノ害ト云フモノガ實ニ此青年ニ甚シイト云フコトハ、此ノ如キ名家ノ證明スル所デアリマス、次ニ教育ノ點ニ於テ非常ノ關係ガアリマス、此法案ハドウ云フ譯デ、明治三十二年即チ第十五帝國議會ヨリ今日マデ年々提出サレマスルト云フコトニ付テ、諸君ハ御承知デアリマシヨウケレドモ、尙一言申上ゲテ置キタイ、此法案ハ十五議會ヨリ提出サレテ第二十四回議會ヨリ衆議院ハ引續キ通過サレテ居リマス、此法案ノ提出サレル理由ハデス、斯ウ云フコトデアリマス、即チ教育ノ大問題デアアル、教育ト云フコトハ、即チ日本帝國ニ於キマシテハ從前ノ國民教育ト云フモノハアリマセヌ、唯地方々々ノ學者ニ依ッテ唯學ンダケデアッテ、國民教育、自由教育、即チ無月謝教育ト云フコトハ行ハレナイ、併ナガラ此帝國議會ガ明治三十二年ニ於テ、小學校授業料全廢ト云フ建議案ガ通過シマシタト同時ニ、其年ヨリ即チ第十三議會ニ於テ小學校國庫補助法案ガ通過シマシタ、其結果國家ガ年々百萬圓ツ、即チ此一般ノ小學校ヘ分配スルコトニナッテ居ルノデアリマス、尙其後益、國民教育ノ必要ナルヲ國家ガ認メテ、二百萬圓トナリ、或ハ教育基金千萬圓ノ五十萬圓、宛ニモ角ニモ國家ガ今日二百五十萬圓ト云フモノヲ國民教育ノタメニ出サレテ置クモノデアリマス、此金額ハ外國ノ例ニ依リマスト、實ニ九牛ノ一毛デアッテ、英吉利ノ如キハ即

チ國民教育ノ三億萬圓デアリマシタナラバ、其七割ハ國庫カラ出シテ居ル、獨逸モ其通り六割位出シテ居リマス、亞米利加ノ如キハ全部之ヲ國費ヲ以テ出シテ居ル、免ニモ角ニモ日本帝國ハ國民教育ハ必要ナルモノデアアル、國庫ヨリ支出スルコトガ出來ナイナラバ、金高ハ僅カ二百五十萬圓デアアルガ、此明治三十二年授業料全廢ト云フ所ノ建議案ハ通過シ、又國庫補助法案ガ通過シマシテカラハ、即チ日本ノ五百萬ノ子弟ハ授業料全廢ニナッタコトデアリマス、此全廢ニナラヌ所ハ僅ニ此市ナドニアリマスケレドモ、是ハ臨時ノコトデアッテ、法律規則ニ依リマシテハ、即チ小學校ノ尋常科ハ即チ授業料ガ全廢ニナッテ居ルノデアアル、是ガ即チ此法案ガ出來ル所以デアリマス、即チ吾々ノ子弟五百萬ノモノガ、昔ノヤウニ寺子屋ニ學ンデ居ッタ時代ニハ私ノ子供ガ馬鹿ニ出來マシテモ諸君ハ御損ハナカッタカモ知レヌガ、今日ハサウデナイ、私ノ子供ガ即チ酒ヲ飲ミマシテサウシテ惡イ事ヲ致シマスレバ、即チ其損害ハ立所ニ諸君ノ損害ニナルノデアアルマ、ナゼト云フナラバ子供ガ有テモ無クテモ今日ハ所謂地方稅デ以テ、其學校ノ費用ハ出サヌケレバナラヌ、其費用ハ幾ラバカリデアアルカト云フト、諸君モ御承知ノ通り八千萬圓ガ今日地方稅ニナッテ居ルモノデアリマス、此八千萬圓ト云フ金ハ此帝國議會開ケル——明治二十三年ノ國家全體ノ費用ガ即チ八千萬圓デアッテソレガ今日ハ地方費ニ於キマシテ小學校ノ費用ノミバカリモ八千萬圓使フヤウニナッタノデアアル、是ガ即チ本案ノ必要ナルコトヲ見出シタ譯デアリマス、即チ國家ナリ地方ナリ、免ニモ角ニモ吾々ノ租稅ヲ以テ我子弟ヲ教育スルカラニハ、其子弟タル者ハ一人トシテ愚ナル者ガ出來テハ困ル、宜シク法律ヲ守リ、租稅ヲ納メ、親ニ孝行ヲシ、我國ノ所謂忠君愛國ノ臣ヲ拵ヘナケレバナラヌ、ソレニハ即チ國民教育デナケレバナラヌト云フテ、租稅ヲ以テ此子弟ヲ教育スル以上ニハ、即チ法律ヲ以テ此子弟ヲ取締ルト云フコトハ當然ナ譯デアアル、故ニ此法案ナルモノハ、文明國ト雖モ百年モ二百年モ昔ハアリマセヌデアリマシタ、即チ國民教育ト云フコトガ文明ノ社會ニ於テ最モ必要ナモノデアアル、即チ國兵——徵兵ト云フヤウナ譯ニナッテ、四民殘ラズガ國ノ兵デアルト云ルフヤウナ、此日本帝國ヲ昔ノ士族バカリニ任カセテ置イタ時代デハナイ、今日ハ即チ國民皆兵デアルト云ッテ、國民ハ誰レモカレモ兵ニ

ナッテ、國ノ藩屏トナルト云フヤウニナッタト同ジヤウニ、此教育ノコトモヤハリ國家ガセナケレバナラヌト云フコトガ我國ノ國是トナッタノデアリマス、ダニ依テ英吉利ニ於キマシテモ此法律ノ出マシタノハ千九百一年、今ヲ距ルコト十三年前デアリマス、亞米利加ノ如キハ尙一層此國民教育ト云フコトニ熱心デ、即チ租稅ヲ以テ取締テ置ク故ニ、此法律ナルモノハ既ニ三十年前ニ出來テ居ル、素ヨリ御承知ノ通り亞米利加ノ如キハ英吉利ノヤウニ國法トナッテ居ラヌ、即チ州法トナッテ此文明ノ所謂「ミスシッピー」河ヨリ向フノ方ハ皆此法律ガアル、此法律ガ無イノハ即チ「ロッキート」山ヨリ西ノ方「カリフォルニア」州ノ如キハ此法律ガナイ、サウ云フ處デハ即チ國家ノ如何ニ大切デアアルカ、如何ニ智識ノ重要ナル問題デアアルカト云フヤウナコトヲ、能ク解セナイ人間ガアルカラ、遂ニ今日ノ如キ不法ナル法律ヲ立テルヤウニナッタノデアリマス、諸君、斯ノ如ク此教育ト云フモノヲ國家ガスルヤウニナッタ以上ニハ、即チ子弟ト云フモノヲ法律デ取締ルト云フコトハ當然ナコトデアアル、若シモ是ガ昔ノヤウニ地方々々金持ハ金持、貧乏人ハ貧乏人ノ子供デ唯居ッタ時代デアレバ、ソレハ此法律ハ要ラヌケレドモ八千萬ノ金ト云フモノヲ法律ヲ以テ取締テタ以上ニハ、法律ヲ以テ之レヲ取締ルト云フモノハ當然ナコトデアリマス、故ニ本案ガ出來タ譯デアリマス、國ノ經濟問題ニ大關係アルコトデアリマス、若シ青年ナルモノガ方針ヲ迷ヒマシタナラバ、實ニ國家ノ經濟ニ大關係アルコトデアリマス、例ヘバ工業ニ付テモ、或ハ農業ニ付テモ、或ハ商業ニ付テモデス、此青年タルトコロノ者ガ教育ヲ受ケテ居ル所ノ職工、教育ヲ受ケテ居ル所ノ商人、教育ヲ受ケテ居ル所ノ農家デアリマシタナラバ、其結果ト云フモノハ非常ニ我國ニ大關係アルト云フコトハ能ク分ッテ居ルコトデアリマス、ドウカ諸君ト共ニ此法案ト云フモノハ實ニ國家ニ大關係アルモノデアアル、殊ニ今日諸君ト共ニ吾々ガ研究スベキコトハ、我ガ日本帝國ガ世界列強ノ地位ニ立ッテ、實ニ經濟ノコトニ付テハ大ナル問題デアリマス、故ニ私ハ茲ニ此法案ヲ通過サセルナラバ、實ニ我ガ日本ノ文明ト云フモノヲ益々發揮スルコトガ出來ルト思フノデアリマス、今日我國ガ最モ注意シ、諸君ト共ニ吾々國民ガ常ニ腦髓ニ蓄ヘテ置カンケレバナラヌコトガ三ツアリマス、是ハ三大聖旨ト私ハ申スノデアリマス、其三大聖旨トハ何デアアル

カ、即チ第一ニハ五箇條ノ御誓文デアリマス、第二ニハ教育ノ勅語デアリマス、第三ニハ戊申ノ詔書デアリマス、此三大聖旨ヲ吾々國民トシテ實行スルニアラズンバ、我が日本帝國ト云フモノヲシテ向來甚ダ心配ニ及ブコトデアラウト思フノデアリマス、此三大聖旨ヲ實行スルニハ、先以ッテ未成年者ト云フモノヲシテ天ヨリ享ケテ居ル所ノ性質ト云フモノヲ、完全ニ發展スルコトヲセナケレバナラヌト思フノデアリマス、其五箇條ノ御誓文ノ始メニ何ト書テアリマスカ、即チ「廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ」トアルデハアリマセヌカ此廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシト云フ御誓文ニ對シ、若モ吾々ノ青年ガ酒ヲ飲ンデス、得ベキ智識モ得ズ、判斷スベキコトモ判斷シ得ナカッタナラバ、即チ無賴ノ徒トナツテ放火強盜スルヤウナ者ガ出來ルノデアリマセウト思ヒマス、諸君、殊ニ立憲政治ニ於テ萬機公論ニ決スル場合ニハ、慎重ニ慎重ヲ重ネ、十分ニ思慮アル民ニアラズンバ、決シテ此立憲政治ト云フコトヲ實行スルコトハ出來ナイ、夫ニハ即チ未成年ノ時ヨリ酒ヲ禁ズルト云フコトガ最モ大切ナモノデアリマス、又次ニハ「上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ」ト仰セラレテアリマス、諸君、ドウシタナラバ上下心ヲ一ニスルコトガ出來マセウカ、此上下心ヲ一ニスルト云フコトハ最モ大切ナルコトデアアルノデアアル、即チ吾々國民五千萬、六千有餘萬ノ人ガ同ジヤウニナルト云フコトデアリマス、夫ニハ何ヲ以ッテスルカト云ヘバ、即チ國民教育——小學校ノ教育ト云フモノヲ完全ニスルヨリ外ニハナイノデアリマス、此場合何程上下心ヲ一ニシヤウト思フテモ、此國民教育ト云フコトヲ完全ニセンケレバ、迪モ教育ノ道ハ立タナイ、夫ニハ即チ此未成年者ニ酒ヲ禁ズル、サウシテ其立場々々ニ於テ學ブベキコトヲ學バセル様ニシナケレバナラナイノデアリマス、盛ニ經綸ヲ行フベシ「今日デス、我國ニ於テ最モ大切ナルハ經濟問題デアリマス、盛ニ經綸ヲ行ヒ盛ニ仕事ヲスル、此盛ニ仕事ヲスルニハ何ヲ以テ盛ニスルカナラバ、第一ニ身體ガ健康デナケレバナラヌ、第二ニ智識ヲ得ナケレバナラヌ、此點ニ缺ケテ居リマシタナラバ、迪モ盛ニ經綸ヲ行フコトハ出來ナイ、諸君、此事ニ付テハ勿論私ハ此未成年者飲酒禁止法案ト云フモノニ非常ナ大關係アルモノト思ヒマス、次ニハ「官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心中シテ倦マサラシメン事ヲ要ス」トアリマス、茲ニ諸君ト

共ニ此法律ガ如何ニ大切デアアルカト云フノハ此點デアアル、各其志ヲ遂ゲル、此遂ゲルト云フコトデス、此各其志ヲ遂ゲル、即チ男ハ男、女ハ女、年ヲ老ツタ者ハ年ヲ老ツタ者、若イ人ハ若イ人、實ニ此五箇條ノ御誓文ニ於テ最モ諸君ト共ニ心ヲ静メ、平カニ考ヘナケレバナラヌコトハ各其志ヲ遂ゲル是デアリマス、此遂ゲルト云フ字ガ大切ナ字デ、決シテ無イ事ヲセヨト云フノデハナイ、一萬圓ノ身代ノ人ハ一萬圓ノ租税ヲ納メナケレバナラヌ、千圓ノ財産ヲ持ッテ居ルノハ千圓デアアル、斯ノヤウナ譯デアッテ、唯無イ智識ヲ有ルトスルノデナクシテ、有ルモノヲ有ルトスルノデアリマス、夫ニハ即チ吾々ノ財産ニ傷ケ、吾々ノ智識ヲ害スルモノハ何デアアルカト云ヘバ酒デアアルノデアアル、諸君、ドウカ我が日本帝國ヲ益盛ニスルノニハ、諸君ト共ニ私ノヤウニ脊ノ低イ者ハ脊ノ低イダケ事ヲスルノデアアル、又脊ノ高イ者ハ脊ノ高イダケノ仕事ヲスルト云フノガ、即チ國家ノ爲ニ盡スノデアリマス、夫ニハ折角ガアッテモ、金ガアッテモ、其酒ノ爲ニ其財産ヲ失フヤウニナツタナラバ、此五箇條ノ御誓文ノ「各其志ヲ遂ゲ人心中シテ倦マシメザラン事ヲ要ス」ト云フコトハ、事實ニ於テ出來ナイノデアリマス、又「舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ」ト云フモノハ、實ニ大ナル關係ノアルモノデアリマス、又「舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ」ト仰セラレテアリマス、世ノ中ニハ惡イ習慣ガアリマス、惡イ習慣ノ中ニモ酒ヲ飲ム程惡イ習慣ハナイ、例ヘバ自分ノ子供ニ教育ガ届カナイヤウニナル、或ハ細君ヲ愛スルコトガ出來ナイ様ニナル、借金ヲシテモ返スコトガ出來ナイ様ニナルノデアリマス、人ヨリモ輕蔑ヲ受ケル、國ヲ危フスルト云フコトハ何カラ出來ルカト云ヘバ、即チ酒ノ結果デアリマス、即チ害デアリマス、色々ノ害ガアリマスルケレドモ、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシト云フコトニ至ッテハ、先ヅ以テ色々ノ惡イ習慣ガアリマスケレドモ、其惡イ習慣ノ上ニ最モ惡イモノハ酒ノ習慣デアルト思ヒマス、故ニ斯ノ如キハ先ヅ以テ未成年者ノ學生ノ時代、或ハ勞働者ノ小僧ノ時代ニ此酒ノ害ト云フモノヲ知ラシムルト云フコト程大切ナ事ハナイト私ハ信ズルモノデアリマス、是レ即チ舊來ノ陋習ヲ破ッテ、之ヨリ新タナル文明ノ知力ヲ得ルノ第一ノ手段デアリマス、此五箇條ノ御誓文ヒニドウ云フコトガ仰セラレテアリマスカ、「知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振

起スヘシ諸君、此知識ト云フモノハ尤モ大切ナルモノデアアル、此知識ヲ求メルノニ或ハ外國
 カラ求メル事モアリマセウシ、或ハ内地カラ求メルコトモアル、兎ニモ角ニモ今日デス、最モ
 危険ナルモノハ何デアアルカト云フト、「グリーキ」ノ學者ノ答ヘタ事ニ、物ヲ知ラナイ程危険ナ
 ルモノハナイ、危険ト云フノハ決シテ自身ノ危険デナイ、一番危険ナモノハ物ヲ知ラナイト云
 フモノデアリマスル、其危険ノ中デ尤モ危険ナモノハ、即チ子供ノ時分カラ酒ヲ飲ム程危険ナ
 モノハナイ、故ニ「知識ヲ世界ニ求メ益、皇基ヲ振起スヘシ」我ガ日本帝國ハ唯土地ノミ擴ゲル
 ノデハナイ、知識モ擴ゲ、又財力ヲ擴ゲルニハ、即チ青年ハ此禁酒ノ法ヲ實行セシムルコトガ向
 ヨリ大切ナルコトデアリマス、是即チ知識ヲ世界ニ求メル——知識ヲ世界ニ求メル、即チ此法案
 ハデス、英吉利デ疾クニ出來テ居ル法案デアアル、亞米利加デ出來テ居ル法案デアアルト云フヤウ
 ニ、文明國ニアル所ノ法案デアアル、決シテ今日野蠻ノ國ニハ斯ウ云フコトハアリマセヌ、無イ筈
 デアル、教育ト云フモノガ勝手氣儘デアアルカラデアアル日本デハ即チ教育ト云フモノガ國家デス
 ルヤウニナッタカラ、是ガ必要デアアルト云フコトハ諸君ト共ニ之ヲ認メテ戴カナケレバナラヌ、
 第二ニ最モ大切ナル詔書ハ何カ、教育ノ勅語デアリマス、教育ノ勅語ヲ文部省ハ日本全國ノ小
 學校ニ向ッテ、或ハ開校式或ハ其他ノ場合ニ於テ奉讀セシメマスルガ、此法案ヲ通過セズシテ唯
 教育ノ勅語ヲ拜讀シタベカリデハ役ヲシナイ、私ハ證據立テ、見タイ、教育ノ勅語ノ大切ナルコ
 トハ何デアアルカ、ヤハリ同ジ事デアアル、億兆其心ヲ一ニシ威其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ、此億
 兆心ヲ一ニスルニハ何ヲ以テ心ヲ一ニスルコトガ出來マセウカ、此青年タル者ハデス、各、其
 志ヲ遂グル、即チ勉強ヲシテ親ヨリ受クル所ノ其費用ヲ無駄ニ使ハズ、自分々々ノ知識ニ應ズル
 事ヲスルノデアリマスル、即チ此教育ノ勅語デ以テ尤モ大切ナルモノハ是ニテ完結シテ居ル、億
 兆其心ヲ一ニシ威其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ、之ヲ吾々ガ如何ニ實行スルカタナラバ、先以テ
 第一ニ未成年者ヲシテ禁酒セシメ、之ニ依テ無駄ニ金ヲ使ハズ、之ニ依ッテ親ニ孝行ヲスルコト
 モ出來ル、祖先カラ受ケタ所ノ財産ヲモ益々擴張スルコトガ出來ルト云フノガ、即チ此未成年者
 禁酒法案ノ骨髓デアリマスル、次ニ私ガドウシテモ諸君ニ御一考ヲ願ハナケレバナラヌ事ハ、此

法案ニ大關係ノアルノハ戊申詔書デアリマスル、戊申詔書ハ今日最モ諸君ト共ニ實行セヌケレ
 バナラヌ、ドウ云フ譯デアアルカ、是ハ即チ日本ノ經濟ノ大問題ヲ解決スル所ノ勅語デアリマスル
 即チ教育ノ勅語、五箇條ノ御誓文ト云フモノハ、吾々ノ精神吾々ノ知識ト云フモノヲ能ク確立
 スルコトガ出來マス、ソレガ爲ニ日清ノ戰爭モ、日露ノ戰爭モ、即チ正義ノ戰ニ依ッテ之ヲ勝ツコ
 トガ出來タ、併ナガラ此結果如何ナル今日有様デアアルカト云フト、諸君ノ御承知ノ通り二十六億
 萬圓ノ借金ガアルノデアアル、此中デ十六億萬圓ト云フモノハ外國カラ吾々ガ借リテ居ルノデア
 ル、此利子ベカリモ年々八千萬圓出サナケレバナラヌ、八千萬圓ト云フト丁度今日日本ノ收入ノ
 八分ノ一ニナル、八八六十四本年ノ豫算ハ即チ六億四千萬圓デアアル、其中八分ノ一ト云フモノハ
 外國ニ金ヲ出サウナ譯ニナッテ居ル、是ガ即チ畏レナガラ 先帝陛下ノ御心配ニナッタ所デア
 ラウト思フ、其解決ヲ遂ゲテ我國ヲシテ益々盛大ナラシムルノニハ、先以テ五十、六十、七十、八十
 ノ人ニ教育スルヨリハ、未成年者ニ酒ヲ飲マセナイト云フコトガ第一ノ名策デアアルト云フコト
 ヲ私ハ確信シテ居ルノデアアル、諸君、此金ノ問題ハ實ニ容易デハナイ、未成年者ベカリデハナイ、
 若シモ酒ヲ一般ニ止メマスナラバ三億萬圓ノ收入ガ殖エルノデアアルガ、茲ニ經濟問題ニ付テム
 ツカシイ事ヲ申上ゲマスルト云フト長クナリマスカラ簡單ニ一言申上ゲマスルガ、此經濟問題
 ヲ誰ガ解決スルカ、諸君デアアルカ、或ハ吾々ノ子供デアアルカ、又吾々ノ孫デアアルカト云フト
 考ヘナケレバナリマセヌ、今日ハ此八千萬圓以上ノ利子ヲ拂フ、是ハ國庫カラ拂フノデアアルケレ
 ドモ、其外ニ吾々ハ考ヘナケレバナラヌ、或ハ東京市或ハ大阪府、或ハ神戸ノ市ナドト云フ處ノ
 マダ外債ト云フモノハ大ナルモノデアリマスル、是ハ即チ此國庫ノ豫算ニ關係ハシナイケレド
 モ是等モ諸君ト共ニ研究シテ如何ニ此法律案ガ大切ナモノデアアルカト云フト茲ニ私ハ御考
 ヲ願ヒタイト思フ、一番近イ所ノ例ヲ取ッテ申上ゲマスレバ、東京ノ市デアリマス——東京市ノ
 電車デアリマスル、此電車デス、誰ノ電車デアアルカ、東京市ノ電車デアアルケレドモ、此東京市ノ電
 車ガデス、外國カラ金ヲ借リテ抵當トシテ居ルトコロノモノハ即チ九千五百萬圓デアリマス、此
 九千五百萬圓ニ對シテ吾々東京市民トシテ利子ヲ拂フ金ハ幾ラデアアルカト云フナラバ四百七十

五萬圓デアリマス、サウシマスルト云フト、諸君ニ一ツ御考ヲ願ッテ、此法案ガ如何ニ大切デアアルカト云フコトヲ益、御賛成ヲ願ヒタイノハ、此東京市ノ電車ノ收入ト云フモノハ一箇年ニ千三百萬圓アル、茲ニ比例ヲ立テ、御覽ニ入レマセウ、千三百萬圓ノ收入ニ付テ、一箇年ニ四百七十五萬圓拂フ、サウシテ吾々ガ一遍乘リマシレバドレ位外國ヘ拂フト云フナラバ、五錢拂フ時分ニハ一錢八厘直ニ英吉利、佛蘭西ヘ飛ンデ行ッテシマフノデアアル、是ハ事實デアリマス、是ハ實際ノ計算デアリマス、諸君、是ガ即チ今日ノ經濟ノ大問題デアアル、唯獨リ國庫ノ外債公債バカリデハナイ、或ハ市債或ハ社債ナドヲ考ヘテ見ルト、サウ云フモノデアアッテ、五錢ヲ出セバ直ニ一錢八厘ト云フモノハ外國ヘ飛ンデ行クト云フ様ナ場合デアアルカラシテ、殊ニ吾々ノ未成年者吾々ノ青年ニ對シテ大ニ注意ヲ促シ、我ガ日本帝國ヲ背負ッテ立ット云フ者ハ、迎モ酒ナドヲ飲ンデ居ッテハ今日出來ナイト云フコトヲ、法律ヲ以テ知ラシムルコトハ苟モ文明國ノ爲スベキコトデアアルト私ハ確信スルノデアリマス、ドウカ諸君ト共ニ此法案ハ斯ノ如ク實ニ大切ナ問題デアアル、五箇條ノ御誓文或ハ教育ノ勅語、戊申ノ詔書ニ對シマシテモ、實ニ上下心ヲ一ニシテ忠實業ニ服スルト云フコトニ付テ、誰ガ忠實業ニ服スコトガ出來マセウカ、酒ヲ飲ンデ居ル人ガ忠實業ニ服セマセウカ、服セマセヌ、今日或ハ銀行或ハ會社ニ於テ失敗ヲ來スノハ何デアアルカト云フナラバ、即チ酒ノ害ガ大ナルモノデアアルト私ハ思フノデアリマス、ドウカ諸君ト共ニ忠實業ニ服シ或ハ勤儉產ヲ治ムル、此勤儉產ヲ治ムルモノハ誰ガ一番知ラナケレバナラヌカト云フナラバ、是ヨリ此日本ヲ背負テ立ットコロノ青年ガ大ニ勤儉產ヲ治メルト云フコトノ信念ヲ有タナケレバナラヌ、其信念ヲ持タスルノニハ先以テ未成年者中ニ酒ノ如キ害ヲ爲スモノヲ止メサセルト云フコトヲ、法律ヲ以ッテ作ルト云フノガ當然デアリマス、或ハ華ヲ去リ實ニ就クト云フヤウナコトニ付テモ、今日餘計ナモノヲ飲ンデ——雷ニ餘計バカリヂヤナイ、害ノアルモノヲ子供ガ飲ンデ、吾々ノ財產ヲ無クシテ祖先ノ折角ノ寶ヲ費スト云フヤウナコトハ、吾々ガ大ニ取締ラナケレバナラヌト云フコトデアリマス、其他「醇厚俗ヲ成シ」或ハ「華ヲ去リ實ニ就キ自彊息マサルヘシ」諸君、ドウカ吾々日本帝國ガ益、列強ト共ニ幸福ヲ享クルト云フコトニシマスルニハ、未成年者ノ

岡崎久次郎君ハ左ノ如ク本案ニ反對ノ演說ヲ爲セリ

禁酒法ト云フモノハ、是非ナクテハナラヌコトデアリマスル、私ハ近頃貴族院ノ諸君ニ於キマシテモ、大澤博士ノ如キ或ハ名家ガ段々御賛成ニナッテ來タト云フコトハ、誠ニ國家ノ爲ニ祝スベキコトデアラウト思フノデアアル、ドウカ此事ハ僅ナ問題デアアルト云フヤウナコトデナク、國家將來ノ盛衰ニ關係スルトコロノ大問題デアアル、又個人トシテモ吾々ノ財產ヲ能ク守ルコトガ出來ナイカト云フトコロノ大問題デアアルト云フヤウニ、深ク御審議ニナッテ、今年ハ獨リ衆議院ヲ通過スルノミナラズ、仰キ願ハクバ貴族院ニ於テモ通過スルコトヲ謹デ願フトコロデアリマス

唯今根本君カラ教育、道德、經濟上ニ互ッテノ大演說ヲ長ト拜聽致シマシテ誠ニ結構ニ存ジマシタ、私モ敢テ本案ニ反對スル者デハナイノデアリマス、未成年者ニ禁酒スルト云フ法律ニ、無論私モ賛成ノ意ヲ表スル一人デアリマスガ、唯今提出者カラ伺ッタトコロニ依ッテ見テモ、第二十四回議會以來衆議院ヲ通過シ、而シテ貴族院ニ於テ否決セラレテ居ル歴史ヲ有ッテ居ル本案デアアルノデアリマス、即チ前後七回衆議院ヲ通過シ貴族院ニ於テ否決サレタル此議案ナンデアリマス、而シテ其七回ノ間ニ議論ノ可否其他ノコトハ既ニ討議サレテ居リマスカラ、私ハ深ク此議論ニ互リマセヌガ、我ガ衆議院議員ガ苟モ我ガ議院ノ決議權ノ體面ヲ深ク重ンズルナラバ、本案ノ如キ年々歳々衆議院ハ善シト認メテ通過ヲシ而シテ貴族院ニ於テハ惡シト認メテ否決サレルヤウナ此議案ヲ、更ニ又茲ニ衆議院ニ提出シテ衆議院ハ通過シ、更ニ貴族院ヘ行ッテ否決サレルト云フコトハ、此衆議院議員ノ體面ニ非常ニ私ハ關係スルト思フノデアリマス、デ無論議案ノ中デアリマス、衆議院ヘ年々歳々提出サレ善シト認メテ提出者ガ提出シ、而シテ此議院ニ於テ否決サレテ居ル議案ガ何回提出サレヤウトモ敢テ厭フトコロデハナイガ、一ツノ議案其内容及ビ法律ノ制定、總テガ聊モ變ラヌ議案ヲ衆議院ハ多數ヲ以テ決議シ、年々歳々七回八回九回ニ互ッテ貴族院ニ出デ否決サレルト云フニ付テハ、更ニ此議案ヲ提出シテ若シ衆議院ガ通過シ而シ

テ貴族院ニ反對サレテ否決サレルト云フコトハ、衆議院ノ面目上大關係ノアル議論ダト私ハ思フノデアリマス、是ニハ固ヨリイロ／＼ノ關係モゴザイマセウガ、要スルニ政友會ノ諸君ガ之ニ全部御賛成ニナツテ可決決定シテ、此本案ヲ通ス御考デ御決定ニナルナラバ、宜シク十分ニ最後ノ決定ヲ見ルニ至ルマデ御盡力ナサルガ至當デアリシ、又政友會ハ我黨ノ内閣デアリ、其内閣ニ居ッテ、其内閣ノ黨與ガ之ヲ出スノデアルカラ、自分ガ必ラズ通過セシムル意思ヲ以テ之ヲ御決定ナサルガ議院ノ體面ヲ重ズル所以デアラウト思フノデアリマス、然ルニ徒ニ更ニ御議案ヲ提出シ、而シテ委員ヲ設ケ、此國事多忙ノ際ニ於テ長イ時日ヲ掛ケテ委員會ヲ經テ本會ニ出シテ、唯暇潰シヨスル位ナ議案デアラナラバ、斷然此際第二讀會ヲ開キ否決決定ヲ私ハ希望スルノデアリマス、簡單ニ意見ヲ述ベマス

質疑應答ノ後議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月十六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ同月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長根本正君ハ委員會ノ經過及結果ヲ報告シ次テ齋藤隆夫君ハ本案ニ反對ノ演說ヲ爲セリ

根本正君ノ報告

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案ノ委員會ノ審査ノ結果ヲ報告致シマス、本案ニ付キマシテ委員會ハ二回委員會ヲ開イテ慎重ニ審議ヲ遂ゲ、政府委員モ出席セラレマシテ本案ニハ贊成ノ意ヲ表サレマシタ、茲ニ一言附加ヘテ御報告シテ置キタイノハ、贊成ノ意見中ニ是ハ若杉君カラ御注意デアリマシタガ、本案ニハ徹頭徹尾贊成ヲスル、殊ニ此政府委員ニ注意シテ置キタイコトハ貴族院ニ於テ十分ニ説明サレテ國民將來ノ發展ニ取テ必要ナル問題デアラカシテ、本案ガ貴族院ニ於テ空シクナラヌヤウニ十分ニ注意セラレタイト、斯ウ云フ注意ヲ致サレマシタ、政府

委員ニ於キマシテモ第十五議會ノ頃ノ法案トハ違ッテ、修正サレタ此法案デアリマスナラバ、取締ガ出來ル、斯ウ云フコトデ本案ハ大多數ヲ以テ可決セラレマシタ、此段御報告致シマス

齋藤隆夫君ノ演說

本員ハ委員長ノ報告ニ反對シテ此議案ガ否決セラレムコトヲ希望致シマス其反對ノ理由ハ昨年ノ議會ニ於テ詳論致シテ置キマシタニ依ッテ、一切省略ヲ致シマス、若シ委員長ノ報告ニ贊成演說ヲヤラル、諸君ガアルナラバ、之ニ對シテ反對演說ヲヤルト云フコトヲ保留シテ置キマス、尙此議案ハ毎年衆議院ニ於テ可決セラレ貴族院ニ於テ否決セラル、ノデアリマス、本員ノ見ルトコロニ據レバ貴族院ハ此議案ノミニ付テ貴族院ノ本能ヲ發揮シ、兩院制度ノ必要ナルコトヲハ事實ニ於テ證明シテ居ルモノデアルト云フコトヲ此處デ宣明シテ置キマス

他ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ヲ採用シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ同月十六日本案ヲ否決シタリ

四〇 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

神奈川縣橫濱市ノ次ニ

横 須 賀 市 一 人

長崎縣長崎市ノ次ニ

佐 世 保 市 一人
 新潟縣新潟市ノ次ニ
 長 岡 市 一人
 高 岡 市 一人
 三重縣四日市市ノ次ニ
 宇 治 山 田 市 一人
 愛知縣名古屋市ノ次ニ
 豐 橋 市 一人
 静岡縣静岡市ノ次ニ
 濱 松 市 一人
 長野縣長野市ノ次ニ
 松 本 市 一人
 福島縣若松市ノ次ニ
 福 島 市 一人
 廣島縣廣島市ノ次ニ

吳 市 一人
 フ加フ
 大分縣 大 分 市 一人
 郡 六 人
 北海道廳
 札 幌 區 一人
 函 館 區 一人
 小 樽 區 一人
 札幌、後志、増毛、宗谷、
 上川、空知、室蘭、浦河
 各支廳管内 七 人
 (但シ舊壽都支
 廳管内ヲ除ク)
 函館、檜山各支廳管内 二 人
 及後志支廳管内中舊壽 二 人

都支廳管内

根室、釧路、河西、網走

各支廳管内

二人

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

三年二月十日横山寅一郎君外六名提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者(松田源治君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ新シキ市ヲ獨立選舉區トシ、並ニ北海道ノ人口ノ増加ニ依レル衆議院議員ノ増加デゴザイマス、即チ横須賀市、佐世保市、長岡市、高田市、宇治山田市、豊橋市、濱松市、松本市、福島市、吳市、大分市、此市ヲ新ニ獨立選舉區ト致シ、北海道ノ議員ノ増加ト云フコトデアリマス、數年前ニ政府ヨリモ略、同一ノ案ヲ出シマシタケレドモ、貴族院ニ於テ大小選舉區ノ問題ニ付テ衆議院ト衝突致シマシタ結果、兩院ヲ通過シナカッタデアリマス、昨年ハ是ト同一ナル案ヲ衆議院ニ提出致シマシテ、委員ニ付託セズ簡單明瞭ナル案デゴザイマスカラ讀會ヲ省略シテ即決ヲシタル案デゴザイマス、ドウカ本年モ諸君ノ御賛成ヲ得マシテ本案ヲ通過サセタイト思ヒマスカラ、御賛成ヲ願ヒマス

次テ關直彦君外七名提出衆議院議員選舉法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ

審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

四一 福井縣下郡廢合並郡界變更ニ關スル法律案

- 第一條 福井縣足羽郡及吉田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北莊郡ヲ置ク
- 第二條 福井縣丹生郡中國見村ヲ坂井郡ニ編入ス
- 第三條 福井縣敦賀郡及三方郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ角鹿郡ヲ置ク
- 第四條 福井縣遠敷郡及大飯郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ若狹郡ヲ置ク

三年二月十二日大橋松二郎君外三名提出

同月二十一日提出者ヨリ撤回セリ

四二 營業稅法中改正法律案

營業稅法中左ノ通改正ス

第一條中「一物品販賣業」ノ次ニ「一證券賣買業」ヲ加フ

第二條第二項中第二號ヲ左ノ如ク改ム

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案

二 一定ノ製造場ヲ設ケス物品ヲ製造シテ販賣スル者
 第二條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ證券賣買業ハ一定ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ設ケ公債券、社債券
 又ハ株券賣買ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ
 第五條ノ二中「及輕便鐵道法」ヲ「輕便鐵道法又ハ軌道條例」ニ改ム
 第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額 從業者	卸賣 <small>甲</small> 萬分ノ八 賣 <small>乙</small> 萬分ノ十二 小賣 <small>甲</small> 萬分ノ二十 小賣 <small>乙</small> 萬分ノ三十 千分ノ七十 一人毎ニ二圓
證券賣買業	賣上金額 從業者	萬分ノ一 千分ノ七十 一人毎ニ金二圓
銀行業	資本金額 從業者	千分ノ四、五 千分ノ七十 一人毎ニ金二圓
保險業	資本金額 從業者	千分ノ七十 一人毎ニ金二圓

金錢貸付業	運轉資本金額 從業者	千分ノ六 千分ノ七十 一人毎ニ金二圓
製造印刷業	資本金額 從業者	千分ノ三 千分ノ七十 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢
運送業、運河業、棧橋業、船舶碇繫場業、貨物陸揚場業	資本金額 從業者	千分ノ五 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢
倉庫業	資本金額 從業者	千分ノ四 千分ノ四十 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢
鐵道業	收入金額 從業者	千分ノ二十 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢

請負業	請負業	請負金額	千分ノ四
席貸業	建物賃貸業者	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金二圓
料理店業	建物賃貸業者		一人毎ニ金五十錢
旅人宿業	建物賃貸業者		千分ノ百十五
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	報償業		一人毎ニ金二圓
	報償業		千分ノ百二十
	報償業		一人毎ニ金二圓
	報償業		千分ノ七十五
	報償業		一人毎ニ金二圓
	報償業		千分ノ三十
	報償業		一人毎ニ金二圓

物品販賣業中米、麥、石油、肥料、鹽、煙草、砂糖、薪炭、麥粉ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ甲ノ稅率ヲ適用シ繭、生絲、白絹布、棉花、綿、白綿絲、白綿布、紙、麥稈真田、銅鋼鐵地ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣ニ在リテハ甲、小賣ニ在リテハ乙ノ稅率ヲ適用シ其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ乙ノ稅率ヲ適用ス

營業者ヲ除クノ外從業者中十五歲未滿ノ者ニ付テハ第一項稅率ノ二分ノ一トス

第十三條 納稅義務アル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ營業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ第二十一條ノ期間内ニ在ル營業者及他ノ法令ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受クル營業者ニ付テモ亦同シ

新ニ開業シタル者ハ其ノ際前項ノ申告ヲ爲スヘシ

第十三條ノ二 納稅義務アル營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ申告スヘシ

第十五條中「物品販賣業」ノ下ニ「證券賣買業」ヲ加ヘ同條第二項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ内國ト外國トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルモノニシテ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル課稅標準ヲ見積リ主タル店舗其ノ他ノ營業場内國ニ在ルトキハ合算シテ之ヲ課シ内國ニ在ラサルトキハ各別ニ之ヲ課ス

第十六條中「資本金」ヲ「資本金、運轉資本金」ニ、「資本金額」ヲ「資本金額及運轉資本金額」ニ改ム

第十七條 製造業ノ資本金額カ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ其ノ増加額ハ二年間之ヲ課稅標準ヨリ控除ス但シ二年繼續シテ資本金額ヲ増加シタル場合ニ於テ前前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ其ノ年ニ限り前年ニ對スル増加額ヲ控除ス

第十八條 課税標準ト爲スヘキ建物賃賃價格ハ貸主カ公課修繕費其ノ他土地又ハ建物ノ維持ニ必要ナル經費ノ負擔スル條件ヲ以テ店舗其ノ他營業用ノ土地建物ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ノ前年中ノ平均額ニ依リ之ヲ算定ス

同一區域内ニ在ル土地建物ト雖直接又ハ間接ニ營業ニ使用セサルモノハ賃賃價格ニ計算セス
第二十條中「其ノ年五月十一日」ヲ「第一期ハ其ノ年六月一日ヨリ三十日限第二期ハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限」ニ改ム

第二十六條 課税標準ハ營業稅調查委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

調査委員會閉會後納稅義務アルコトヲ申出テタルトキハ政府其ノ課税標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二 稅務署長ハ毎年納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ課税標準ヲ調査シ其ノ調査書ヲ營業稅調查委員會ニ送付スヘシ

第二十六條ノ三 各稅務署所轄内ニ營業稅調查委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條ノ四 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス

第二十六條ノ五 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村及北海道、沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第二十六條ノ六 選舉區域内ニ於テ營業シ前年營業稅ヲ納メタル者ニシテ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員、補關員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セラルコトヲ得但シ左ニ記載シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 無能力者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者
- 四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者
- 五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
- 六 第三十四條ノ二ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

營業繼續ノ場合ニ於テハ前ノ營業者ノ爲シタル納税又ハ申告ハ命令ノ定ムル所ニ依リ後ノ營業者ノ納税又ハ申告ト看做ス

營業者カ法人ナル場合ニ於テハ代表者ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

調査委員ニ當選シタル者又ハ第一項但書ニ該當スル者ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス

第二十六條ノ七 調査委員選舉人ノ定數ハ其選舉區域内ニ於ケル前年營業稅ヲ納メタル者ニシ

テ第十三條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス

第二十六條ノ八 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第二十六條ノ九 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル但シ選舉區域ヲ異ニシ各別ニ營業稅ヲ納ムルトキハ選舉區域毎ニ一人

トシテ計算ス

選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ但シ前項但書ノ場合ニ於テハ代人ヲシテ投票セシムルコトヲ得

第二十六條ノ十一 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ十二 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十三 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七日以前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補闕員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第二十六條ノ十及第二十六條ノ十一ノ規定ヲ準用ス但シ投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ハ調査委員又ハ補闕員ノ定數ノ二分ノ一トシ一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ一人トシテ計算ス

第二十六條ノ十四 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十五 一人ニシテ數選舉區ニ於テ調査委員又ハ補闕員ニ當選シタルトキハ當選シ

タル者ノ選擇スル所ニ依ル

第二十六條ノ十六 調査委員又ハ補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十六條ノ十七 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉ノ日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ其ノ選舉區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ終了スルモノトス

第二十六條ノ十八 調査委員及補闕員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第二十六條ノ十九 調査委員ノ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ二十 補闕員ヨリ調査委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

選舉區域ノ變更ニ依リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補闕員ノ選舉ノ日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ二十一 調査委員又ハ補闕員ニ選舉セラレタル者第二十六條ノ六第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ於テ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條ノ二十二 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

第二十六條ノ二十三 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十六條ノ二十四 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十六條ノ二十五 調査委員會ハ定數ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條ノ二十六 調査委員ハ自己又ハ其ノ代表スル法人ノ營業ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十六條ノ二十七 五月三十一日迄ニ調査委員會成立セサルトキハ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十六條ノ二十二ノ期間以内ニ又ハ五月三十一日迄ニ調査終了セサルトキハ課稅標準調査未済ノモノニ限リ政府其ノ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二十八 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以内ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二十九 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十六條ノ三十 調査委員ニハ手當及旅費ヲ支給ス

第二十六條ノ三十一 政府ニ於テ課稅標準ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十七條 納稅義務者政府ノ通知シタル課稅標準ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日

ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ

政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

第二十六條ノ二十八ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

第二十八條ノ二 各稅務監督局所轄内ニ營業稅審查委員會ヲ置ク

審査委員會ノ會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十六條ノ十七、第二十六條ノ十八及第二十六條ノ二十ノ規定ハ審査委員ニ之ヲ準用ス

第二十九條中「資本金額」ヲ「資本金額、運轉資本金額」ニ、「以上」ヲ「未滿ニ」ニ、「以下」ヲ「未

滿」ニ改メ「届出人員」ヲ削ル

第三十條中「翌年一月迄」ヲ削ル

第三十一條中「資本金額」ヲ「資本金額、運轉資本金額」ニ改メ「届出人員」ヲ削ル

第三十三條中「尋問」ヲ「質問」ニ改ム

第三十四條中「其ノ脫稅シタル者」ハ「脫稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス」ヲ削ル

第三十四條ノ二 營業稅ヲ遁脫シタル者ハ「脫稅金高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス」但シ自首スル者

ハ其ノ税金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第三十四條ノ三 營業稅ノ調査又ハ審査ニ參與シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ

漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第三十五條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、

第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

附 則

本法ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年二月十二日與繁三郎君外六名提出、同月十六日提出者ヨリ之ヲ撤回セリ

四三 産業獎勵基金特別會計法案

産業獎勵基金特別會計法

第一條 産業獎勵基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
第二條 産業獎勵基金ノ元資ニ充ツル爲一般會計ヨリ四千六百萬圓ヲ繰入ルヘシ
第三條 産業獎勵基金ハ地方産業獎勵ニ要スル經費ノ財源ニ充ツ但シ元資金ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス

第四條 産業獎勵基金ハ大藏省預金部ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第五條 産業獎勵基金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第六條 政府ハ毎年産業獎勵基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

本法ハ大正三年度ヨリ之ヲ施行ス

三年二月十二日長谷場純孝君外七名提出、同月二十四日議事日程ニ追加シテ本案ノ第一讀會ヲ開

キ提出者(井上角五郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員ハ産業獎勵基金特別會計法、吾々ガ提出致シタル此案ノ大要ヲ説明致シマス、諸君ハ豫算委員會ニ於キマシテ又本會ニ於テ、三年度ノ歳計案ヲ論ズルトキニ自ラ此案ノ意味ハ了解セラレテ居ルコトデアラウト思ヒマス、彼ノ特別會計資金ノ返償、其中軍艦水雷艇補充基金ニ關スルトコロノ四千六百七十一萬圓ヲ、吾々ガ豫算ノ中ヨリ削除致シマシタノハ、斯様ナル有名無實——軍艦水雷艇補充基金ノ如キ其名ハ有レドモ其實無キモノ、タメニ此多額ノ金ヲ積ンデ置クヨリハ、寧ロ産業獎勵ノ目的ニ於テ、就中農事ノ改良、耕作ノ方法トカ或ハ開墾灌漑其他農事ヲ改良スベキモノ、又併セテ農家ノ經濟界ヲ改善スベキ彼ノ副業ノ如キモノヲ獎勵シ補助スルタメニ、此ノ如キ金ヲ積ンデ置ク方ガ宜カラウト云フ意味ヲ以チマシテ、豫算案カラ削除ヲ致シマシタ、即チ其豫算案ニ於テ削除シタトコロノ趣意ヲ今日現實ニスルガタメニ、此方法ヲ提出シタノデアリマス、吾々ハ豫テ人民ノ負擔ヲ輕減スル——人民ノ負擔ヲ輕減スルト云フ此事ニ重キヲ置クト同時ニ、産業振興ノ國家經濟ノタメニ最モ必要ナルコトヲ信ジテ居ル者デ、若シ先刻ノ同志會ノ加藤君ノ演說ヲ私ガ藉リルコトガ出來ルナラバ、租税ノ輕減ト云フコト、産業ノ振興ト云フコト、ハ、恰モ一ツノ車ノ中デドチヲ重ク、ドチヲ輕クスベキモノデナイト云フコトヲ主義トシテ居ルノガ吾々ノ立場デアアル、是ガ即チ議會ニ於ケル他ノ派ノ諸君ト自ラ其撰ヲ異ニスル所デアリマス、極ク簡單ニ申上ゲマス例ヘバ過日營業税法ノ問題ノ出マシタトキニ、國民黨ヲ代表サレタトコロノ鈴木梅四郎君ハ如何ニ言ハレタカ、今日ノ我國ノ經濟ハ病的デアル、此病的ヲ救フガタメニハ大削減大減税ノ外ハナイト言ハレタガ、一言モ此産業振興ノ必要ヲ論ゼラレナイ、又同志會ヲ代表セラレタ片岡直温君ハ如何ニ言ハレタ、貿易ハ此ノ如ク輸入超過ニナル、正貨ハ此ノ如ク流出シテ居ル、之ヲ救フニハ第一ニ減税、第二ハ移民ヲ獎勵スル、第三ニハ即チ外國人ヲ誘ッテ我國ニ遊ビニ來サスト云フコトガ必要デアアル、斯様ニ論ゼラレタガ、遂ニ産業振興ノ問題ニ及バンカッタ、是ハ即チ我黨ガ主張スルトコロノ方針ハ、自ラ其他ノ諸君ト其

撰ヲ異ニシテ居ルト私ガ言フ所以デアッテ、一言茲ニ添ヘテ説明ラシテ置カナケレバナラヌ、尙
最後ニ一言ヲ添ヘタイノハ、産業獎勵基金ヲ專ラ農事ニ向ケルノハ何故デアルカ、斯様ナル議論
ガ偶々世間ニ於テ開カレルノデアアル、諸君今日海外貿易ニ對シ、或ハ輸入ヲ防ギ、又輸出品トナ
テ居ルトコロノモノハ何デアアルカ、多クハ是レ農家ニ關係アルトコロノ産業ノ產物デアアル、又此
頃諸君ガ知ラル、ガ如ク大阪ハナカ、景氣ガ好イ、東京ハ景氣ガ惡イ、ナゼデアアル、東北ハ兎
角農家ガ困難ヲシテ居ルカラ、東京ノ景氣ハ惡イガ、大阪ハ九州中國ノ農家ガ富裕デアアルカラ景
氣ガ好イ、商人其他ノモノハ景氣ノ善惡ハ即チ其近傍ノ農家ノ繁昌スルト否トニ依ッテ自カラ分
レテ居ルト云フコトガ明白ナ事實デアラナラバ、此産業獎勵ハ敢テ農家ニ私スルニアラズ、國家
重要ノ產物ニシテ全國ノ經濟ニ最モ大ナル影響ヲ持ツトコロノ、其産業ヲ獎勵スルモノデア
ト云フコトヲ御了解セラレテ、願クハ御贊成アラントヲ希望致シマス、是ダケ説明致シテ置キ
マス

質疑應答ノ後議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌二十五
日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ同月二十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ
三月三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長井上角五郎君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

産業獎勵基金特別會計法案ハ特別委員會ニ於テ審議討論ノ末可決致シマシテゴザイマス、此案
ノ特別ノ委員會ニ於キマシテハ關係各省ノ大臣モ出席セラレ、又委員會ニ於テナカ、ニ質問
討論ガゴザイマシタ、故ニ茲ニ其大要ヲ申上ゲテ諸君ノ御參考ニ供シヤウト思ヒマス、本案ハ基
金トシテ四千六百萬圓ヲ積立テ、之ヲ預金部ニ托シテ利殖スルト云フ趣意デアリマス、預金部
ハ教育基金ニ向ッテハ年利四厘五厘、郵便貯金ニ向ッテハ年利四厘二厘ノ利子ヲ支拂ッテ居リマ
ス、故ニ此四千六百萬圓ノ産業獎勵基金ニ對シマシテモ、稍之ニ類スルノ利子ヲ拂フデアラウ
ト思ヒマス、或ハ經濟ノ状態ニ依リ或ハ財政ノ都合ニ依テ、時ニ多少ノ増減ハ免レマセヌケレド

モ、一年約二百萬圓ノ金ハ利子トシテ仕拂ハレ、是ハ産業獎勵ノ爲メニ用ヒラレル筈デアリマス、
此事ニ對シマシテ大藏大臣ハ左様ニスルコトガ出來ル、又大藏大臣トシテ左様ニスル覺悟デ
アルト云フコトヲ明瞭ニ答ヘラレマシテゴザイマス、本案ハ産業獎勵基金ト云フガ、産業ハ如何
様ニ之ヲ獎勵スルノデアアルカト云フコトニ付キマシテハ、豫算委員會ニ於キマシテ軍艦水雷艇
補充基金ヲ削減スルノ理由トシテ、又本院ニ於テ提出者ガ此案ヲ提出シマスルトキノ説明トシ
テ諸君ハ業ニ已ニ御了解ニナッテ居ルコトデアリマス、簡單ニ之ヲ一言スレバ農事ノ改良即
チ開墾トカ灌溉トカ、排水其他耕作ノ方法種子ノ撰擇乃至農家ニ關係アルトコロノ副業ノ獎勵
補助ニ之ヲ用非ル積リデアリマス、農商務大臣ハ出席セラレテ、大要今私ノ述ベマシタガ如キ箇
條ヲ擧ゲテ、本案ヲ實行スル場合ニ於ケル方針ヲ御述ベニナリマシタ、ケレドモ本案ハ第五條ニ
「産業獎勵基金ヲ使用セムトスルトキハ、其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出
スヘシ」ト規定シテアリマシテ、取リモ直サズ年々政府ガ斯様ナ使途ニ之ヲ用非ル積リデア
ルコトヲ議會ニ豫算ヲ以テ提出致シマスノデ、議會ハ勿論自由討論ノ範圍ニ於テ本案ノ趣旨
ニ適ッテ居ルヤ否ヤト云フコトヲ能ク調査シテ然ル後ニ之ニ協賛ヲ與ヘル筈ノモノニナッテ居
リマス、故ニ今日豫メ是ハ何々ニ用非ルト云フコトヲ明瞭ニ極メナイデモ宜カラウト思フノデア
リマス、是ニ對シマシテ種々ノ質問又議論ガ起リマシタ、其一ニ茲ニ申上ゲテ見レバ、第一ノ
質問ハ基金ノ總高ハ四千六百萬圓デアアル、ケレドモ是ハ嘗テ大藏當局ガ言フガ如ク在外正貨ニ
スルノデアアルカラ、在外正貨ハ左様ニ多クノ利子ハ生ジナイカラ逆モ年ニ二百萬圓ハ措テ其半
分ノ利子モ生ズルモノデアリト云フ反對ガ一ツデアッタノデアリマス、是ハ私共ヨリモ説明致
シマシタガ、又大藏大臣ヨリモ説明セラレテ、成程政府ハ此四千六百萬圓ガ預金部ニ這入ッテ來
レバ主トシテ在外正貨ノ積金ニ充テル積リデアアルケレドモ、其預金部ノ預カルニ於テハ其他ノ
金ト同ジデアッテ預金部ガ預リ入レル、其預金部ノ預入レルモノニハ隨分高イ利子ヲ運用シテ居
ルノモアル、在外正貨トスレバ其生ズル利益ハ少イケレドモ、少キモノト高キモノト埋合セテヤ
ハリ此四千六百萬圓ニ對シテモ、年利四厘以上郵便貯金内外位ノモノハ與ヘラル、筈デアアルカ

ラ、一年二百萬圓内外ノ金ヲ出スノハ、差支ナイト云フコトヲ、大藏大臣ニ於テモ説明セラレタノ
 デアリマス、私共モ左様ニ考ヘテ居リマス、其次ギニ質問ト言ヒマスカ、議論ト言ヒマスカ委
 員中カラ出タトコロノモノハ、斯様ナモノデアッタ、歐米各國ノ富國強國ト云フモノハ、今日ハ最
 早農業ハ忘レテ居ル、商賣ヲ重シトシ工業ヲ重シトシテ居ルノデアアル、然ルニ文明ノ進歩ノ有様
 デスラモ、農業ハ最初ニ盛ニシテ進ムニ隨ッテ衰ヘル等ノ此農業ヲ獎勵スルト云フ問題ヲ今日持
 出スノハ、實ニ時勢ヲ知ラザルモノデアルト云フ質問デアリ議論デゴザイマシタ、私共ハ是ニ
 對シマシテ勿論吾々ハ工業ヲ盛ニスル是ガ爲メニ獎勵ヲナスト云フコトノ必要ヲ知ッテ居リマ
 ス、又商業ヲ盛ニスル是ガ爲メニ獎勵ヲナスノ必要ハ信ジテ居リマス、例ヘバ水産業ノ如キ是等
 ノモノハ、最モ獎勵シナケレバナラヌト云フコトヲ知ッテ居リマス、ケレドモ唯今此所ニ有ルトコ
 ロノ金ハ、一年約二百萬圓内外ノモノデ、之ヲ全體ニ蒔キ散ラシテ見タトコロガ、逆モソレモ是モ
 満足スルガ如キ獎勵ハ出来ナイ筈デアアル、農業ハ又何物デアアルカト云ヘバ、成程以前ニ於テハ農
 ハ國ノ元ト云ッテ、ナカク改良進歩致シテ居リマシタケレドモ、維新以來兎角商工ニ先キヲ越
 サレテ、農業ガ商工ノ發達ノ割合ニ進マヌト云フコトハ事實デアアル、加之兎角ニ工業ナドガ大仕
 掛ニ行ハレテ田舎ノ百姓ガ小仕掛ニシテ居ッタ、所謂副業ハ爲メニ壓倒セラレテ、此地方ニハ昔
 染物ガアッタガ今ハ廢ッタ、此地方ニハ昔ハ指物業ガアッタガ今ハ廢ッタト云フコトハ、地方ニ至ル
 ト比々皆然ル有様デアアル、故ニ兎角モ農業ヲ獎勵シナケレバナラヌ、ソレノミナラズ農業ノ繁
 榮ハ即チ國民多數ノ利益デアッテ、又是ガ進ムハ即チ國家經濟ノ最モ景氣ヲ良クスル所以ノモ
 ノデアアルカラ、取敢ヘズ農業ヲ盛ニシタイト云フノデアリマス、ソレノミナラズ論者ノ言フガ如
 ク歐米各國デモ、強チ農ハ舊式ノモノデアアル、昔ノモノデアアル、今日ニ於テ農業ヲ獎勵補助スル
 ノハ時勢後レデアルト云フコトハ事實デアナイ、歐米ニ於テモ左様デアナイト思ッテ居ルカラ、即チ
 吾々ハ之ニ賛成スルト云フノガ一ツノ議論デゴザイマス、最後ニ斯様ナ議論ガ起リマシタ、此
 積金ヲスルノハ何ガ目的カ、産業獎勵ガ目的ナラバ四千六百萬圓ヲ悉ク獎勵ニ用弗タラ宜イデ
 ハナイカ、何ノタメニ積ンデ置イテ、其利子ヲチビリ〜使フト云フヤウナ姑息ナ手段ヲスル

カト云フノガ一ツノ議論デゴザイマシタ、是ハ議會ノ歲計豫算ヲ議スル當時カラ以來ノ經過ヲ
 御承知ニナレバ、強チ私ガ茲ニ説明セズトモ諸君ノ御了解ニナル事デアアルガ、兎角モ山本内閣
 ガ行政ヲ整理シタ、行政ヲ整理シテ國庫ニ餘裕ヲ生ジタ、此場合ニ於テ先ヅ第一ニ急グ所ノモノ
 ハ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトデアアル、財政ノ基礎ヲ鞏固ニシテ置イテ、然ル後減税モ行フ、然
 ル後産業ノ振興モスルト云フノガ此議會ニ於テ多數ノ同意ヲ得タル所ノ歲計案ノ方針デアッタ
 ノデアアル、故ニ四千六百萬圓ハ如何ナルカノ名義ニ於テ之ヲ積マナケレバナラヌ、故ニ四千六百
 萬圓ヲ元金カラソックリ之ヲ産業ニ使フト云フコトノ出来ナイノハ當然ナ話デアアル、如何ナルカ
 ノ名義ニ於テ積マナケレバナラヌトスルナラバ、軍艦水雷艇補充基金ト云フガ如キ、其名有レト
 モ其實無キモノ、タメニ積ムヨリハ、寧ロ之ヲ産業獎勵基金トシテ積ンデ、一面ニハ財政ノ基礎
 ヲ鞏固ニシ、一面ニハ因テ以テ産業ヲ振興シタナラバ、所謂一舉兩得デアッテ其目的ハ固ヨリ財
 政基礎ノ鞏固ノタメニ積ムノデアアルケレドモ、因テ生ズル副産物ハ、産業振興ノ上ニ於テ最モ必
 要ナル農事ノ改良ニ用ヒヤウト云フノガ、即チ本案ノ趣意デアリマス、斯様ニ特別委員會ノ多數
 ハ了解致シマシテ、即チ多數ヲ以テ原案ノ如ク可決致シマシタ、是ダケヲ御報告申上ゲマス
 次テ討論ニ移リ早速整爾君、町田忠治君ハ本案ニ反對、吉植庄一郎君、有森新吉君、堀切善兵衛君
 ハ賛成ノ演説ヲ爲セリ

早速整爾君ノ演説

諸君、私ハ此産業獎勵基金特別會計法案ニ反對スル者デアリマス、本案ハ其名ニ於テハ頗ル美シ
 ク聞ユルヤウデゴザイマスケレドモ、其言ハ決シテ然ラズ、形式ニ於キマシテハ極メテ好キ案ノ
 如ク見ユルノデゴザイマスケレドモ、實質ハ全ク之ニ反シテ居リマス、其目的トスル所ハ必ズシ
 モ不同意ヲ唱フベキ點ハ無イノデゴザイマスケレドモ、其方法ニ至リマシテハ私共斷ジテ同意
 ヲスルコトが出来ナイノデアリマス、表面ハ巧ミニ粧ハレテ居ルノデゴザイマスケレドモ、裏面

ニ於テハ頗ル見苦シキ事ガアル、諸君、産業獎勵ト云ヘル美シキ題目ハ何人ト雖モ之ニ反對スル者ハゴザイマスマイ、國民皆産業獎勵ヲ希望シテ居ルノデゴザイマスカラ、本員ノ如キモ産業獎勵ト云ヘル目的ニ向ッテ反對スルモノデハナイノデアリマス、併ナガラ此美シキ題目ノ下ニ、極メテ劣悪ナル制度ヲ設ケントスルニ至リマシテハ亦實ニ沙汰ノ限リデアリマセヌカ、本案ハ産業獎勵基金ノ元資ニ充ツルタメニ四千六百萬圓ノ金ヲ一般會計カラ繰入レテ、茲ニ特別會計ヲ設定セントスルノ趣旨デアリマス、而シテ其四千六百萬圓ノ金ハ即チ國庫剩餘金ノ中カラ之ヲ得ントスルノデアリマス、政府ノ案デハ之ヲ軍艦水雷艇補充基金ノ返償ニ充テントスルニ在ッタノデアリマス、ケレドモ政友會ノ諸君ニ於キマシテハ、軍艦水雷艇ノ補充基金ノ返償ハ必要ナシトシテ之ヲ止メテ、茲ニ産業獎勵ノタメニ新タニ別個ノ基金制度ヲ設ケントセラル、ニ在ルノデアリマス、私ハ前ニモ申シマス如ク、産業獎勵ト云ヘル事態ニ對シテ反對ヲ致スモノデアリマセヌ、併ナガラ此基金制度ノ設定ト云フコトニ對シテハ如何ニシテモ同意スルコトガ出來ナイノデアリマス、國庫ノ剩餘金ヲ處分スルニ當リマシテ、之ヲ基金ノ填補ニ用ヰントシタル所ノ政府ノ案ガ既ニ誤ッテ居ル、何故ニ基金ナルモノヲ置カナケレバナラヌノデアリマスカ、何處ニユ基金ヲ置クベキ必要ガ存在致シテ居ルノデアリマス、今日ノ財政状態カラ申シマスレバ有ル基金制度ハ之ヲ廢止シテ、根本ヨリ之ヲ整理スベキ必要ガアルト私ハ思ッテ居ルノデアリマス、基金ナドト云フモノヲ設ケテ置クベキ財政上ノ餘裕ハ、我輩少シモ之ヲ認ムルコトガ出來ナイノデアリマス、軍艦水雷艇補充基金ノ如キ其當初ノ趣旨ハ、國家有事ノ際ニ之ヲ用ヰンガ爲メニ積立テ置ク、而シテ政府ハ此基金設定ノ當初ノ目的ヲ貫徹スル爲メニ、此基金ノ返償ヲ爲スト云フ説明ヲ與ヘタノデゴザイマス、成程財政上ニ非常ナル餘裕ガゴザイマシテ、多額ノ金ガ有リ餘ッテ仕方ガナイト云フガ如キ場合ニ當リマシテハ、基金ト名ヲ付ケテ特別ニ此剩餘金ヲ取除イテ置イテ、一種ノ貯蓄ノ行爲ヲスルコトモ出來ルカモ知ラナイノデゴザイマスケレドモ、今日ノ如キ我國ノ財政状態デ果シテ左様ナ金ヲ積立テ、置クベキ餘裕ガアルデアリマセウカ、遺線ノ上ニモ遺線ヲ重ネテ頗ル高キ利子ノ金ヲ使ッテ居ルヤウナ今日ノ財政状態ニ於テ、國庫ニ剩餘

金ガアリマスレバ、之ヲ仕向ケルベキ必要ノ用途ハ幾ラモアルノデアアル、緊急已ム可ラザル此剩餘金ノ使用ニ於キマシテ、幾ラモ必要ヲ感ズル點ガアルニ拘ハラズデス、偶、剩餘金ガ存在ヲシテ居ルト云フコトヲ名トシテ、此金ヲ殊更ニ基金トシテ積立テ、置カナケレバナラヌト云フ必要ハ吾々決シテ之ヲ認ムルコトハ出來ナイノデアリマス、若シ左様ナル餘裕ガゴザイマスレバ、他ニ幾ラモ用途ハアルノデアアル、必要ナル用途ハアルノデアアル、緊急ナル用途ハアルノデアアル、切迫シタル必要ヲ感ズル澤山ナル要求ガアルニ拘ラズ、之ヲ基金トシテ何處マデモ存セシメナケレバナラヌト云フコトハ、私ハ政府ノ方々多額ノ諸君モ財政ノ根本ニ付テ餘リニ御研究ナキ結果デアラウト思ッテ居ル、近頃ニ至ッテ國庫ニ剩餘金ガ生ジタカラ、ソレデ以テ基金ノ返償ヲスルト云フ政友會ノ諸君ハ、基金ノ返償ヲ止メテ新タニ基金ノ制度ヲ設ケルト云フ、右ノ手ニ高利ノ金ヲ借りテ左ノ手ニ無利息デ之ヲ預ケテ置クト云フノト一般デアリマス、恆久的ニ於テモ、臨時的ニ於テモ今日ノ財政上ニ於キマシテハ大ニ節約ヲ加ヘナケレバナラヌ點ガ多々アル、ソレニ對シテ財政上補充ヲシナケレバナラヌト云フモノモ幾多其必要ヲ感ジテ居ル今日デゴザイマスルカラ、基金ヲ設定ヲ致シテ剩餘金ヲ棚ニ上ゲテ除ケテ置クト云フガ如キハ、今日ノ財政上決シテ策ノ得タルモノデアナイト私ハ斷言ヲ致スノデアアル如何様ニ考ヘテ見マシテモ、基金ト唱ヘテ國庫ノ剩餘金ヲ取除ケテ置クト云フコトハ、財政上ヨリ論ジマシテモ沒常識ノ甚シキモノナリト斷言ハセザルヲ得ナイ、殊ニ諸君、政府モ左様ニ申シテ居ルノデアリマセヌガ、先程委員長ノ井上君モ左様ニ申サレタガ、政府ノ意見ハ國庫ノ餘裕金ハ主トシテ一層財政ノ基礎ヲ鞏固ニシテ、財政經濟ノ調和ヲ保ツノ目的ニ使用スルト、斯様ニ宣明ヲ致シテ居ルノデアリマス、所ガ唯今モ申シマシタヤウナ理由ニ依リマシテ、剩餘金ヲ基金トシテ之ヲ預金部ノ資金ノ中ニ加ヘルト云フコトハ、私ハ決シテ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ノ道デハナイト信ジテ居ル、我國ノ預金部ト申シマスモノハ、一體本體ノ明瞭ナラザルモノデゴザイマシテ、頗ル疑ハシキ機關ト相成ッテ居ルノデアアル、或ハ財政上ノ手品ノ機關トモ稱セラレ、或ハ財政上ノ伏魔殿トモ稱セラレ、兎ニ角一種ノ財政上ノ遺線ノ機關デアルト云フコトハ私ハ疑ナイト思ッテ

居ルノデアリマス、遺線ノ機關デゴザイマスカラ、動モスレバ財政紊亂ノ種ト云フモノハ此預金部ニ於テ撒散ラカサレテ居ルノデアアル、即チ此ニ國庫ノ剩餘金ガアルト云フコトヲ以テ、此剩餘金ヲ預金部ニ寄託スルト云フコトハ、取リモ直サズ今日ノ政府ニ對シテ財政上ノ遺線ノ財源ヲ與ヘルノト同ジ事デアアル、私ハ國民トシテ誠ニ不安心ノ至リデアアルト考ヘルノデアリマス、更ニ政府ノ言フ所ニ依リマスレバ、國庫ノ剩餘金ハ無論遺線ノ財源ニナルドコロデハナイ、既ニナツテ居ルノデアアル、既ニ政府ノ遺線ノ財源トナツテシマツテ居ルノデアリマス、大藏大臣ガ此基金ハ在外正貨トシテ之ヲ保持スルト云フコトヲ辯明セラレタノモ、是ハ既ニ在外正貨トナツテ居ルモノト看做サナケレバナラヌノデアアル、剩餘金ノ一部ハ確カニ在外正貨トシテ所謂一種ノ遺線ノ財源トシテ既ニ使ハレテ居ルノデアリマス、此故ニ政府ガ剩餘金ノ處分ヲ行フニ當ツテ、成ルベク之ヲ基金ノ返償ニ使フ基金以外ノモノニ向ツテハ、剩餘金ヲ使フト云フ意思ヲ表明シナイノハ、實ハ剩餘金ト云フモノガ既ニ遺線ノ財源ニ充テラレテ居ルカラシテ、政府ハ如何ニ緊急ナル使途ガアリマシテモ、此剩餘金ヲ他ノ途ニ向ツテ使フトコトヲ肯ジナイ所以デアアル、言換ヘテ見レバ剩餘金ノ主モナル部分ハ既ニ遺線トシテ之ヲ使用セラレテ、今日ニ於テハ殆ド金ト云フモノガ殘ツテ居ルト云フコトハ認メルコトガ出來ナイノデアリマス、基金制度ノ弊ト云フコトハ此事實ニ於テモ明カニ之ヲ證明スルコトガ出來ル、政府ガ預金部ニ寄託ラシテ遺線財源ニシテ居ルト云フコトハ、此事實ニ於テ明カニ之ヲ設ムルコトガ出來ルノデアリマス、ソレデゴザイマスカラ茲ニ新タニ基金制度ヲ設ケラレマシテモ、其基金ト云フモノハ唯一時ノ遺線ノ爲ニ利用セラレ、寧ロ害用セラレ、バカリデアリマシテ、基金ヲ設ケル根本ノ主旨ニハ反シテ居ル、財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルドコロデアリマセヌ、私ハ是ガ全ク財政紊亂ヲ助長スル所以トナルコトヲ虞レルノデアアル提案者ハ此基金ニ依テ一箇年ニ二百七萬圓バカリノ利子ヲ得ルト云フコトヲ當初主張セラレタ、所ガ政府ハ此基金ハ在外正貨トシテ之ヲ保持スルト言ハレルノデアリマスカラ、此點カラ申セバ提案者ノ云フヤウナ金ノ利息ト云フモノガ得ラレルベキ筈ハナイノデアアル、押問答ノ末ニ大藏大臣ハ結局四分二厘ダケノ利子ハ之ヲ保證スルト述べラレタ、其趣意

ハ預金部ノ金ノ運用ヲ巧ミニシテ必ズ之ニ相當スルダケノ利子ヲ生出スト言ハレルノデアリマスケレドモ、一體基金ノ本體ガ頗ル曖昧デアツテ、從ツテ利子ノ計算ト云フモノモ益々曖昧ニナツテ居ルノデアアル、結局斯様ナ點カラ申シテモ政友會ノ諸君ノ目的ト云フモノハ、是ニ依ツテ充分ニ之ヲ達セラレルト云フコトハ出來ナイデアアラウト私ハ思ツテ居ルノデアアルカラ、此基金制度ハ實ニ剩餘金ノ濫用ヲ意味スルモノデゴザイマシテ、即チ剩餘金處分ノ第一歩ヲ誤ツタモノデアアルト私ハ思フ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル財政經濟ノ調和ヲ圖ルト云フコトノ爲ニハ、剩餘金ヲ活用スルノ途ハ他ニ幾ラモアルノデアリマス、最モ之ヲ有利ニ使用シ最モ之ヲ有益ニ使用シテコソ初メテ安心ガ出來ルノデアリマス、今之ヲ基金トシテ財政ノ彌縫的ノ財源ニ供スルト云フ一事ハ、既ニ根本ヨリ間違ツテ居ルノデアリマシテ、私ガ本案ヲ反對ラヌル主トシテノ理由ハ即チ茲ニアル、次ニ本案ハ名ハ産業獎勵ト云フノデアリマス、先程委員長ノ御報告ニモゴザイマシタル通り、是ハ全ク農業ニ關シテノミ之ヲ利用スルト斷言ラセラレテ居ルノデアリケス、是ハ何故デアアルカ頓ト其譯ガ私ニハ分ラナイ、國家ノ爲ニ産業ヲ獎勵スルト云フ以上、農ト言ハズ、工ト言ハズ、商ト言ハズ、國家ノ爲メ國民ノ爲ニ急務トスル所ハ何レニ向ツテモ産業ヲ獎勵シタナラバ宜イデハナイカ、ソレニ拘ラズ殊更ニ頑固ニ垣ヲ立テ、此金ハ農業ノ爲ニ使フノデアアル、通商貿易モ眼中ニ無イ、製造工業モ眼中ニ無シト言ハレル理由ハ果シテ何レニアルカ國家ノ經濟ヲ思フ者ノ斷ジテ首肯スルコトハ出來ナイ點デアアル、我今日ノ國家經濟ノ上カラ申シマスレバ、通商貿易ノ擴張ヲ圖ルト云ヘルガ如キハ誠ニ緊急ノ事務ニ屬シテ居ルノデアアル、此通商貿易ノ擴張ヲ圖ル爲ニハ、勿論農事ノ改良モ必要デゴザイマセウケレドモ、是ト同時ニ何故ニ各般ノ製造工業ヲ保護セラル、ノ途ヲ講ゼラレヌノデアアルカ、唯獨リ農業ノミヲ獎勵スルト云フ提案者ノ理由、並ニ之ニ對シテ當局者ノ御贊同セラレル意思ト云フモノハ、私ハ如何ニモ之ヲ解スルコトガ出來ナイ、土地ヘ向ツテ放資スル、或ハ土地ヲ開墾スル、灌溉ノ便利ヲ圖ル、イロノ事ヲ舉ゲ來ツタ、私ハ總テ其農業ノ改良事項ヲ否認スル者デハナイノデアリマスガ、何故ニ之ヲ農業ニ限ルカ、通商貿易ノ擴張ヲ圖ル爲ニ必要ナル有ユル製造工業ト云フモノヲ何故ニ

之ヲ眼中ニ置カナイカト、斯様ニ私ハ提案者ニ向ッテ詰問セザルヲ得ナイノデアリマス、其點カラ申シマスレバ本案ノ如キハ全ク不具ノ案デアアル、片輪ノ案デアアル、唯獨リ農業ノミヲ重シテ商業ヲ眼中ニ置カナイト云フ案ハ、全ク國家經濟ノ爲ニハ跛ノ案デアアルト言ハナケレバナラヌノデアリマス、殊ニ諸君、此案ハ内容ニ更ニ大ニ曖昧ナルモノデアリマス、私ハ委員會ニ於ケル經過ニ付キマシテ其産業獎勵ノ方法ハ如何デアアルカト質シタ場合ニ於テ、提案者ハ之ニ對シテ具體的ノ説明ヲ爲サズシテ農商務省ノ當局者ヲシテ其説明ヲ與ヘシメタノデアアル、然ルニ農商務大臣ノ説クトコロハヤハリ或ハ土地ヲ開墾スル、或ハ農業ノ倉庫ヲ設ケル、灌漑ノ便利ヲ圖ルト云フヤウナコトノ數箇條ヲ擧ゲラレタケレドモ、如何ヤウニシテ此獎勵ノ實ヲ擧ゲルカト云フ詳細ナル具體ノ案ハ、之ヲ示スコトハ出來ナイノデアリマス、是ハ勿論今日以後ニ於テ更ニ御研究ニ相成ルコトデアラウト思ヒマスルガ私ハ如何ヤウニシテ本案ヲ活用シテ最公平ニ最モ普遍的ニ——徒ラニ保護ノ弊害ニ陥ラナイヤウニ此資金ヲ活用セラル、ノデアアルカト云フコトヲ疑ハザルヲ得ナイノデアアル、産業獎勵ト云フ名ハ頗ル美シクゴザイマスケレドモ、斯様ニ疑シイ内容ガ包マレテ居リマスル以上ハ、諸君ノ求メラル、ガ如キ農業上ノ效果ト云フモノハ、果シテ立派ニ擧ガルコトガ出來ルデアリマセウカ、之ヲ要スルニ此資金ト云フモノガ特別ノ濫費、特別ノ濫用ニ陥ルコトガナケラネバ國家ノ幸ナリト私ハ思ッテ居ル、諸君卒直ニ申シマスレバ多數黨ノ諸君ハ動モスレバ政府ヲ笠ニ著テ、地方民ノ利害問題ヲ利用シテ時ニ或ハ餌ヲ與ヘテ黨勢擴張ノ道具ニ使ハレルノヲ憂トシテ居ル、既往ノ例ニ徴シマシテモ多數ト云フコトヲ旗印ニシテ、何事デモ多數黨ニ賴レバ行ハレルト云フガ如キ口吻ヲ示シテ、或ハ鐵道或ハ港灣、或ハ河川、或ハ學校、斯ノ如キモノヲ餌トシテ、地方民ノ利害問題ヲ利用シテ動モスレバ地方民ヲ瞞著スルト云フ態度ニ出テ居ルデアリマセウカ、私ハ斯様ナル黨勢擴張ノ手段ハ誠ニ怪シカラヌコトデアルト信ジテ居ルノデアリマスガ、此案ノ如キモ或ハ是ニ類スルモノデアリマスマイカ、地方ノ農民ニ對シテ特別ノ補助金ヲ與ヘテヤルト云ヒ、或ハ又特別ノ保護ヲ與ヘテヤルト云フ、ソレデ以テ一時地方ノ民心ヲ動カシテ、萬一ニモ是デ以テ黨勢擴張ノ資ニ供スルト云フガ如キコ

トヲセラル、ナラバ、私ハ立憲政治ノ下ニ於ケル政黨ノ弊是ヨリ大ナルハナシト信ズルノデアリマス、左様ナル次第ナレバ本案ハ産業獎勵ノ案ニアラズシテ、一種ノ黨勢擴張ノ餌トナルト云フコトヲ私ハ恐レルノデアアル要スルニ私ハ諸君ト共ニ産業獎勵其モノニ反對スルモノデアアリマセヌ、唯此美ナル題目ノ下ニ我財政ノ紊亂ヲ助長シテ、更ニ却ッテ國民經濟ノ上ニ惡影響ヲ及ボスニ至ランコトヲ恐レル者デアリマス、産業獎勵ヲ目的ト致シマスレバ、諸君ハ茲ニ特別會計ヲ設ケラレズトモ、一般會計ノ中ニ於テ適當ニ農事改良ノ費用ヲ増加セラルレバ即チソレデ宜シイデアリマス、左様ナ次第ニナリマスレバ、本員ノ如キモ即チ其農事改良費ノ増加ニ賛成ヲ致スノデアリマス、唯國家ノ財政ヲ度外ニ置イテ、國家ノ經濟ヲ度外ニ置イテ、種々ノ弊害ノアルト云フコトヲ知リナガラモ斯ノ如キ案ヲ提出シテ、一瀉千里デ以テ之ヲ議決セントセラル、トコロノ諸君ノ態度ハ實ニ、國家ノ爲ニ憂ヘザルヲ得ナイノデアリマス、國庫剩餘金ノ使途ハ幾ラデモアリマス、國家ノ必要ニ應ジテ國庫ノ剩餘金ヲ使フベキ必要ハ他ニ幾ラモ有望ナル方法ガ存在シテ居ルノデアリマス、ソレニモ拘ラズ偶ニ國庫ニ剩餘金ガ生ジタト云フコトノ爲ニ此剩餘金ヲ分取リヲシテ、諸君ガ或ハ黨勢擴張ノ資ニ供セラル、ト云フガ如キコトアリト致シマスレバ、私ハ多數黨諸君ノ面目ノ爲ニモ此案ヲ否決セザルヲ得ナイト信ジテ居ルノデアリマス

吉植庄一郎君ノ演説

私ハ委員長ノ報告ニ賛成スルモノデアリマス、本案ノ如キ國家ノ利害ニ大關係ヲ有シ國民ノ經濟上ニ至大ノ影響ヲ及スベキ所ノ重大ナル有利ノ案ニ對シテ、黨派ノ異同ハアリマシテモ此案ニハヨモヤ反對ハナイデアラウト自分ハ豫期致シタノデアリマス然ルニ唯今ノウノト言レル如ク反對モ、反對各派殆ド一致シテ反對ヲ表セラレテ、我政友會獨リ此案ヲ支持スルノ狀況ニ立至ッタコトヲ甚ダ悲ムノデアリマス、サウデモナケレバ洵ニ幸デアリマス、諸君、過日ノ委員會ニ於テハ正ニ左様デアッタノデアリマス、國民黨ノ鈴木君ハ絶對ニ反對ヲ表セラレ、其他ニモ皆反對デアッタノデアリマス、斯ノ如キ問題ガ黨派ノ擴張ノ餌ニ供スルトカ、或ハ他ニ意味ノアル敵

本主義ノ案デアルト云フ如キ誤解ヲ天下ニ與ヘルコトハ、吾々ノ甚ダ遺憾トスルトコロデア
 ル、殊ニ昨今新聞紙ノ論調ハ動モスレバ常軌ヲ逸シテ本案ノ如キハ政友會ガ地方民ヲ釣ルトコ
 ロノ案デアルト云フ、唯今早速君ノ言ハレタル如キ論調ヲ用非ル新聞紙モ少ナカラズ、諸君斯ノ
 如キ反對ガナケレバ私ハ言論ヲ費ス必要ハ無カッタデアル、ケレドモ斯カル誤タル議論ガア
 ル以上ハ、諸君ニ對シテハ甚ダ御氣ノ毒デアリマスガ質問時間ヲ拜借セザルヲ得ヌノデアアル諸
 君、唯今早速君ノ反對意見ト致シマシテ表示セラレタ所ノモノハ、第一ガ國庫ノ剩餘金ヲ積立テ
 、置クト云フ即チ基金制度其モノガ根本ニ惡イト云フノガ第一ノ論點、第二ノ論點ハ産業獎勵
 ト云フガ獨リ農業獎勵ニ限ッタノハ何故デアアルカ、商工業者ヲ度外スルガ如キ此案ハ宜シクナイ
 デハナイカト云フノガ第二ノ論點デアリマス、第三ハ其内容ガ甚ダ明確ヲ缺イテ何ニ使フカト
 云フコトノ、具體ノ案ガ伴ハナイカラ宜シクナイト云フノガ第三ノ論點、第四ガ或ハ恐ル政黨
 ノ黨略デハナイカト云フ四ツニナツテ居ルヤウニ考ヘマス、又委員會ニ於ケル反對ノ議論ノ中デ
 最モ有力ナル議論ト目サレルベキモノハ、農業ノ改良獎勵ト云フ意外ニ商工業ヲ置イタト云フコ
 トガ宜シクナイト云フコトガ一ツ、モウ一ツハ此農業ノ側ニ於テハ改良發達ノ餘地甚ダ少ナシ
 ト認メル、農業ハ集約ノ極ニ達シテ最早改善ノ餘地甚ダ乏シイ、然ルヲ斯ノ如キ大ナル基金ヲ
 置イテ非常ナ獎勵ヲスルト云フガ如キコトハ、時代ノ要求セザルトコロデアアルト云フガ如キ御
 議論ガアツタノデアアル、大要之ニ反對スルトコロノ議論ハ以上ノ如キモノニ過ギナイト私ハ思フ
 ノデアリマス、是ニ於テ先ヅ以テ此根本論ニ立入ッテ我帝國ノ現狀ガ勸業政策ヲ取ッテ大ニ進マ
 ナケレバナラナイカ否ヤト云フ此根本ニ遡ッテ議論セザルヲ得ヌノデアリマス、諸君、先帝陛下
 ノ崩御ノ際ニ英國ノ新聞ハ斯様ナコトヲ言フ、吾々ノ友邦ナル東洋ノ一大帝國ハ今ヤ不世出ノ
 英主ヲ失ッテ國民ハ殆ド其方針ニ迷ッテ居ル、明治ノ初年ヨリ四十有五年ノ間非常ナル速力ヲ以
 テ進歩シ向上シ發展シ來ッタ所ノ我友邦ノ國民ハ、此指導者デアルトコロノ大帝ヲ失ッテ彼等ノ
 發達ハ既ニ茲ニ止マルデハナイカ、國運ノ進展ハ茲ニ足ヲ止メルノデハナイカ、吾々ハ眞實ニ
 友愛スルトコロノ我同盟國民ノ爲ニ斯ノ如キコト無カラシムコトヲ祈ルト云フ趣意ノ記事ガアッ

タコトハ諸君ノ御承知デアラウト思フ、諸君、此英國ノ我友邦ナル所ノ新聞ノ論評ハ稍ト事實ニ
 當リツ、アルガ如キ近來ノ情勢デアルト云フト私ハ悲ムノデアリマス、大正ノ年度ニ至ッテ
 殊ニ我國ニ於ケル政論及新聞紙ノ論評國民ノ主張ハ、剛健ナル建設ノ見地ニ立ッタトコロノ雄
 大ナル議論ガ段々ト少ナクナツテ徒ニ悲觀シ、徒ラニ評論シ、終ニ破壞シ——現狀ヲ破壞スルガ
 如キトコロノ論議ガ横溢シテ來タト云フコトハ著シキ徵候デアルト私ハ思フノデアリマス諸君
 斯ノ如キ主張ガ政治論トナツテハドンナ論ニナツテ居ル、悉ク國論ノ中ノ一部ニハ減稅論廢稅論
 財政悲觀論早速君ノ如キハ常ニ財政上今ニモ日本ハ潰レルト云フ如キ議論ヲ屢々繰返サル、財
 政上ニ於テ此八千萬圓以上ノ正貨ノ流出ヲドウスルカ、此貿易ノ逆潮ヲドウスルカ、此大ナル
 負債ヲ如何ニスルカト云フ否定的疑問的懷疑的ノ議論ヲ至ル所ニ聞クヤウニナツタノデアリマ
 ス、ケレドモ、政治上ニ於テ一定ノ見識ヲ立テテ之ニ肯定的ノ論斷ヲ與ヘテ建設ノ經路ヲ論スル
 者ニ至ッテハ、天下甚ダ寥々タルヲ惜ムノデアリマス、諸君、私ハ此社會ニ斯ノ如キ悲觀破壞ノ空
 氣ノ多クナツタコトニハ一大原因ノアルコトヲ認メルノデアアル、原因トハ何デアリマセウ、固ヨ
 リ斯ノ如キ原因ヲ爲シタ所ノモノニハ、過去四十五年間ニ於ケル所ノ有ユル事柄ガ因トナツタノ
 デアリマスカラ、必シモ一二ヲ以テ論ズルコトハ出來マセヌ、ケレドモ其中ノ最モ大ナル不安ノ
 原因ヲナスモノハ所謂輸入超過正貨維持ノ困難、年々八千萬圓以上ノ正貨ヲ海外ニ失ッテ、何十
 年——何年經ッタナラバ是ガ平調ニ復スデアラウカ、此勢ヲ以テ進ムナラバ、國家ノ前途ハ如何
 ナル所ニ參ルデアラウカト云フ、此一大不安ノ觀念ハ、帝國ノ上下ヲ襲フテ居ルニ相違ナイト私
 ハ思フノデアリマス、此貿易ノ逆潮、正貨ノ流出、或ハ意識的ニ之ヲ考ヘル者モアリマス、或ハ無
 意識的ニ之ヲ感ズル者モアリマセウガ、兎ニ角モ國民ノ中ノ不安ノ念ハ是ヨリ醸成セラル、ト
 云フコトヲ疑ハナイノデアリマス、諸君尙物質上ノ以外其次ニハ今日ノ教育ノ制度ノ結果トシ
 テ智識階級ガ職業ヲ得ルコト能ハズシテ都市ニ集中シテ來テ、イロ／＼不平不滿ノ念ヲ生ジテ
 來タト云フコトハ、國論ノ上ニ大ナル悲觀論、破壞論ヲ生ズルトコロノ原因ト思ヒマスガ、是ハ
 別問題トシテ本問題ニ直接關係アルトコロノ農業上ノ方面ヨリ私ハ之ヲ論斷シテ、此不安ノ大

原因ハ將ニ此貿易上ノ不均衡、及是ニ伴フトコロノ正貨ノ流出ト云フコトガ、物質上ニ於ケル我國民ヲ腦ストコロノ大ナル低氣壓ト私ハ論斷ヲ致スノデアリマス、諸君、尙更ニ大ナル原因ガアルト思フガ、是ハ併ナガラ極メテ少數ナル部分ニ意識サレテ居ッテ國民ノ多數ニハ意識サレテ居リマセヌケレドモ凡ソ國民ノ衣食ノ獨立ト云フコトハ、即チ國家ノ獨立ニ最モ重要ナルモノデアルト云フコトハ私ガ言フヲ俟タヌノデアリマス、然ルニ我國民ノ衣食ノ原料ハ殆ド自國ニ於テ供給スルコトガ出來ナイ、吾々ノ著ルトコロノ木綿、吾々ノ著ルトコロノ毛織物吾々ノ食物ハ今年々數十萬圓ノ輸入ヲ仰ギ、甚ダシキニ至リテハ七千萬圓乃至一億萬圓ニ達スル農産物ノ輸入ヲシナケレバ、國民ガ食ヒ足りナイト云フ現況ニ立至ッテ居ルノデアリマス、諸君、或ハ英國ノ例ヲ引イテ英國人ハ食料ヲ持タズト雖モ彼ガ如ク世界ニ雄飛シテ居ルト云フ議論ヲナサル方ガアリマスガ、是ハ甚ダ古キ經濟論ニ因ハレタトコロノ議論デアッテ、今日大英帝國ノ政治家ガ在朝在野ヲ問ハズ、悉ク農業ノ興隆勃興ト云フコトニ力ヲ盡シテ居ル、殊ニ英國々民ガ衣食ニ足ラザルヲ苦シムト云フコトハ立國ノ基礎ニ於テ甚ダ危險ト感ジタノデアリマス、況ヤ我國ノ如キ殆ド生産額ノ大部分ノ三十億ト稱スル生産額ノ約二十億ハ農産物デアッテ、其人口ノ數カラ云フテモ三分ノ二ヲ有シテ居ルトコロノ農國ニ於テハ、農業上ノ衰頹ヨリ食物ノ缺乏、而シテ國民ガ衣食ノ原料ヲ得ルニ苦ムト云フ根本問題ニ於テハ、苟モ國家ノ前途、國民ノ前途ニ關スルコトデ何人ト雖モ是ニ對シテ寒心セザル者ガアリマセウカ諸君、現下ニ於テハ貿易ノ逆潮トナリ正貨ノ流出トナリ、而シテ延テ百年ノ後ニハ國民ノ衣食ノ原料ヲ悉ク外國ヨリ仰ガナケレバナラヌト云フ此趨勢ニ對シテハ、國民上下不安ノ念ニ驅ラレテ終ニ怪疑ノ精神ガ充滿スルニ至ルモ亦怪シムニ足ラヌノデアリマス、此ニ於テ現下ノ大問題多シト雖モ、又將來ノ大問題多シト雖モ此中ニ於テ貿易ノ逆潮ヲ止メ、正貨流失ヲ防ギ、而シテ現下ニ對スル財政ノ基礎ヲ確固ニシ經濟ノ調節ヲ圖ル、是ヨリ大ナル問題ガ現下何處ニアリマセウ、唯今早速君ハ剩餘金ノ如キハ使フベキトコロノ途ガ多アル、非常ニ有效ナルモノアリト稱セラレマシタガ、私不敏ニシテ不學ニシテ現下ニ於ケルトコロノ貿易ノ逆潮ヲ轉迴シ、正貨ノ流出ヲ止メルト云フ此根本ノ問題ニ向ッ

テ力ヲ盡ス以外ニ何等重要ナル問題ガアリマセウ、何ニモ重要ナル使ヒ途ハアリマセヌ、私ハ不敏ニシテ之ヲ知ラザルコトヲ恥ルノデアリマス、諸君、私ハ現下ニ於ケル貿易ノ逆潮、正貨維持ノ問題、朝野舌ヲ爛シ筆ヲ枯ラシテ論ジテ居リマス、ケレドモ未ダ是ニ向ッテ建設的ノ經綸ハ無イノデアリマス、評論ハアル、批評ハアル、ケレドモ未ダ如何ニスレバ宜イト云フ肯定的ノモノハナイ、此ニ於テ私ハ進ンデ之ヲ如何ニシテ此途ヲ防グト云フ解決ヲ之ニ與ヘント試ミタノデアリマス、諸君、反對ノ諸君ハ農業ハ既ニ集約ノ極ニ達シテ是以上改良ノ餘地ハ甚ダ少ナイ、是ニ向ッテ力ヲ盡スガ如キコトハ非常ニ時勢ニ遲レタル議論デアアル、殊ニ鈴木君ノ如キハ此古キ思想、古キ政策ハ甚ダ宜クナイデハナイカト言ハレテ居リマス、併ナガラ凡ソ政治上ニ行ハレテ居ル事柄ハ、皆古キ仕事デアルト私ハ思フテ居リマス、三千年若クハ五千年以前ノ人ノ思想ニ畫カレ、而シテ實行サレルコトヲ歴史ハ常ニ繰返サレツ、アルノデアリマス、政治上ニ行ハレテ居ルコトハ、全ク新ラシキモノハドレダケアルデアリマセウカ、吾々ハ此新ラシキ意味、古キ意味ト云フモノハ政治上ニ於テ完ク意味ヲナサヌト思ヒマス、私共念フニ日本ニ於テ農業ノ餘地ハ甚ダ乏シイト云フ議論ハ、經濟學上其他實業家トシテ經驗ヲ積マレタル鈴木君ノ如キ達識ノ士ヨリ、此議論ヲ聽クコトヲ甚ダ悲ムノデアリマス、鈴木君ニシテ尙然リ、ヨリ以下ノ人ニ至リテハ、ヨリ誤ッタル議論ヲスルデアラウト思フ、諸君、我國ノ農業ノ範圍ハ決シテ鈴木君等ノ稱セラル、ガ如キ規模ノ小サイモノデハアリマセヌ、而シテ又是ガ充分ノ域ニ達シテ居ルモノデハアリマセヌ、試ニ是カラ數字ニ依テ諸君ノ倦怠ヲ惟スコトニ致シマセウ、私ノ調ベタ所ニ依ルト、内地及殖民地ヲ併セマシテ未開地ガ約五百萬町歩アリマス、此五百萬町歩ハ當然開墾ヲ致スベキモノデアリマス、若シ是ニ資本ヲ與ヘ、方法ヲ講ジテ開墾ヲ速成スルナラバ、一段歩ニ於テ十五圓ノ收入ヲ得ルコトハ決シテ難事デハナイノデアリマス、此五百萬町歩ニ付キ一段歩十五圓ヲ得ルトスレバ、是ニ於テ年額七億五千萬圓ノ農産額ヲ増加スルコトハ數字ノ明カニ示ストコロデアリマス、又日本ニ於ケル畑地及臺灣朝鮮等ノ殖民地ニ於ケル既墾ノ畑地ヲ算スルト約五百萬町歩アリマス、此畑地ニ對シテ文明ノ機械ヲ利用シ資金ヲ利用シテ、是ニ水ヲ揚ゲテ水

田ニ變換スルコトハ極メテ容易ナモノデアリマス、此ニ於テ此五萬町歩ノ既墾地、及ビ是カラ開墾ヲ新ニセントスル五百萬町歩、併セテ一千萬町歩ノ畑地ニ對シテ平均二割ノ水田ヲ拵ヘル計算トスレバ、是ニ於テ一段歩十五圓ノ増額ヲナシ、此計算ヨリ約三百萬圓ノ金額ヲ増加シ得ルコトモ數字ノ明カニ示ストコロデアリマス、更ニ棉花ノ如キハ之ヲ海外ニ仰イデ居リマス、ケレドモ朝鮮總督府ノ調査スルトコロニ依レバ、朝鮮ニ於テ約三千萬圓、是ハ決シテ困難ナコトデアリト申シテ居リマス、更ニ臺灣ニ於テモ此事ニ精通シタル人々ノ意見ヲ聽キマスニ、臺灣ニ於テ約一億二千萬圓ノ棉花ガ出來ルト云フコトハ、政策如何ニ依ッテ決シテ難事デアイト云フコトヲ立證シテ居リマス、此說ヲ信ナリトスレバ、茲ニ一億五千萬圓ノ產額ヲ増加スルコトガ出來マスケレドモ、其中ニ同ジク畑地ヲ利用スルノデアアルカラシテ、此中ノ一億五千萬圓ヲ差引イテ純利益五千萬ノ増加ヲ是ニ依ッテ爲シ得ルト云フコトハ決シテ架空ノ說デアイト私ハ思フノデアリマス、更ニ今日日本ノ肥料ハ大豆其他ヲ合セマシテ非常ナル數ニ上ッテ輸入ヲ致シテ居リマス、此本年ノ如キハ既ニ約七千萬圓ノ輸入ヲ致シタノデアリマス、此七千萬圓以上ノ肥料ヲ若シ日本ニ於テ之ヲ作り得ルナラバ、此輸入ヲ減ズルコトガ出來ルノデアリマス、五百萬町歩ノ畑地ノ開墾ヲスルニハ、農馬ノ百萬頭ヲ増加スルニ於テハ、是非共是ガ伴ナケレバナラヌノデアリマス、勞力ノ不足ヲ補フタメニドウシテモ農馬ノ必要ヲ感ズルノデアリマス、農馬百萬頭ノ案ヲ立テラナラバ、此農馬ガ一頭四十八圓ノ肥料ヲ作ルモノデアアルカラ、此百萬頭ヲ殖ヤシタ結果ハ年額四千八百萬圓ノ肥料ノ輸入ヲ防ギ得ルコトニナルノデアリマス又生絲ノ如キ今日ハ約一億五千萬圓以上ニ億萬圓ニ近キトコロノモノデアリマス、ケレドモ此等ニ尙餘地ナキカ否ヤト云フナラバ、此生絲ノ如キモノハ二割三割ノ増加ヲスルト云フコトハ是亦決シテ架空ノ想像ニ非ズシテ、過去十年間ニ於ケル需要ノ増加、海外輸出ノ増加ノ此率ニ鑑ミマシテモ、今後四五千萬圓ノ増加ノ如キハ極メテ易々タルコトデアアラウト信ズルノデアリマス、更ニ全國ニ於ケル農家ノ借入レテ使ッテ居ルトコロノ債務ハ約十億萬圓ト稱セラル、此調ベハ或ハ七億萬圓ト云ヒ、或ハ八億萬ト云ヒ、未ダ正確ナルモノデアアリマセヌガ、約十億ト見ルコトヲ得ルノデアリマス、十

億萬圓ノ中デ勸業銀行若クハ農工銀行ノ如キ低利ノ資金ヲ使ッテ居ル者ハ僅ニ一億七千萬圓ニ過ギナイノデアリマス、殘ル八億三千万圓以上ノ巨額ノ金ハ悉ク一割二歩以上ノ高利デアアルノデアリマス、此高キ利息、若シ之ヲ外資輸入ニ依ッテ六七朱若クハ八七朱ト云フコトニ替ヘルコトガ出來タナラバ、一年ニ於テ平均利率ノ四歩若クハ五歩ノ差ガ出來ルノデアリマス、若シ四歩トスレバ三千五百萬圓、若シ五歩トスルナラバ四千萬圓ニ近キトコロノ農民ノ利益ヲ増スコトガ出來ルノデアリマス、更ニ此外資輸入——十億ノ輸入ニ依ッテ今日ノ農業ノ高キ資金ヲ低利ニ借替ヘレバ、之ニ依ッテ農業ノ改良トナリ、機械ノ利用トナリ、有ユル方法ノ改善發達ニ依ッテ平均農產額約十八億萬圓ノ百分ノ五ヲ増スト云フガ如キコトハ、是亦決シテ架空ノ想像デアナイノデアリマス斯ノ如キトコロノ數字ヲ並ベテ考ヘマスト、約十五億萬圓ニ近キトコロノ年額ノ生産ヲ増スト云フコトハ農業方面ニ於テノミニテ爲シ得ラレルト云フコトノ數字ヲ得ルノデアリマス、是ホドノ餘地アルモノガ我國ノ産業中何レニ在リヤ、或ハ貿易ノ伸張、商業ノ發達之ヲ口癖ニセラレマスケレドモ、之ヲ數字ニ、之ヲ具體ニシテ何處ニドレダケノ計畫ヲ立テタナラバ、ドレホドノ產額ヲ増シテ、貿易ノ上ニ何年ニシテ正貨ノ維持ガ出來ルト云フ此正確ナル案ヲ以テ居ル諸君ガアルデアリマセウ之ヲ持タズシテ徒ラニ評論スルガ如キハ無責任ト言ハナケレバナラヌノデアリマス、私ハ以上ノ如ク農業上ニ於テ餘地アルガ故ニ、假リニ今申シタトコロノ十分ノ一、是ダケアル餘地ノ中ノ一割ダケノ仕事ヲ國家ガ政策ヲ執ッテ進ムナラバ、年額直ニ一億五千萬圓ノ農產額ヲ増加スルハ極メテ容易ナコトデアリマス、年額一億五千萬圓ノ農產額ヲ増シタナラバ、今日ノ輸入貿易ニ於テ農產物ガ約八千萬圓乃至一億萬圓、此輸入超過ハ忽ニシテ此農產物ノ增收ニ依ッテ擊退セラル、デアアリマセヌカ而シテ此輸出入ノ「ペラン」ガ是ニ依ッテ得ラル、ナラバ、正貨流出ノ原因モ亦之ニ依ッテ忽チ消滅スルノデアアリマセヌカ、斯ノ如キ易々タル、此ノ如ク實效アルトコロノ方法アルコトヲ諸君ハ忘レテ、尙之ヲ百姓ノ肥タゴノ案デアルト言フガ如キニ至ッテハ、實ニ思ハザルノ甚ダシキモノデアリマス諸君ハ單リ此案ハ農業ナルガ故ニ宜シクナイ、農業ヲ發達セシムルコトハカリ考ヘテ商工業ニ薄イカラ宜

シクナイト言フ、諸君委員會ニ於テ反對諸君ノ一部カラハ、愈々反對ハ反對ダカ此案ガ行ハレル
 場合ハ希望ガアルト云フ誠ニ不思議ナ希望デアリマス、ケレドモ先ヅ其希望ハ何デアルカト聽
 イタナラバ、此金ハ方々ニ分取リヲシテ薄ツベラニ使ッテハ何ニモ效ガナイカラ、成ルベク是ハ
 纏メテ使ッテ貫ヒタイト云フ御注文ガアリマシタ、是ハ間違ッタ議論ノ中ニモ眞理ガアル、ソレハ
 其通り、誠ニ其通り、此僅カノ金額ニ百萬圓ニ足ルヤ足ラザル所ノ此金デアアル、之ヲ飽ヲ伸バシ
 タヤウニ、或ハ之ヲ商工業或ハ何々、之ヲ薄ク使ッテシマッタナラバ、或ハ早速君ノ言葉ヲ藉リテ言
 フナラバ、國民全體ニ之ヲ按配シテ往クガ故ニ、或ハ黨務擴張費ニハソレハ妙デアアルカモ知レナ
 イ、併ナガラ左様ナヤリ方ヲ致シタナラバ、決シテ國民ニ親切ナヤリ方デハナイト云フコトハ
 反對黨中ノ諸君スラモ之ヲ認メテ居ルデハアリマセヌカ、成ルベク之ヲ集中シテ、成ルベク有效
 ニ之ヲ使ッテコソ此基金ヲ設ケタトコロノ趣意ガ貫徹スルノデアリマス、此意味カラ言ヘバ生産
 額ニ於テ三分ノ二デアリ、人口ニ於テ三分ノ二デアアル、而シテ此貿易ノ一番大事ナル問題ハ農産
 物ノ輸入ガ原因ニナッテ居ルト云フコトヲ考ヘルナラバ、先ヅ此弱點、此病症ニ向ッテ全力ヲ傾注
 シテ、之ヲ喰止メルコトハ單リ農民ノ問題ニ非ズシテ全國民ノ問題デアアルト云フコトヲ記サナ
 ケレバナリマセヌ、此問題一度解決セラレタナラバ、今日商業會議所若クハ經濟社會ニ於テ懸念
 シテ居ルトコロノ正貨準備ノ問題ノ如キ、輸入超過ノ如キハ、全ク煙散霧消シテ經濟界ハ正ニ非
 常ナ安心ノ基礎ノ上ニ立ッテ、駭々タル發達ヲスルコトハ期シテ待ツベキデアリマス諸君尙私ハ
 此誤ッタルトコロノ世間ノ議論、新聞紙ノ論調、是ニ向ッテ事實ヲ語ッテ以テ反省ヲ促サント欲ス
 ルノデアリマス我國ガ過去四十年間ニ於テ、政治上ニ如何ナル缺陷ガアルヤト云フコトヲ回顧
 スルナラバ、全ク農政上ニ於テ注意ヲ拂フコトノ足リナカッタト云フコトガ一大缺陷デアアルコト
 ヲ吾々ハ確認スルノデアリマス諸君單リ此金額ニ於テ足ラザルノミナラズ、其政策ニ於テ十年
 一貫シタルトコロノ健全ナル政策ガ無いノデアリマス、教育ヲ見ヨ、陸海軍ヲ見ヨ、其他ノ施設
 經營ヲ見ヨ、少クモ年限ヲ定メ、年齢ヲ定メテ、或一定ノ年限ニドレダケノ品物ヲ拵エルト云フ
 確的ナル具體ノ意見ノ下ニ立タザルモノハナイトデアリマス、陸軍ノ如キハ何年間ニドレダケ

ノ師團ヲ拵ヘル、海軍ノ如キハ何年間ニドレダケノ軍艦ヲ拵ヘル、教育ノ如キハ何年間ニドレ
 ダケノ學校ヲ拵ヘテ、ドレダケノ教育ノ程度マデ普及セシメル、皆斯ノ如キ確實ナル數字ノ基礎
 ノ上ニ政策ヲ立テ居ルノデアリマス、ケレドモ單リ我農政ニ於テハ自然ノ成行ヲ助長シタト云
 フコトハ言ヒ得ルケレドモ、十年ニ互ッタル一定不變ノ政策ナルモノアルヲ認メナイノデアリマ
 ス、此言論ハ愈盛シニシテ文運ハ愈々發展スルニ拘ラズ、我國ガ漸次貧血ニ陥ッテ、此富源開發
 ノ途ニ於テ海外諸國ニ對シ甚ダ遜色アル原因ハ、此ニ存スト斷論シテ憚ラヌノデアリマス試ニ
 統計ニ依ッテ此議論ヲ立證致シテ見ヤウト思フ、我國ノ政費ノ總額ト農商務省ノ費用トヲ對照シ
 テ見マスルト、政費總額ニ對シテ我國ノ農商務省ノ費用ハ約千分ノ十八ニ過ギナイノデアアル、併
 シテ此農商務省ハ讀ンデ字ノ如ク、商工業ノ全部ヲ含ンデ居ルガ故ニ、此中單リ農業獎勵ノ費
 用ニ關スルモノヲ取ッテ數字ニ致シテ見マスルト年額實ニ二百萬圓、農商務省ノ費用千何百萬圓
 ノ中約二割デ、全政費ト對照致シマスルナラバ、全政費ノ千分ノ三ニ過ギナイノデアリマス全政
 費ノ千分ノ三ヲ以テ國家ノ血ヲ造リ、國家ノ肉ヲ造リ、國家ノ富源ヲ開發セント欲スルモ出來ル
 コトデアリマセウカ、出來ナイコトデアリマセウカ、此千分ノ三ノ此點ニ於テ諸君ハ大ナル考慮
 ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、更ニ府縣費總額ヲ算ヘテ見マスルナラバ、府縣費ニ於テハ教育
 費ガ千分ノ百十四デアアル、而シテ勸業費ハ千分ノ九十五ニ過ギナイノデアリマス、更ニ之ヲ市町
 村ニ至ッテ統計ヲ取ッテ見マス、市町村費總額ノ千分ノ中教育費ハ二百七十二、衛生及病院費ハ
 八十九ニナッテ居ッテ、勸業費ハドレダケアルカト云フト、勸業費ハ千分ノ五デアリマス、諸君、斯
 ノ如キ數字デ勸業ト云ヒ、農業獎勵ト云フガ如キコトガ何處ニ行レル、僅ニ村農會ノ如キモノ
 ガアッテ農業獎勵ニ盡シテ居ルガ、此費用ノ如キハ一町村僅カニ二百八十九圓ニ過ギナイ、之ヲ
 千分デ出シマストキニハ、此町村農會ノ費用ヲ町村全體ノ費用ニ比較スレバ、千分ノ三十五ニ
 過ギナイ、斯ノ如ク輕微ナル金ヲ使ッテ國運ノ發展、國民ノ生活上ヲ考ヘルガ如キコトハ、木ニ
 緣ッテ魚ヲ求ムルガ如キデアアル、此ニ於テ吾々ハ諸君ニ更ニ今一ツ提供スベキ材料ヲ有シテ居ル
 ノデアアル、日露戰爭ノ後ニ於テ戰敗國タルトコロノ露國政治家ガ、此戰後ニ於テ如何ナル政策ヲ

執ツタカト云フコトハ、戰捷國タル我帝國ガ少ナクトモ大ニ考慮セザルベカラザルトコロノモノデアアルマイカ、單リ軍備ニ於テノミ彼ニ對抗スルコトヲ考ヘル政治家ハ、更ニ大ニ考慮セナケレバナラヌ筈デアルト思フ、露國ノ政治家ガ露國ノ政治家ガ執ツタコロノ政策ヲ數字ニ依ツテ見ルト、明治三十七年露國ノ農務局——農務省、是ハ農商務省デアリマセヌ、農務省ノ豫算ハ三千十萬留、是ガ大正元年ニナツテドレダケノ數ニナツテ居リマスカト云フト、一億千六百萬留、即チ七年間ニ於テ三十九割ニ政費ヲ増加致シテ居リマス、ソレカラ其結果トシテ露國ノ耕地面積ハドレダケ増加致シタカト調ベテ見マスルト、七年間ニ一割五分増加致シテ居リマス、ソレカラ農産額ガドレダケ増加致シテ居ルカラ見マスルト、明治三十五年カラ大正元年ノ十年間ニ三十億「フート」ガ五十億「フート」ニナツテ、丁度此割合ハ約四割三分ノ増加ニナツテ居リマス、從ツテ此十年間ニ露西亞カラ穀物ヲ海外ヘ輸出致シタモノハ、約五割六分ノ増額ヲ來シテ居リマス、是ハ露西亞ニ於ケル彼ガ戰敗後ニ銳意富國ノ途ヲ執ツテ著々トシテ效果ヲ奏シタコロノ實績デアアルデアリマス、之ニ對シテ我國ノ農政ヲ顧レバ、明治三十七年農商務省ノ豫算ハ僅ニ六百五十萬圓、大正元年度ニ於テ千七百七十萬圓、此増加シタ歩合ハ十八割デアリマス、即チ露國ノ割合カラスルナラバ、日本ノ増加ノ割合ハ丁度半分ニモ達シナイノデゴザイマス、而シテ其結果、漸次我國ハ國民ノ食物ニ缺乏ヲ感ジテ居ルト云フニ拘ラズ、耕地面積ノ如キハ明治三十七年ヨリ大正元年マデ十年間ニ百分ノ八ノ増加ヲ來シタニ過ギナイノデアリマス、斯ノ如ク數字ニ於テ明瞭ナル統計ヲ示シテ居ルノデアリマス、更ニ米及麥ノ産額ヲ調査致シテ見マスルト、米ハ僅ニ百分ノ九ヲ増加シ、麥ハ百分ノ十二ノ増加デアアル、即チ露國ノ輸出増加ト比ベテ見マス、其半分若クハ三分ノ一ニモ達セザルトコロノ統計ヲ示シテ居ルノデアリマス、諸君斯ノ如ク我國ノ農政ノ振ハザルコト久シ、是ハ實ニ常ニ消極論ヲ唱ヘテ以テ積極政策ヲ阻ムトコロノ反對黨ノ諸君ハ、最モ大ナル責任アルコトヲ自覺シナケレバナラス、諸君、更ニ之ハ商工業者ニヤラナイデ、農業者ベカリニヤルカラ惡ルイト云フ議論ガアルケレドモ、此農業ノ狀態進歩ノ遅々タルコトハ、殆ド進歩ナルヲ認メ得ザル狀態ニアルニ拘ラズ、商工業家ノ方面ヲ一瞥スレバ全國

手形交換所ノ手形交換ノ趨勢ヲ見レバ過去十年間ニ二十五割ノ増進ヲ致シテ居ルデアリマセヌカ、農産物ハ僅カニ百分ノ八乃至九デアアル、然ルニ手形交換高ヲ調ベテ見ルト十年間ニ二十割ノ増加ニナツテ居ル、更ニ又農業者ト違ツタ會社銀行ノ拂込資本ニ對シテ見マス、商工業ノ方面ニ於テ過去十年間ニ九億ニ過ギザリシモノガ十八億、即チ十割ノ増進ヲ來シテ居ルノデアリマス、諸君、是程ノ相違ヲシテ居ル此案ハ農業者ヲ保護スルタメニ出シタノダカラ惡ルイト云フケレドモ、商工業者ノ斯ノ如キ非常ナル發達非常ナル進歩ニ對シテ、農業者ガ斯ノ如キ憐レナル狀況ニアルト云フコトハ、國家ノ政策上甚ダ偏輕偏重ノ譏アルコトヲ御認メニナルデアラウト私ハ思フノデアリマス、斯ノ如ク論ジ來レバ、根本ニ於テ反對黨諸君ノ論ゼラル、トコロノモノハ、悉ク粉碎シテ影ヲ止メザルモノト私ハ思ヒマス、此鈴木梅四郎君ノ御議論ノ如キ、其他反對ノ御議論ノ如キハ、殆ト枝葉末節ニシテ、吾々ノ本陣ニ向ツテハ寸鐵ヲモ加フルコト能ハザル甚ダ憫ムベキトコロノ反對デアルト云フコトヲ明言致シテ此壇ヲ降りマス

町田忠治君ノ演說

唯今賛成反對雙方ノ御議論ヲ承リマスルト、産業獎勵ト言ヘル大問題ノ御討論デアリマシタガ、吾々同志ノ本問題ニ對スル意見ハ全ク方角ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、是ハ産業夫レ自身ニ對シテ此問題ハ議論ヲ致スノデハゴザイマセヌ、産業獎勵基金ヲ此處ニ設クルノ利害得失ヲ論ズルノデゴザイマス、吾々ハ産業獎勵ト申スコトハ國家相當ノ範圍内ニ於テハ之ヲ保護スルコトヲ必要ト見テ居リマス、サリナガラ之ヲ獎勵シ保護スルニ果シテ基金ト云フ一ツノ制度ガ必要デアアルカ否ヤト云フニ對シテハ疑ヲ有ツテ居ル、又場合ニ依ツテハ吾々ハ基金制度ヲ絕對ニ反對ハ致シマセヌ、基金制度ヲ絕對ニ反對セヌガ、今日我國ノ國庫ノ狀態ニ於テ果シテ之ヲ設クルコトヲ得ルヤ否ヤ、又設クルコトノ必要アルヤ否ヤト云フコトヲ論ジタイノデアリマス、大藏大臣ハ過日艦艇水雷補充基金ノ案ヲ出サレマシテ、委員會ニ説明サルニハ、此基金ヲ設クルコトハ國家ノ非常ナル必要デアアル、若シ剩餘金ガ微ッセバ公債ヲ募集シテモ或場合ニ於テハ之ヲ補

填スル必要ガアルト申サレタ程ノ大切ナ議案トシテ、大藏大臣ハ艦艇水雷補充基金案ヲ出サレ
 タノデアリマス、然ルニ其後僅カ一週間足ラズニ此艦艇水雷補充基金ガ變テ産業獎勵基金トナ
 ラレタトキニ、政府ハ直チニ之ニ同意ヲサレマシタ、吾々ハ何故ニ大藏大臣ハ當初ノ言明ニ反
 シテ之ヲ容レラレタカ否ヤニ對シテハ、疑ヲ多少有テ居リマスルガ、ソレハ姑ク措キマシテ
 私ハ直チニ本案ノ本體ニ付テ一言致シタイト思フ、暫時御清聴ヲ願ヒタイ、私ハ政友會ノ本案
 ヲ出サレタ所ノ目的ヲ確カニニツアルト思ヒマス、ソレハ一ツハ此基金制度ヲ以テ國庫ノ改善
 ヲ圖ル、國庫ノ改善ヲ圖ルト云フノガ、政友會諸君ガ此基金制度ノ案ヲ出サレタ一ツノ目的
 ト、而シテ年々得ルトコロノ利子ヲ以テ産業殊ニ農業ノ獎勵ニ之ヲ資スルト云フ、此二ツノ目
 的デ此案ヲ出サレタコト、思フ先刻以來産業獎勵ト云フコトニ對スル堂々タル御議論ガアリマ
 シタガ、吾々ノ見ルトコロデハ、此案ハ地味ナル國庫ノ收支關係ニ關スル極ク地味ナル問題ト解
 釋致シテ居ルノデアリマス、決シテ日本國ノ産業將來ノ方針ヲ論ズルト云フヤウナ大問題デ
 ハナク、國庫ノ收支ヲ改善スルト云フコトガ此基金制度ノ問題ノ一番重モナル目的デアルト思
 フ、從ッテ私ノ申シマスルコトハ、壯快ニモアラズ愉快ニモアラズ、豫算數字ノ一ツノ問題ト御承
 知ヲ願ヒタイ、暫時御清聴ヲ願ヒタイ、故ニ私ハ若シ他ニ此國庫ノ改善ヲ圖ル別ニ良法ガ微ッセ
 バ、政友會諸君ノ出サレタ此御案ハ今日日本ノ國庫ノ現況ニ於テ一般歲計ニ屬スル國庫金ヲ以ッ
 テ、海外ニ正貨ヲ所有シテ居ル、是レガ若シ剩餘金ノアツタ場合ナラバ宜シイガ、剩餘金ノナイ場
 合デモ一般歲計ニ屬スル國庫金ヲ以ッテ、在外正貨ヲ所有シテ居ラナケレバナラヌト云フ此現況
 ナルガタメニ、諸君ガ御承知ノ通り内ニ在ッテ收支出合ヒノ合ハヌ場合ニ生ズル大藏證券ノ發行
 ノ外ニ、在外ニ國庫金ヲ置イタタメニ生ズル大藏證券ノ濫發ヲ防グノニハ、政友會諸君ノ御出シ
 ニナツタ此基金制度ハ、大藏證券ノ發行ヲ防グト云フコトニ對シテ確カニ有益ナル方法デアルト
 私共承知致スノ決シテ吾々ハ、此案ヲ大キナル産業獎勵ト云フ案ト見ズシテ、基金制度ヲ置ク
 カ否ヤト云フ案ト小サク解釋シ、而シテ他ニ途ガ微ッセバ政友會諸君ガ出サレタ此基金制度ハ
 國庫ノ改善ニ立派ナ一ツノ案デアルトハ、吾々モ認ムルノデアリマス、願クバ此案ヲ斯様ナル意

味ニ吾々ガ解釋シテ居ルト云フコトヲ御承知下サレテ、而シテ次ニハ最モ此處デ問題ノ生ジマ
 スルノハ年々此基金ノ運轉ニ依ッテ二百萬圓内外ノ利子ガ生ゼラル、ト云フコトヲ、先刻井上
 委員長ノ御報告モゴザイマシタシ、過日委員會ニ於キマシテ大藏大臣ノ説明モアリマシタガ、去
 リナガラ爰ニ諸君ニ是非御考ヘヲ願ヒタイノハ、此利子二百萬圓ト云フノハ年々ノ歲計豫算ニ
 依リ國庫ノ收入ノ中ニ現ニ入リツ、アルトコロノ是ハ利子デゴザイマス、即チ當年ノ豫算ニ於
 キマシテハ僅カ四十六萬トカ五十萬トカ云フヤウニ計上致シテアリマスルガ、吾々ノ信ズルト
 コロデ決算報告ヲ見マスレバ、此國庫金ヲ運用シテ在外正貨ヲ維持スルガタメニ、年々生ジテ居
 ルトコロノ利息ハ二百五十萬圓乃至三百萬圓ニ上ッテ居ルト思フ、此利息ハ現ニ一般豫算ノ上ニ
 收入トシテ入ッテ居ル利子デアリマス、決シテ今後新タニ生ズベキ利子デハナイノデアリマス、
 誤解デアリマセヌ——誤解デアリマセヌ、——左様ナ意味合ニ吾々ハ解釋スル、故ニ先般來諸君
 ノ御靜聴ヲ煩シマシタ吾々ノ國庫改善ノ方法ハ、第一ハ酒造稅地租ノ納期ヲ改正シテ、國庫ノ收
 入ニ裕リヲ生ズルト云フコトガ三千四百萬圓、又專賣基金ノ年度前區分ニ依ッテ九百萬圓、斯様
 ナ方法ニ依リマシテ大藏省證券ノ發行ヲ防ギ、收支ノ出合ヲ圓滑ニ致シマスルト云フ一般國庫
 金ヲ海外ニ置イテ之ニ正貨ヲ所有セシメテ、是カラ得ベキ利益ハ諸君ガ基金トシテ得ラレル利
 子ト決シテ、變リハナク、同額デアアルト確ク信ズル、即チ政友會諸君ノ御提案ニ依リマス、國庫
 ノ改善ヲ計ルノ利益ハ確カニ一ツゴザイマス、年々二百萬圓ノ利益ヲ得ルト云フ見込モ確カニ
 ゴザイマス、併シナガラ吾々ノ案ニ依リマスレバ利息ノ二百萬圓ヲ得ル計算ハ同ジ計算ニナリ
 マス、ソレカラ國庫ノ改善ヲ圖リ大藏省證券ノ濫發ヲ防グト云フ利益ハ、ヤハリ納期ノ繰下其他
 吾々ノ提案ニ依ッテ同様ニ生ズルノデアリマス、シテ見マスレバ吾々ノ方ノ案ハ右申シタ雙方比
 較的同様ノ利益ノ外ニ、更ニ納期ノ繰下ニ依ッテ酒造稅地租ノ納稅者ニ對シテ納稅ノ便益ヲ與フ
 ルト云フ利益モアリマスシ、又諸君ガ四千六百萬圓ヲ基金トセラル、ニ對シテ、吾々ハ三千四百
 萬圓ヲ國庫ノ改良、納期ノ繰下ニ用井マシテ、殘ル千二百萬圓ハ今年ハ減稅ノ財源トシテ營業稅
 其他ノ減稅ヲ今年ヨリ行ヒ得ラル、ト云フ大ナル利益ヲ持ッテ居ルノデアアル、斯様ナ點カラ吾々

ハ遺憾ナガラ本案ニ反對セザルヲ得ヌト云フコトニナリマシタ、若シ年々二百萬圓ノ利息ガ生ズルト云フコトニ對シテ御疑ガアルナラバ、吾々ノ案ニ依リマシテ一般國庫金ヲ以テ在外正貨ヲ持タシテ居ルモ、諸君ガ基金トシテ運轉ナサルト同様ノ利息ガ得ラル、コトニ對シテ御議論ガアルナラバソレヲ承リタイ、吾々ハ過日豫算委員會ニ於キマシテ大藏大臣ハ私ノ質問ニ對シテ在外正貨ト申スモノノ此内ニハ、既ニ二千萬圓以上ノ內國ノ公債ガアルト明言サレタ、私ハ此問題ハ公言ヲ致シマスコトノ利益不利益ニ對シテ聊カ考ヘマシタガ、政府當局者ガ豫算委員會ニ於テ公言サレタ以上ハ、政府ノ所謂在外正貨ト稱スルモノ、中ニハ、確カニ正貨ニアラズ、既ニ公債ニ變化シテ居ルモノガ二千萬圓アルコトハ皆様モ御承知ノコトデアアル、更ニ其點ニ對シテ申サナケレバナラヌノハ、私ハ政府ノ外交政策産業政策ノ上カラ露骨ノ言ハ用井マセヌガ、政府ノ所有シテ居ル在外正貨七八千萬圓ノ内ニハ未ダ當局者ガ見テ日本ノ國益ノタメト信ジテ之ヲ保持シ、既ニ固定シテ居ル金額ガ更ニ二千萬圓アルコト、信ジマス、而シテ此利益ハ五歩乃至六歩ヲ取リツ、アルコトヲ信ジマス、甚ダ政府ニハ氣ノ毒デアアルガ政府ハ在外正貨ト云ヒナガラ其實正貨ニアラズ、有價證券若クハ貸出金ヲ有スルコト四五千萬圓ニ達シテ、之ヲ處分スル方法如何ニ對シテハ數年來苦心モ致シ、恐ラクハ會計検査院モ之ニ對シテハ非常ナル注意ヲ拂ヒツ、アルト思フ、是ハ當局者ガ政策ノ上ニ此金ヲ使ツタト云フコトハ、會計並ニ國庫ノ勘定ヲ曖昧ニシテ居ルト云フコトハ、是ハ後來別々ニ論ジナケレバナラヌ問題ト思フ、シテ見レバモ運轉シテ——預金部デ之ヲ運轉シテ四歩二厘ヲ得ラレルト井上委員長モ言ハレ、大藏當局者モ言ハレタト云フコトハ、申ス迄モナク既ニ年々豫算ノ上ニ雜收入トシテ二百五十萬圓乃至三百萬圓ノ利息ガ入リツ、アル、何ゾ當局者ノ技術ニ依ッテ更ニ之ヲ有利ニ廻スナド、云フ技術ノ要ル問題デアアリマセヌ、決シテソノ問題デナイ、要スルニ此案ハ政府ガ在外正貨ノ名前ニ依ッテ持ッテ居ル公債ヲ如何ニ處分スルカ、一般國庫金ヲ海外ニ置クガタメニ大藏證券ノ濫發ヲ生ズル虞ガアルガタメニ之ヲ基金ニ移シ、而シテ在外正貨ヲ基金デ持ツト云フ名前ノ下ニ、此公債ヲ處分スルト云フ極メテ苦シキ餘儀ナキ事情カラ一條ノ活路ヲ基金制度ニ設ケタモノト私ハ解釋ヲ

スル、其證據ハ大藏大臣ハ之ヲ艦艇水雷補充基金ト稱スルモ、産業獎勵基金ト稱スルモ其實體同ジキガ故ニ、私ハ之ヲ贊成スルト大藏大臣ハ言ハレテ居ル、若シ諸君ガ果シテ世人ニ誤解サレテ居ルガ如ク、——善ク誤解サレテ居ルガ如ク、産業獎勵金ト云フ四千六百萬圓ガ果シテ農業ノ改良ニ用ヒラル、カ、工業獎勵ノ發達ニ用ヒラル、カ、若クハ勸業債券トナリ、農工債券トナリ、興業債券トナリ、或ハ低利資金トナッテ、産業社會ノ獎勵發達ヲ計ルコトニ使ヒ得ラル、ト云フ法案デアリマスレバ私モ一考致シマスガ、其元金ハ在外正貨ト云フ名前デ既ニ固定シテアル公債ヲ持タナケレバナラヌ、利金二百萬圓ダケハ使フト云フ案ダケデアッタナラバ、此利金ハ一般歲計ニ依ッテ一般收入ニ入ル利子デアリマスカラ、諸君ガ目的ヲ定メテ方法ヲ定メテ豫算ヲ提出ナサル場合ニハ、吾々ハ之ニ信任シテ其案ニ贊成スルコトハ辭セヌノデアアル、茲ニ基金制度ヲ用井ルト云フコトハ、即チ既ニ固定シテアル在外正貨ノ名前ニ依ッテ固定サレテアル公債ヲ處分スルト云フコトニ過ギヌノデ、吾々ハ之ニ反對スルノデアリマス

有森新吉君ノ演說

諸君、本議會ニ於テ國民黨ハ數多ノ案ヲ拵ヘマシテ、即チ國家ノ財政上並ニ經濟上ノ見地カラシテ數多ノ案ヲ拵ヘマシタガ、不幸ニシテ諸君ノ容ル、所トナラズ、多クハ葬ラレテシマッタノデアリマス、シテ見マスト此場合國民黨トシテ如何ニスルカ、他黨ノ案デアラウトモ苟モ良キモノハ贊シ、惡シキモノハ排シ、サウシテ修正スベキモノハ修正スル、斯ウ云フヤウナ意見デアル積リデアアル、ソコデ此問題ニナッテ居ル基金ト云フモノハ置クガ良イダラウカ惡イダラウカ、此點ニ付テハ吾々ハ澤山ノ議論ヲ持ッテ居ル、ケレドモ先ヅ今日ニ於テハ置クガ宜カラウ、斯ウ云フ議論デアアル、夫ハ諸君ガ御承知デアラウガ、獨逸ノ伯林ノ近所ニ「ボツダム」ト云フ所ガアルソコノ所ヘ澤山金貨ヲ埋ケテアル、其金貨ノ埋ケテアルノハ何デアアルカト云フト、佛蘭西カラ償金ヲ取ツタ其償金ガ埋ケテアル其埋ケテアルタメニ、算盤ヲ擧ゲテ見タナラバ利息ハ非常ニ失ッテ居ル、去リナガラ是ガタメニ何時何日ニ獨逸ト云フモノハ戰爭スルカ知ラヌ、戰爭スル時分ニ其

準備ガ直グサマ調フト云フ事柄デ此四鄰ノ各國ヲ潛伏サセテ、即チ外交政策上ニ於テ如何ニ是ガ有利デアルカト云フコトガアリマシテ、私ハ財政ニ於テ餘ッタ金ガアツテ之ヲ減税ニ用フルノニ少シ足ラヌトカ、何トカ云フ時分ニ此基金ヲ置イテ置キ、サウシテ萬一ノ際ニ之ヲ用フルト云フコトハ至極宜イコトデアラウト思フカラ、基金ナルモノヲ置クト云フコトニ於テハ大體ニ於テ賛成デアアル、夫カラ産業獎勵基金、私ハ此政友會諸君ノ力ニ依ッテ斯ウ云フモノガ置ケタト云フノハ非常ニ多トスルノデアアル、何トナレバ今迄此日本ノ仕事ト云フモノハ全然陸軍ニ非ズンバ海軍ト云フコトデアタツノデアアル、陸軍トカ海軍ト云フ者ガ皆金ヲ取ッテ民業ヲ保護スルト云フコトニ用フルト云フコトハ今迄ナカッタノデアアル、之ヲヤッタノハ政友會諸君デアアルカラ私ハ政友會諸君ノ此盡力ヲ大ニ多トスルノデアアル、ソレカラ産業獎勵ト云フコトニ付テハ今御話ヲシタ通りデアアルガ、併ナガラ此處デ少シ政友會諸君ニ修正ヲ持出サネバナラス、何トナレバ此第三條ノ修正ノ場合ニハ述ベマスケレドモ、賛成ノ意見ヲ述ベル、斯ウ云フ修正ヲ持ッテ居ッテ之ヲ賛成スル、斯ウ云フノデアアル、此修正スル點ヲ御話シテ置カヌト吾々ハ唯政友會ニ盲從シテハ困ルノダカラ、外ノ條項ニ於テハ不賛成ノ所ハ一ツモナイ、第三條ニ於テ一ツアル、ソレモ地方産業獎勵トアルノヲ、農工商業ノ獎勵ト云フ字ヲ用ヒタイ、即チ政友會ノ人ハ農業ニ限ラウト御思ヒナサルノダケレドモ、是ハ少シク御擴メニナッタラドウデアラウカト云フ意味ヲ以テ、此産業獎勵法ヲ賛成スルノデアアリマス、今迄ノ御話ヲジツト聞イテ見マシタ所ガ、此食物ガ澤山輸入スルトドウスルトカ、海外ニ以ッテ往ッテ貨幣ガ出ルトカ何トカ云フイロノ議論ガアリマシタガ、併ナガラ此農工商ニ擴メルト云フト金ガ少ナイ、二百萬圓位ノ金額デアアルカラシテ餘リ廣ゲテハ困ルカラシテ、農業ダケニ定メテ置カウト云フ、斯ウ云フ御議論デアアル、ソレカラシテ其議論ハドウ云フ點デ農業ニ御定メニナルノカト云ヘバ、工商ノ業ハ近頃非常ニ進歩シテ居ッテ、農業ガドウモ振ハヌ、斯ウ云フ議論デアッタケレドモ、農業ノ振ハヌト云フコトニ付テ一言スルト長クナリマスガ、一言デ濟マヌカ知ラヌガ、農業ノ副産物ト云フモノハ何處ヤ彼處ニ在ッタクレドモ、近頃ニナッテハ無イヤウニナッタト云フ説ガアリマスケレドモ、此無イヤウニシタノ

ハ誰デアアルカト云ヘバ、私ノ見タ所デハ輸入品ガ無クシタノデアアル、外國ノ輸入品ト云フモノガ出テ來タ、サウシテ日本ノ農工業ノ副産物ト云フモノヲ全ク取ッテシマッタ、ソレハ一例證ヲシヤウト思ヘバ直グ出來マスガ、此輸入品ト云フモノヲ防グタメニ、此工商ト云フモノガ此頃出來テ居ルノデアアルカラシテ、工商ヲサウ度外視サレテハ困ル、工商ハ此農業ノ副産品ヲ叩キ潰シタヤツノ仇打ニ出テ居ルノデアアル、此邊ヲ辯ズルニ福井君ダト旨ク辯ズラウケレドモ、此ノ政友會ノ諸君ニ話ヲスルノハ、此農業ヲ保護スルト云フコトハ非常ニ宜イガ、考ヘテ見テ頂戴シタイ、農業ノ中ニハ日本ノ今日ノ状態デドウデアアルカト云ッタナラバ、必ズシモ農民ガ疲弊シテ居ルト云フコトハ言ヘナイト思フ、此事ハ最モ考ヘナケレバナラヌノハ、日本ノ人口増加デアアル、即チ農民ノ一戸ノ中カラ次男三男四男五男ト云フモノガ出テ來テ居ル、今日ノ農業状態ニ於テハ長男ハ如何サマ相續ラシテ、後ノ農業ヲ維持スルコトガ出來ルケレドモ、後ニ出來タ次男三男ハドウシテモ餘所ニ行ッテ職業ヲ求メネバナラヌ、ソレハ人口ノ統計表ヲ御覽ニナルト直グ分ル、戶籍面ニアル人間ハ非常ニ多イケレドモ、實際ノ現住人ハ非常ニ少ナイ、是ハ何デアアルカト云ッタナラバ農家ガ即チ其土地——農村ノ土地ト云フモノノ生産力ニ限リガアルカラ、數多ノ人間ヲ養ヒ得ナイノデアアル、人間ヲ養ヒ得ラレナイカラドウシテモ多數ノ人間ト云フモノガ都會ノ土地ヘ行カナケレバナラヌカラシテ、都會ノ土地ヘ農民ガ行クノハ農村疲弊ノ證據ナリト云フノハ大ナル間違ヒデアアル、即チ農村デハ食ヲ得ルコトガ出來ナイカラシテ都會ニ出ルノデアアル其點ヲ能ク爲政治家ハ——政治ヲスル人ハ能ク考ヘテ居ッテ貫ハナケレバナラヌ、今日ドンノ此人口ガ増加シテ往キマスカラ、此人口ヲ如何ニ處理シテ宜イカト云フコトヲ政治家ト云フモノハ考ヘテヤラナケレバナラヌ、或ハ海外ニ出ストカ或ハ一段歩カラ小サナ面積カラ、餘計産物ヲ出スカ、サウ云フコト考ヘテ貫ハナケレバナラヌ、其點カラ考ヘルト云フト之ヲ農業バカリニシテ居ッタトコロガサウ農業ガ非常ニ發達スルモノデナイカラ、前カラ出來ル一段歩カラ三倍モ四倍モ澤山ノ製造力ヲ拵ヘルコトハムツカシイ話デアアルカラ、ドウシテモ工商ノ民ニシテ即チ僅ノ土地ニ於テ働イテ非常ナ金ヲ舉ゲルト云フヤウナ道ニ進メテ往カナケレバナラヌ、此日

本ノ農業ヲ獎勵シタ時分ニハ非常ニ澤山ノ土地ガマダアルカラト云フ御話デアアルケレドモ、是ハ議論シテ居ルト何デアアルガ、サウ土地ガアルカ知ラヌ、先ヅアルトシタトコロガ之ヲ開墾スル費用ハドウデアアルカト云フコトヲ考ヘタ時分ニハ、ナカノ前途遠遠ノ問題デアラウト思フ、私ノ考ニハソレダカラシテ産業獎勵基金ト云フモノヲ置イテ置イテ、サウシテ保護スルノモ農業ダケニ限ラズ、工商ナリ非常ニ大ナル問題デアアテ、是ハ有益デアルト云フ問題ニ對シテ保護ヲ與ヘヤウト云フ考デアアル、即チ此特別會計法ノ第五條ニ於テ毎年一般會計ニ出シテ、サウシテ之ヲ議スルト云フコトデアアルカラ、其議スル時分ニハ、是ハ農業ノ案ハ斯ウ云フモノガアル、是ハ宜イ、或ハ工業ニ斯ウ云フモノガアルカラ、是ハ宜イト、云フヤウナ風ニ皆ガ斷定スルニ都合ガ宜イヤウニ拵テ置カナケレバナラヌト思フ、決シテ農業ダケニ局限シテ居タ時分ニハ、諸君ガ非常ニ困ル事柄ガ生ズルト思ヒマス、吾々ハ政友會諸君ガ農民トセズシテ農工商トシテ範圍ヲ廣クシテ置イテ、サウシテ何ヲ獎勵シタラ宜イカト云フコトハ毎年ノ豫算ニ於テ極メルコトガ最モ必要ナコトデアアラウト考ヘマスカラシテ、私ハ此意味ヲ以テ産業獎勵基金ト云フモノヲ贊成スルノデアリマス

堀切善兵衛君ノ演說

諸君、大分時間ガ迫ッテ參リマシタニ付テ、私ハ極ク簡單ニ骨組ダケヲ御話致シマス、私ノ考ニ依リマス、此法案ハ一舉ニ得ノ良案デアルト斯ウ考ヘマス、即チ町田君ノ仰ッシヤル如ク、此基金アルガタメニ財政ノ運用ヲ圓滑ナラシムルト云フノガ是ガ一ツ、ソレカラ有森君ガ唯今申サレマシタ如ク、之ニ依ッテ一旦緩急アルノ際、國家ニ最モ必要ナルトコロノ此軍用金ニ充テルコトガ出來ル是ガ一ツ、更ニモウ一ツハ二百萬圓前後ノ利子ヲ以テ、産業殊ニ農業ヲ主トスルトコロノ産業ノ發達ニ之ヲ用ルルト云フコトハ實ニ一舉ニシテ三ツノ利益ヲ收ムルトコロノ良案デアルト私ハ思ヒマス、若シ一旦緩急アルニ際シマシテ、軍艦ヲ五ツモ六ツモ買ヒ得ルコトガ出來マスナラバ、今後日本ノ海軍擴張ノ際ニ要スル金ハ、皆斯ノ如キ基金ニシテ置ク方ガ宜イト私

ハ思ヒマス、併シサウモ參リマセヌケレドモ、日進春日ヲ買タ位ノモノヲ、マダニツ位軍艦ヲ買ヒ得ル程度ニ於テ、基金ヲ備ヘテ置クコトハ結構ナコトデアラウト思フ、此ノ三ツノ利益ガアリマス、夫カラ此基金ノ制度ニ反對スル諸君ハ、斯ノ如キ直接ノ方法ニ依ッテ産業ヲ獎勵スルノガ惡イ、殊ニ此基金制度ヲ置クガ如キハ、是ハ最モ古臭イ時勢ニ遅レタトコロノ考デアルト云フコトヲ、委員會ニ於テ鈴木君ナドガ申サレタノデアリマスケレドモ、私ハ鈴木君ハ如何ナル時ヲ以テ此新シイ考デアアル、新シイ時代デアルト御考ニナッテ居ルカ、聊カ惑ハザルヲ得ナイ、ト云フノハ最近ニ於テ此世界ノ商工業ノ最モ盛ナル國ニ於テ、此産業獎勵基金制度ヲ設ケテ、年々其中ノ幾部分ヲ以テ農業ヲ主トスル所ノ産業ノ獎勵ニ使ッテ居ルノデアリマス、ソレハ千九百九年ニ英國政府ハ産業振興並道路改良基金法案ヲ議會ニ提出シマシタ、是ガ千九百十年今ヨリ四五年前デアリマス、多少修正ノ上議院ヲ通過シ産業獎勵基金法トシテ制定公布セラレタノガ即チ左ノ如クデアアル、第一ノ目的ハ何デアアルカト云ヘバ、種々ノ學術的研究科學上ノ教育及實驗、農耕ノ方法及其實行組合團體ノ組織生産物ノ販賣方法等ニ關スル改良等、農業及諸種ノ副業ヲ開發スルタメノ方法ヲ採用シ、以テ農業及諸種ノ家内工業ヲ助長スルコト、此農業及諸種ノ家内工業ノ中ニハ、農業園藝業、牛酪乾酪製造業、牛馬其他家畜家禽ノ飼養、養蜂、家内工業、亞麻及煙草ノ栽培、其他是等ニ直接關係アル事業ヲ含ム、是ハ農業ヲ保護スルノガ目的ノ基金デアリマス、夫カラモウ一ツハ荒地ノ開拓及土地ノ排水ニ關スル事業此金ハ如何ナル基金カラ成立ッテ居ルカト云フト、毎年議會ヨリ協賛ヲ得タル金「コンソリデーテ」基金ヨリ供給ヲ受クル二百五十萬磅、是ハ千九百十一年以降、五箇年間に於テ毎年五十萬磅ヲ基金ヨリ拂込ヲ受クルモノトス、ソレカラ此基金ヨリ生ズル利子ト云フノガ、英吉利ノ農業獎勵金ニナッテ居ルノデアリマス、是ハ僅カニ四五年前ニ英吉利デ農業ヲ主トシタルトコロノ産業ノ發達ノタメニ、特ニ基金制度ヲ設ケテ獎勵シテ居ルノデアアル、今日此議會ニ提出サレテ居ルノト略、其性質ヲ同ウシテ居ル、此議案デハゴザイマセヌカ、夫カラ墾地利ハ千八百八十四年以來、今日迄ヤッテ居ルトコロノ土地改良基金制度ヲ設ケテ、之ヲ「メリヲラチアンズフンド」ト稱シテ年々國庫ヨリ相當ノ資金ヲ割キテ之

ニ注入スルモノニシテ、千九百五年ニ至ルマデ即チ二十年間ニ之ニ投ゼル資金總計ハ三千二百萬「クローネン」ニ達シタリ、此目的ハ水害ニ對スル土地ノ防禦、並ニ疏水又ハ灌漑ニ依リテ土地ノ收穫ヲ増加スルヲ目的トスル事業ニ、財政的援助ヲ與ヘテ之ヲ促進スルノ用ニ供スルモノトス、是モ今日此處ニ出テ居ルトコロノ法案ト其目的ヲ全ク同ウスルモノデ、今日既ニ墾地利ニ行ハレテ居ルトコロノ法案デアリマス、斯ノ如キ農業獎勵ノタメニ立派ナル實例ガ最近ニ於テ起テ來テ居リマス、或ハ伊太利ナドニ於キマシテハ、國王自ラ御主唱ナサレマシテ、羅馬ニ萬國農業協會ト云フヤウナモノヲ千九百五年ニ御作りニナリマシタ、サウシテ今日日本ノ國民、吾ガ伊太利ノ今日財政ヲ恢復シ國情ヲ恢復シタノハ海外移民ノ力ニ依ルトカ、或ハ外國漫遊客ノ投金ニ依ルトカ云フヤウナコトヲ言ッテ之ヲ信ジテ居リマスガ、最モ信用スベキ學者ノ著書ニ依ッテ見マスルト、伊太利ガ今日國情ヲ恢復シタ最モ有力ナル原因ハ、實ニ伊太利ノ土地改良ニアルト言ウテ居リマス、此土地改良ハ殊ニ政府デ補助シ、地方官廳ニ於テ之ヲ補助シ、ソレカラ所有地ノ人民ガ又資金ヲ出シ合ッテ最モ大規模ニ於テ今日此土地改良、疏水灌漑等ノ事業ニ從事シテ居ル地方ハ、即チ伊太利第一ノ大河タル「ポー」河ノ下流及「カンパニヤ」地方ト申ス處デアリマシテ、是等ノ地方ハ今カラ二十年前ニハ「マラリヤ」ノ名産地デアリマシタ「マラリヤ」ノ名産地デアッテ瘴癘ノ氣之ニ満チ、魑魅魍魎ノ棲家デアッタ、所ガ今日伊太利ハ橄欖ノ花匂フトコロノ一望萬頃ノ沃田ト化シテ居ルトデアリマス、到ル處斯ノ如ク排水灌漑ノ事業ヲ以テ伊太利ノ農業ハ復活シテ來タノデアアル、伊太利農民ノ努力ト政府及官廳ノ獎勵技術共ニ發達シ、相伴ッテ斯ノ如ク伊太利ノ産業ガ近年發達シテ參ッタノデアリマス、彼ノ伊太利國ガ財政ヲ改革シ其公債ヲ騰貴セシメ、サウシテ此所謂伊太利ノ復活ヲ叫バシムルヤウニナッタ根本ノ原因ハ、主トシテ此農事ノ改良、土地ノ改良ニアルト云フコトハ、深ク彼ノ地ノ事情ヲ知ッテ居ル人ハ疑ハナイトコロノ事實デアリマス、私ハ此我國ニ於テモ從來斯ノ如キ方法ニ力ヲ注ガレテ、或ハ大久保内務卿ノ如キハ、今日立派ナル此事業ヲ胎サレテ居ル例ハ決シテ尠クナイノデアリマス、今後又斯ノ如キ事實ヲ行ヒ得ル方面ハ日本内地到ル處ニアルト云フコトハ、先刻吉植君ノ御辯論ニナッタ通

リデアリマス、斯ノ如キ問題ハ決シテ政黨政派ノ問題デハナイ、最近ニ於テ英吉利カラ私ノ所ヘ參リマシタ此新聞ニ依リマス、英吉利ノ農會ノ幹事諸君ガ大藏省ヲ訪ネテ「ロイトジョウジ」氏ヲ訪問シテ居リマス、サウシテ懇談會ヲ開イタ席ニ反對黨ノ首領ノ「ボナーロー」氏ガ此處ニヤッテ來テ、反對黨及政府黨ノ首領ガ彼ノ農民ニ對シテ最モ同情アル演說ヲシテ居ルト云フコトガ一日ノ手ニ届イタトコロノ新聞ニ載ッテ居リマス、是ハ全ク黨派ノ問題デハナイ、唯今有森君ガ國民黨カラ御出デニナッテ賛成セラレタノハ、此私ノ唯今申シタ反對黨及政府黨ノ領袖ガ互ニ同情ヲ以テ土地案ノタメニ盡力サレタト云フ、此最近ノ報道ニ對シテハ私ハ甚ダ愉快ニ感ズルノデアリマス、願クハ同志會ノ諸君モ之ヲ以テ同志會及政友會トノ黨派ノ問題トナサズシテ、既ニ御反對ノ演說ヲ爲サレタ方ハ致方ガアリマセヌガ、其他ノ方ハ國家ノ爲ニ御賛成アラントヲ希望シテ已マヌ次第デゴザイマス

討論終局シ表決ニ及テ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開ク

有森新吉君ハ左ノ修正案ヲ提出シタルモ院議之ヲ否決シタリ

産業獎勵基金特別會計法中左ノ通修正ス

第三條中「地方産業」トアルヲ「農工商業」ニ改ム

院議第三讀會ヲ省略シテ原案ヲ採用シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

四四 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

神奈川縣橫濱市ノ次ニ

橫須賀市 一人

長崎縣長崎市ノ次ニ

佐世保市 一人

新潟縣新潟市ノ次ニ

長岡市 一人

高田市 一人

三重縣四日市市ノ次ニ

宇治山田市 一人

愛知縣名古屋市ノ次ニ

豐橋市 一人

靜岡縣靜岡市ノ次ニ

濱松市 一人

長野縣長野市ノ次ニ

松本市 一人

福島縣若松市ノ次ニ

福島市 一人

廣島縣廣島市ノ次ニ

吳市 一人

ヲ加フ

大分縣

大分市 一人

郡 六人

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

三年二月十三日小泉又次郎君外二十五名提出

同月二十八日提出者ヨリ之ヲ撤回セリ

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案

四五 會社令廢止法律案

會社令ハ之ヲ廢止ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三年二月十四日守屋此助君提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者(守屋此助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、唯今日程ニ上ツテ居リマスル會社令廢止法律案、即チ朝鮮ニ行ハレテ居ル會社令ノ廢止ヲ提案シタノデアリマスルガ、朝鮮ガ我領土トナリシ以來五箇年ノ年月ヲ經テ、吾々ノ豫期ニ反シテ朝鮮ノ發達ガ遲々トシテ居ルノハ何ニアル、臺灣ニ較ベテ朝鮮ハ日本ニハ關係ガ古クアツテ、多クノ生命モ朝鮮ノタメニハ棄テ、多クノ金モ棄テテアルノデアアルガ、臺灣ニ較ベテ朝鮮ノ發達ハ非常ニ遲々ト致シテ居ル、是ニ付テハ三ツ程ノ原因ガアリマスカラ、ソレヲ除キタイ、サウシテ早ク朝鮮ヲ發達サセタイト云フノガ大體ノ趣意デアリマス、朝鮮ノ開發ガ遲々トスル原因ノ三ツトハ何ゾヤ、一ニ曰ク現總督是ナリ、二ニ曰ク東洋拓殖會社はナリ、三ニ曰ク朝鮮ノ會社令是ナリ、是ダケノモノガ改リマスレバ刮目シテ俟ツベシ、見ルベシ、朝鮮ハ非常ナル發達ヲ速ニスルト我輩ハ確信スルノデアリマス、サウ致シマシテ朝鮮總督ノ更迭ト云フ事柄ハ、總督御自身モ適任ニアラザルコトヲ御認メニ相成ツテ居ル、彼ハ軍人デアアルカラ、三軍ニ將トシテ百萬ノ兵

ヲ叱咤スルト云フコトハ、彼ノ長所デアリマセウ、併ナガラ今日無事ノ日ニアツテ産業ノ發達ヲ圖ラナケレバナラヌ所ニアツテハ、彼自身モ其能ニアラズト御認メニ相成ツテ退任ノ御決心ガアルト云フコトデアアル、君子ノ美德ヲ濟サシムルニハ早ク引カセルニアアルノデアアル、夫故ニ現内閣モ好意ヲ持タレテ、寺内サンノ御辭職ガ速カナラシムコトヲ國民ハ喜ンデ居ル、ソレカラ第二ノ分ハ東洋拓殖會社デアリマスガ、是ガ又初メ拵ヘルトキハ朝鮮ヲ獨立デ永ク置クト云フノガ、彼ノ當時ノ政府ノ方針デアッタノガ、ガラリト方針ガ變ツテ日本ノ領土トスルト云フコトニナッタカラ、東洋拓殖會社ヲ拵ヘタトキト今日ハ事ガ變ツテ居リマス、サレバ此東洋拓殖會社ノ法律ト云フモノハ、根本ニ於テ改正シナケレバナラヌ、此事ニ付テハ吾々ヨリヨリ以上朝鮮ノコトニハ智識ヲ有タレ、吾々ヨリヨリ以上ノ經驗ヲ有タレテ居ルトコロノ野田君ガ、幸ニシテ此總裁ニ御ナリニナッタノデアリマスカラ、吾々ガ此改正案ヲ出シマスルヨリ、ヨリ進ンダルモノヲ必ズヤ御出シニナルト確信致シマスルカラ、此東洋拓殖會社ノ法律ノ改正案ハ私ガ出スコトヲセズ、謹デ待ツテ居ルノデアアル、野田サンガ總裁ニナツテ居ラヌノデアアレバ、守屋此助愚案ヲ出ス積リデアリマスガ、是ハ是デ待ツテ居ル、殘ルトコロハ朝鮮會社デアアル、是ハ如何ナル害ヲナシテ居ルカ朝鮮ノ發達ヲ如何ニ害シテ居ルカ、是ガ無クンバ如何ニ朝鮮ノ發達ガ速カナルカ、コ、ガ疑問デアアル、コ、ガ本案ノ是非ノ定マルトコロデアアル、此朝鮮ノ産業ヲ發達サセル事柄ニ害ガアルト云フコトニ付テハ、吾々ヨリ智識ノ進ンデ居ル方デ經驗ガ御アリニナツテ社會ノ信用ノアル人ハドウデアアルカト、日本ノ國デハ先ヅ濫澤男爵ハ實業上ノ泰斗トシテ仰ガレタル方デアアル、サウシテ此男爵ガ第一銀行ヲ朝鮮入道ヘ明治ノ初年ヨリ各所ニ置カレテ、最モ朝鮮ノ事情ニ御精通デアアル、今ノ朝鮮銀行ハ御承知ノ通り、第一銀行ノ支店ガ變ツテ朝鮮銀行ト相成ツテ居ル、多クノ人材ヲ朝鮮ニ御使ヒニ相成ツテ御承知デアアルガ、此御方ガ朝鮮ノ會社令ガ出タトキニ何ト評サレタ何ト評サレタ、平日ハ濃厚ノ君子人デアアルトコロノ男爵ハ、桀紂ノタメニ其民ヲ驅ルモノハ湯武ナリ、朝鮮ヨリ民業ヲ驅ルモノハ會社令ナリ、會社令ハ桀紂ノ政治ナリト、平日ノ濃厚君子人ナル濫澤男爵ノ御言葉デアアル、是ガ朝鮮ノ事業ニ精通ナサレテ居ル實業家ノ御言葉デアアル、斯